

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第244集

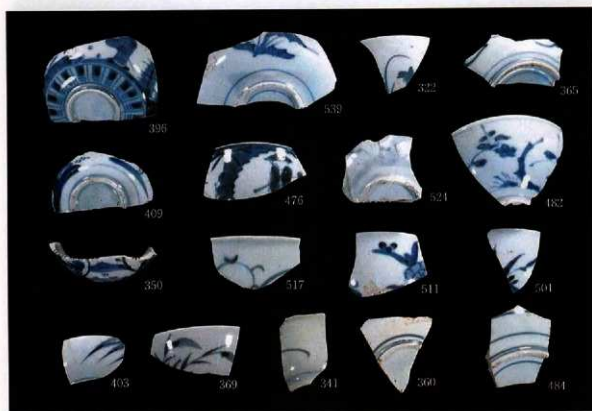
小幅遺跡第2次発掘調査報告書

—盛岡南新都市開発整備事業—

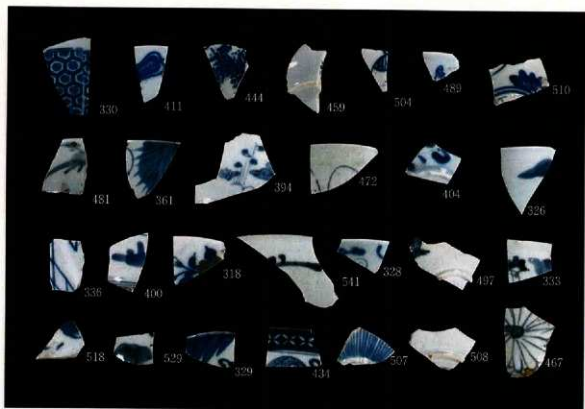
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
盛岡市

小幅遺跡第2次発掘調査報告書

—盛岡南新都市開発整備事業—



卷頭写真 1



卷頭写真 2



卷頭写真 3



卷頭写真 4

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地域にあり、平成5年度の岩手県教育委員会のまとめでは8,700箇所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました盛岡市南新都市開発整備事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日の課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむをえず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本書は、平成5年度から発掘調査が開始された盛岡市南新都市開発整備事業に関連した小幡遺跡の調査結果をまとめたものであります。遺跡は雫石川右岸の河岸段丘上に立地した平安時代を中心とした集落跡であることが明らかになりました。竪穴住居跡や溝跡などの各種の遺構や遺物は志波城以降の当地域の状況を知る上で貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望します。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご援助を賜りました盛岡市開発部盛岡開発課や盛岡市教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成7年7月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 千葉浩一

例 言

1. 本報告書は、盛岡新都市開発整備事業に伴う小幡遺跡の第2次発掘調査の結果を収録したものである。
なお、第1次調査として盛岡市教育委員会により試掘調査が実施されている。
2. 遺跡は岩手県盛岡市本宮字小幡9-1外に所在する。
3. 調査は岩手県教育委員会事務局文化課の調整を経て、盛岡市開発部盛南開発課の委託を受けた㈲岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
4. 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡番号はLE16-2009、遺跡略号はOKH02である。
5. 野外調査の期間と調査面積・調査担当者は次のとおりである。
期 間：平成6年4月8日～8月10日
調 査 面 積：13,548㎡
調査担当者：斎藤邦雄・大道篤史
6. 室内整理作業は平成6年11月1日～平成7年3月31日まで実施し、本報告書の執筆はIを高橋興右衛門、それ以外は斎藤邦雄が担当した。
7. 下記の項目の分析・鑑定には次の個人・機関に委託した（敬称略）。
石材鑑定……佐藤二郎（長内水渾工業） 樹種同定……高橋利彦（木工舎「ゆい」）
火山灰分析……三辻利一（奈良教育大学）
8. 野外調査や室内整理・報告書の作成には次の個人や機関の協力・指導助言を頂いた（敬称略）。
大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）・岩手県教育委員会文化課・盛岡市教育委員会・盛岡市開発部盛南開発課・光井文行（盛岡市大宮中学校）・吉田務（滝沢村教育委員会）・小幡地区をはじめとする地元の方々。
9. 調査成果の一部については現地説明会資料や調査略報に発表してきたが、本書の内容が優先するものである。
10. 国土地理院発行の地形図を複製したものは図中に図幅名と縮尺を記した。
11. 遺構の埋土観察・出土遺物の色調観察は、『新版標準土色帖』（小山・竹原：1989）を参考にした。
12. 掲載した実測図の凡例については、Ⅲ.調査方法及び整理方法等によった。
13. 出土した遺物及び調査にかかわる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

本文目次

序

例言

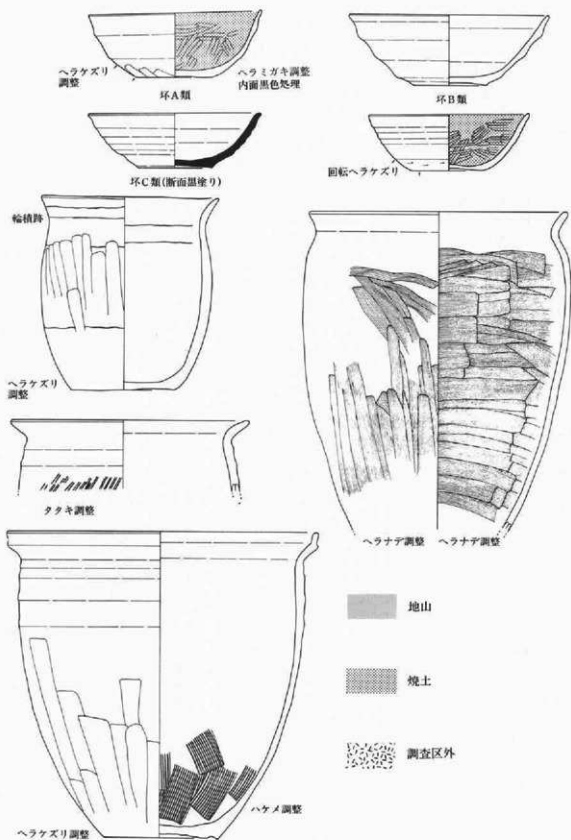
I. 調査にいたる経過	3
II. 遺跡の立地と環境	3
1. 遺跡の立地と地形	
2. 周辺の遺跡	
3. 基本層序	
III. 調査方法と整理方法	13
1. 野外調査	
2. 室内整理	
IV. 検出された遺構と遺物	15
1. 竪穴住居跡	15
2. 掘立柱建物跡	27
3. 土坑類	33
4. 竪穴状遺構	73
5. 炉・焼土遺構	84
6. 溝跡	89
7. 集配石遺構	98
8. 井戸跡	98
9. 柱穴群	110
10. その他	113
11. 出土遺物	115
V. まとめ	156
1. 遺物について	156
2. 遺構と遺跡について	177
付 篇	
小幡遺跡出土の材の樹種同定	179
小幡遺跡出土の蛍光X線分析	181

図 版 目 次

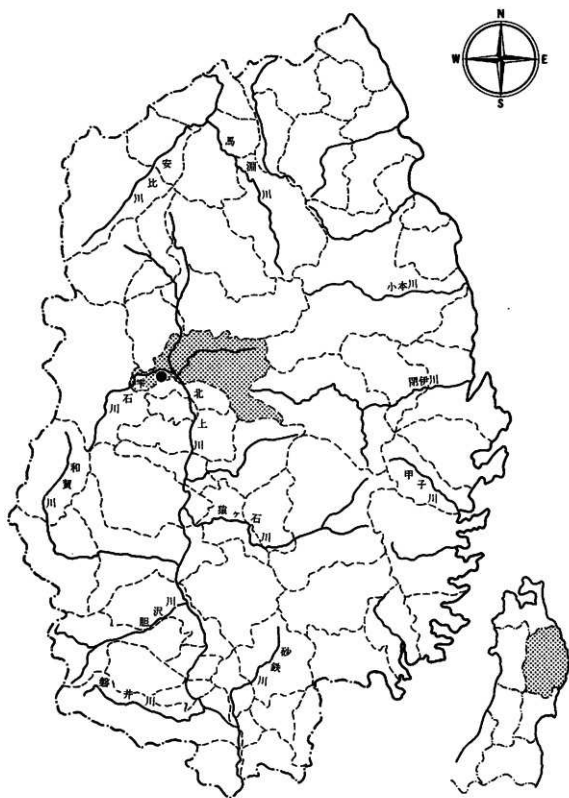
付図1～4 遺構配置図	
第1図 岩手県図に見る遺跡の位置	1
第2図 遺跡位置図	2
第3図 遺跡周辺の地形図	4
第4図 基本土層概念図	5
第5図 周辺の遺跡分布図	9
第6図 調査区割図およびグリッド配置図	11
第7図 RA01	20
第8図 RA02	21
第9図 RA03	22
第10図 RA04	23
第11図 RA05	24
第12図 RA06	25
第13図 RB01	28
第14図 RB02	29
第15図 RB03	32
第16図 RD(1)	63
第17図 RD(2)	64
第18図 RD(3)	65
第19図 RD(4)	66
第20図 RD(5)	67
第21図 RD(6)	68
第22図 RD(7)	69
第23図 RD(8)	70
第24図 RD(9)	71
第25図 RD00	72
第26図 RE01-02・04	79
第27図 RE03-05	80
第28図 RE06-07・11・12	81
第29図 RE08-13	82
第30図 RE09-10	83
第31図 焼土遺構分布図(RF)	84
第32図 焼土遺構RE01～10	88
第33図 RG01-03・04-07・08	99
第34図 RG02	101
第35図 RG06-11～14	103
第36図 RG09-10	105
第37図 RG18～20・27・28	107
第38図 RG15～17・22～25・29	109
第39図 RH01-R101	98
第40図 RZ01	114
第41図 RA01出土遺物(1)	116
第42図 RA01出土遺物(2)	117
第43図 RA01出土遺物(3)・RA02出土遺物	118
第44図 RA03出土遺物(1)	119
第45図 RA03出土遺物(2)	120
第46図 RA05出土遺物(1)	121
第47図 RA05出土遺物(2)	122
第48図 RA05出土遺物(3)	123
第49図 RA06出土遺物(1)	124
第50図 RA06出土遺物(2)	125
第51図 RA06出土遺物(3)	126
第52図 RA06出土遺物(4)	127
第53図 RA06出土遺物(5)	128
第54図 RA06出土遺物(6)	129
第55図 RA06出土遺物(7)	130
第56図 RA06出土遺物(8)	131
第57図 RA06出土遺物(9)	132
第58図 RB03・RD-RE 出土遺物	133
第59図 RE 出土遺物	134
第60図 RE 出土遺物	135
第61図 RE・RF・RG 出土遺物	136
第62図 RG 出土遺物	137
第63図 RG 出土遺物	138
第64図 RG 出土遺物・遺構外出土遺物	139
第65図 遺構外出土遺物	140
第66図 遺構外出土遺物	141
第67図 陶磁器類(1)	142
第68図 陶磁器類(2)	143
第69図 陶磁器類(3)	144
第70図 陶磁器類(4)	145
第71図 銭貨	151
第72図 木製品(1)	152
第73図 木製品(2)	154
第74図 土器分類図(1)	163
第75図 土器分類図(2)	164
第76図 土器分類図	165
第77図 遺構別土器集成図(1)	168
第78図 遺構別土器集成図(2)	169
第79図 遺構別土器集成図(3)	170
第80図 遺構別土器集成図(4)	171
第81図 遺構別土器集成図(5)	172

写真图版目次

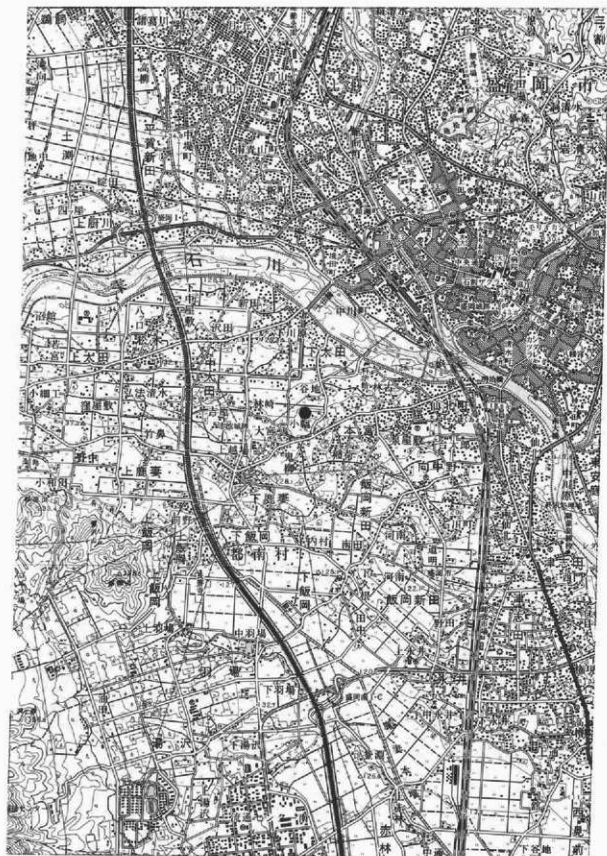
图版 1	空中写真・遺跡遠景	185	图版46	RF01(2)05~08	230
图版 2	空中写真	186	图版47	RF01(3)08~10·RH01·RI01	231
图版 3	基本土層(G調査区)・作業風景	187	图版48	RG01	232
图版 4	RA01	188	图版49	RG02(1)	233
图版 5	RA02	189	图版50	RG02(2)	234
图版 6	RA03(1)	190	图版51	RG03·04	235
图版 7	RA03(2)·RA04(1)	191	图版52	RG06	236
图版 8	RA04(2)	192	图版53	RG07·08	237
图版 9	RA05(1)	193	图版54	RG09·11	238
图版10	RA05(2)	194	图版55	RG10(1)	239
图版11	RA06(1)	195	图版56	RG10(2)	240
图版12	RA06(2)	196	图版57	RG12·13	241
图版13	RB01·RB02	197	图版58	RG14·15	242
图版14	RB03	198	图版59	RG16~19	243
图版15	RD(1)	199	图版60	RG20~22	244
图版16	RD(2)	200	图版61	RG23·24	245
图版17	RD(3)	201	图版62	RG25·28	246
图版18	RD(4)	202	图版63	RG27	247
图版19	RD(5)	203	图版64	RGH29·RZ01	248
图版20	RD(6)	204	图版65	遺構内出土土器(1)	249
图版21	RD(7)	205	图版66	遺構内出土土器(2)	250
图版22	RD(8)	206	图版67	遺構内出土土器(3)	251
图版23	RD(9)	207	图版68	遺構内出土土器(4)	252
图版24	RD00	208	图版69	遺構内出土土器(5)	253
图版25	RD01	209	图版70	遺構内出土土器(6)	254
图版26	RD02	210	图版71	遺構内出土土器(7)	255
图版27	RD03	211	图版72	遺構内出土土器(8)	256
图版28	RD04	212	图版73	遺構内出土土器(9)	257
图版29	RD05	213	图版74	遺構内出土土器00・遺構外出土土器	258
图版30	RD06	214	图版75	陶磁器類(1)	259
图版31	RD07	215	图版76	陶磁器類(2)	260
图版32	RD08	216	图版77	陶磁器類(3)	261
图版33	RD09	217	图版78	陶磁器類(4)	262
图版34	RD00	218	图版79	陶磁器類(5)	263
图版35	RD01	219	图版80	陶磁器類(6)	264
图版36	RD02	220	图版81	陶磁器類(7)	265
图版37	RD03	221	图版82	陶磁器類(8)	266
图版38	RD04	222	图版83	陶磁器類(9)	267
图版39	RE01·02·04	223	图版84	銭貨	268
图版40	RE03·12	224	图版85	木製品(1)	269
图版41	RE05·06·07	225	图版86	木製品(2)	270
图版42	RE09·10	226	图版87	木製品(3)	271
图版43	RE08	227	图版88	木製品(4)	272
图版44	RE13	228	图版89	木製品(5)	273
图版45	RF01(1)01~04	229			



挿図凡例



第1図 岩手県図に見る遺跡の位置



第2圖 遺跡位置圖

1 : 50000

I. 調査にいたる経過

盛岡南新都市開発整備事業は、盛岡市がきたるべき21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市を目指して、盛岡市の既成市街地の他に盛岡市南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都心を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者で地域振興整備公団に対し平成2年9月に事業要請され、事業要請を受けた地域振興整備公団は事業実施基本計画を作成し、平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から許可され、平成3年度から平成17年度までの15年間で事業予定期間として、面積約320haを対象とした土地区画整理事業が実施されることとなった。

事業の対象地域に係る埋蔵文化財の取扱については協議を重ねられ、その結果、本調査に先立って盛岡市教育委員会が試掘調査を行って、本調査を必要とする範囲を確定することとし、本調査は財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業とすることとなった。

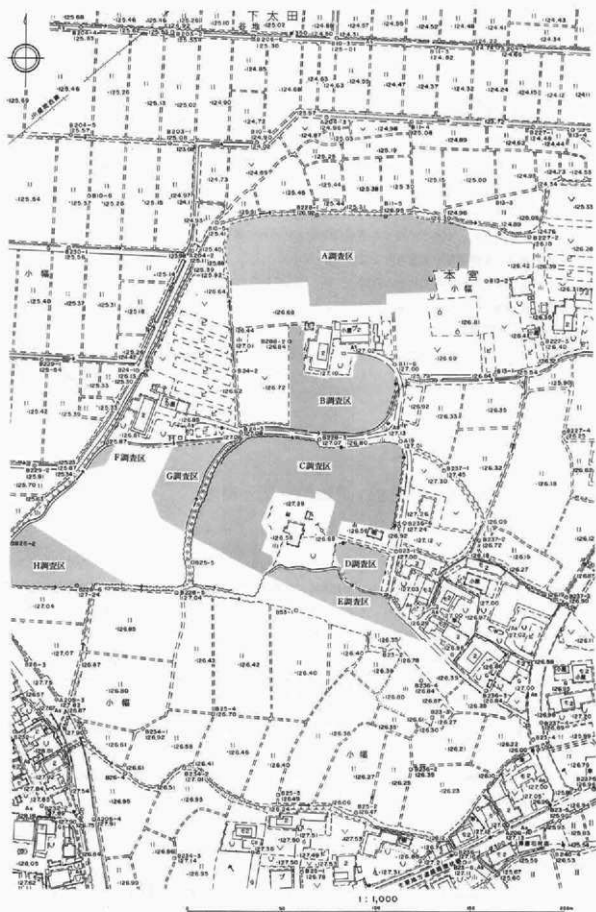
当遺跡については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果、平成6年度の事業として確定した。それを受けて、平成6年4月1日付けの契約によって当文化振興事業団の受託事業として本調査を実施することとした。

II. 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の立地と地形（第1～3図）

小幡遺跡の所在する県都盛岡市は北上川・中津川・雫石川の三河川の合流点に開けた城下町で、北上高地と奥羽山脈の間を南北に貫流する北上川と奥羽山脈に源を発する雫石川によって形成された北上盆地の北端に位置している。北は滝沢村・玉山村、東は岩泉町・川井村、南は矢巾町・紫波町・大迫町、西は雫石町と境を接している。北上川は東北地方第一の河川で幹線流路延長247km、流域面積10,200km²、支川数216を有する大河で、岩手・宮城の間県にまたがって流れておりそのうちの7分の6は岩手県内を流れている。盛岡市周辺はちょうど中流域に相当し、右岸には新第三紀層の砂岩・凝灰岩を基盤とする台地、扇状地の末端に侵食崖を形成している。

北上川に注ぐ支流の多くが奥羽山脈に源をもつことから、奥羽山脈支流から供給される砂礫量は北上山地に源をもつ支流から運搬される量に比較して著しく多く、そのため北上川の右岸では大小の段丘や扇状地、河岸平野・起伏量の小さい丘陵地がお互いに入り組む構造となっている。北上川左岸では北上山地支流の中津川・梁川は開析平野を流域にほとんど形成しておらず、これに対し奥羽山脈の支流である雫石川はその右岸に扇状地状の広い平坦面を形成している。これらの平坦面の大部分は扇状地や旧河床が段丘化したものであり、中川久夫氏は高位の石鳥谷段丘、中位の二枚橋段丘、低位の花巻段丘・都南段丘に区分している。本遺跡の立地する本宮地区も雫石川の右岸に形成された沖積段丘上に立地している。この沖積段丘は雫石川が周辺から供給した砂礫やシルト質土で被覆され、雫石川により下刻や堆積が繰り返行われてきており、常に河川の影響を受けた不安定な地形である。不安定な流路の変遷は現在でも自然堤防上への集落の立地や水田・畦畔の配置状況から読みとることができる。



第3図 遺跡周辺の地形図

本遺跡は東日本旅客鉄道東北本線仙北町駅の西約3kmに位置し、雫石川によって形成された標高126m±の河岸段丘の微高地上に立地している。現在の雫石川との比高差は約数mである。一帯の地目は畑・水田・宅地でシルトや砂礫層が耕作土直下に見られることなどから当時の地表面がかなり開田時に削平されている。現況は畑地・水田・宅地である。

2. 周辺の遺跡（第5図）

盛岡市教育委員会が作成した1989年度版『盛岡市遺跡地図』および岩手県教育委員会作成の遺跡台帳を参考に、河南地区に相当する太田・本宮・鹿妻地区に所在する遺跡の概要について紹介を行う。

この周辺の遺跡分布状況を見ると雫石川左岸と右岸では非常に対称的な様相を示している。左岸には大館遺跡群をはじめとした縄文時代の遺跡が数多く知られているが、右岸の沖積段丘面上には該期の遺跡は少数例しか確認されていない。これに対して志波城跡やその周辺には本遺跡を含め古墳時代末から平安時代の遺跡が数多く分布している。

以下に述べるように本遺跡は志波城跡の外郭東辺の外に位置する10世紀前後の平安時代の一般集落である。時代的には本遺跡と近い遺跡として林崎遺跡・矢盛遺跡・本宮熊堂B遺跡・百木目遺跡・湯沢遺跡などが過去に調査されている。

3. 基本層序（第4図）

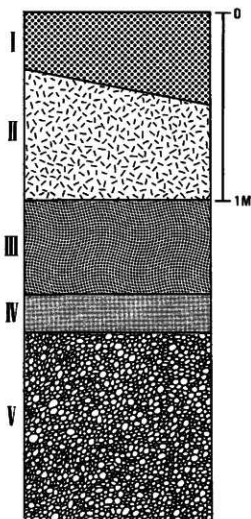
調査区が広範囲なため各調査区では状況が一様ではないが基本的には以下に記すような土壌の堆積が認められる。なお、基本層序についてはローマ数字で表現している。

第I層 黒色～黒褐色。耕作土。水田跡・畑地跡では状況が異なっているが30cm～50cm程度の層厚である。

A・B・C調査区では耕作土を除去した段階で遺構が検出される場合もある。

第II層 褐色～灰黄褐色の砂質および粘土質シルト。局所的に発達している層である。H・F・G・C調査区の西側・B調査区の西側に分布しており、A・B・C調査区の東側、D・E調査区には分布が認められず遺跡の西側を中心に形成されている。層厚50cm±。砂層と粘土質シルト層が繰り返し薄く堆積している状況も観察され、水流により形成されたと考えられる。遺跡の西側に相当するH・F・G調査区では特に層厚が厚く、この層中に平安時代の土器が含まれている。志波城跡で検出されている水成シルト堆積の層と同一と考えられる。

灰白色火山灰を含む遺構はこのII層を掘り込んで構築している。



第4図 基本土層概念図

- 第Ⅲ層 黒色土のシルト。層厚50cm±。ABC調査区の東側部分ではこの層はすでに消失している。
- 第Ⅳ層 褐色～黄褐色土。粘土質土である。遺跡の東半に相当するA・B・C調査区等で確認される。この地域では第Ⅰ層の耕作土直下に認められる。層厚約20cm±。
- 第Ⅴ層 基底をなす水成砂礫層である。A調査区の深掘りの観察では砂・礫の粗粒と粒度で層厚かに細分可能である。

引用・参考文献

- 岩手県企画開発室1974『北上山系開発地域土地分類基本調査-日誌-』
- 岩手放送株式会社1975『北上川』岩手の地誌三部作 第二部
- 伊東 格1994『矢志遺跡第1次発掘調査報告書』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書205集

「岩手県遺跡分布図」

1994岩手県教育委員会

№	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	備考
1	板場Ⅱ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代	磐字山根	
2	北ノ浦	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代	磐字北ノ浦	
3	板橋Ⅰ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代	磐字尾入野	
4	尾入野	散布地	縄文土器	縄文	磐字尾入野	
5	下飯田	集落跡	縄文土器、土師器、住居跡	縄文・古代	磐字北ノ浦	
6	下飯田Ⅱ	散布地	縄文土器(早-中期)	縄文	磐字下飯田	
7	下飯田Ⅲ	散布地	縄文土器(早-中期)	縄文	磐字下飯田	
8	堂ノ沢	集落跡	縄文土器(中期)、住居跡	縄文	磐字堂ノ沢	
9	新成船	散布地・城跡跡	縄文土器	縄文・中世	磐字堂ヶ沢	
10	下飯田Ⅳ	散布地	縄文土器(早-中期)	縄文	磐字下飯田	
11	塩塚時	岡所跡	塚ノ基	中世-近世	磐字宇湯塚時	
12	山原野木	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代	磐字山原野木	
13	堀去八幡郷	城跡跡	堀、堀	中世	磐字山原野木	
14	上郷去	集落跡	縄文土器(中-後期)、土師器、土坑、竪立柱建物跡	縄文・古代	磐字上郷去	平成2年調査
15	細田	散布地	土師器	平安時代	上太田字細田	
16	松ノ水	集落跡	土師器	平安時代	上太田字松ノ水	
17	八ッ口	散布地	土師器、住居跡	古代	上太田字八ッ口	
18	八卦	集落跡	土師器、土坑、住居跡	奈良時代	中太田字八卦	
19	大田原古墳群	古墳	土師器、刀、玉、和銅製宝	奈良時代	上太田字轟合	
20	館	集落跡・城跡跡	土師器、堀、土器、住居跡	平安時代	上太田字館	
21	上野原敷	散布地	土師器	古代	上太田字上野原敷	
22	畑中	集落跡	土師器	古代	上太田字畑中	
23	小沼	集落跡	土師器、住居跡、緑釉陶器	平安時代	中太田字小沼	
24	一本木	集落跡	土師器、住居跡	平安時代	上太田字一本木	
25	五兵衛新田	集落跡	土師器	古代	上郷字五兵衛新田	
26	天沼	集落跡	土師器	古代	上郷字天沼	
27	竹鼻	集落跡	土師器	古代	上郷字竹鼻・朴	
28	志波城	城跡跡	土器、竪立柱建物跡、門跡、墓池、堀、大溝	平安時代	下太田字方八丁	国指定史跡
29	田貝	集落跡	土師器、住居跡	古代	上郷字田貝	
30	竹花原	集落跡	土師器、住居跡、緑釉陶器	平安時代	上郷字田貝	
31	新塚郷	城跡跡	縄文土器(晩期)、土師器、土坑、大溝、住居跡	縄文・平安	下太田字新塚郷	
32	仁仏	集落跡	土師器	古代	本宮字石仏	
33	田中	散布地	土師器	平安時代	下太田字田中	
34	林崎	集落跡	土師器、須恵器、竪立柱建物跡	平安時代	下太田字林崎	
35	小畑	集落跡	土師器、住居跡、溝	古代	本宮字小畑	
36	大宮	集落跡	土師器、住居跡	古代・中世	本宮字大宮	旧大宮Ⅰ遺跡、平成6年調査
37	大宮北	集落跡	土師器	古代	本宮字大宮	
38	鬼柳B	集落跡	土師器	古代	本宮字鬼柳	
39	小林	集落跡	土師器	古代	本宮字小林	
40	水門	集落跡	土師器	古代	本宮字水門	
41	上鶴場A	集落跡	土師器	古代	本宮字上鶴場	
42	宮沢	集落跡	土師器	古代	本宮字宮沢	
43	本宮熊堂A	集落跡	土師器	古代	本宮字熊堂	
44	本宮熊堂B	集落跡	土師器	古代	本宮字熊堂	平成5年調査

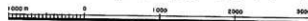
No	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	備考
45	鬼塚A	集落跡	土師器	古代	本宮字鬼塚	
46	厨青	集落跡	土師器	古代	本宮字福原	
47	鬼塚C	集落跡	土師器	古代	本宮字鬼塚	
48	野古A	集落跡	土師器、住居跡	平安	本宮字北、野古	
49	野古B	散布地	土師器	古代	本宮字北、野古	
50	古太郎	集落跡	土師器、溝跡、住居跡	古代	向中野字古太郎	
51	矢盛	集落跡	縄文土器(後・晩期)、土壊遺、住居跡	縄文	飯岡新田	平成4年調査
52	喜内	集落跡	埴、郭、土器	縄文	喜内村川原	消滅
53	厨市原	城跡跡	埴、郭	中世	喜内市原	
54	上野館	城跡跡	埴、堀切、郭、石器	中世	喜内市原	
55	喜内館	散布地・城跡跡	縄文土器	縄文・中世	喜内市原	
56	除Ⅱ	散布地	縄文土器、弥生	縄文	喜内除	消滅
57	上野	散布地	縄文土器	縄文・弥生	喜内上野	消滅
58	除Ⅰ	散布地	縄文土器	縄文	喜内除	一部消滅
59	竈Ⅰ	散布地	縄文土器	縄文	喜内湯ノ館	消滅
60	竈Ⅱ	集落跡	縄文土器(中期)、住居跡、竪立柱礎物跡	縄文・中世	喜内湯ノ館	消滅
61	竈Ⅲ	集落跡	縄文土器、土師器、住居跡	縄文・中世	喜内市原	
62	竈Ⅳ	集落跡	縄文土器(中期)、住居跡	縄文	喜内湯ノ館	
63	湯ノ館	城跡跡	埴、堀切、郭、土器	中世	喜内湯ノ館	
64	竈Ⅴ	集落跡	縄文土器(中～晩期)、古銭、土埴、住居跡	縄文・中世	喜内湯ノ館	縄文中期主体
65	一本松跡塚	経塚跡	経塚跡?	中世	喜内湯ノ館	
66	竈Ⅵ	集落跡	縄文土器(中～晩期)、弥生、土埴、住居跡	縄文・弥生	喜内市原	
67	上平	集落跡	縄文土器(中～晩期)、弥生、土師器、住居跡	縄文・古代	猪去字上平	昭和61・62年調査
68	猪去館	集落跡	縄文土器、土埴、埴、竪立柱礎物跡、住居跡	縄文・古代・中世	猪去字竈御堂	昭和62年調査
69	廣沢下	散布地	土師器	古代	上廣沢字廣沢	
70	二ツ沢	散布地	縄文土器(中・後期)、土師器	縄文・古代	上廣沢字二ツ沢	
71	小和田館	城跡跡	埴、郭	中世	上廣沢字小和田	
72	廣沢	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代	上廣沢字廣沢	
73	へび堂	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代	上廣沢字廣沢	
74	オミ家	散布地	縄文土器(早～晩期)、土師器	縄文・古代	上廣沢字廣沢	
75	大々森	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代	猪去字大々森	
76	辻原敷	集落跡	土師器	古代	下廣沢字辻原敷	
77	西田A	集落跡	土師器	古代	下廣沢字西田	
78	上越場B	集落跡・散布地	土師器	古代	本宮字上越場	
79	西田B	集落跡	土師器、須恵器	古代	下廣沢字西田	
80	南田	集落跡	土師器	古代	下廣沢字南田	
81	向中野館	城跡跡	埴、土器	中世	向中野字才川	
82	飯谷地	集落跡	土師器	古代	向中野字飯谷地、野原	
83	南仙北之	散布地・集落跡	縄文土器、土師器、土埴、住居跡	縄文・古代	南仙北二丁目	
84	向中野福	集落跡	土師器	古代	向中野字福	
85	飯岡沢田	集落跡	住居跡	古代	飯岡新田1沢田	
86	飯岡才川	集落跡		古代	飯岡新田2才川	
87	中村	散布地	土師器、須恵器	平安	上飯岡字中村	
88	月見山	散布地	縄文土器(後期)、土師器、須恵器	縄文・古代	上飯岡字山坂	
89	山中	散布地	縄文土器(早・中期)、土師器	縄文・古代	上飯岡字赤坂	
90	飯岡館	城跡跡	縄文土器(中期)、空堀	中世	上飯岡字赤坂	
91	泉	散布地	縄文土器、土師器	縄文・平安	上飯岡字堤	
92	高橋古墳群	古墳	栗子刀、切子玉、土師器	奈良～平安	上飯岡字堤	市史館指定
93	藤島Ⅱ	散布地	土師器	平安?	上飯岡字藤島	
94	高橋	散布地	縄文土器(中期)、石器	縄文	上飯岡字堤	
95	大柳Ⅰ	集落跡	土師器、須恵器	古代	上飯岡字大柳	大柳遺跡改め
96	大柳Ⅱ	散布地	土師器?	古代?	上飯岡字大柳	十日市場遺跡改め
97	飯野野	城跡跡	縄文土器(後期)	縄文	上飯岡字飯野野	在家遺跡改め
98	飯岡山館	城跡跡		中世	上飯岡	
99	飯岡赤坂	散布地		古代	上飯岡9赤坂	赤坂Ⅱ遺跡?
100	いたこ家	祭祀跡		近世	上飯岡字美島	消滅
101	赤坂Ⅱ	散布地	土師器	平安?	上飯岡字赤坂	赤坂遺跡改め
102	羽場館	城跡跡	空堀	中世	羽場字百目木	
103	羽場百目木	散布地	縄文土器(中期)	縄文	羽場字百目木	
104	砂子塚	散布地	小塚	古代	羽場字南百目木	
105	アイノ野	散布地	縄文土器(晩期)	縄文	上飯岡字十山	十山遺跡改め
106	沼津	散布地	縄文土器、須恵器、土師器	縄文・古代	沼津字沼津	図緯1・Ⅱ・Ⅲ遺跡統合
107	木塚	集落跡		平安	沼津字木塚	
108	福千代	集落跡		奈良	沼津字福千代	
109	二又	散布地	土師器、須恵器	平安	下飯岡字二又	二又Ⅰ・Ⅱ遺跡統一
110	内村	集落跡	土師器、常滑	平安	下飯岡字石塚	
111	中屋敷	散布地	土師器	古代	下飯岡字中屋敷	三竹遺跡改め
112	藤島Ⅰ	集落跡	縄文土器、土師器、須恵器	縄文・古代	上飯岡字林崎	

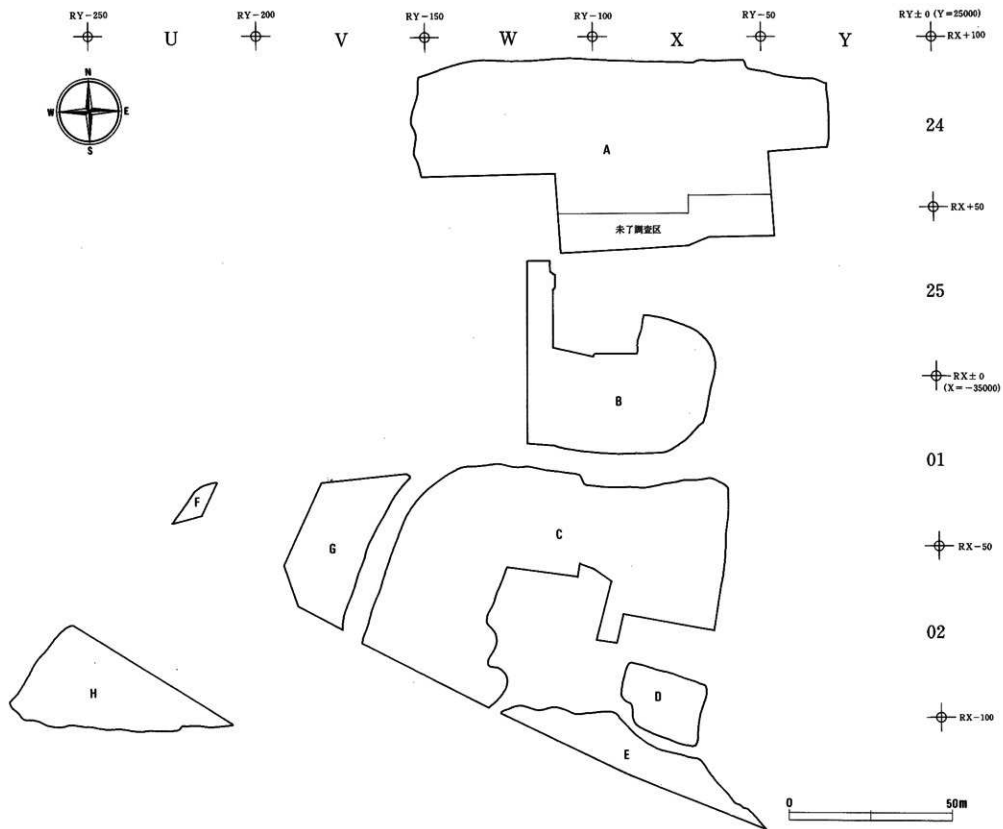
No	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	備考
113	深淵Ⅰ	集落跡	住居跡	平安	下飯岡字深淵	
114	高層敷Ⅰ	散布地	須恵器	古代	下飯岡字高層敷	
115	法隆寺現象	祭祀跡			飯岡新田字畑中	
116	飯岡林崎Ⅱ	集落跡	土師器、須恵器、住居跡、瓦	古代	下飯岡字新田	旧林崎
117	飯岡林崎Ⅰ	集落跡	土師器	平安	下飯岡 6 上新田	上新田Ⅰと重複
118	上新田Ⅰ	集落跡	土師器、住居跡	平安	下飯岡	飯岡林崎Ⅰと重複
119	深淵Ⅱ	集落跡	住居跡	平安	下飯岡字深淵	地点変更
120	上新田Ⅱ	集落跡	土師器、住居跡	平安	下飯岡 6 上新田	
121	下久根Ⅰ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代	下飯岡字下久根	
122	石坪	散布地	土師器、須恵器	古代	下飯岡字石坪	下久根Ⅱ遺跡改め
123	高層敷Ⅱ	散布地	土師器、須恵器	平安	下飯岡字高層敷	
124	西	集落跡	土師器、住居跡	平安	下飯岡字西	
125	西田	集落跡	須恵器	平安	下飯岡字西田	
126	下久根Ⅱ	散布地	縄文土器	縄文・古代	下飯岡字下久根	
127	熊堂Ⅰ	集落跡	縄文土器、石器、土師器、住居跡	縄文・平安	下飯岡字熊堂	
128	松島	集落跡	土師器、須恵器	古代	飯岡新田字松島	
129	熊堂Ⅲ	集落跡	土師器、須恵器、住居跡	平安	下飯岡字熊堂	
130	熊堂Ⅱ	集落跡	土師器、須恵器、住居跡	平安	下飯岡字熊堂	南谷地Ⅰを統合
131	田中	集落跡	土師器、須恵器、石器	平安	下飯岡字田中	
132	南谷地	集落跡	土師器、須恵器、住居跡	平安	下飯岡字南谷地	南谷地Ⅱを改め
133	夕雲	散布地	土師器	古代	飯岡新田字夕雲	畑中遺跡改め
134	榎塚	集落跡	土師器、須恵器	古代	飯岡新田字榎塚	
135	喜木	散布地	土師器、石器	古代	下飯岡字喜木	
136	新井田Ⅰ	散布地	土師器、須恵器	古代	羽場字新井田	
137	新井田Ⅱ	散布地	土師器、須恵器	古代	羽場字木沢-新井田	
138	新田	集落跡	土師器、須恵器	平安	羽場字新井田	
139	新渡Ⅰ	散布地	土師器	古代	湯沢字新渡	
140	下羽場	集落跡	土師器、須恵器、緑釉陶器	平安	羽場字新井田	標榜を統合
141	下湯沢	散布地	土師器、須恵器	古代	湯沢字新渡	湯沢A遺跡改め、湯沢B・C統合
142	大島	散布地	土師器、須恵器	古代	湯沢字大島	
143	湯裏	散布地	縄文土器(晩期)、石器	縄文	湯沢字上屋敷	
144	湯裏経塚	経塚	常滑	中世	湯沢字依島	地点不詳?
145	依島	散布地	縄文土器、石器	縄文	湯沢字依島	
146	湯沢	散布地	縄文土器(前・中・後期)、石器	縄文	湯沢字早稲原敷	
147	島	墳墓	小埴	不明	湯沢字中塚	
148	小田Ⅰ	散布地	土師器	古代	湯沢字小田	小田Ⅱ遺跡改め
149	開成Ⅱ	散布地	土師器、須恵器	古代	湯沢字開成	
150	開成Ⅲ	散布地	土師器、須恵器	古代	湯沢字開成	
151	森子	散布地	土師器	古代	湯沢字森小	
152	小田Ⅱ	散布地	土師器	平安	湯沢字小田	旧小田Ⅰ・Ⅱ遺跡統合
153	湯沢大館	散布地・城跡	土師器、須恵器	古代-中世	湯沢字館	大館と熊統台改め
154	湯沢	散布地	土師器	古代	湯沢字湯沢	
155	臺河城	城跡	瓦、陶磁器、その他	中世・近世	内丸	



第5図 周辺の遺跡分布図

1:50,000 盛岡・日詰





第6図 調査区およびグリッド配置図

Ⅲ. 調査方法と整理方法

1. 野外調査

(1) グリッドの設定

おおよその調査範囲は東西約250m・南北約250mの範囲のなかにあり、各所に分散している。グリッドの設定にあたっては盛岡市教育委員会の方針に準じた。平面直角座標第X系を座標変換した調査座標で表示した。調査座標軸方向は第X系に準じており、今回の調査座標原点は $X = -35000.000$ 、 $Y = +25000.000$ である。50mの大グリッドは北西隅を基点に、東方向へはアルファベットの太文字でA-Y・南方向へは算用数字で1-25となり、これを組み合わせて1A、2B・・・25Yというように示される。更に50m四方の各大グリッドは北西隅を基点に、東方向へはアルファベットの小文字でa-y・南方向へは算用数字で1-25となり、これを組み合わせて1a、1b・・・25yというように2m四方の小グリッドとして示され、最少グリッドは1A2b区というように呼称される。また、平面図の作成にあたっては調査原点の $X = -35000.000$ 、 $Y = +25000.000$ を基点として $RY \pm 0$ ・ $RX \pm 0$ と表現している。つまりこの調査原点を中心にして北方向へは $RX +$ ・南方向へは $RX -$ 、西方向へは $RY -$ ・東方向へは $RY +$ というように平面図上では表現している。

なお、調査区は現況の水田や畑地を単位としており、虫喰い状に分散しているため便宜上第6図に示したようにA-H調査区という設定を行った。粗掘り段階の遺物の採取にはこの調査区名を使用している。

(2) 粗掘り

本調査に先立ち盛岡市教育委員会により試掘調査が実施されており、今回の調査対象面積の約40%の部分について遺構・遺物の状況が調査されている。その結果、遺構の粗密や層序・遺物の出土状況がある程度把握されており、この結果を受けて本調査に着手した。層序が比較的単純でしかも水平であることや遺物が僅少であることなどから粗掘りには状況が許す限り重機を使用した。このなかでD地区については地形的にも遺構の存在の可能性が極めて薄いことから $2m \times 10m$ のトレンチを4本設定し部分的な調査を行っているが、その他の調査区については全面調査を行っている。また、E地区についても全面調査を行ったが耕作土直下ですぐ硬層が露出しており遺構は確認されなかった。

(3) 遺構の命名

遺構の命名については盛岡市教育委員会の方法に準じており、下記のとおりに行った。各種遺構の遺構名は検出順に付されており、欠番となっているものについては調査進行の過程で遺構としての認定から除外したものである。

竪穴住居跡 RA01～	掘立柱建物跡 RB01～	土坑類 (陥し穴状遺構含)	RD001～
竪穴状遺構 RE01～	炉・焼土遺構 RF01～	溝跡	RG01～
集配石遺構 RH01～	井戸跡 RI01～	その他	RZ01～

(4) 精査と実測

竪穴住居跡・竪穴状遺構は4分法で精査を実施し、遺構の平面図・断面図は20分の1の縮尺で実測を行った。一部竪穴住居跡のカマドについては10分の1の断面図を作成している。溝跡については任意に土層観察用のベルトを残し平面図は40分の1、断面図は20分1で実測を行っている。一部、溝跡の平面図については平板で測量を行っている。その他の遺構については2分法で精査を実施し、遺構の平面図・断面図は20分の1の縮尺で実測を行った。また、基本層序についてはローマ数字・遺構の埋土の層序については上位から順に算用数字を用いて表現することを原則とした。

(5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、35mm判のモノクロ、カラー・リバーサル、6×7cm判のモノクロを使用した。また、調査終了間近に空中写真の撮影を実施している。

2. 室内整理

(1) 作業内容

遺物の処理は水洗いとラベルの記入を行い、遺構ごと・種類ごとに仕分け・接合復元・実測・トレース・採拓・写真撮影の順に実施した。遺構図版は原因の点検・修正・合成の後、第2原因を作製し、トレース・図版作製の順に進めた。

(2) 挿図について

遺構図版の縮尺は竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡については平面図・断面図とも50分の1、溝跡は平面図が100分の1・断面図が50分の1を原則として掲載し、各図版の下にはスケールを付した。遺構図版は遺構内出土遺物と遺構外出土遺物に分けて掲載した。縮尺は土器類・石器類は3分の1、鉄製品類は2分の1、木製品類は6分の1、銭貨は原寸で掲載し図中にスケールを付した。写真図版の中で遺構写真の縮尺については不定である。遺物写真の縮尺についてはほぼ実測図版に準じている。遺物の実測図番号と遺物写真図版に付した番号は同一である。巻頭写真に掲げた陶磁器類の遺物番号は本文中・実測図中の番号と同一である。

(3) 遺物の掲載について

多くを掲載することに努めたが、実測不可能な細片については本文・遺物観察表中にその遺物の特徴を記載し、実測図は割愛し写真のみ掲載したものもある。

(4) 実測図版中の土器の調整方法等については凡例図に記した。

(5) 遺物観察表中の記号は次に記したものの略号である。

・HM…ヘラミガキ HK…ヘラケズリ HN…ヘラナデ H…ハケメ KHK…回転ヘラケズリ
THK…手持ちヘラケズリ TT…たたき目

・土器の色調は標準土色帳によった。

・遺物観察表中の分類の欄および本文中の遺物記載に使用されている分類記号はまとめの項の土器の分類によっている。特に平安時代の土器については以下のようになっている。

A類…酸化炎焼成内面黒色処理の坏類 B類…酸化炎焼成非内黒の坏類 C類…還元炎焼成の坏類
D類…酸化炎焼成の高台の付く坏類 E類…酸化炎焼成でロクロ成形の甕類
F類…酸化炎焼成で非ロクロ成形の甕類 G類…酸化炎焼成の埴・鉢類

・土器の胎土は主観的であるが以下のような分類に従った。

A…精選され良質できめの細かい胎土が使用されているものである。内面黒色処理の酸化炎焼成の坏や非黒色処理の酸化炎焼成の一部、還元炎焼成の土器などが該当する。

B…AとCの中間的なもので細礫・小礫をやや含むものである。

C…細礫や小礫を多量に含むもので非常に粗雑である。

・土器の焼成の度合いも主観的であるが以下のような分類に従った。

A…焼きしまりがよく比較的硬質なものである。

B…AとBの中間的なものである。

C…軟質で脆弱なものである。

IV. 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

RA01 竪穴住居跡

遺構（第7図、写真図版4）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Yグリッドの西端に位置する。RD002・RD006より古い。畑地の耕作土である第1層を除去した段階で検出した。遺構の上部はかなり耕作等により削平を受けている。

〈形状・規模〉ほぼ隅丸正方形に近い形状である。主軸方向はほぼ東西で、東辺4.8m・西辺4.7m・南辺4.6m・北辺4.7m、床面積は11.4㎡である。

〈埋土〉細礫を比較的多く含む黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されている。自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉砂礫層上部まで掘り込んで構築されており、約5cm±の厚さで黒褐色のシルト質土により全面が貼床されている。床面はほぼ水平である。壁は外傾気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁13cm・西壁19cm・南壁14cm・北壁15cmである。

〈柱穴〉検出されなかった。

〈カマド〉東壁の中央よりやや北に寄ったところに構築されている。上部が削平を受けていることや新期の土坑により攪乱を受けていることから構造については不明な部分が多い。煙道は東壁より約1.8m屋外に延びており、煙道の底面はほぼ水平である。割り貫き式か掘り込み式のいずれかは判断できなかった。燃焼部は床面より若干下がっており両袖部は土器片や亜円礫を芯材として他から持ち込んだシルト質粘土を巻いて構築している。

遺物（第41～43、写真図版65～66）

〈出土状況〉カマド周辺を中心に出土している。西壁の中央部からやや北寄りの床面付近から鉄製品の痕跡が認められたが、非常に脆弱であるためとりあげはできなかった。図化できたものは酸化炎焼成内黒環7点・酸化炎焼成非内黒環3点・還元炎焼成環2点、ロクロ成形成3点・非ロクロ成形成3点である。坏類で底部の切り離し技法が確認できたものは6点ですべて回転糸切り・無調整のものである。19はロクロ成形成で内外面に丁寧なミガキ調整が施された小形の壺である。底部切り離し技法は回転糸切りで再調整は行われていない。壺はすべて酸化炎焼成で全体を還元できたものは少ないが、ロクロ成形成は胴部上半から下には幅の広い工具によりケズリ調整が加えられている。非ロクロ成形成では同様に外面にケズリ調整が加えられており、さらに内面にはナデ調整がなされている。

〈所属時期〉平安時代である。

RA02 竪穴住居跡

遺構（第8図、写真図版5）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Yグリッドの西端でRA01の南東に位置する。遺構の上部はかなり削平を受けている。カマドは検出されておらず竪穴状遺構と認識されるが事実記載についてはこの項で述べる。

〈形状・規模〉ほぼ隅丸正方形に近い形状である。東辺2.2m・西辺2.2m・南辺2.1m・北辺2.0m、床面積は5.4㎡である。

〈埋土〉細礫を比較的多く含む黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されている。自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉砂礫層上部まで掘り込んで構築されており、床面は水平であるが礫による凹凸が見られる。壁は

外傾気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁15cm・西壁20cm・南壁19cm・北壁13cmである。

〈柱穴〉 検出されなかった。

〈カマド〉 設けられていない。

遺物（第43図、写真図版66）

〈出土状況〉 すべて埋土中からの出土である。図化できたものは酸化炎焼成内黒坏1点・酸化炎焼成非内黒坏1点で、底部の切り離し技法が確認できたものは1点で回転系切り・無調整のものである。還元炎焼成の壺が出土している。22・23は同一個体である。

〈所属時期〉 平安時代である。

RA03 竪穴住居跡

遺構（第9図、写真図版6・7）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドの南東に位置する。住居跡の約半分は調査区外にのびている。

〈形状・規模〉 ほぼ隅丸正方形に近い形状と思われる。主軸方向はほぼ東西で、すべてが検出されている北辺から一辺4.2mの規模と思われる。床面積は推定で9.0㎡である。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されている。水平な堆積状況を示しており自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉 砂礫層上部まで掘り込んで構築されている。約5cm±の暗褐色のシルト質土により全面が貼床されている。床面はほぼ水平である。壁は直立気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁33cm・西壁31cm・南壁66cm（表土より）・北壁37cmである。

〈柱穴〉 検出されなかった。

〈カマド〉 東壁の中央よりやや北に寄ったところに構築されており、切り貫き式の構造をもつものである。煙道は東壁より約1.2m屋外に延びており煙道の底面は煙出し部分に向かってさがっている。燃焼部は床面より若干下がっており、両袖部は基本土層の第IV層を低く掘り残し、その上に土器片や亜円礫を芯材として他から持ち込んだシルト質粘土を巻いて構築している。検出面の煙出し部分に数個の礫が認められた。

〈その他〉 カマド焚口の1m手前付近の貼床下部に小規模であるが現地性の焼土が認められる。

遺物（第44～45図、写真図版66～67）

〈出土状況〉 埋土・カマド周辺および床面から出土している。41の鉄製品は北壁に接したような状態で、42の鉄製品は埋土上部から出土している。24・25は酸化炎焼成内黒坏、27～33は酸化炎焼成非内黒坏、34は還元焼成の坏である。すべて底部切り離し技法は回転系切り無調整である。35～37はロクロ成形、38は非ロクロ成形の甕である。39は外面ヘラミガキと黒色処理が施された酸化炎焼成の壺形土器である。底部は上げ底で凹線状となっている。還元炎焼成の壺を模倣した作りである。40はロクロ成形の甕である。

RA04 竪穴住居跡

遺構（第10図、写真図版7・8）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドの西側に位置する。住居跡の北側約半分ほどを後世の擾乱により破壊されている。遺構の大部分は削平を受けており、カマドの燃焼部付近に相当すると思われる部分から痕跡的に現地性焼土が検出されたため住居跡と認定した。

〈形状・規模〉ほぼ隅丸正方形に近い形状と思われる。主軸方向はほぼ北西-南東方向で、すべてが検出されている南西辺から一辺が約2.4mの規模と推定される。床面積は推定で5.1㎡である。

〈埋土〉黒色のシルト質土で構成されている。

〈壁・床〉砂礫層上部まで掘り込んで構築されている。各壁中央部の壁高の残存値は北西壁5cm・南西壁5cm・南東壁2cmである。

〈柱穴〉検出されなかった。

〈カマド〉北西壁の中央よりやや南に寄ったところに構築されている。煙道は北西壁より約1.3m屋外に延びており煙道の底面は水平である。煙道の構築方法については不明である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉平安時代である。

RA05 竪穴住居跡

遺構（第11図、写真図版9・10）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドのほぼ中央部分に位置する。数メートル南にはRA06住居跡が位置している。耕作土除去後第IV層を検出面としている。

〈形状・規模〉ほぼ隅丸正方形に近い形状である。主軸方向はほぼ東西方向で、東辺4.0m・西辺4.0m・南辺4.1m・北辺4.4m、床面積は11.4㎡である。

〈埋土〉4層で構成されており、壁際の最下部に壁の崩落土と思われる褐色土が堆積している。全体に黒褐色～暗褐色のシルト質土であり埋土の下部は自然堆積、黄褐色シルトが粒状・ブロック状に入り込んでいる埋土上部は人為的に形成された層と考えられる。

〈壁・床〉この周辺に厚く分布する第IV層を掘り込んで構築している。床面はほぼ水平で中央付近はよく踏み締められている。これに対し壁際部分の四周は中央部に比べ軟らかくなっている。壁は外傾気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁44cm・西壁41cm・南壁41cm・北壁41cmである。

〈柱穴〉やや不規則であるがP1・P2・P3・P5が主柱穴を構成すると思われる。

〈カマド〉東壁の中央よりやや北に寄ったところに構築されている。朝り貫き式の煙道で東壁より約1.2m屋外に延びており、煙道の底面はほぼ水平で煙出し部分でやや下がっている。燃焼部は床面より若干下がっており周軸部は土器片や埴瓦を芯材として他から持ち込んだシルト質粘土を巻いて構築している。長い扁平な礫を軸部に懸け渡して天井部を構成し、菊の紋状に長めの埴瓦を配置して掛け口を作りだしている。燃焼部には人頭大の埴瓦に扁平な礫を載せ、さらにその上に坯形土器を2個伏せて支脚としている。

〈付属施設〉カマドの右軸部の右側には貯蔵穴状の小土坑が設置されている（P5）。この小土坑は開口部分が周囲より若干高くなっており黄褐色土を土手状に掘り残して造作している。内部から小形の甕が出土している。カマドと反対側の西壁のほぼ中央部に出入口に相当すると考えられる深さ12cmの屋外に張り出した半月状の掘り込みが見られる。この掘り込み部分と西壁付近の床面とは約28cmの落差がある。

〈その他〉床面の中央付近には現地性焼土、床面直上に炭化物・炭化材の分布が認められることから焼失を受けた住居と思われる。

遺物（第46～48図、写真図版67～68）

〈出土状況〉カマド周辺を中心に出土している。43・44は酸化炎焼成内黒灰、45～56は酸化炎焼成非内黒灰

である。このなかで46・49はカマドの支脚に利用されていたものである。底部が確認できたものは全て回転糸切り無調整である。57～67は酸化炎焼成の甕である。明らかにロクロ成形されているものは57～63、64～67は非ロクロ成形と思われる。66の底部は砂底である。66は甕としてあるが鉢・壺の可能性も考えられる。外面に叩きの痕跡を残す例、体部の下半に幅の広いケズリ様のナデが施される例が多い。68は還元炎焼成の壺、69は大甕である。69の多くはこの住居跡のカマド付近から出土しているが、一部隣接するRA06のものと接合している。

〈所属時期〉平安時代である。

RA06 竪穴住居跡

遺構（第12図、写真図版11・12）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドのほぼ中央部分に位置する。RA05と隣接している。西壁でRD075埋し穴と重複しており住居跡が新しい。耕作土除去後第IV層を検出面としている。

〈形状・規模〉隅丸正方形が歪んだ形状をしている。主軸方向はほぼ東西方向で、東辺5.9m・西辺5.4m・南辺6.3m・北辺6.0m、床面積は29.4㎡である。

〈埋土〉壁際の最下部に壁の崩落土と思われる褐色土が堆積している。全体に黒褐色～暗褐色のシルト質土であり埋土の下部は自然堆積、黄褐色シルトが粒状・ブロック状に入り込んでいる埋土上部は人為的に形成された層と考えられる。カマドの左袖付近には土器片や焼土・炭化物・灰白色粘土などが見られ、人為的に投棄された土と思われる。

〈壁・床〉この周辺に厚く分布する第IV層を掘り込んで構築している。床面はほぼ水平で中央付近はよく踏み締められている。これに対し壁際部分の四周は中央部に比べ軟らかくなっている。厚さ5cm土の暗褐色系のシルト質土で貼床がなされている。壁は外傾気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁40cm・西壁36cm・南壁25cm・北壁41cmである。南西側の壁高が低いのは調査の勝手際のためである。

〈柱穴〉屋内に12個検出している。このなかで主柱穴と思われるものはP1・P3・P4・P5と考えられる。屋外に煙出しを挟むように左右に各2個ずつの柱穴が見られる（P13～P16）。これらはこの住居跡に伴うと思われるものである。埋土はRA06住居跡に類似しており上部に黄褐色土を斑状に含む黒褐色土が主体の土である。

〈カマド〉東壁の中央よりやや北に寄ったところに構築されている。削り貫き式の煙道で東壁より約2.0m屋外に延びており、煙道の底面は煙出し部分に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部は床面より若干下がっており、両袖部は土器片や亜円礫を芯材として他から持ち込んだシルト質粘土を巻いて構築している。

〈付属施設〉カマドの右袖部の右側には貯蔵穴状の小土坑が設置されている。この小土坑は開口部分が周囲より約5cmほど高くなっており黄褐色土を土手状に掘り残して造作している。またこの土坑の底面にも小ビットが認められ柱穴とは別の機能が考えられる。内部から略完形の坏や甕の破片が多数が出土している。カマドと反対側の西壁のほぼ中央部に出入口に相当すると考えられる深さ20cmの屋外に張り出した半月状の掘り込みが見られる。この掘り込み部分と西壁付近の床面とは約16cmの落差がある。煙道の両側に2口ずつ見られる柱穴は、埋土の観察で黒褐色系のシルト質土に霜降り状に黄褐色土を含む状況が見られ当住居跡の埋土と類似しているためこの住居に伴うものと考えた。

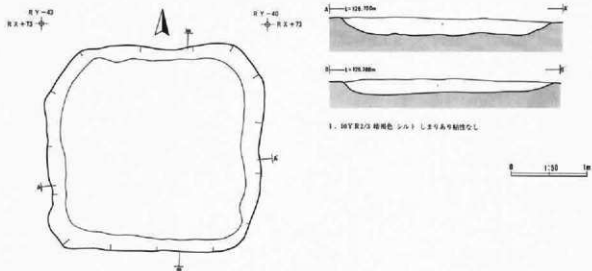
〈その他〉床面の中央付近には現地性焼土、床面直上に炭化物・炭化材の分布が認められることから焼失を受けた住居と思われる。東壁に接して見られるP11・P12は汚れた黄褐色土の下部から検出されているこ

とや住居の平面形がいびつなことなどから建て替えの可能性が考えられる。

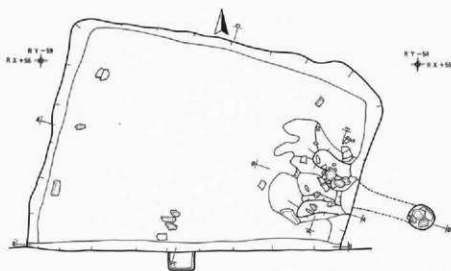
遺物 (第47～57図、写真図版68～83)

〈出土状況〉埋土およびカマド周辺、カマドの右袖脇の貯蔵穴から大量の土器が出土している。図化したなかでは、坏A類が26点 (70～95) ・同B類43点 (96～38) ・同C類 (139～142) が4点出土している。甕類はロクロ成形のもの10点 (143～151・153)、非ロクロ成形 (152) のもの1点、不明7点である。155はヘラミガキ・黒色処理の施された鉢である。これらの鉢・甕類のなかで155・157～160・164の底部に意図的な砂の付着が認められた。161～163は塼である。3点ともロクロ成形である。163は底部外端に脚状の痕跡が認められるが詳細は不明である。161の塼は口縁部の一部に歪みが認められ片口状のものと思われる。165は還元炎焼成の長頸甕の頸部で叩きの痕跡が認められる。24～26は鉄製品で25は刀子で木質部は残存していないが基部から先端まで残存している。24・26は手鎌と思われる。流れ込みと思われが遷出の埋土上部から肥前産の染付碗 (313) と陶器片 (312) が出土している。

〈所属時期〉平安時代である。



第8図 RA02



1-127.000m



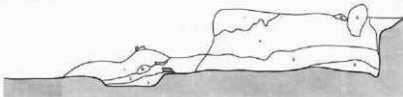
1-127.000m



1-127.000m



1-127.000m



1-127.000m



1-127.000m



カマド地部断面図1)

1. 10Y R2/3 灰褐色 シルト 粘土質シルト
 炭素に乏しい腐植層あり

2. 砂

1. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまりあり粘り中なし、砂少量あり
2. 10Y R2/2 灰褐色 シルト しまりあり粘り中あり
3. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまりあり粘り中あり
4. 10Y R2/4 黄 色 シルト しまりあり粘り中あり粘土少量あり
5. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまりあり粘り中あり
6. 10Y R2/2 灰褐色 シルト 粘層
7. 10Y R2/2 灰褐色 シルト しまりあり粘りなし砂多くあり

1. 10Y R2/4 灰褐色 シルト しまり中あり粘りなし、砂少量あり
2. 10Y R2/3 黄褐色 シルト しまりあり粘りなし
3. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまりあり粘りなし
4. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまりあり粘り中あり
5. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまりあり粘り中あり

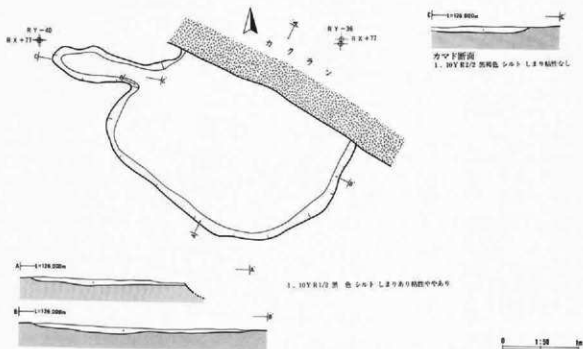
1. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまりあり粘りなし
2. 10Y R2/2 灰褐色 シルト しまりあり粘り中
3. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまりあり粘り中
4. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまりあり粘り中あり砂を含む
5. 10Y R2/4 黄 色 砂 粘りしまりなし

1:50 1m

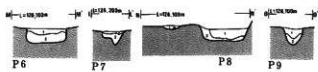
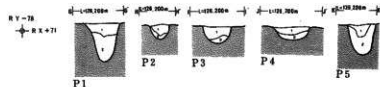
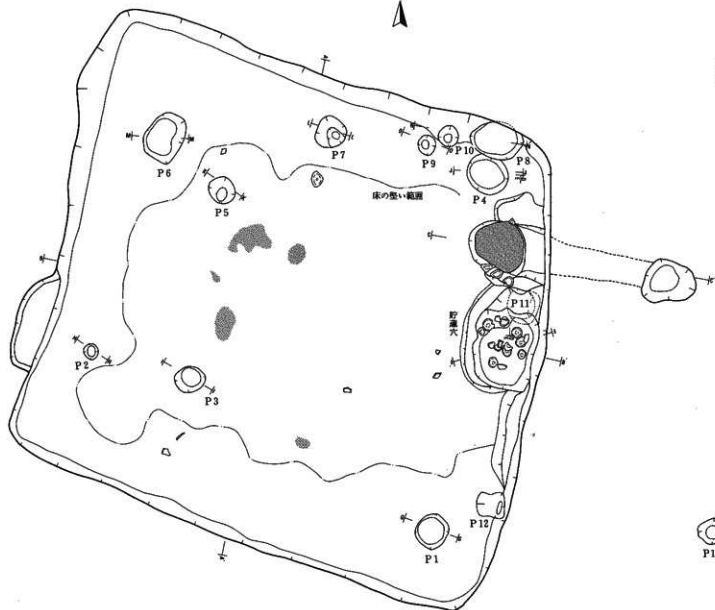
1. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまり粘りなし粘層あり
2. 10Y R2/3 灰褐色 シルト しまり粘りなし粘層あり
3. 10Y R2/4 黄 色 シルト 全体に粘土・塊けた砂を含む粘層あり
4. 10Y R2/3 灰褐色 シルト 粘りしまりなし
5. 10Y R2/2 灰褐色 シルト しまり粘りなし粘層あり
6. 10Y R2/3 灰褐色 シルト 粘りしまりなし、粘層あり

1:50 1m

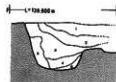
第9図 RA03



第10図 RA04



- P1**
1. 10V 2/2 黒 色 シルト 土盛り平屋根成立部含む
2. 10V 2/3 暗褐色 シルト 土盛り平屋根成立部含む
- P2**
1. 10V 2/2 暗褐色 シルト 土盛り平屋根成立
2. 10V 2/3 暗褐色 シルト 土盛り平屋根成立
- P3**
1. 10V 2/2 暗褐色 シルト 土盛り平屋根や東側黒シルトを含む
2. 10V 2/3 暗褐色 シルト 土盛り平屋根成立
- P4**
1. 10V 2/2 暗褐色 シルト 土盛り平屋根成立
2. 10V 2/3 暗褐色 シルト 土盛り平屋根成立
- P5**
1. 10V 2/2 暗褐色 シルト 土盛り平屋根成立
2. 10V 2/3 暗褐色 シルト 土盛り平屋根成立
- P6**
1. 10V 2/2 黒 色 シルト 土盛り平屋根成立
2. 10V 2/3 暗褐色 シルト 土盛り平屋根成立



- RA 06 カマド台横断面**
- 10V 2/1 黒 色 シルト 中央に黄褐色シルト層を2層含む
 - 10V 2/2 暗褐色 シルト 中央部のみ、黄褐色シルト層を2層含む
 - 10V 2/3 暗褐色 シルト 中央部のみ、黄褐色シルト層を2層含む
 - 10V 2/4 暗褐色 シルト 中央部のみ、黄褐色シルト層を2層含む
 - 10V 2/5 暗褐色 シルト 中央部のみ、黄褐色シルト層を2層含む
 - 10V 2/6 暗褐色 シルト 中央部のみ、黄褐色シルト層を2層含む

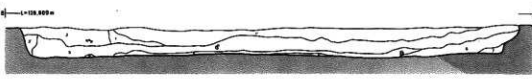
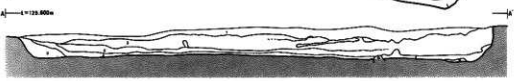
FA 06柱穴寸法表

No.	縦径 (cm)	横径
P1	38×40	33
P2	38×40	33
P3	44×44	33
P4	38×40	33
P5	38×40	33
P6	44×44	33
P7	44×44	33
P8	44×44	33
P9	44×44	33

P 3	28×26	23
P 10	28×26	9
P 11	44×44	24
P 12	32×30	25
P 13	44×44	42
P 14	28×26	23
P 15	28×40	45
P 16	28×24	21



1. 10V 2/2 暗 褐色 シルト 傾斜しよりなし、土盛り含む
2. 10V 2/3 暗 褐色 シルト 傾斜しよりなし
3. 10V 2/4 暗 褐色 シルト 傾斜しよりなし
4. 10V 2/5 暗 褐色 シルト 傾斜しよりなし
5. 10V 2/6 暗 褐色 シルト 傾斜しよりなし
6. 10V 2/7 暗 褐色 シルト 傾斜しよりなし
7. 4層に傾斜、天板の傾斜土
8. 10V 2/2 暗 褐色 シルト 傾斜しよりなし



- 10V 2/6 黒 色 部シルト黄褐色土を2層含む
- 10V 2/2 暗褐色 シルト 傾斜しよりなし、土盛り含む
- 10V 2/3 暗褐色 シルト 傾斜しよりなし、黄褐色シルト層を含む、表面に平
- 10V 2/4 暗褐色 シルト 傾斜しよりなし、黄褐色シルト層を含む
- 10V 2/5 暗褐色 シルト 傾斜しよりなし、黄褐色シルト層を含む
- 10V 2/6 暗褐色 シルト 傾斜しよりなし、黄褐色シルト層を含む
- 10V 2/7 暗褐色 シルト 傾斜しよりなし、黄褐色シルト層を含む
- 10V 2/8 暗褐色 シルト 傾斜しよりなし、黄褐色シルト層を含む
- 10V 2/9 暗褐色 シルト 傾斜しよりなし、黄褐色シルト層を含む
- 10V 2/10 暗褐色 シルト 傾斜しよりなし、黄褐色シルト層を含む

カマド台横断面割り

- 10V 2/2 暗 褐色 シルト 土盛り平屋根成立部を含む
- 10V 2/3 暗 褐色 シルト 土盛り平屋根成立部を含む
- 10V 2/4 暗 褐色 シルト 土盛り平屋根成立部を含む
- 10V 2/5 暗 褐色 シルト 土盛り平屋根成立部を含む

第12図 RA 06

2. 掘立柱建物跡

RB01 掘立柱状建物跡

遺構（第13図、写真図版13）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドの南西側に位置している。IV層面が検出面である。RE01より新しい。

〈形状・規模〉 平面形は長方形である。桁行3間・梁行1間の規模である。桁行の軸方向はN13°Wである。構成柱穴の規模はP1（54cm×32cm・深さ50cm）・P2（36cm×32cm・深さ57cm）・P3（34cm×34cm・深さ44cm）・P4（54cm×38cm・深さ46cm）・P5（32cm×32cm・深さ42cm）・P6（34cm×34cm・深さ35cm）・P7（34cm×28cm・深さ32cm）P8（28cm×28cm・深さ32cm）である。柱間寸法は桁行P1-P2は245cm・P2-P3は245cm・P3-P4は248cm・P5-P6は235cm・P6-P7は255cm・P7-P8は248cm、梁行P1-P8は375cm・P4-P5は385cmである。

〈埋土〉 しまりのない黄褐色土がやや混じる黒褐色～暗褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RB02 掘立柱状建物跡

C調査区2Xグリッドの北西側に位置している。IV層面が検出面である。多数の柱穴が検出されおりこのなかで2棟のほぼ南北に桁行のある掘立柱建物跡が確認された。ほぼ河位置での立て替えで少なくとも2時期の変遷が考えられる。南側には更に延びるものと思われるが、今回の調査で得られた知見で事実記載を行う。古い方をRD02-1、新しい方をRD02-2として記述を行う。またこの掘立柱建物跡の北側に位置するRD098・RD099土坑、RE11・RE12竪穴状遺構はこれらの母屋に付随する屋外施設の可能性がある。

RB02-1掘立柱建物跡

遺構（第14図、写真図版13）

〈重複関係〉 RD02-2掘立柱建物跡より古い。

〈平面形式〉 掘立柱建物跡である。桁行4間+α間、梁行5間の直屋と思われる。間取りは上手に2間×2間と3間×3間の部屋が作られている。

〈建物方位〉 桁行の軸方向はN10°Eである。

〈埋土〉 掘り方はしまりのない黒褐色のシルト質土である。柱痕跡の認められるものもあり、P8では杭状の部材が残存していた（第72図556）。

〈柱穴〉 各柱穴の規模は観察表に記した通りである。

〈柱間寸法〉 実測図にメートル法で示した。

RB02-2 掘立柱建物跡

遺構（第14図、写真図版13）

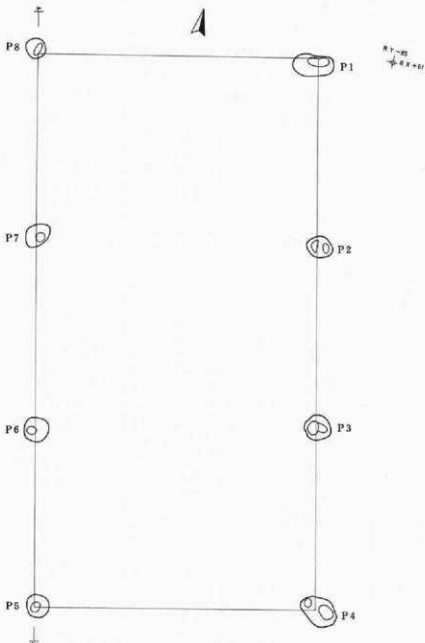
〈重複関係〉 RB02-1掘立柱建物跡より新しい。

〈平面形式〉 掘立柱建物跡である。桁行2間+α間、梁行2間の直屋と思われる。東側に下屋がついている。間取りは上手に1間×1間の部屋が2部屋作られている。

〈建物方位〉 桁行の軸方向はN12°Eである。



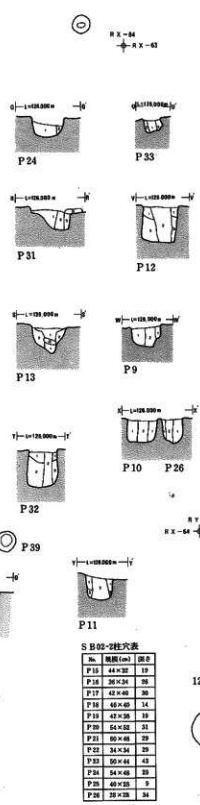
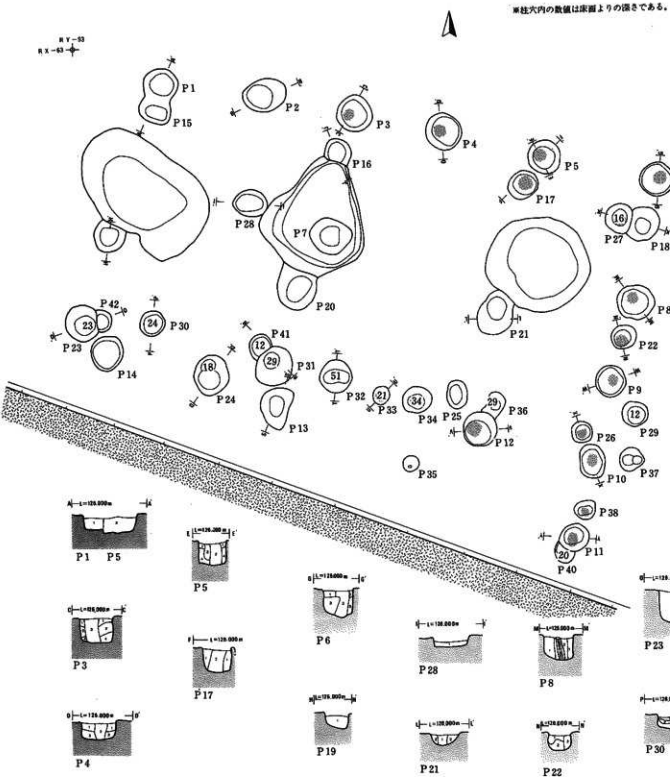
RY-M
RX+M



実験時六角型表

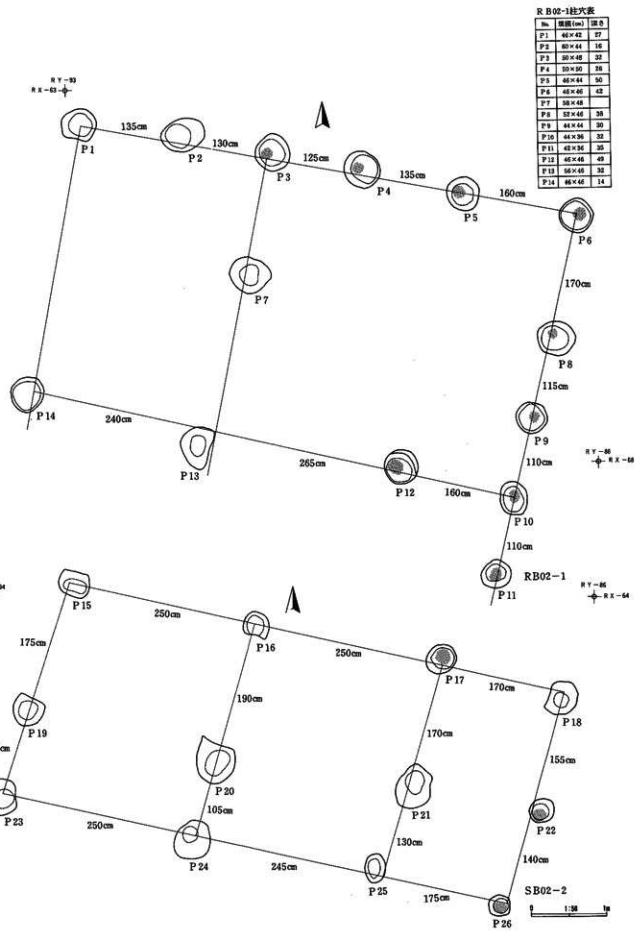
No.	縦径(mm)	横径	色調・性状
P1	54×32	54	10YR2/2 黄褐色シロト 崩り方に黄褐色土が混在し、粒状物ϕ30mm
P2	50×32	32	10YR2/2 黄褐色シロト 黄褐色土が内周面に含まれ
P3	34×34	34	10YR2/2 黄褐色シロト 黄褐色土が混在し、下部はしまりなし
P4	54×38	46	10YR2/2 黄褐色シロト 崩り方に黄褐色土が混在、表面に細粒鉄屑
P5	32×32	32	10YR2/3 黄褐色シロト 黄褐色土が混在
P6	34×34	33	10YR2/3 黄褐色シロト 黄褐色土が混在
P7	34×28	22	10YR2/2 黄褐色シロト 黄褐色土が混在
P8	28×28	22	10YR2/2 黄褐色シロト 黄褐色土が混在

第13図 RB03



SB02-2柱穴表

No.	径(㎝)	深さ
P15	44×32	19
P16	44×32	19
P17	42×30	26
P18	36×24	26
P19	42×30	26
P20	42×30	18
P21	42×30	26
P22	42×30	26
P23	42×30	26
P24	42×30	26
P25	42×30	26
P26	42×30	26
P27	42×30	26
P28	42×30	26
P29	42×30	26
P30	42×30	26
P31	42×30	26
P32	42×30	26
P33	42×30	26
P34	42×30	26
P35	42×30	26
P36	42×30	26
P37	42×30	26
P38	42×30	26
P39	42×30	26
P40	42×30	26



RB02-1柱穴表

No.	径(㎝)	深さ
P1	46×42	27
P2	46×44	16
P3	36×48	22
P4	36×48	26
P5	46×44	26
P6	46×46	23
P7	36×48	26
P8	32×46	26
P9	44×44	30
P10	44×36	26
P11	46×36	26
P12	46×46	49
P13	46×46	26
P14	46×46	14

第14図 RB02

〈埋土〉RB02-1と同様に掘り方はしまりのない黒褐色のシルト質土で柱痕跡の認められるものもある。

〈柱穴〉各柱穴の規模は観察表に記した通りである。

〈柱間寸法〉実測図にメートル法で示した。

遺物

〈出土状況〉この遺構が位置するC地区周辺から近世の陶磁器類が多数出土している。

〈所属時期〉近世と考えられる。

RB03 掘立柱状建物跡

遺構（第15図、写真図版14）

〈検出状況・重複関係〉F調査区1 Uグリッドに位置している。Ⅱ層面を掘り込み面としている。この周辺ではⅡ層の褐色砂質シルトは30cm-50cm±の層厚がある。一部は調査区外に延びており全容については明かでないが掘立柱建物跡を構成する柱穴を6個検出した。

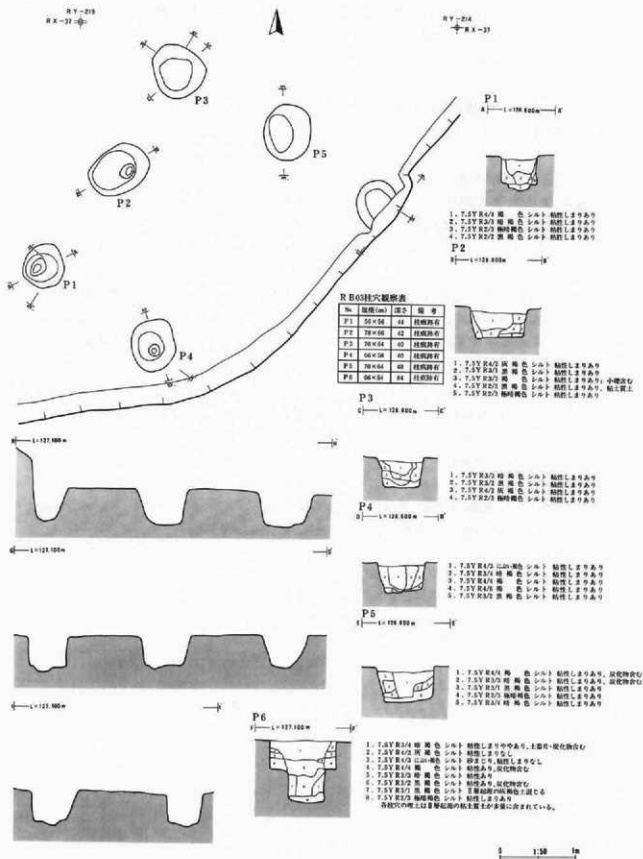
〈形状・規模〉北西-南東方向に長く平面形は長方形である。桁行2間+α・梁行2間の規模である。桁行の軸方向はN59°Wである。構成柱穴の規模はP1(56cm×56cm・深さ44cm)・P2(78cm×66cm・深さ42cm)・P3(70cm×64cm・深さ40cm)・P4(66cm×58cm・深さ40cm)・P5(70cm×64cm・深さ48cm)・P6(66cm×54cm・深さ80cm)である。P6の深さはⅡ層上面より、P1-P5はⅢ層面からの深さである。柱間寸法は桁行P3-P5は160cm・P5-P6は160cm・P1-P4は182cm、梁行P1-P2は180cm・P2-P3は160cmである。

〈埋土〉材の残存は見られなかったが柱痕跡部分は暗褐色土、掘り方部分はⅡ層起源の褐色系の砂質分のある粘土質シルトである。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉柱穴内から平安時代の土器が出土している。図化できたものは8点(169-176)の坏類である。176をのぞき他は底部回転糸切り無調整の酸化炎焼成非内黒の坏B類である。176は小破片からの図化で法量に問題が残るが内外面ヘラミガキ・黒色処理の施された小形の坏である。

〈所属時期〉平安時代と思われる。



第15図 RB03

3. 土坑類

RD001 土坑

遺構 (第16図、写真図版15)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、138cm×136cm・深さ31cmの規模である。中央部に64cm×56cm深さ12cmの円形の落ち込みがある。

〈埋土〉 小石混じりの黒～黒褐色のシルト質土で構成されている。人為堆積である。

〈壁・底面〉 緩やかに立ち上がり、播り鉢状である。

遺物 (第58図、写真図版71)

〈出土状況〉 ロクロ成形E類の酸化炎焼成長胴甕が出土している (177)。

〈所属時期〉 不明である。

RD002 土坑

遺構 (第16図、写真図版15)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Yグリッドに位置する。RA01住居跡より新しい。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、148cm×116cm・深さ11cmの規模である。

〈埋土〉 黄褐色土がブロック状に入る軟らかい灰褐色土で人為堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 現代のゴミ穴と思われる。

RD003 土坑

遺構 (第16図、写真図版15)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、170cm×84cm・深さ58cmの規模である。

〈埋土〉 しまりのない黒褐色のシルト質土で人為堆積である。

〈壁・底面〉 断面図は作製しなかった。

遺物

〈出土状況〉 埋土内からガラス片・腐朽したブリキ缶が出土している。

〈所属時期〉 近現代のゴミ穴である。

RD004 土坑

遺構 (第16図、写真図版15)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、206cm×180cm・深さ20cmの規模である。

〈埋土〉 やや砂を含む黒色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD005 土坑

遺構（第16図、写真図版15）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、200cm×186cm・深さ16cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土がマトリックスで上部に部分的に黒色土が入る。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面はやや凹凸がある。

遺物（第71図、写真図版84）

〈出土状況〉 寛永通宝（古寛永）が1点出土している（543）。

〈所属時期〉 近世以降の土坑と思われる。

RD006 土坑

遺構（第16図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸をもつ隅丸長方形、136cm×66cm・深さ20cmの規模である。

〈埋土〉 黒色のシルト質土が主体で砂が含まれる。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD007 土坑

遺構（第16図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸をもつ隅丸長方形、190cm×130cm・深さ46cmの規模である。

〈埋土〉 南側の壁際底面には壁の崩落である褐色の砂質土が堆積している。埋土上部は根等により攪乱を受けている。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD008 土坑

遺構（第16図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸をもつ小判形、104cm×66cm・深さ12cmの規模である。

〈埋土〉 しまりのないシルト質の黒褐色である。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土してない。

〈所属時期〉 不明である。

RD009 土坑

遺構（第16図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸をもつ隅丸方形、104cm×74cm・深さ52cmの規模である。

〈埋土〉 粒状の黄褐色土を1～15%含む黒褐色のシルト質土である。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD010 土坑

遺構（第16図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、179cm×136cm・深さ56cmの規模である。

〈埋土〉 黒～黒褐色のシルト質土がマトリックスであり、壁の崩落土である砂を含む。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。南側では上端で一段を形成し深さ16cmである。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD011 土坑

遺構（第16図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。第IV層上面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、174cm×134cm・深さ60cmの規模である。

〈埋土〉 軟らかい黄褐色の粘土質シルトおよび砂で構成される。人為堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 埋土中よりプラスチック片が出土している。

〈所属時期〉 近現代の土坑である。

RD012 土坑

遺構（第17図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。第I層除去後第IV層上面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は東西に長軸をもつ長方形、124cm×70cm・深さ60cmの規模である。

〈埋土〉 黒～黒褐色のシルト質土が主体であるが各層に大量の砂が含まれる。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD013 土坑

遺構（第17図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。第IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸をもつ長方形、198cm×72cm・深さ59cmの規模である。

〈埋土〉 第V層の砂礫層まで掘り込まれ2層で構成され、下部にはしまりのない黒褐色のシルト質土、上位には約25cmの厚さの砂が堆積している。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平でやや南側に向かって傾斜している。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD014 土坑

遺構（第17図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。第III層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、82cm×72cm・深さ16cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体で2層には微量の炭化物を含んでいる。全体に非常にかたい。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第71図、写真図版84）

〈出土状況〉 埋土中より寛永通宝が1点出土している（544）。

〈所属時期〉 近世以降の土坑と思われる。

RD015 土坑

遺構（第17図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W25グリッドに位置する。第Ⅲ層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、54cm×44cm・深さ10cmの規模である。

〈埋土〉 粘性のある黒～黒褐色のシルト質土である。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD016 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W25グリッドに位置する。第Ⅲ層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、54cm×46cm・深さ10cmの規模である。

〈埋土〉 粘性のある黒～黒褐色のシルト質土である。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD017 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は東西方向に長軸をもつ長方形、104cm×52cm・深さ51cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色～黄褐色の砂質分が非常に多いシルト質土である。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD018 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形円形、210cm×156cm・深さ80cmの規模である。

〈埋土〉 上部を削平されている。しまりのない軟らかい黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に緩やかに立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 内部より埋葬されたと思われる約1頭分の馬の骨が得られている。

〈所属時期〉 近現代と思われる。

RD019 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は東西方向に長軸をもち長方形、118cm×90cm・深さ32cmの規模である。

〈埋土〉 埋土下半には砂が厚く堆積し、その上に層厚数センチメートルの灰と焼土の混土が載る。人為堆積である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 近現代と思われる。

RD020 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸をもち長方形、156cm×48cm・深さ5cmの規模である。

〈埋土〉 砂を斑状に含むシルト質の黒褐色土である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD021 土坑

遺構（第17図、写真図版19）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区Y24グリッドに位置する。RG04より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸をもち小判形、196cm×88cm・深さ52cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代と思われる。

RD022 土坑

遺構（第17図、写真図版19）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。RE05の貼床下部にありこれより古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、182cm×130cm・深さRE05の床面下30cmである。

〈埋土〉 黒褐色土を主体に黄褐色土が斑状に混じるシルト質土である。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD023 土坑

遺構（第18図、写真図版19）

〈検出状況・重複関係〉A調査区Y24グリッドに位置する。上部はかなり削平を受けている。検出面はV層上面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉推定で平面形は方形基調、残存部の最大幅134cm・深さ4cmである。

〈埋土〉黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉図化しなかったが外面にケズリ調整の見られる酸化炭焼成堯の破片が出土している。

〈所属時期〉不明である。

RD024 土坑

遺構（第18図、写真図版19）

〈検出状況・重複関係〉A調査区Y24グリッドに位置する。上部はかなり削平を受けている。検出面はV層上面である。誤って平面図は作成していない。

〈形状・開口部規模・深さ〉推定で平面形は方形基調、残存部の最大幅134cm・深さ4cmである。

〈埋土〉黒-黒褐色のシルト質土である。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は攪り斜状である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD025 土坑

遺構（第18図、写真図版20）

〈検出状況・重複関係〉A調査区Y24グリッドに位置する。RG02により古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅150cm・深さ28cmである。

〈埋土〉小石が少量混じるシルト質の黒色土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉図化できなかったが黒色処理の施された酸化炭焼成の坏・酸化炭焼成非内黒坏、ロクロ成形の堯が出土している。

〈所属時期〉不明である。

RD026 土坑

遺構（第18図、写真図版20）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、84cm×76cm・深さ11cmである。

〈埋土〉 シルト質の黒褐色土である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD027 土坑

遺構（第18図、写真図版20）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、82cm×74cm・深さ32cmである。

〈埋土〉 シルト質の黒褐色土が主体を占める。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD028 土坑

遺構（第18図、写真図版20）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、174cm×128cm・深さ24cmである。

〈埋土〉 IV層起源の黄褐色の粘土質シルトである。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD029 土坑

遺構（第18図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸をもつ楕円形、120cm×70cm・深さ26cmである。

〈埋土〉 シルト質の黒～黒褐色土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD030 土坑

遺構（第18図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉B調査区X25グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は不整形、204cm×160cm・深さ14cmである。

〈埋土〉埋土上部は微量の焼土を含む黒色のシルト質土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD031 土坑

遺構（第19図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉B調査区X25グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は不整形、178cm×152cm・深さ26cmである。

〈埋土〉砂質シルトの暗褐色土を主体に黒色土が上部に入り込む。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD032 土坑

遺構（第19図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉B調査区X1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は不整形、212cm×112cm・深さ30cmである。東半部分が周囲より5cm前後低くなっている。

〈埋土〉黒色のシルト質土をマトリックスに褐色シルトが斑状に入り込む。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD033 欠番扱い

RD034 土坑

遺構（第19図、写真図版22）

〈検出状況・重複関係〉B調査区X1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は北西-南東方向に長軸をもつ方形、128cm×106cm・深さ10cmである。
〈埋土〉黒褐色のシルト質土をマトリックスに微量の炭化物・焼土・黄褐色の砂質シルトを含む。
〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD035 土坑

遺構（第18図、写真図版22）

〈検出状況・重複関係〉B調査区X1グリッドに位置する。PP026より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形はほぼ東西方向に長軸をもつ長方形、160cm×70cm・深さ14cmである。

〈埋土〉埋土下部はV層起源の砂質シルトでその上位には水田の床土に類似した黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（写真図版83）

〈出土状況〉図化していないが東北産と思われる陶器の攪り鉢片が出土している（315）。

〈所属時期〉不明である。

RD036 土坑

遺構（第18図、写真図版22）

〈検出状況・重複関係〉

〈形状・開口部規模・深さ〉

〈埋土〉黒-黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、途中に段を形成し底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD037 土坑

遺構（第18図、写真図版22）

〈検出状況・重複関係〉

〈形状・開口部規模・深さ〉

〈埋土〉単層で黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD038 土坑

遺構 (第19図、写真図版23)

- 〈検出状況・重複関係〉 B調査区X1グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、90cm×86cm・深さ12cmである。
- 〈埋土〉 黄褐色の砂質シルトが混じる黒色のシルト質土である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD039 土坑

遺構 (第19図、写真図版23)

- 〈検出状況・重複関係〉 B調査区X1グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、96cm×72cm・深さ24cmである。
- 〈埋土〉 黒色～黒褐色のシルト質土をマトリックスに砂質シルトが混じる。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平で南東側に向かって傾斜している。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD040 土坑

遺構 (第19図、写真図版23)

- 〈検出状況・重複関係〉 B調査区X1グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、96cm×66cm・深さ12cmである。
- 〈埋土〉 単層で黒褐色のシルト質土である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD041 土坑

遺構 (第19図、写真図版23)

- 〈検出状況・重複関係〉 B調査区X1グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、110cm×92cm・深さ10cmである。北西側がやや低くなっている。
- 〈埋土〉 褐色～暗褐色のシルト質土である。人為堆積と考えられる。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は皿状である。

遺物 (第図、写真図版)

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD042 土坑

遺構（第19図、写真図版26）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は方形基調、残存部の最大幅は110cm・深さ10cmである。

〈埋土〉 埋土上部には黄褐色のシルト質土を含む黒色土でその下部には汚れたV層起源の砂質シルトが堆積している。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD043 土坑

遺構（第19図、写真図版24）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、90cm×78cm・深さ22cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は皿状である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 酸化炭焼成の非内黒無調整の坏B類が出土している（178）。

〈所属時期〉 不明である。

RD044 土坑

遺構（第19図、写真図版24）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、90cm×78cm・深さ36cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土が主体で微量であるが炭化物を含んでいる。人為堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり底面は摺り鉢状である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 土坑南西の壁際の埋土上部より略完形の酸化炭焼成の坏が出土している（179）。底部は回転糸切り無調整、内外面に丁寧なヘラミガキ調整が施される。

〈所属時期〉 不明である。

RD045 土坑

遺構（第19図、写真図版24）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に主軸をもつ隅丸長方形、148cm×96cm・深さ34cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体で黄褐色土を斑状に含んでいる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉180は酸化炭焼成非内黒の大形の坏B類である。図化は不能であったが酸化炭焼成でロクロ成形の小形甕が出土している。

〈所属時期〉最下部に堆積する黄褐色土を斑状に含む黒一黒褐色のシルト質土がFA05・06整穴住居跡の埋土上部の土と酷似しており平安時代の遺構と考えられる。

RD046 土坑

遺構（第19図、写真図版24）

〈検出状況・重複関係〉A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は円形、74cm×74cm・深さ24cmである。

〈埋土〉褐色一暗褐色のシルト質土が主体である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD047 土坑

遺構（第19図、写真図版25）

〈検出状況・重複関係〉A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は円形、124cm×118cm・深さ30cmである。

〈埋土〉黒褐色のシルト質土である。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉図化は不能であったが酸化炭焼成で無調整の坏B類が出土している。

〈所属時期〉不明である。

RD048 土坑

遺構（第20図、写真図版25）

〈検出状況・重複関係〉A調査区X25グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉東西方向に長軸をもち平面形は長方形、156cm×42cm・深さ8cmである。

〈埋土〉軟らかい褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD049 土坑

遺構（第20図、写真図版25）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸をもつ隅丸長方形、120cm×76cm・深さ12cmである。

〈埋土〉 軟らかい黄褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD050 土坑

遺構（第20図、写真図版25）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北東-南西方向に長軸をもつ小判形、92cm×54cm・深さ28cmである。

〈埋土〉 黒褐色-暗褐色のシルト質土である。人為堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第71図、写真図版84）

〈出土状況〉 埋土中より4点の鏡貨が出土している（545-548）。このなかで546は朝鮮通宝、547は永楽通宝と判読され、他の2点については判読不可能であった。

〈所属時期〉 中世以降の土坑と思われる。

RD051 土坑

遺構（第20図、写真図版26）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、134cm×126cm・深さ48cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土を主体としており下部にはブロック状に黄褐色土が入る。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は掘り鉢状に湾曲している。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD052 土坑

遺構（第20図、写真図版26）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、146cm×136cm・深さ30cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土を主体としており下部にはブロック状に黄褐色土が入る。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD053 土坑

遺構（第20図、写真図版26）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北西-南東方向に長く小判形、86cm×48cm・深さ24cmである。

〈埋土〉

〈壁・底面〉

遺構

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD054 土坑

遺構（第20図、写真図版26）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北西-南東方向に長く長方形、74cm×46cm・深さ26cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD055 土坑

遺構（第20図、写真図版27）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸を持つ楕円形、180cm×110cm・深さ40cmである。

〈埋土〉 黒色-黒褐色のシルト質土が主体でIV層起源と思われる黄褐色土を斑状に含んでいる。人為堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD056 土坑

遺構（第20図、写真図版27）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸を持つ小判形、78cm×40cm・深さ34cmである。

〈埋土〉 黒色-暗褐色のシルト質土が主体で埋土上部に微量の炭化物を含んでいる。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直立気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD057 土坑

遺構（第20図、写真図版27）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 やや歪みがあるが平面形は略円形、76cm×64cm・深さ42cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体で部分的にIV層起源の褐色土がブロック所状に入る。人為然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は直立気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD058 土坑（陥し穴）

遺構（第24図、写真図版37）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で400cm×98cm・底面で412cm×23cm・深さ98cmである。長軸方位はN3°Wである。

〈埋土〉 埋土下部にIV層起源の褐色の粘土質シルトがU字状に堆積しその上位に黒色～暗褐色のシルト質土が見られる。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平で長軸方向の両端部は奥に入り込んでいる。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD059 土坑（陥し穴）

遺構（第24図、写真図版37）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で346cm×98cm・底面で287cm×25cm・深さ80cmである。長軸方位はN22°Wである。

〈埋土〉 黒色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD060 土坑

遺構 (第20図、写真図版36)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、174cm×164cm・深さ26cmである。

〈埋土〉 黒色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD061 土坑 (陥し穴)

遺構 (第24図、写真図版37)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。V層下部の基底層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で310cm×94cm・底面で281cm×37cm・深さ102cmである。長軸方位はN11°Wである。

〈埋土〉 埋土下部にはV層上部起源と思われる褐色の砂がU字状に堆積し、上部には黒褐色～暗褐色のシルト質土が載っている。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD062 土坑 (陥し穴)

遺構 (第24図、写真図版37)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層下部の基底層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で424cm×102cm・底面で358cm×40cm・深さ108cmである。長軸方位はN13°Wである。

〈埋土〉 全体に砂が充填されており、埋土下部から上部に行くに従い側壁のV層上部の砂層の崩落土が順次堆積している。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は凹凸があるものの外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD063 土坑 (陥し穴)

遺構 (第24図、写真図版37)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で424cm×102cm・底面で350cm×24~45cm・深さ106cmである。長軸方位はN15°Eである。

〈埋土〉 埋土下部にはV層起源の砂が堆積し、上部には黒褐色のシルト質土が載っている。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直線的に立ち上がり、開口部付近で大きく外傾している。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD064 土坑 (陥し穴)

遺構 (第25図、写真図版37)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で346cm×100cm・底面で322cm×7~30cm・深さ106cmである。底面の両端は奥に入り込んでいる。長軸方位はN7°Eである。

〈埋土〉 埋土下部にはV層起源の砂が堆積し、上部には黒褐色~暗褐色のシルト質土が載っている。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直線的に立ち上がり、開口部付近で大きく外傾している。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD065 土坑 (陥し穴)

遺構 (第25図、写真図版38)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で360cm×104cm・底面で308cm×29~46cm・深さ112cmである。長軸方位はN10°Eである。中段の高壇は奥に入り込んでいる。

〈埋土〉 埋土下部にはV層起源の砂が堆積し、上部には黒褐色~暗褐色のシルト質土が載っている。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD066 土坑 (陥し穴)

遺構 (第25図、写真図版38)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層上部の非常に堅い砂層まで掘り込んでいる。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で330cm×94cm・底面で256cm×8～29cm・深さ28cmである。長軸方位はN33°Wである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面はU字状である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD067 土坑

遺構 (第20図、写真図版27)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区2X4グリッドに位置する。RA02より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅142cm・深さ20cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は緩やかに直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 図化不能であったが酸化炭焼成非内黒の坏B類が出土している。

〈所属時期〉 不明である。

RD068 土坑

遺構 (第20図、写真図版28)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、110cm×62cm・深さ10cmである。

〈埋土〉 黄褐色の砂質シルトが混じった黒色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は大きく波打っている。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD069 土坑

遺構 (第21図、写真図版28)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、82cm×76cm・深さ22cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は掘り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD070 土坑

遺構（第21図、写真図版28）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は略円形、64cm×56cm・深さ22cmである。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は播り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD071 土坑

遺構（第21図、写真図版28）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は不整形、110cm×94cm・深さ32cmである。

〈埋土〉黒褐色～褐色のシルト質土で各層にはV層起源の砂が混じる。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD072 土坑

遺構（第21図、写真図版29）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は略円形、174cm×164cm・深さ48cmである。

〈埋土〉Ⅲ層起源と思われる黒色のシルト質土である。埋土の上部および埋土下部付近に拳大～人頭大の礫がそれぞれ数個ずつ見られたが特に意識的に組み合わせた様子は見られなかった。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は播り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD073 土坑（陥し穴）

遺構（第25図、写真図版38）

〈検出状況・重複関係〉A調査区X24グリッドに位置する。Ⅲ層を検出面としてV層下部の基底層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は溝状、開口部で374cm×108cm・底面で330cm×14～32cm・深さ104cmで

ある。長軸方位はN6°Eである。

〈埋土〉最下部に薄くシルト質の暗褐色土が堆積し、それより上部には側壁の崩落土の砂が載っている。

〈壁・底面〉壁は直立気味に立ち上がり開口部付近で広がる。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉縄文時代である。

RD074 土坑（陥し穴）

遺構（第25図、写真図版38）

〈検出状況・重複関係〉A調査区X24グリッドに位置する。Ⅲ層を検出面としてV層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。RD083より新しい。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は溝状、開口部で394cm×106cm・底面で348cm×12～38cm・深さ90cmである。長軸方位はN8°Eである。

〈埋土〉最下部に砂が堆積し、それより上部は砂層と黒褐色～暗褐色のシルト質土が互層をなす。自然堆積である。

〈壁・底面〉壁は直線的に立ち上がり開口部付近で広がる。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉縄文時代である。

RD075 土坑（陥し穴）

遺構（第25図、写真図版38）

〈検出状況・重複関係〉A調査区X24グリッドに位置する。Ⅲ層を検出面としてV層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。RA06堅穴住居跡より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は溝状、開口部で364cm×110cm・底面で335cm×14～24cm・深さ28cmである。長軸方位はN0°Eである。

〈埋土〉V層上部起源の砂と黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉壁は直線的に立ち上がり開口部付近で広がる。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉縄文時代である。

RD076 土坑

遺構（第21図、写真図版29）

〈検出状況・重複関係〉C調査区1Xグリッドに位置する。Ⅳ層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉ほぼ東西方向に長軸をもち平面形は小判形、120cm×76cm・深さ24cmである。

〈埋土〉シルト質の黒褐色土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD077 土坑

遺構（第21図、写真図版29）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、106cm×78cm・深さ14cmである。

〈埋土〉 シルト質の黒褐色土で下部には黄褐色の砂が堆積している。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に緩やかに立ち上がり、底面は浅皿状である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD078 欠番扱い

RD079 土坑

遺構（第21図、写真図版29）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、106cm×68cm・深さ38cmの規模である。

〈埋土〉 砂混じりの黒褐色～褐色のシルト質土である。人為堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD080 土坑

遺構（第21図、写真図版30）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はやや歪みのある隅丸方形、106cm×74cm・深さ14cmの規模である。

〈埋土〉 砂混じりの黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD081 土坑

遺構（第21図、写真図版30）

- 〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、59cm×44cm・深さ22cmの規模である。
- 〈埋土〉 黄褐色土が混じる黒褐色のシルト質土である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD082 欠番扱いとする。

RD083 土坑

遺構（第21図、写真図版30）

- 〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Xグリッドに位置する。III層が検出面である。RD074より古い。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅70cm・深さ14cmの規模である。
- 〈埋土〉 暗褐色～褐色の砂分の多いシルト質土である。自然堆積である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD084 土坑

遺構（第21図、写真図版30）

- 〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ東西方向に長軸を持つ小判形、118cm×50cm・深さ10cmの規模である。
- 〈埋土〉 黒褐色～褐色の砂を含むシルト質土で最下部の層には少量の焼土を含んでいる。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD085 土坑

当初土坑と認定して調査を進めたが精査の結果、井戸跡と判明しこの遺構については井戸跡R Iの項で事実記載を行う。故に、RD085は欠番扱いとする。

RD086 土坑

遺構（第21図、写真図版31）

- 〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は円形、90cm×86cm・深さ10cmの規模である。

〈埋土〉黄褐色土を含む黒褐色の非常にかたいシルト質土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉固化できなかったが埋土中より木胎部は腐朽し残存していなかったが、漆の皮膜片が出土している。

〈所属時期〉不明である。

RD087 土坑

遺構（第21図、写真図版31）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は円形、156cm×46cm・深さ46cmの規模である。

〈埋土〉黒褐色のシルト質土が主体である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は播り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD088 土坑

遺構（第22図、写真図版31）

〈検出状況・重複関係〉G調査区1Vグリッドに位置する。III層面で黒色土中の暗褐色土の広がりとして検出された。V層まで掘り込んでいる。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は不整形、130cm×130cm・深さ24cmの規模である。

〈埋土〉暗褐色のシルト質土が主体である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は播り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD089 土坑

遺構（第22図、写真図版31）

〈検出状況・重複関係〉B調査区1Wグリッドに位置する。IV層面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は不整形、76cm×48cm・深さ24cmの規模である。

〈埋土〉黒色-黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平、北側に向かって浅くなっている。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD090 土坑

遺構（第22図、写真図版32）

- 〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。Ⅳ層面で検出した。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、134cm×96cm・深さ28cmの規模である。
- 〈埋土〉 黒色～黒褐色のシルト質土である。全体に黄褐色の砂質シルトが含まれている。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は緩やかな措り鉢状である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD091 土坑

遺構（第22図、写真図版32）

- 〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、214cm×150cm・深さ30cmの規模である。
- 〈埋土〉 黒色～褐色のシルト質土である。埋土の上部に数センチメートルの層厚の灰白色火山灰がレンズ状に堆積している。自然堆積である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平で東側がやや高くなっている。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 平安時代である。

RD092 土坑

遺構（第22図、写真図版32）

- 〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。RD096より新しい。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、148cm×124cm・深さ50cmの規模である。
- 〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体である。3層の黒褐色土層中にはⅡ層起源の褐色の砂質シルトが斑状に入る。人為堆積と思われる。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 平安時代である。

RD093 土坑

遺構（第22図、写真図版32）

- 〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、148cm×112cm・深さ48cmの規模である。
- 〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD094 土坑

遺構（第22図、写真図版33）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北東-南西方向に長軸をもつ小判形、126cm×78cm・深さ18cmの規模である。

〈埋土〉 暗褐色のシルト質土とⅡ層起源の褐色の砂質シルトで構成される。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 底面より約10cm浮いた埋土上部に、内面が上に向けた状態の完形の酸化炎焼成非内黒無調整坯B類が1点出土している（181）。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD095 土坑

遺構（第22図、写真図版33）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、94cm×78cm・深さ14cmの規模である。

〈埋土〉 暗褐色のシルト質土とⅡ層起源の褐色の砂質シルトで構成される。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD096 土坑

遺構（第22図、写真図版33）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。RD092より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅112cm・深さ42cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されている。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD097 欠番扱いとする。

RD098 土坑

遺構（第22図、写真図版33・34）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。上部は削平を受けている。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、84cm×84cm・深さ26cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土で上部に約3cm程度の厚さの砂と小石が混じった層が載る。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第72図、写真図版80・83）

〈出土状況〉 この土坑の底から桶の底板が出土している。用材はスギである。側板は残存していなかった。

底板の直上から陶磁器類が2点（315・316）出土している。316は東北産あるいは肥前産とされる染付の碗である。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD099 土坑

遺構（第23図、写真図版34）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。上部は削平を受けている。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、130cm×126cm・深さ28cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土で上部に約3cm程度の厚さの砂と小石が混じった層が載る。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第72・73図、写真図版33・34）

〈出土状況〉 この土坑の底から桶の底板が出土している。側板は残存していなかった。材はスギを使用しており、用材の接合には竹釘が使用されている。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD100 土坑

遺構（第22図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。東端部分については調査の制約があり全容は明らかにできなかった。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は長円形、残存部で124cm×50cm・深さ20cmの規模である。

〈埋土〉 黄褐色のシルト質土を含む黒色土とその下位には酸化鉄を含む褐色の粘土質土が見られる。

〈壁・底面〉 壁は緩やかに直線的に立ち上がり、底面は段状になっている。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD101 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部で96cm×86cm・深さ8cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD102 欠番扱いとする。

RD103 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は三角形を基調とする。開口部150cm×150cm・深さ80cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第4図67、写真図版75）

〈出土状況〉 317は肥前産とされる染付の猪口である。図化はできなかったが埋土中より漆塗りと思われる木胎容器が出土している。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD104 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、開口部200cm×150cm・深さ80cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 図化はできなかったが埋土中位より部材と木胎の漆器柄が出土している。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD105 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。南半部分が調査不可能の場所にあり全容は明らかにできなかった。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅は100cm×86cm・深さ80cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体で、周囲には小石や粘土質の黄褐色土をブロック状に含む黒褐色で構成されている。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD106 欠番扱いとする。

RD107 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Tグリッドに位置する。検出面はⅡ層面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部56cm×56cm・深さ44cmの規模である。

〈埋土〉 暗褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD108 土坑

遺構（第23図、写真図版36）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Tグリッドに位置する。検出面はⅡ層面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部60cm×44cm・深さ18cmの規模である。

〈埋土〉 暗褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD109 土坑

遺構（第23図、写真図版36）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Tグリッドに位置する。検出面はⅡ層面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部52cm×50cm・深さ18cmの規模である。

〈埋土〉 Ⅱ層起源の黄褐色の砂混じりの粘土質シルトである。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 酸化炎焼成非内黒、底部静止系切り無調整の坏B類が出土している（182）。

〈所属時期〉 平安時代と思われる。

RD110 土坑

遺構（第23図、写真図版36）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Tグリッドに位置する。

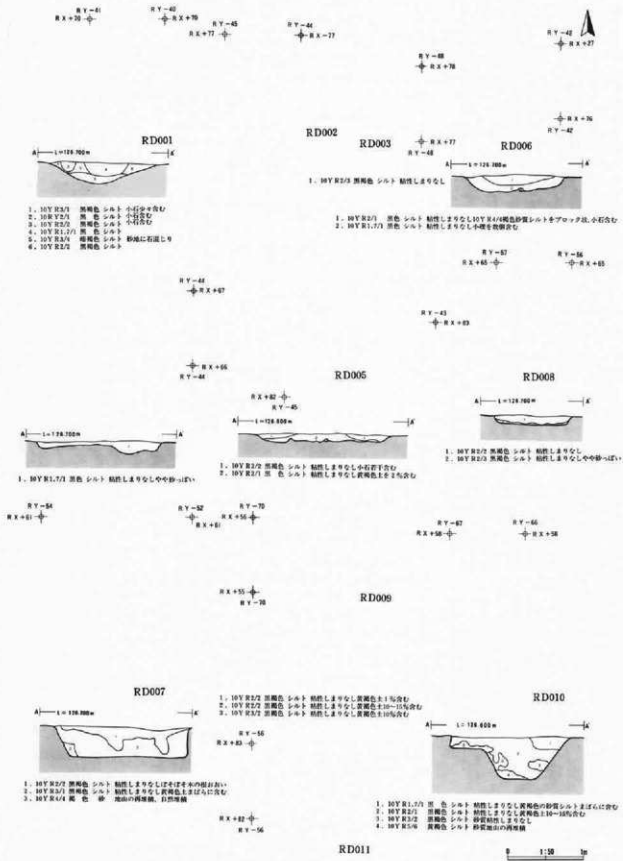
〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部104cm×100cm・深さ20cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色シルト、極暗褐色シルト主体である。

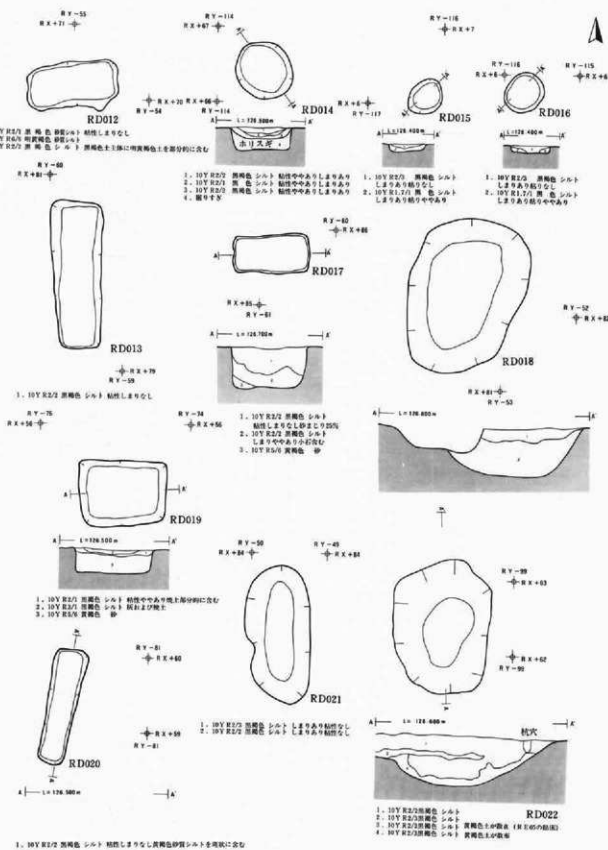
〈壁・底面〉 壁は外傾しており、東側ほど傾斜はゆるい。底面はほぼ水平である。

〈遺物〉 出土していない。

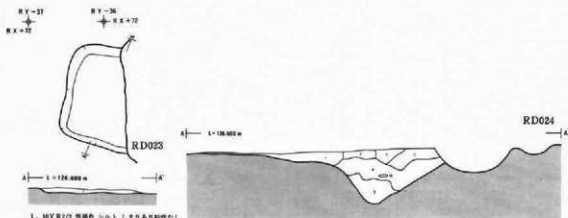
〈所属時期〉 不明である。



第16図 RD(1)

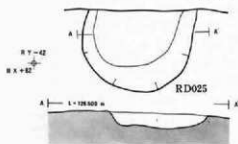


第17図 RD(2)

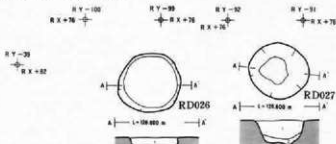


1. 10Y R2/2 黄褐色 シルト しまりあり粘性なし

1. 10Y R2/2 黄褐色 シルト しまりなし粘性なし硬さ多く含む
2. 10Y R1/2 黄 色 シルト しまりなし粘性なし砂質シルトを含む
3. 10Y R1.7/2 黄 色 シルト しまりあり粘性なし
4. 10Y R2/2 黄褐色 砂質シルト
5. 10Y R1/2 黄 色 シルト しまりあり粘性中やあり

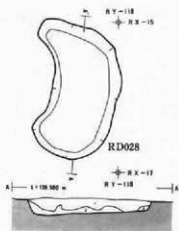


1. 10Y R2/2 黄褐色 シルト 粘性しまりなし石を含む

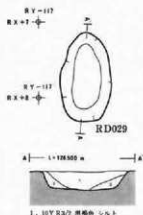


1. 10Y R2/2 黄褐色 シルト しまりあり粘性なし

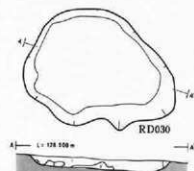
1. 10Y R2/2 黄 褐色 シルト 粘性しまり中やあり
2. 10Y R1/2 黄褐色 シルト 黄褐色シルトを含むしまりなし粘性あり



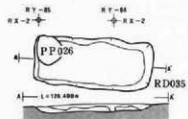
1. 10Y R4/2 緑褐色 シルト 粘性しまりなし
2. 10Y R2/2 黄 褐色 シルト



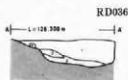
1. 10Y R2/2 黄褐色 シルト
2. 10Y R2/2 黄 色 シルト



1. 10Y R1.2/1 黄 色 シルト 粘性しまりなし硬土層を含む
2. 10Y R2/2 黄褐色 砂質シルト



1. 10Y R2/2 黄褐色 シルト アロップ状に硬土層の層を含む
2. 10Y R2/2 黄褐色 砂質シルト 硬土層が厚く含む

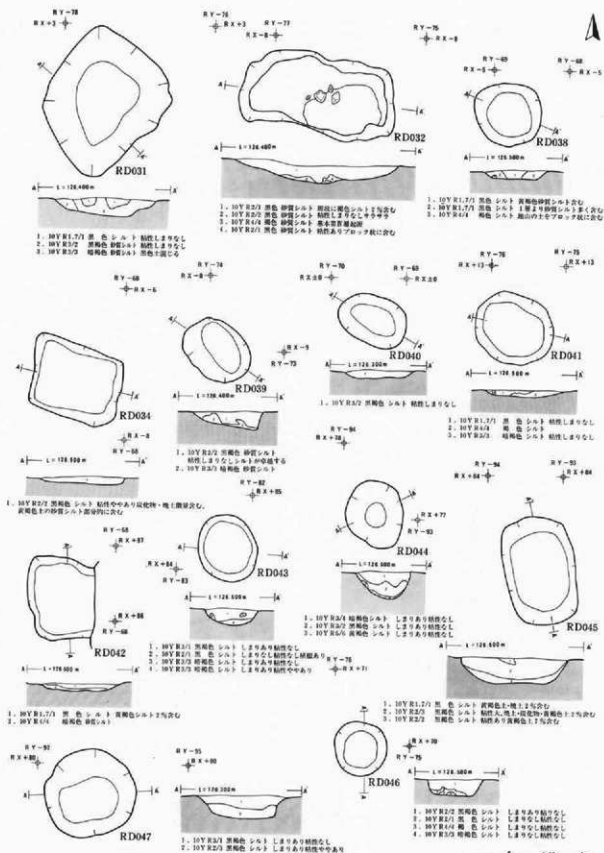


1. 10Y R2/2 黄褐色 シルト しまりあり粘性中やあり
2. 10Y R2/2 黄褐色 シルト しまりあり粘性中やあり
3. 10Y R3/4 黄褐色 シルト 砂質シルトを含むしまりなし粘性なし
4. 10Y R2/2 黄褐色 シルト しまりなし粘性なし

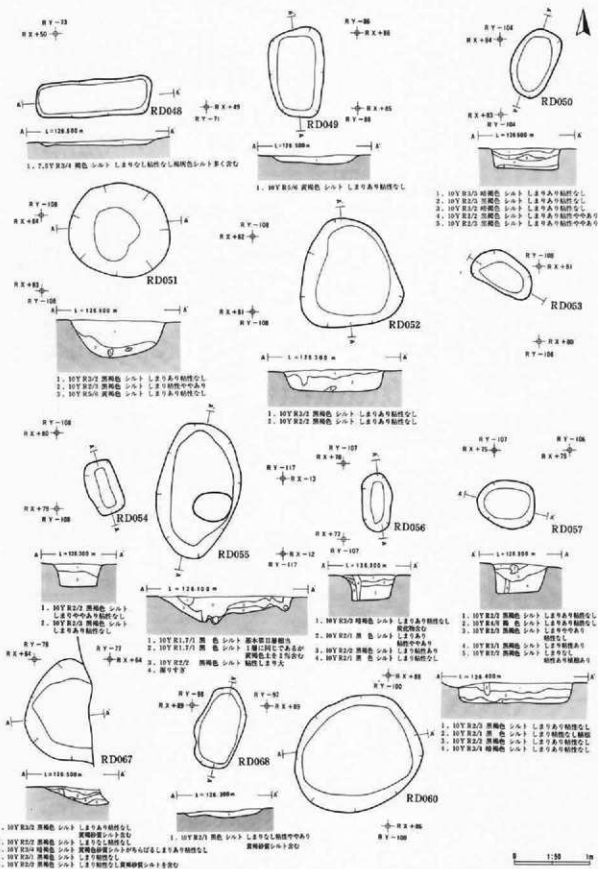


1. 10Y R2/2 黄褐色 シルト しまりあり粘性なし

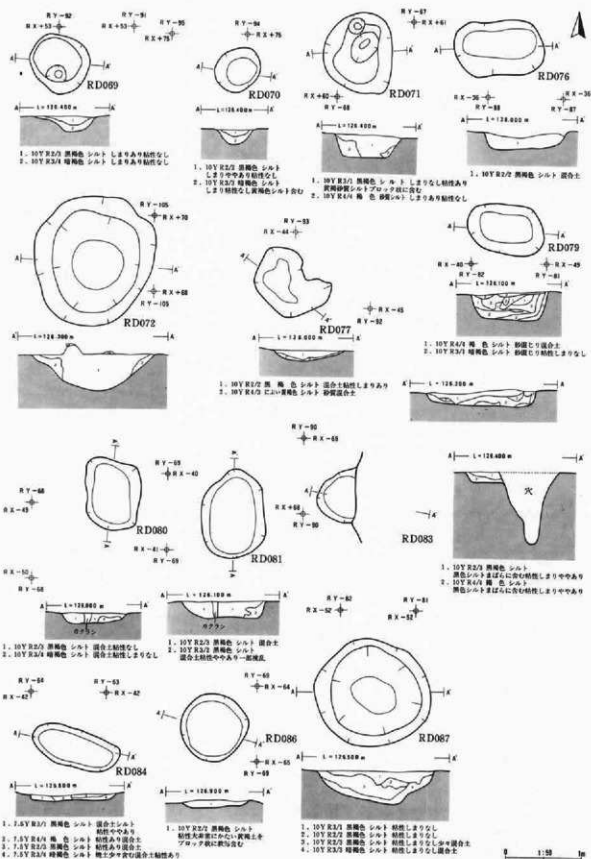
第18図 RD(3)



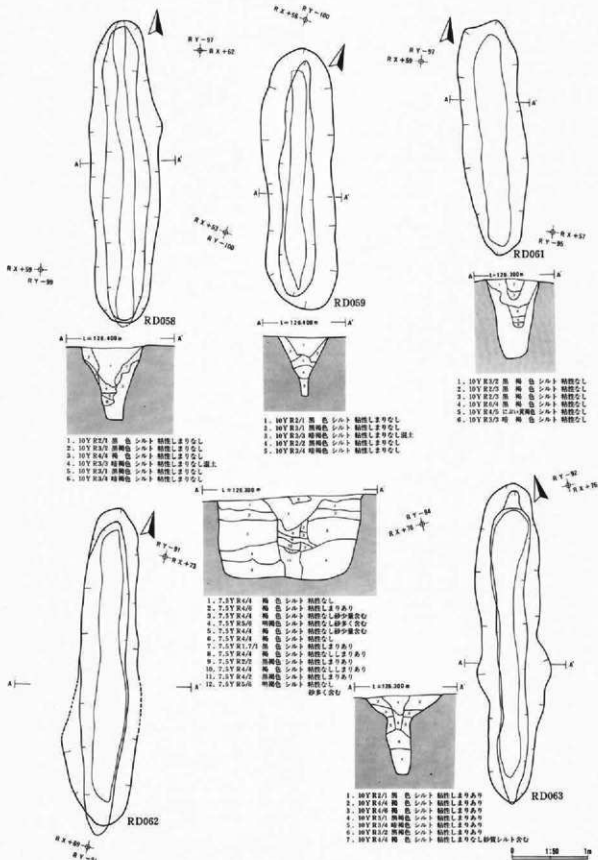
第19図 RD(4)



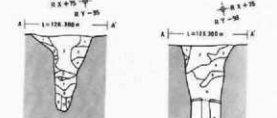
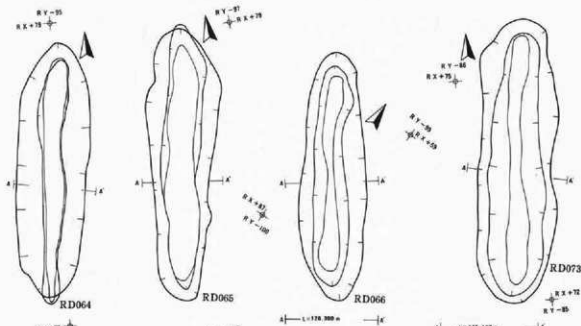
第20図 RD(5)



第21図 RD(6)



第24図 RD(9)

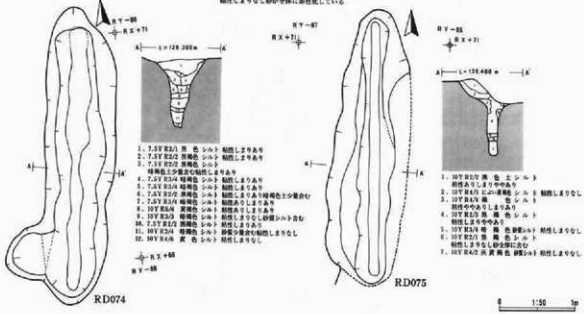


1. 10Y R2/1 暗褐色 シルト 粘りしりあり
2. 10Y R2/2 黒 色 シルト 粘りしりあり
3. 10Y R3/1 暗褐色 シルト 粘りしりあり
4. 10Y R4/1 黒 色 シルト 粘りしりあり
5. 10Y R2/1 暗褐色 シルト 粘りしりあり
6. 10Y R2/2 暗褐色 シルト 粘りしりあり
7. 10Y R2/3 暗褐色 シルト 粘りしりあり
8. 10Y R2/4 暗褐色 シルト 粘りしりあり
9. 10Y R2/5 暗褐色 シルト 粘りしりあり
10. 10Y R2/6 暗褐色 シルト 粘りしりあり

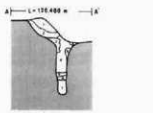
1. 10Y R2/1 暗褐色 シルト しりあり粘り中やあり
2. 10Y R2/2 暗褐色 シルト しりあり粘りなし



1. 10Y R2/1 暗 褐色 シルト 粘りしりあり
2. 10Y R2/2 暗 褐色 シルト 粘りしりあり
3. 10Y R2/3 暗 褐色 シルト 粘りしりあり
4. 10Y R2/4 暗 褐色 シルト 粘りしりあり
5. 10Y R2/5 暗 褐色 シルト 粘りしりあり
6. 10Y R2/6 暗 褐色 シルト 粘りしりあり
7. 10Y R2/7 暗 褐色 シルト 粘りしりあり
8. 10Y R2/8 暗 褐色 シルト 粘りしりあり
9. 10Y R2/9 暗 褐色 シルト 粘りしりあり
10. 10Y R2/10 暗 褐色 シルト 粘りしりあり



1. 7.3Y R2/1 黒 色 シルト 粘りしりあり
2. 7.3Y R2/2 暗褐色 シルト 粘りしりあり
3. 7.3Y R2/3 暗褐色 シルト 粘りしりあり
4. 7.3Y R2/4 暗褐色 シルト 粘りしりあり
5. 7.3Y R2/5 暗褐色 シルト 粘りしりあり
6. 7.3Y R2/6 暗褐色 シルト 粘りしりあり
7. 7.3Y R2/7 暗褐色 シルト 粘りしりあり
8. 7.3Y R2/8 暗褐色 シルト 粘りしりあり
9. 7.3Y R2/9 暗褐色 シルト 粘りしりあり
10. 7.3Y R2/10 暗褐色 シルト 粘りしりあり
11. 7.3Y R2/11 暗褐色 シルト 粘りしりあり
12. 7.3Y R2/12 暗褐色 シルト 粘りしりあり



1. 10Y R2/1 黒 色 シルト 粘りしりあり
2. 10Y R2/2 暗褐色 シルト 粘りしりあり
3. 10Y R2/3 暗褐色 シルト 粘りしりあり
4. 10Y R2/4 暗褐色 シルト 粘りしりあり
5. 10Y R2/5 暗褐色 シルト 粘りしりあり
6. 10Y R2/6 暗褐色 シルト 粘りしりあり
7. 10Y R2/7 暗褐色 シルト 粘りしりあり

第25図 RD(10)

4. 竪穴状遺構

規模や形状はさまざまであるが竪穴状遺構として12棟を検出した。

RE01 竪穴状遺構

遺構（第26図、写真図版39）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドの南西側に位置している。IV層が検出面である。RB01掘立柱建物跡を構成する柱穴により切られておりRB01より古い。

〈形状・規模〉 ほほは東西方向に長軸を持ち両端が凸辺状の隅丸長方形に近い形状である。開口部3.36m×1.94m・深さ18cm～28cmである。

〈埋土〉 全体に軟らかい黄褐色砂質シルトを含む黒褐色土で構成され、埋土途中に薄く炭化物の層が入る。人為堆積と考えられる。

〈壁・床〉 壁は外傾気味に立ち上がり各辺中央部の壁高は東壁14cm・西壁26cm・南壁20cm・北壁21cmである。床面は凹凸がある。

〈柱穴〉 検出されなかった。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 184は酸化炎焼成非内黒の坏B類である。底部は回転糸切り無調整である。図化できなかつたが酸化炎焼成の壺が出土している。

〈所属時期〉 現代のものと思われる。

RE02 竪穴状遺構

遺構（第26図、写真図版39）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドの西側に位置している。III層が検出面である。RG06溝跡より新しい。上部は削平を受けている。

〈形状・規模〉 ほほは北東-南西方向に長軸を持ち、両端が凸辺状のやや歪みのある隅丸長方形に近い形状である。開口部2.70m×1.44m・深さ28cmである。

〈埋土〉 全体に堅い黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されており、1層中には比較的多量の焼土が集中して見られる。

〈壁・床〉 壁は外傾気味に立ち上がり、各辺の壁高は北壁21cm・北西壁22cm・南壁29cm・南東壁30cmである。床面は水平である。

〈柱穴〉 検出されなかった。

遺物（第59図、写真図版71～72）

〈出土状況〉 埋土中および底面付近から平安時代の土器が出土している。185～187は酸化炎焼成内黒の坏A類である。187は底部に再調整が見られる。その他は回転糸切り無調整である。188～196は酸化炎焼成非内黒の坏A類である。底部の観察可能なものでは全て回転糸切り無調整である。197・199は壺で199の底部には意図的な砂の付着が見られる。198は埴である。図化はできなかったが他に還元炎焼成の長頸壺、内外面に叩き目の残る酸化炎焼成の壺の破片が出土している。353は陶器の壺の破片で流れ込みによるものである。

〈所属時期〉 平安時代である。

RE03 竪穴状遺構

遺構（第27図、写真図版40）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Yグリッドの北西側に位置している。IV層面が検出面でV層の観察まで掘り込まれて構築されている。RG02溝跡・RD022土坑より古い。上部は削平を受けている。北半は調査区外に延びている。

〈形状・規模〉全容は明かでないが平面形は隅丸長方形を基調としたものでやや歪みがあり、東西辺は凸凹状となっている。開口部で(5.0m + α) × 3.9m・深さ20±cmである。

〈埋土〉しまりのある黒色のシルト質土が主体でこの黒色土の上部に部分的に耕作土が見られる。

〈壁・床〉壁は外傾気味に立ち上がり、各辺の壁高の残存値は西壁17cm・南壁17cm・東壁9cm・北壁54cm（現況の畑地の畦面から）である。床面は裸層面で凹凸があるが全体に水平である。

〈柱穴〉検出されなかった。

〈その他〉当遺構の北東隅の壁際に70cm×66cm・深さ5cm程度の皿状の浅い落ち込みがあり、この部分から略完形の土器がまとめて出土している。

遺物（第60図、写真図版72）

〈出土状況〉埋土下部および北東壁際の小土坑内から出土している。またRG02から出土している土器類はこの遺構に伴う可能性がある。全体に削平されて覆土も10cm±しか残存しておらず、これらもこの遺構にともなうものと思われる。北東隅の落ち込み部分及び床面付近から平安時代の土器が出土している。204以外は土坑からの一括出土資料である。200・201は酸化炎焼成内黒の坏A類である。200は判読不能であったが墨書跡が見られる。底部全面および体部下端にヘラケズリが施されている。202～208は酸化炎焼成非内黒の坏B類である。207・208は特に大形で口縁部が内湾している。209は外面にナデ調整が施された還元炎焼成の壺である。これらの他に円化はできなかったが内外面に叩きの残る酸化炎焼成の甕が出土している。

〈所属時期〉平安時代である。

RE04 竪穴状遺構

遺構（第26図、写真図版39）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドの西側に位置している。III層黒色土面が検出面である。RD022より新しい。上面は削平を受けている。

〈形状・規模〉平面形は楕円形、開口部4.85m×2.90m・深さ20±cmの規模である。

〈埋土〉しまりのある黒色のシルト質土が主体で、この黒色土の上部に部分的に耕作土が見られる。

〈壁・床〉壁は湾曲して外傾気味に立ち上がり、各辺の壁高の残存値は北壁23cm・西壁20cm・南壁23cm・東壁26cmである。床面は全体に水平である。東壁の張り出しは調査のミスで掘りすぎである。

〈柱穴〉西側を除く壁際に12口・中央付近に2口が検出されている。

〈その他〉RD022と重複する床の北半部分には貼床が施されている。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RE05 竪穴状遺構

遺構（第27図、写真図版41）

〈検出状況・重複関係〉B調査区25Xグリッドの南西側に位置している。IV層面が検出面である。RD036土坑より古い。また、RG07溝跡との直接的な重複関係は認められなかったがRG07よりも古い。

〈形状・規模〉北側に浅い張り出し部分があるがこの部分を除くと平面形は方形、規模は2.7m×2.5m・深さ30±cmである。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色のシルト質土が主体である特に混入物当は見られなかったが埋土の下部はグライ化していた。人為堆積と考えられる。

〈壁・床〉壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、各辺中央部の壁高の残存値は北壁16cm（北側の張り出しの底面から）・西壁25cm・南壁30cm・東壁33cmである。床面は全体に水平である。

〈その他〉柱穴とは認められないが床面から当遺構に伴うと思われる小土坑が6口検出されており、規模は次に示す通りであり深さは床面からの数値である。P1（78cm×68cm・深さ13cm）、P2（58cm×42cm・深さ7cm）、P3（86cm×54cm・深さ6cm）、P4（84cm×54cm・深さ5cm）、P5（102cm×62cm深さ16cm）、P6（58cm×32cm・深さ2cm）、P5の内部壁際から腐朽して取りあげは不可能であったが木枠の痕跡が認められた。

遺物（第67・70図、写真図版75・80）

〈出土状況〉210は埋土上部から出土している酸化炎焼成非内黒、回転糸切り無調整の坏B類である。埋土上部～下部から陶磁器類（318～329）および床面直上からガラスの目薬瓶（542）が出土している。このなかで322・323・326・329は肥前産、328は瀬戸・美濃系の染付とされている。

〈所属時期〉近現代と考えられる。

RE06 竪穴状遺構

遺構（第28図、写真図版41）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドの中央付近に位置しRA05と隣接している。III層下部漸移層が検出面である。RG06より新しい。

〈形状・規模〉平面形は南北方向に長軸をもつ長方形、規模は開口部2.70m×1.12m・深さ30±cmである。

〈埋土〉斑状の黄褐色土を含む黒褐色～暗褐色のシルト質土が主体で全体に焼土や炭化物が散在している。ある。底面全体に厚さ5cm±の粉状の炭化物が薄く堆積していた。人為堆積と考えられる。

〈壁・床〉壁は直線的に立ち上がり、各辺中央部の壁高の残存値は北壁29cm・西壁26cm・南壁30cm・東壁29cmである。床面は水平である。

遺物（第60～61図、写真図版72）

〈出土状況〉埋土および底面付近から土師器が出土している。211～215は酸化炎焼成内黒の坏A類である。215は底部および体部下端に再調整が加えられている。216は回転糸切り無調整、酸化炎焼成非内黒の坏B類である。217は底部砂底の甕である。図化はできなかったが叩きの残る酸化炎焼成の甕の破片が出土している。

〈所属時期〉平安時代と考えられる。

RE07 竪穴状遺構

遺構（第28図、写真図版41）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドの中央よりやや南側に位置している。IV層面が検出面である。RG02溝跡より古い。

〈形状・規模〉 全容は明かでないが推定で平面形は膨らみのある方形基調と考えられる。残存部の規模は南北方向で1.95mで、深さは15cm±である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体である。自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉 壁は皿状に緩やかに立ち上がり、各辺中央部の壁高の残存値は北壁13cm・南壁9cm・東壁19cmである。床面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RE08 竪穴状遺構

遺構 (第29図、写真図版43)

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドの北西側に位置している。IV層面が検出面である。RE13竪穴状遺構より古い。

〈形状・規模〉 全容は明かでないが平面形は不整形、規模は開口部4.40m×3.35m・深さ35cm±である。

〈埋土〉 最下部に黄褐色砂質シルトが堆積し、上部に黒褐色～暗褐色のグライ化の見られるシルト質土が載る。人為堆積と思われる。

〈壁・床〉 壁は外傾気味に立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北西壁47cm・北壁28cm・東壁36cm・南壁38cmである。床面は水平である。

遺物 (第71図、写真図版75・80)

〈出土状況〉 図化はできなかつたが回転糸切り坏B類の底部破片が出土している。床面より寛永通宝が1点(549)と陶器が1点(330)出土している。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RE09 竪穴状遺構

遺構 (第30図、写真図版42)

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドの南西側に位置している。IV層面が検出面である。RG10溝跡より新しく、RE10竪穴状遺構とは同時存在の可能性もある。

〈形状・規模〉 平面形は南北方向に長軸を持つ不整形円形、規模は開口部8.05m×4.30m・深さ20cm±である。

〈埋土〉 汚れた黄褐色砂質シルトの上にグライ化の黒褐色シルトが載る。

〈壁・床〉 壁は直線的に立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北壁13cm・東壁29cm・東壁36cm・南壁17cmである。床面は水平である。西側に1.3m×0.8m・深さ24cmの小土坑が見られる。

遺物 (第67・71図、写真図版80・84)

〈出土状況〉 埋土中位より判読不能であるが銭貨が1点出土している(550)。図化はできなかつたが漆塗りの木胎容器の破片が出土している。331～339は陶磁器類でこの中で332～335・337・338は肥前産、339は相馬産とされている。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RE10 竪穴状遺構

遺構（第30図、写真図版42）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドの南西側に位置している。IV層面が検出面である。RG10溝跡より新しく、RE09竪穴状遺構とは同時存在の可能性もある。

〈形状・規模〉 平面形は南北方向に長軸を持つ不整形円形、規模は開口部6.30m×3.10m・深さ20cm±である。

〈埋土〉 RE09と同様の層相で、汚れた黄褐色砂質シルトの上にグライ化の黒褐色シルトが載る。

〈壁・床〉 壁は直線的に立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北壁27cm・西壁20cm・南壁20cmである。床面は水平である。

遺物（第67図、写真図版75）

〈出土状況〉 図化はできなかつたが回転糸切り坏B類の底部破片と染付の小坏（341）が出土している。

〈所属時期〉 不明である。

RE11 竪穴状遺構

遺構（第28図、写真図版42）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドの北西側に位置している。IV層面が検出面である。

〈形状・規模〉 平面形は隅丸方形、規模は開口部3.55m×3.55m・深さ5cm±である。

〈埋土〉 全体に粒状の酸化鉄が散在する黒色のシルト質土である。

〈壁・床〉 壁は皿状に緩やかに立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北壁5cm・西壁9cm・南壁9cm・東壁3cmである。床面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 図化はできなかつたが漆塗りの木胎容器の皮膜片が出土している。

〈所属時期〉 近世以降と考えられる。

RE12 竪穴状遺構

遺構（第28図、写真図版40）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドの北西側に位置している。IV層が検出面である。北側部分については制約上調査が不可能だった。竪穴状の部分とその東側にある鍵状の溝によって構成されている。

〈形状・規模〉 竪穴状部分の平面形は方形基調、規模は開口部3.5m×2.6m・深さ5cm±である。西壁部分にはこの遺構と同時存在と思われる170cm×84cm・深さ34cmの規模で平面形が楕円形の土坑がある。さらにこの土坑に隣接して東壁の外側に10cm程度の落ち込みが認められる。鍵状の部分は短い方で1.25m、長い方で3.15m、総延長4.4m、幅30cm～50cm・深さ5cm±である。

〈埋土〉 竪穴状の下層は褐色の砂質シルト、その上部にグライ化しはじめた黒褐色のシルト質土が堆積している。1・2層の境には酸化鉄の集積が見られる。鍵状の部分の埋土は竪穴状部分の上部に堆積している土層に類似している。

〈壁・床〉 壁は皿状に緩やかに立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は西壁10cm・南壁8cm・西壁8cmである。床面は水平である。

〈柱穴〉 鍵状遺構の南側に開口部60cm×46cm・深さ29cmの柱穴が検出されている。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 近世以降と考えられる。

RE13

遺構（第29図、写真図版44）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置している。IV層面が検出面である。RE08竪穴状遺構より新しい。

〈形状・規模〉 平面形は不整形、規模は開口部3.95m×3.75mである。

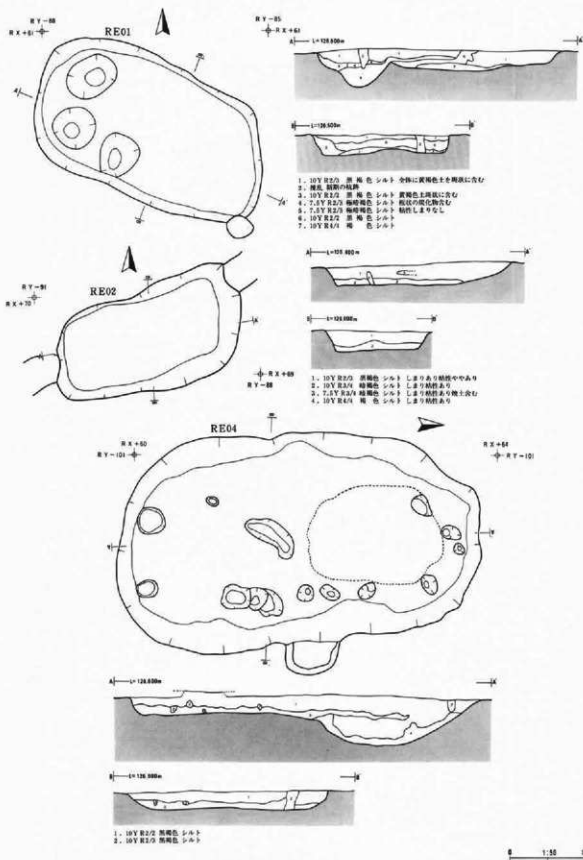
〈埋土〉 上部は黄褐色のシルト質土を含む黒褐色土、下部はしまりのない砂質シルト主体の土である。

〈壁・床〉 壁は皿状に緩やかにや立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北壁24cm・西壁12cm・南壁10cmである。床面は水平である。

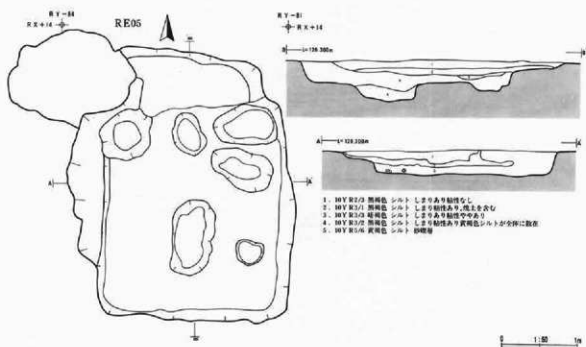
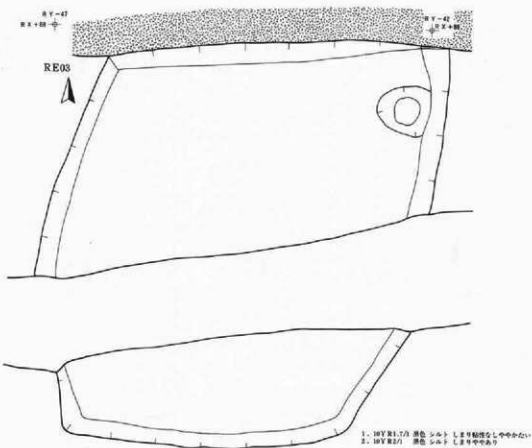
遺物

〈出土状況〉 図化はできなかったが漆塗りの木胎容器の皮膜片が出土している。

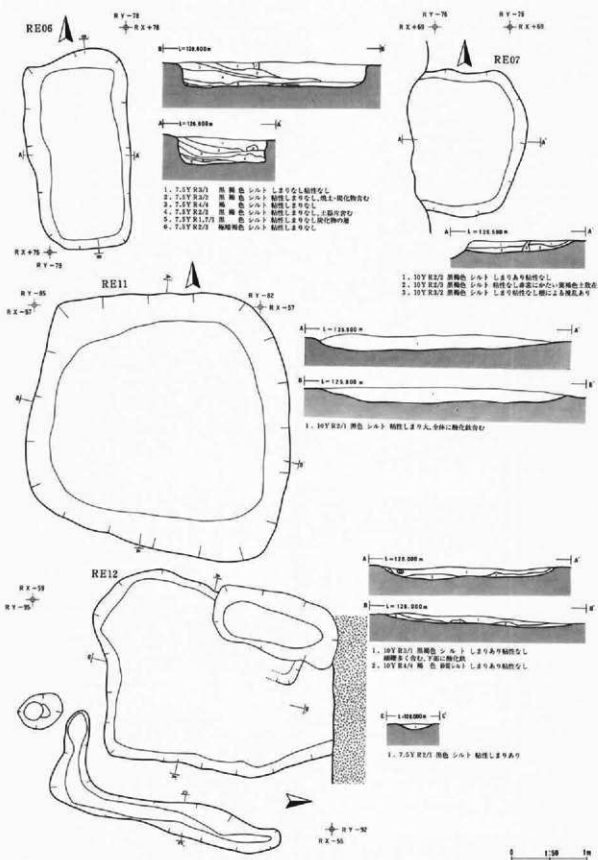
〈所属時期〉 近世以降と考えられる。



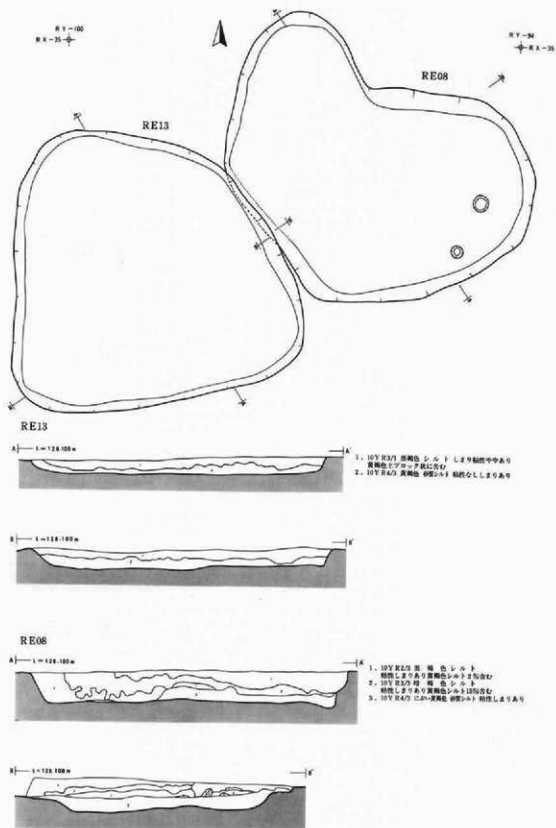
第26図 RE01・RE02・RE04



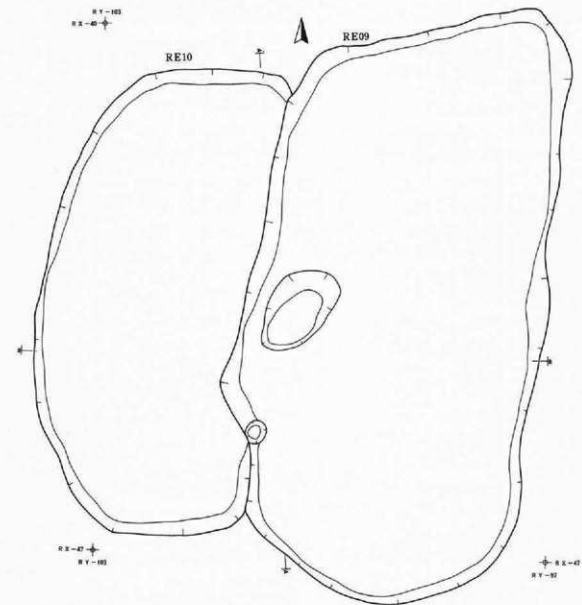
第27図 RE03・RE05



第28図 RE06・RE07・RE11・RE12



第29図 RE08・RE13



1. 10Y R2/0 黒 褐色シルト 粘質中やありしよりあり
2. 10Y R4/0 濃い黄褐色 砂質シルト 粘質中やありしよりあり
黄褐色シルト 硬化状態を呈し、小礫を含む
3. 10Y RAN 黒 褐色シルト 粘質しよりあり

0 1:50 30

第30図 RE09・RE10

5. 炉・焼土遺構

焼土を埋土に多く含む遺構は全部で10基検出した。RF08を除く9基はA調査区24Wグリッドの東半に集中して位置している。

RF01 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった黒色土の広がりとして検出した。

〈形状・規模〉平面形は南北に細長い長円形、規模は170cm×60cmである。北半の膨らみを持つ部分はリング状に焼土が密に集積している。

〈埋土〉Ⅲ層の黒色土を底面とし、その上に厚さ10cmで現地性焼土が形成され、その上部に焼土粒を多く含む黒色土がのっている。

〈断面〉壁は内湾しながら外傾気味に立ち上がり底面は浅皿状である。

遺物

〈出土状況〉焼土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RF02 焼土遺構

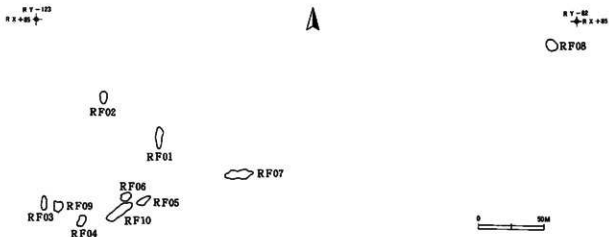
遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった黒色土の広がりとして検出した。南端は若干試掘坑により破壊を受けている。プランに沿った北半の部分には特に焼土の集積が顕著である。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は南北方向にやや長い不整形、規模は94cm×48cm・最深部14cmである。

〈埋土〉Ⅲ層の黒色土を底面とし、その上に播り鉢状に焼土が形成されている。中央部分には炭化物を含む黒色土が載っている。

〈壁・底面〉南側の壁は直線的に立ち上がり、底面はこの部分から北側にむかって緩やかに傾斜しながら立ち上がって行く。



第31図 焼土遺構分布図(RF)

遺物

〈出土状況〉 埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RF03 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。プランに沿って幅5cm部分が特に焼土の集積が顕著であった。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長い長円形、規模は114cm40cm・深さ6～10cmである。

〈埋土〉 Ⅲ層の黒色土を底面とし、その上に多量の炭化物・焼土混じりの黒褐色土が形成されている。

〈壁・底面〉 南北の両端は浅皿状に緩やかに立ち上がり中央部分で特に深くなっている。

遺物

〈出土状況〉 埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RF04 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北東-南西方向に長軸を持つ不整形、規模は94cm×60cm・深さ14cmである。

〈埋土〉 Ⅲ層の黒色土を底面としその上に多量の炭化物・焼土混じりの黒褐色土が形成されている。

〈壁・底面〉 南北の両端は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RF05 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北東-南西方向に長軸を持つ長円形、規模は122cm×60cm・深さ10cmである。

〈埋土〉 Ⅲ層の黒色土を底面としその上に多量の炭化物・焼土混じりの黒褐色土が形成され、中央部分には黒褐色土が載っている。

〈壁・底面〉 南北の両端は外傾気味に立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所屬時期〉不明である。

RF06 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版46）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は不整形、規模は80cm×76cm・深さ40cmである。

〈埋土〉Ⅲ層の黒色土を底面としその上に焼土層が形成され、さらに凹状に黒褐色土堆積し窪み部分に焼土を含む暗褐色土が載る。

〈壁・底面〉南北の両端は外傾気味に立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所屬時期〉不明である。

RF07 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版46）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。東端に礫が1個見られたが特に熱を受けた痕跡は認められなかった。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形はほぼ東西に細長い長円形、規模は216cm×78cm・深さ28cmである。

〈埋土〉Ⅲ層の黒色土を底面とし間に炭化物を含む褐色の粘土質シルトを挟み上下に焼土層が形成されている。

〈壁・底面〉東西の両端は外傾気味に緩やかに立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所屬時期〉不明である。

RF08 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版46・47）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドの西半に位置する。Ⅳ層面の褐色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。南東側の開口部付近の壁にはプランに沿うように他から持ち込んだ黄褐色の粘土質シルトを貼りつけている。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は北西-南東方向にやや膨らみを持つ、略円形、規模は102cm×96cm・深さ56cmである。

〈埋土〉Ⅳ層の褐色土面を底面としている。最下層には粘性のある粘土質シルトが堆積し、上部には投棄されたと思われる焼土や炭化物を多く含む黒褐色～暗褐色の土が見られる。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉壁は垂直気味に直線的に立ち上がり底面は水平である。

遺物（第61図、写真図版72）

〈出土状況〉特に埋土内の3層から投棄されたとと思われる焼土とともに土器片が出土している。219・220は底部回転糸切り無調整、酸化炭焼成非内黒の坏B類である。218・221・222は甕である。222の底部は砂底である。

〈所属時期〉平安時代である。

RF09 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版47）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東半に位置する。Ⅲ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。開口部の壁際にはプランに沿うように特にかたい焼土の分布が見られた。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は不整形、規模は96cm×74cm・深さ16cmである。

〈埋土〉Ⅲ層の黒色土層を底面としている。焼土がレンズ状に堆積し中央部分には焼土を少量含む黒褐色土が載っている。

〈壁・底面〉壁は垂直気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RF10 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版47）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東半に位置する。Ⅲ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。北西端の膨らみの部分には、眼鏡状の焼土の集積が見られる。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は北東-南西方向に細長い長円形、規模は228cm×72cm・深さ16cmである。

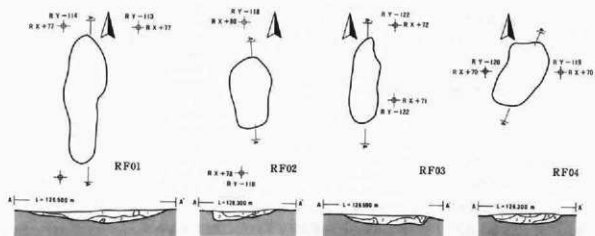
〈埋土〉Ⅲ層の黒色土層を底面としている。黒褐色土を挟み上下に焼土が分布している。

〈壁・底面〉壁は垂直気味に直線的に立ち上がり底面は水平である。

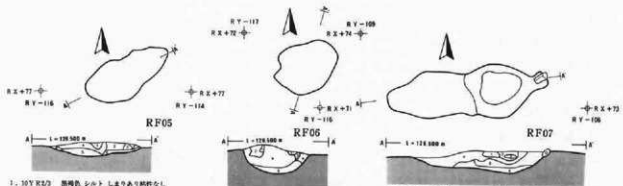
遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

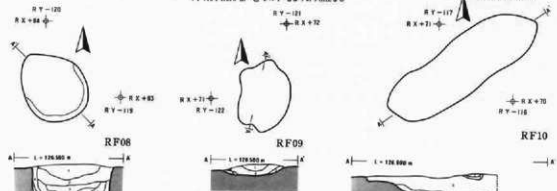
〈所属時期〉不明である。



- | | | | |
|--|---|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10V R1.7/3 黒色 シルト しまり粘状中のみ 2. 7.5V R4/4 褐色 シルト 焼土層 3. 10V R1.7/3 黒色 シルト 粘土層 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 10V R2/1 黒色 シルト 粘状中のみ 2. 7.5V R2/1 褐色 シルト 焼土層 3. 10V R1.7/3 黒色 シルト 粘土層 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 7.5V R1/1 明褐色 焼土層 しまり粘状心 2. 10V R2/1 黒色 シルト 灰化層 3. 10V R1.7/3 黒色 シルト 粘状中のみ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 10V R1.7/3 黒色 シルト 粘状中のみ |
|--|---|---|--|



- | | | |
|---|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10V R2/1 黒褐色 シルト しまり粘状心 2. 10V R2/1 黒褐色 シルト しまり粘状心 3. 10V R2/1 黒色 シルト 粘状心 4. 10V R2/1 黒褐色 シルト しまり粘状心 5. 10V R2/6 明褐色 シルト しまり粘状心 6. 10V R1.7/1 黒色 シルト しまり粘状中のみ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 7.5V R2/6 明褐色 シルト しまり粘状心 2. 7.5V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状心 3. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状中のみ 4. 10V R2/1 明褐色 シルト 粘状中のみ 5. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状心 6. 7.5V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状心 7. 7.5V R2/6 黒色 シルト しまり粘状心 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 10V R2/1 黒褐色 シルト しまり粘状中のみ 2. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状心 3. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状中のみ 4. 10V R2/1 明褐色 シルト 焼土層 5. 7.5V R1/6 明褐色 焼土層 しまり粘状心 6. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状中のみ |
|---|--|--|



- | | | |
|---|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状中のみ 2. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状中のみ 3. 7.5V R1/6 明褐色 シルト 焼土層 4. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状心 5. 10V R2/1 明褐色 シルト 焼土層 6. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状中のみ 7. 10V R2/1 明褐色 シルト 焼土層 8. 10V R2/1 明褐色 シルト 焼土層 9. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状心 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 10V R2/1 明褐色 シルト 粘状中のみ 2. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状心 3. 7.5V R1/6 明褐色 シルト 焼土層 4. 10V R2/1 明褐色 シルト 焼土層 5. 10V R2/1 明褐色 シルト しまり粘状心 6. 10V R2/1 明褐色 シルト 粘状中のみ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 10V R2/1 明褐色 シルト 焼土層 2. 7.5V R1/1 明褐色 シルト 灰化層 3. 10V R2/1 明褐色 シルト 粘状中のみ 4. 7.5V R1/1 明褐色 シルト |
|---|---|--|

第32図 焼土遺構RF01~10

6. 溝跡

計26条の溝が検出された。

RG01 溝跡

遺構 (第33図、写真図版48)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24Xグリッドの南東側に位置している。I層の耕作土除去後第IV層面で検出した。耕作の溝等で一部破壊を受けている。走行は北西-南東方向で全長27.3mにわたり検出され、南東方向については調査区外に延びており、北西方向の延長については追跡できなかった。途中で緩やかなカーブを描いている。

〈規模〉 上端幅は50cm±・下端幅30cm±・深さ5~30cmで、横断面形はU字状である。両端のレベル差は5cm程度で、南西端がやや低くなっているが全体に底面は水平である。

〈埋土〉 耕作土に類似した黒褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 区画を目的とした溝で、近現代と思われる。

RG02 溝跡

遺構 (第34図、写真図版49-50)

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24Y・24Xグリッド、B調査区25Xグリッドの広範囲にわたって検出された。調査当初は別々の独立した溝と考えていたが、精査の進行でコーナー部分が見つかったことから一連の溝であることが判明した。RE03・RE07竪穴状遺構・RG06溝跡・RD025・RD067土坑より新しく、RG08・RD005より古い。全体に方形状の溝であり、今回の調査では北辺・西辺・南辺の一部・北西コーナー・南西コーナーを調査しただけである。南辺は航空写真などから現在の用水路と一致していることが判読された。東西辺・南北辺の走行はグリッド線と一致している。東西に走る北辺は約50mにわたり検出され、東端は土取り穴等で破壊を受けている。また南西コーナーから続く南辺の東端も攪乱で破壊を受けている。

〈規模〉 上端幅は150cm±・下端幅50cm±・深さ45cm±で横断面形は逆台形状である。高低差はほとんどなく底面は水平である。

〈埋土〉 黒-黒褐色のシルト質土で自然堆積である。底面付近の両壁付近には壁の崩落土と思われるIV層起源の土の堆積が見られる。

遺物 (第61図、写真図版72-73)

〈出土状況〉 平安時代の土器が出土しているが、出土の場所が北辺の東端・西辺の住居跡分布付近であり、これらの遺物は近隣にある平安時代の遺構に関連する遺物の流れ込みと考えられる。固化したものはRE03の重複部分および東側から出土しており、RE03竪穴状遺構に帰属する可能性が高い。223・224は酸化炎焼成内黒の坏A類、225は還元炎焼成坏C類である。226はロクロ成形の小形の甕である。227は磁石で全ての面に使用痕が見られる。

〈所属時期〉 区画を目的とした溝である。具体的な時期については特定できないが、「寛永通宝」が出土した土坑や近世の乗付を含む攪乱土坑、現代の物を含む攪乱土坑よりは古く位置づけられる。

RG03 溝跡

遺構（第33図、写真図版51）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24X・24Yグリッドに位置している。I層の耕作土除去後第IV層面で検出された。全体に削平を受けており、溝の底面付近が残存した状況である。走行は東西方向で、全長33.2mにわたり検出され、RG02の北辺と並行している。RG04・RG06溝跡・RD011・RD013・RD018土坑より古い。

〈規模〉 上端幅は60～90cm±・下端幅25～56cm±・深さ15cm±で横断面形は浅皿状である。レベル差はほとんどなく、全体に底面は水平である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

遺物（第61図、写真図版73）

〈出土状況〉 埋土から平安時代の土器が出土している。228は回転糸切り無調整で酸化炎焼成内黒の坏A類である。229は内外面に叩きのある還元炎焼成の甕である。他に図化できなかったが酸化炎焼成非内黒の坏B類が出土している。

〈所属時期〉 平安時代の土器を出土していることや、RG06溝跡より古いことなどから平安時代の溝と考えられる。

RG04 溝跡

遺構（第33図、写真図版51）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24Xグリッドに位置している。I層の耕作土除去後第IV層面で検出された。全体に削平を受けている。走行は東西方向で、全長22.3mにわたり検出された。RG03溝跡より新しく、RD021土坑・RG02溝跡より古い。

〈規模〉 上端幅は70～105cm±・下端幅40～60cm±・深さ12cm±で横断面形は浅皿状である。レベル差はほとんどなく、全体に底面は水平である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉 埋土中より出土している。図化できたものはなかったが酸化炎焼成非内黒、還元炎焼成非内黒底部回転糸切り無調整の坏B類が出土している。340は陶器である。

〈所属時期〉 不明である。

RG05 溝跡

当初、単独の溝として調査を行っていたがその後RG02溝と一連のものであることが判明し、この遺構名については削除する。

RG06 溝跡

遺構（第35図、写真図版52）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24Xグリッドに位置している。I層の耕作土除去後Ⅲ層・Ⅳ層面で検出された。全体に削平を受けている。走行は南西～北東方向で、全長約42mにわたり検出された。RD062・RD074土坑より新しく、RG02溝跡・RE06・RE02堅穴状遺構より古い。

〈規模〉 上端幅は45cm±・下端幅35cm±・深さ5～10cm±で、横断面形は逆台形状である。レベル差はほとんどなく、全体に底面は水平である。

〈埋土〉 黄褐色の砂質シルトを斑状に含む黒褐色のシルト質土が主体である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 重複関係から平安時代以前と考えられる。

RG07 溝跡

遺構（第33図、写真図版53）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区の25X・1Xグリッドに位置している。I層の耕作土除去後IV層面で検出された。全体に削平を受けている。走行は北西-南東方向で、全長約16.2mにわたり検出された。

〈規模〉 上端幅は50cm±・下端幅20cm±・深さ15cm±で、横断面形は逆台形状である。レベル差はほとんどなく、全体に底面は水平である。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG08 溝跡

遺構（第33図、写真図版53）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24Xグリッドに位置している。I層の耕作土除去後IV層面で検出された。全体に削平を受けている。走行はほぼ東西方向で、全長約17.4mにわたり検出された。RG02溝跡より新しい。

〈規模〉 上端幅は35cm±・下端幅15cm±・深さ5-10cm±で、横断面形は浅皿状である。レベル差はほとんどなく、底面は全体に水平である。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG09 溝跡

遺構（第36図、写真図版54）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区の1X・2Wグリッドに位置している。I層の耕作土除去後IV層面で検出された。全体に削平を受けている。走行はほぼ北東-南西方向で、全長約47.4mにわたり検出された。

RG10溝跡より新しい。両端は調査区外に延長しており、鈴木氏宅の敷地内を含めると図面上では95.3mの長さとなる。〈規模〉 上端幅は40cm±・下端幅15-20cm±・深さ40cm±で横断面形はU字状で壁は垂直気味に立ち上がっている。両端部のレベル差は約15cmほどで南西側に向かって低くなっている。

〈埋土〉 黒-黒褐色のシルト質土が主体で部分的に底面に薄く砂の堆積が認められる。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG10 溝跡

遺構（第36図、写真図版55・56）

〈検出状況・重複関係〉C調査区の1X・2Wグリッドに位置している。I層の耕作土除去後Ⅱ・Ⅳ層面で検出された。走行はほぼ北東-南西方向で、途中で南西方向に緩やかにカーブし、全長約45mにわたり検出された。RG09溝跡・RE10・RE09堅穴状遺構より古い。両端は調査区外に延長している。

〈規模〉上端幅は70-150cm±・下端幅45cm±・深さ30cm±で、横断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾気味に立ち上がっている。両端部のレベル差は約10cmほどで、南西側に向かって低くなっている。

〈埋土〉黒-黒褐色のシルト質土が主体で、部分的に底面に薄く砂の堆積が認められる。また埋土上部にレンズ状に灰白色火山灰が認められる。

遺物（第62・67図、写真図版73・75）

〈出土状況〉火山灰の上位から平安時代の土器が出土している。230-235は酸化炎焼成内黒の坏B類である。底部が観察できたものは全て回転糸切り無調整である。図化でなかったが酸化炎焼成内黒の坏A類も出土しているが、圧倒的に坏B類が卓越している。流れ込みと思われるが肥前産の染付が1点（341）出土している。

〈所属時期〉平安時代と思われる。埋土に壁の崩落土が認められないことや砂の堆積が見られること、埋土の最下部の土が一部グライ化していることなどから水流を目的とした溝と考えられる。

RG11 溝跡

遺構（第35図、写真図版54）

〈検出状況・重複関係〉F調査区の1Uグリッドに位置している。I層の耕作土除去後Ⅱ層面で検出された。走行はほぼ北西-南東方向で、全長約3.3mにわたり検出された。

〈規模〉上端幅は90-125cm±・下端幅60-90cm±・深さ15cm±で、横断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。両端部のレベル差はほとんどなく、底面は水平である。

〈埋土〉黒褐色-暗褐色のシルト質土が主体で黄褐色の砂質シルトが含まれる。

遺物（第62図、写真図版73）

〈出土状況〉埋土中から出土している。236は酸化炎焼成内黒の坏B類である。底部については摩滅が著しく回転糸切りの痕跡が僅かに認められる程度で、再調整の有無については判定できなかった。他に酸化炎焼成内黒で底部回転糸切り無調整の坏A類や回転糸切り無調整で酸化炎焼成内黒の坏Aの破片も認められた。

〈所属時期〉不明である。

RG12 溝跡

遺構（第35図、写真図版57）

〈検出状況・重複関係〉G調査区の1Vグリッドに位置している。Ⅱ層の耕作土除去後Ⅲ層面で検出された。走行はほぼ南北方向で全長約25.1mにわたり検出された。RG14より古い。

〈規模〉上端幅は105-115cm±・下端幅20-15cm±・深さ15-25cm±で、横断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。両端部のレベル差は5cm程度で南側がやや低くなっている。

〈埋土〉Ⅱ層起源の褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG13 溝跡

遺構（第35図、写真図版57）

〈検出状況・重複関係〉 G調査区の1Vグリッドに位置している。II層の耕作土除去後III層面で検出された。走行はほぼ東西方向で、全長約9.6mにわたり検出された。

〈規模〉 上端幅は25～36cm・下端幅24～30cm±・深さ10cm±で、横断面形はU字状を呈し、壁は外傾気味に立ち上がっている。両端部のレベル差は16cm程度で、自然地形に沿って東側がやや低くなっている。

〈埋土〉 II層起源の暗褐色～褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG14 溝跡

遺構（第35図、写真図版58）

〈検出状況・重複関係〉 G調査区の2Vグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行はほぼ南西～北東方向で、全長約5.7mにわたり検出された。

〈規模〉 上端幅は150～180cm・下端幅105～146cm±・深さ5cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差は06cm程度で南西端がやや低くなっている。

〈埋土〉 II層起源の暗褐色～褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG15 溝跡

遺構（第38図、写真図版58）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は南北～東西方向の鍵状で、全長約15.1mにわたり検出された。RG16溝跡より古い。

〈規模〉 上端幅は50～75cm・下端幅20～45cm±・深さ5～23cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はほとんどなく水平である。

〈埋土〉 II層起源の暗褐色～褐色の砂質シルトである。

遺物（第62図、写真図版73）

〈出土状況〉 237は回転系切り無調整で酸化炭焼成非内黒の坏B類である。

〈所属時期〉 不明である。

RG16 溝跡

遺構（第38図、写真図版59）

〈検出状況・重複関係〉H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行はほぼ北西-南東方向で、全長約9.5mにわたり検出された。

〈規模〉上端幅は58~80cm・下端幅38~48cm±・深さ17~27cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベルは差10数cmで南側がやや低くなっている。

〈埋土〉II層起源の暗褐色~褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉因化はできなかつたが酸化炎焼成非内黒の坏B類が出土している。

〈所属時期〉不明である。

RG17 溝跡

遺構（第38図、写真図版59）

〈検出状況・重複関係〉H調査区に位置している。RG16溝跡の下位から検出された。走行はほぼ北西-南西方向で全長約9.5mにわたり検出された。

〈規模〉上端幅は58~80cm・下端幅38~48cm±・深さ17~27cm±で横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差は10数cmで南側がやや低くなっている。

〈埋土〉II層起源の暗褐色~褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG18 溝跡

遺構（第37図、写真図版59）

〈検出状況・重複関係〉H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北東-南西方向で、全長約15.7mにわたり検出され、ほぼ直線的である。一部試掘坑により破壊されている。RG16溝跡より新しい。

〈規模〉上端幅は84~100cm・下端幅36~54cm±・深さ23~32cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。。

〈埋土〉II層起源の黒褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG19 溝跡

遺構（第37図、写真図版59）

〈検出状況・重複関係〉H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北東-南西方向で、全長約11.0mにわたり検出され、緩やかに蛇行している。一部攪乱坑により破壊されている。

RG16溝跡より新しい。

〈規模〉 上端幅は45～35cm・下端幅18～32cm±・深さ5cm±で横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉 II層起源の黒褐色の砂質シルトが主体で黒色土を斑状に含む。

遺物

〈出土状況〉 固化できなかったが酸化炎焼成非内黒の坏B類が出土している。

〈所属時期〉 不明である。

RG20 溝跡

遺構（第37図、写真図版60）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北東—南西方向で、全長約20.7mにわたり検出され、ほぼ直線的である。一部試掘坑により破壊されている。

RG16溝跡より新しい。

〈規模〉 上端幅は40～48cm・下端幅22～36cm±・深さ20cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉 II層起源の黒褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG21 欠番扱いとする。

RG22 溝跡

遺構（第38図、写真図版60）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区に2Wグリッドに位置している。I層の耕作土除去後IV層面で検出された。走行は北東—南西方向で、全長約11.4mにわたり検出された。底面は礫層面である。

〈規模〉 上端幅は88～175cm・下端幅158～56cm±・深さ15cm±で横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉 II層起源の褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG23 溝跡

遺構（第38図、写真図版61）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2Tグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北西—南東方向で、全長約6.3mにわたり検出された。溝の一部と考えられ溝として精査を行った。

〈規模〉 上端幅は50cm・下端幅30cm±・深さ20cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそ

れほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉Ⅱ層起源の黒褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG24 溝跡

遺構（第38図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。I層の耕作土除去後Ⅱ層中で検出された。走行は北西-南東方向で、全長約3.3mにわたり検出された。溝の一部と考えられ溝として精査を行った。

〈規模〉上端幅は74-95cm・下端幅38-68cm±・深さ10cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉Ⅱ層起源の黒褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG25 溝跡

遺構（第38図、写真図版62）

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。I層の耕作土除去後Ⅱ層中で検出された。走行は北西-南東方向で、全長約3.4mにわたり検出された。溝の一部と考えられ溝として精査を行った。

〈規模〉上端幅は62-92cm・深さ5-10cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉Ⅱ層起源の黒褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG26 欠番扱いである。

RG27 溝跡

遺構（第37図、写真図版63）

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。I層の耕作土除去後Ⅱ層中で検出された。走行は東西方向で、全長約27.3mにわたり検出された。RG28より新しい。

〈規模〉上端幅は210-250cm・下端幅40-60・深さ100-12cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。壁は直線的に外傾しており、断面形は稜柱状である。

〈埋土〉底面にやや薄く砂の層がみられる。埋土は両壁の遺構掘り込みの層が逆転した状態で堆積している。埋土下部にはⅡ層起源の砂質シルト、黄褐色土上部にはⅢ層起源の黒色土が堆積しており、これらの上部に

灰白色火山灰が認められる。

遺物 (第62-64図、写真図版73-74)

〈出土状況〉主に火山灰の上部から平安時代の土器が出土している。流れ込みの可能性も十分に考えられるが遺物の特徴に類似性が高く一括廃棄も考えられる。239-242は静止糸切り無調整で酸化炎焼成内黒の坏A類である。4点とも底部は上げ底気味で体部下端に再調整の痕が見られる。243-263は酸化炎焼成非内黒の坏B類である。底部は261の静止糸切り無調整のもの以外は回転糸切り無調整である。これらの多くは器高が低く外傾角度も小さく、またロクロ成形による凹凸が顕著である共通性が見られる。265-267は「ハ」字状の高台が付いた酸化炎焼成非内黒の高台付坏である。263は非ロクロ成形の小形の甕で器壁は非常に薄く粘土の輪積み痕が明瞭である。図化はできなかつたが他に回転糸切り無調整で酸化炎焼成内黒の坏A類、酸化炎焼成非内黒坏B類、還元炎焼成の甕が出土している。坏類では量的には圧倒的にB類が卓越している。
〈所属時期〉平安時代と考えられる。

RG28 溝跡

遺構 (第37図、写真図版62)

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北西-南西方向で、大きくカーブを描き全長約10.2mにわたり検出された。RG27溝跡より古い。
〈規模〉上端幅は230-235cm・下端幅100-150・深さ15-35cm土で横断面形は浅皿状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。
〈埋土〉黒褐色-暗褐色のシルト質土である。
遺物 (第64-67図、写真図版74・76)
〈出土状況〉埋土中より出土している。269・270とも回転糸切り無調整で酸化炎焼成非内黒の坏B類である。図化できなかつたが回転糸切り無調整で酸化炎焼成内黒の坏A類も少数出土している。342は陶器甕の底部である。流れ込みと思われる。
〈所属時期〉平安時代と思われる。

RG29 溝跡

遺構 (第38図、写真図版29)

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北西-南西方向で、全長約4.5mにわたり検出した。RX01遺構より古い。
〈規模〉上端幅は30cm・深さ5-20cm土で横断面形はU字状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。
〈埋土〉黒褐色-暗褐色のシルト質土である。
遺物
〈出土状況〉出土していない。
〈所属時期〉不明である。

7. 集配石遺構

RH01 集石遺構

遺構（第39図、写真図版47）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区1 Xグリッドの北西端に位置する。IV層が検出面である。精査当初の段階では特に意識的に石を組み合わせた様子は見られなかったが、この周辺にこのような石が認められず明らかに人為的にこれらの石が持ち込まれており、断面観察では柱穴状の明瞭な掘り方が認められたことなどから遺構として扱った。

〈形状・開口部規模・深さ〉 直径24cm・深さ30cmのあまりの柱穴状の小ピットの上部に拳大～15cm前後の重円礫が集中して見られた。この小ピットの上部の側壁には意識的に縦長の石が埋置されている。これらの礫には熱を受けたような痕跡は認められなかった。

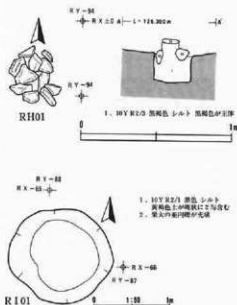
〈埋土〉 黒褐色のシルト質土がマトリックスで特に下部には黄褐色のシルト質土が含まれる。

〈壁・底面〉 小ピットの壁は直線的に立ち上がり底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。



第39図 RH01・R101

8. 井戸跡

RI01 井戸跡

遺構（第39図、写真図版47）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、140cm×126・深さ200cm以上の規模である。

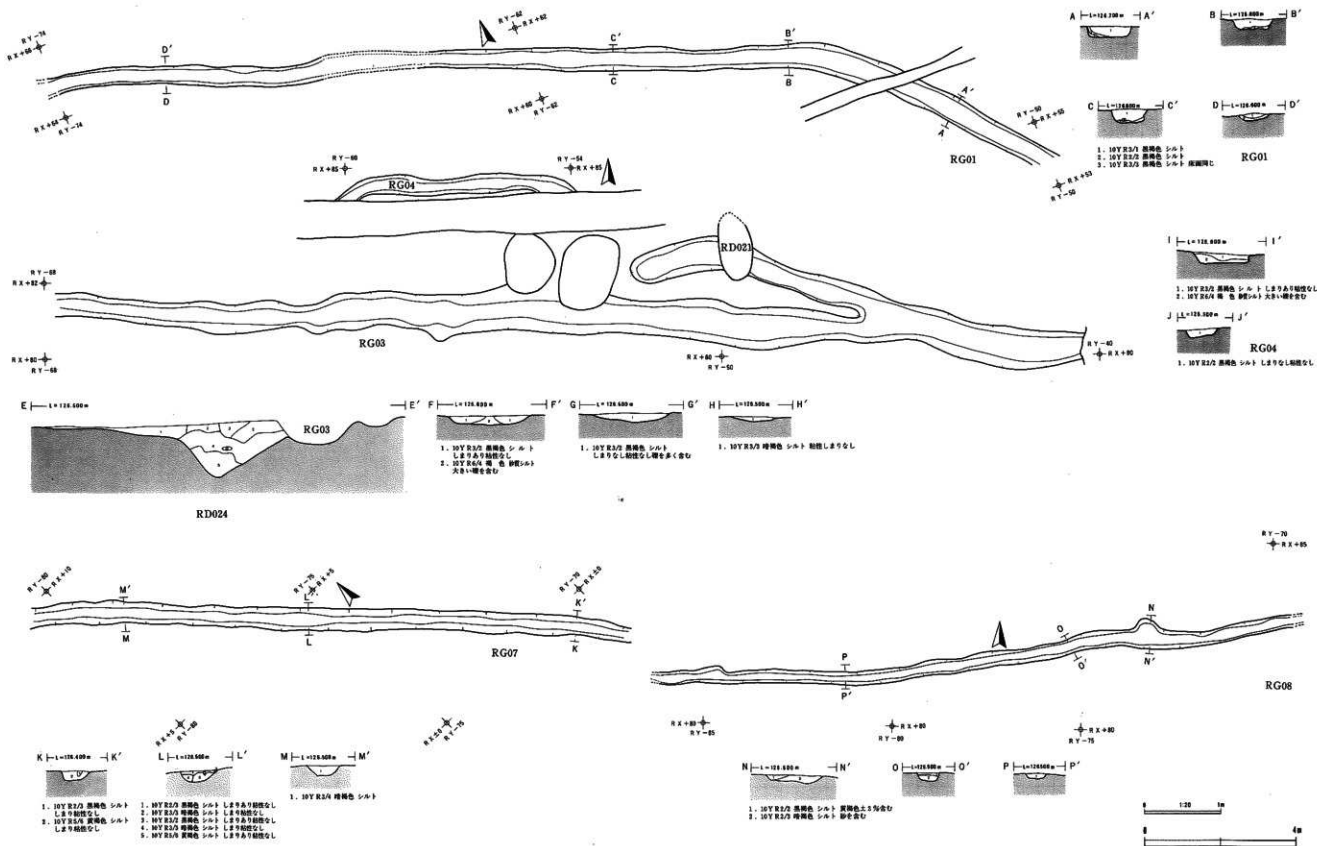
〈埋土〉 埋土上部約30cmほどは黄褐色土が斑状に入る黒色のシルト質土である。それより下位は周囲の礫の崩落と思われる栗石大の重円礫で充填されている。地下水の浸透と壁である礫層の崩落が生じたため開口部より約2m掘り下げた段階で調査を断念した。

〈壁・底面〉 壁は直立気味に立ち上がっている。

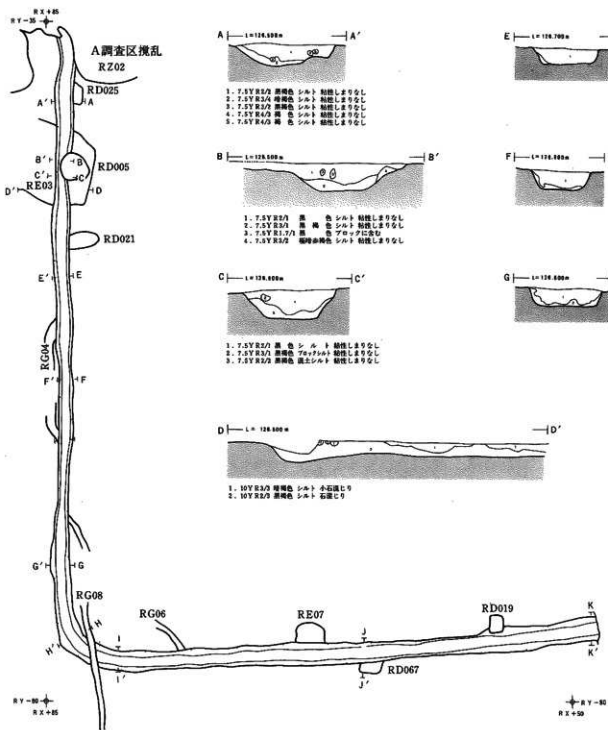
遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。



第33図 RG01・03・04・07・08



1. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
2. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
3. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
4. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
5. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし



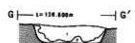
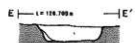
1. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
2. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
3. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
4. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし



1. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
2. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
3. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし



1. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
2. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし



1. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
2. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
3. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
4. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
5. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
6. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし



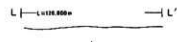
1. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
2. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
3. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし



1. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
2. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
3. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
4. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
5. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
6. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし

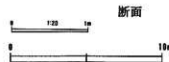
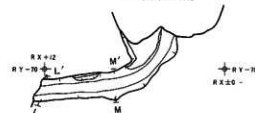


1. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
2. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
3. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
4. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
5. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
6. 7.5V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし

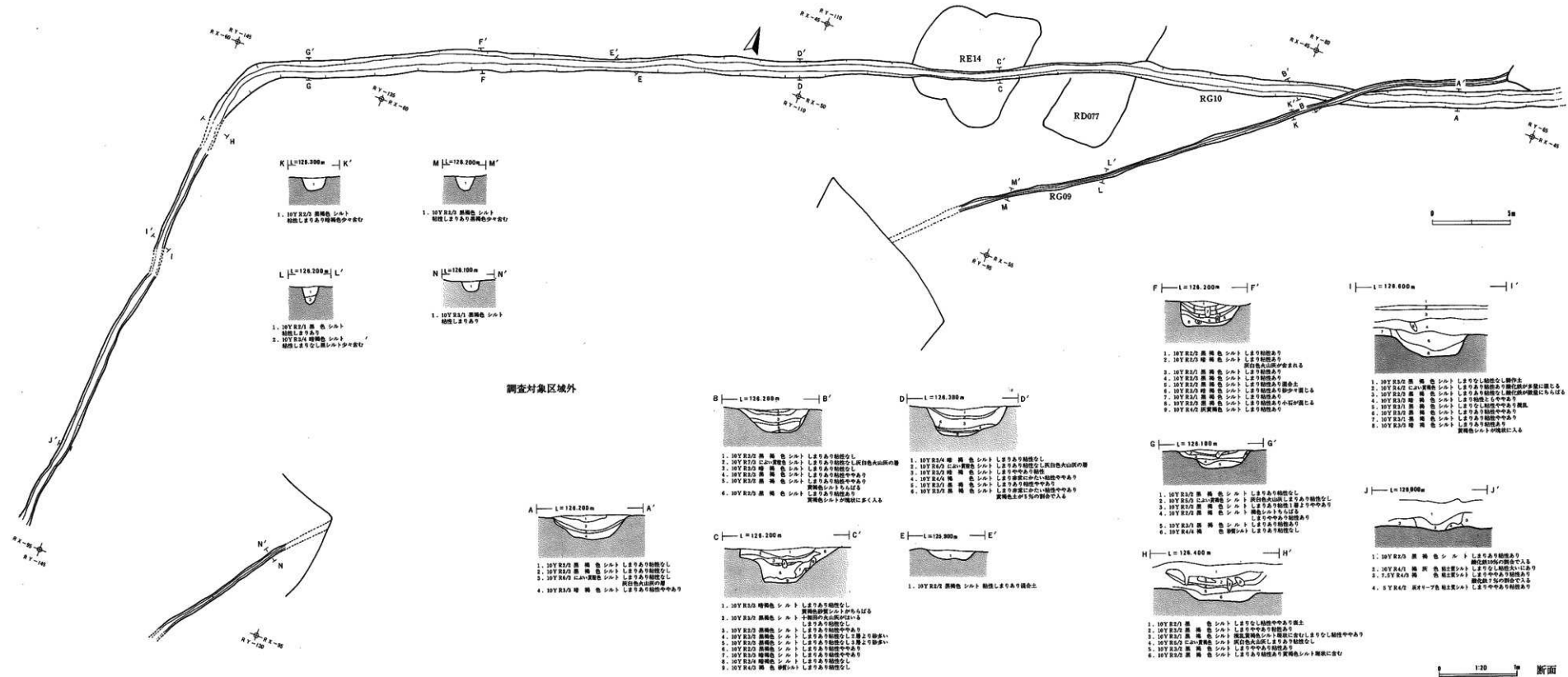


1. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
2. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
3. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
4. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
5. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし
6. 10V 22/2 黒色シルト 剥離しよりなし

B調査区攪乱

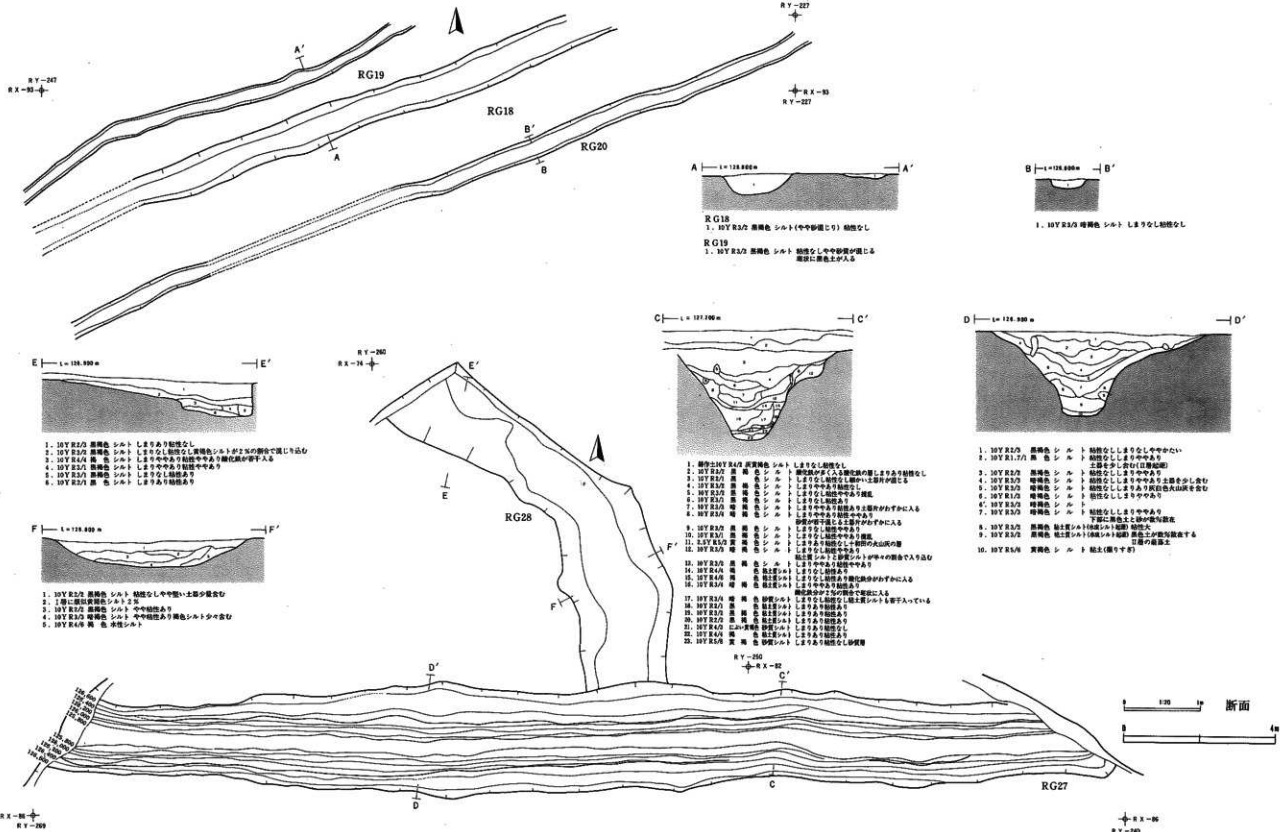


第34図 RG02



調査対象区域外

第36図 RG09・RG10



第37図 RG18・19・20・27・28

9. 柱穴群 (付図)

平面図は全体配置図に、柱穴の計測値は別表に示した。

柱穴観察表

柱穴No	グリッド	縦横 (cm)	深さ	色調・土性		備 考
PP001	A調査区	38×30	41	10YR2/1	黒色 シルト	粘性・しまりなし 層化或ロクロ成部あり
PP002	A調査区	42×30	43	10YR2/1	黒色 シルト	粘性・しまりなし (古い土)
PP026	A調査区	44×40	21			
PP037	A調査区	44×44	33	10YR2/3	黒褐色 シルト	柱痕跡φ15cm、掘り方部分に黄褐色土50%含む
PP038	A調査区	46×30	24	10YR2/3	黒褐色 シルト	粒状の黄褐色土、1%含む
PP039	A調査区	44×36	38	10YR2/3	黒褐色 シルト	非常にかたい、黄褐色土2%含む
PP040	A調査区	32×30	21	10YR2/3	黒褐色 シルト	掘土下部に黄褐色土5%含む
PP043	A調査区	38×36	14	10YR2/3	黒褐色 シルト	下部に黄褐色土2%、上部にφ2cmの炭化物含む
PP044	A調査区	44×38	31	10YR2/3	黒褐色 シルト	黄褐色土50%凝状に含む
PP045	A調査区	34×26	30			
PP047	A調査区	34×32	23	10YR4/6	褐色 シルト	黄褐色土5%含むRDO48層
PP048	A調査区	24×24	32	10YR2/2	黒褐色 砂質シルト	
PP049	A調査区	28×26	26	10YR2/2	黒褐色 シルト	
PP050	A調査区	30×28	41	10YR2/2	黒褐色 シルト	
PP051	A調査区	26×26	31	10YR2/2	黒褐色 シルト	
PP052	A調査区	30×28	17	10YR2/2	黒褐色 砂質シルト	黄褐色土散在
PP053	A調査区	36×36	22	10YR3/2	黒褐色 シルト	黄褐色土5%含む
PP054	A調査区	36×34	32	10YR3/4	暗褐色 シルト	下部に10YR4/4褐色砂質シルトを含む
PP055	A調査区	36×30	15	10YR2/3	黒褐色 シルト	
PP056	A調査区	42×36	35	10YR2/3	黒褐色 シルト	すり鉢状
PP057	A調査区	42×34	21	10YR2/3	黒褐色 シルト	西半に半楕円の痕あり
PP058	A調査区	30×30	21	10YR2/3	黒褐色 シルト	部分的に砂質シルト含む
PP059	A調査区	22×22	14	10YR2/3	黒褐色 シルト	上部に砂質シルト含む
PP060	A調査区	22×20	20	10YR2/3	黒褐色 シルト	塊状の黄褐色土を含む
PP061	A調査区	34×26	30	10YR2/2	黒褐色 シルト	黄褐色土2%含む
PP062	A調査区	42×26	36	10YR5/6	黄褐色 砂質シルト	下部に10YR3/1黒褐色土含む
PP063	A調査区	26×26	22	10YR2/3	黒褐色 シルト	柱痕跡あり
PP064	A調査区	38×38	29	10YR2/3	黒褐色 シルト	上部に帯状に黄褐色土を含む
PP065	A調査区	32×32	13	10YR3/2	黒褐色 シルト	浅い没?
PP066	A調査区	26×26	19	10YR2/3	黒褐色 シルト	しまりあり、塊状の砂質シルト含む
PP067	A調査区	40×36	20	10YR4/4	褐色 シルト	かたい、黄褐色土2%含む
PP068	A調査区	32×26	18	10YR3/4	暗褐色 シルト	しまりありかたい
PP079	A調査区	46×46	21	10YR2/3	黒褐色 シルト	しまりがありかたい、上部に多量の炭化物含む
PP080	A調査区	36×34	48	10YR2/2	黒褐色 シルト	しまりあり、上部に黄褐色土2%含む
PP081	A調査区	40×40	17	10YR2/2	黒褐色 シルト	かたい、黄褐色土2%含む
PP082	A調査区	44×44	53	10YR2/2	黒褐色 シルト	かたい、黄褐色土3%含む、柱痕跡10cm
PP083	A調査区	32×34	47	10YR2/2	黒褐色 シルト	しまりあり、上部に黄土微量含む
PP084	A調査区	52×48	37	10YR3/2	黒褐色 シルト	しまりあり、上部に黄土・黄褐色土微量含む
PP085	A調査区	46×46	33	10YR3/2	黒褐色 シルト	しまりあり、上部に黄土・黄褐色土微量含む
PP086	A調査区	48×46	39	10YR3/2	黒褐色 シルト	しまりあり、上部に5cmほどの黒色土
PP087	A調査区	52×36	43	10YR2/1	黒色 シルト	かたい、上部に黄褐色土含む

柱穴No	ドリッド	縦横 (cm)	深	色調・土性			備 考	
PP088	A調査区	36×36	47	10YR2/2	黒褐色	シルト	上部に黄褐色土2%含む	
PP089	A調査区	56×46	30	10YR3/2	黒褐色	シルト	かたい、黄褐色土を小塊状に2%含む	
PP090	A調査区	40×38	28	10YR3/2	黒褐色	シルト	かたい	
PP091	A調査区	44×44	27	10YR3/2	黒褐色	シルト	かたい	
PP092	A調査区	36×36	55	10YR2/2	黒褐色	シルト	かたい、上部に黄褐色土少量含む	
PP093	A調査区	42×42	28	10YR2/2	黒褐色	シルト	かたい、上部に黄褐色土少量含む	
PP094	A調査区	32×30	46	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりあり	
PP095	A調査区	42×40	46	10YR3/2	黒褐色	シルト	しまりあり、最下部に拳大の礫	
PP096	A調査区	36×36	53	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりあり、焼土層を含む	杯B類
PP097	A調査区	46×44	23	10YR2/2	黒褐色	シルト		
PP098	A調査区	46×44	40	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりあり、黄褐色土少量含む	
PP099	A調査区	52×50	37	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりあり、焼土層を含む	
PP104	A調査区	34×32	27	10YR2/2	黒褐色	シルト	上部二黄褐色土2%含む、RA08付属	
PP105	A調査区	42×40	12	10YR3/2	黒褐色	シルト	かたい、黄褐色土含む	
PP106	A調査区	48×40	18	10YR2/1	黒色	シルト	黄褐色土2%含む	
PP107	A調査区	40×40	18	10YR2/1	黒色	シルト	黄褐色土含む	
PP108	A調査区	44×38	19	10YR2/1	黒色	シルト	黄褐色土5%含む	
PP109	A調査区	40×40	11	10YR3/3	暗褐色	シルト	全体に汚れる	
PP110	A調査区	42×38	20	10YR4/4	褐色	シルト	黒色土との混土	
PP111	A調査区	36×34	13	10YR2/2	黒褐色	シルト	黄褐色土数粒	層化長蛇紋クロコ成り層
PP118	A調査区	26×20	23	10YR2/2	黒褐色	シルト	黄褐色土2%含む(新しい)	
PP122	A調査区	42×34	17	10YR2/3	黒褐色	シルト		
PP123	A調査区	54×46	18	10YR2/3	黒褐色	シルト		
PP124	A調査区	26×26	11	10YR2/2	黒褐色	シルト	底面に酸化鉄集積	
PP125	A調査区	52×26	17	10YR2/2	黒褐色	シルト	楕円形	
PP126	A調査区	50×28	8	10YR2/3	黄褐色	シルト	しまりあり、浅い	
PP127	A調査区	40×32	5	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりあり、浅い	
PP128	A調査区	50×30	20	10YR2/1	黒色	シルト	しまり粘性あり	
PP129	A調査区	38×36	24	10YR2/1	黒色	シルト	黄褐色砂質シルト少量含む	
PP130	A調査区	44 42	10	10YR2/1	黒色	シルト	しまり粘性あり	
PP131	A調査区	34×34	18	10YR3/1	黒褐色	シルト	褐色シルトが混じる	
PP132	A調査区	34×30	13	10YR3/1	黒褐色	シルト	しまりあり、粘性ややあり	
PP133	A調査区	34×30	16	10YR2/1	黒色	シルト	下部は暗褐色シルトが堆積	
PP134	A調査区	44×36	19	10YR2/2	黒褐色	シルト	黄褐色砂質シルト含む	
PP135	A調査区	36×34	16	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりなし	
PP136	A調査区	34×30	9	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりなし、浅い	
PP137	A調査区	30×30	12	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりなし、粘性なし	
PP138	A調査区	42×30	13	10YR2/2	黒褐色	シルト		
PP140	A調査区	44×44	23	10YR2/2	黒褐色	シルト		
PP141	A調査区	44×40	17	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりあり、粘性なし、下部に黄褐色砂質シルト入る	
PP143	A調査区	46×42	11	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまり粘りあり	
PP144	A調査区	42×40	22	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまり粘性あり	
PP145	A調査区	30×28	8	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまり粘性あり、黄褐色シルトが少量混じる	
PP146	A調査区	28×28	14	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまり粘性あり	
PP147	A調査区	20×16	30	10YR3/1	黒褐色	シルト	しまり粘性あり、黄褐色シルト少量混じる	
PP148	A調査区	18×18	19	10YR3/1	黒褐色	シルト	しまり粘性あり	

種名No	グリッド	規模 (cm)	深さ	色調・土性			備 考
PP149	A調査区	22×22	25	10YR3/1	黒褐色	シルト	しまり粘性あり、下部に暗褐色シルト含む
PP152	A調査区	50×40	26	10YR2/1	黒褐色	シルト	しまり粘性あり、下部に暗褐色シルト含む
PP153	A調査区	30×30	18	10YR1.7/1	黒色	シルト	しまり粘性なし
PP154	A調査区	26×22	2	10YR3/4	暗褐色	シルト	しまり粘性なし
PP155	A調査区	42×24	7	10YR1.7/1	黒色	シルト	しまり粘性なし
PP156	A調査区	32×30	13	10YR3/4	暗褐色	シルト	しまり粘性なし
PP157	A調査区	30×28	23	10YR1.7/1	黒色	シルト	しまり粘性なし
PP158	A調査区	34×30	21	10YR2/2	黒褐色	シルト	暗褐色土少量混じる
PP159	A調査区	26×24	19	10YR2/2	黒褐色	シルト	黒褐色土少量混じる
PP160	A調査区	26×24	26	10YR3/1	黒色	シルト	暗褐色土少量混じる
PP161	A調査区	32×28	29	10YR2/2	黒褐色	シルト	暗褐色土少量混じる
PP162	A調査区	54×44	17	10YR3/4	暗褐色	シルト	しまり粘性なし
PP164	A調査区	36×34	28	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまり粘性なし、暗褐色土混じる
PP165	A調査区	26×26	27	10YR3/1	黒褐色	シルト	しまり粘性なし、暗褐色土少量混じる
PP166	A調査区	26×26	27	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまり粘性なし、暗褐色土少量混じる
PP167	A調査区	40×30	17	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまり粘性なし、炭化物・土師器片含む
PP168	A調査区	32×30	17	10YR3/1	黒褐色	シルト	ややかたい
PP169	A調査区	16×14	12	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりあり、かたい、やや砂質
PP170	A調査区	38×36	25	10YR3/1	黒褐色	シルト	ややかたい
PP171	A調査区	30×32	12	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりあり、粘性ややあり
PP172	A調査区	54×52	26	10YR3/3	暗褐色	シルト	
PP003	B調査区	36×34	29	10YR2/3	黒褐色	シルト	黒褐色土主体に黄褐色土10%ブロック状に含む
PP004	B調査区	30×34	23	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややかたい、黒褐色土主体に黄褐色土10%ブロック状に含む
PP005	B調査区	32×28	15	10YR2/2	黒褐色	シルト	非常にかたい、黄褐色土10%含む
PP006	B調査区	42×36	26	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややかたい
PP007	B調査区	34×32	33	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややかたい、黄褐色土斑状に1%含む
PP008	B調査区	28×28	22	10YR2/3	黒褐色	シルト	かたい、黄褐色土ブロック状に含む
PP009	B調査区	36×34	21	10YR2/2	黒褐色	シルト	粘性しまりなし黄褐色土3%含む
PP010	B調査区	26×26	26	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややかたい、黄褐色土3%含む
PP011	B調査区	44×42	32	10YR2/3	黒褐色	シルト	黒褐色土主体に黄褐色土20%含む
PP012	B調査区	30×26	25	10YR2/3	黒褐色	シルト	かたい、酸化鉄散在、新しい
PP013	B調査区	34×28	27	10YR2/3	黒褐色	シルト	新しい
PP014	B調査区	54×48	26	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややかたい、下部に25%の黄色土含む
PP015	B調査区	30×30	29	10YR2/3	黒褐色	シルト	黄褐色土1%ブロック状に含む
PP016	B調査区	32×30	26	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややかたい、少量の焼土と黄褐色土1%ブロック状に含む
PP017	B調査区	48×40	23	10YR2/3	黒褐色	シルト	拳大の黒円礫散在、逆状に黄褐色土1%ブロック状に含む
PP018	B調査区	32×26	39	10YR2/1	黒色	シルト	ややかたい、古い
PP019	B調査区	36×30	26	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややかたい、裏り方に黄褐色土3%散在、柱状部(10gほど含む)
PP020	B調査区	36×36	41	10YR2/3	黒褐色	シルト	かたい、黄褐色土2%散在
PP069	B調査区	50×40	43	10YR2/2	黒褐色	シルト	かたい、黄褐色土2%含む
PP070	B調査区	36×34	15	10YR2/2	黒褐色	シルト	黄褐色土7%含む
PP071	B調査区	26×14	6	10YR2/3	黒褐色	シルト	黄褐色土7%含む
PP074	B調査区	60×30	29	10YR2/2	黒褐色	シルト	かたい、少量の焼土・土師器片を含む、PP073と同一
PP075	B調査区	46×28	9	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりなし、サラサラ
PP076	B調査区	34×32	12	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	
PP077	B調査区	32×32	36	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりなし、黄褐色土含む

柱穴No	グリッド	規模(cm)	深さ	色調・土性			備考	
PP078	B調査区	34×32	15	10YR2/2	黒褐色	シルト	黄褐色土含む	炭化炭ロクロ成形土311
PP021	B調査区	24×32	37	10YR2/2	黒褐色	シルト	粒状の黄褐色土2%散在	
PP022	B調査区	42×40	39	10YR2/3	黒褐色	シルト	かたい、黄褐色土2%散在、柱痕跡有り	
PP023	B調査区	36×36	37	10YR2/3	黒褐色	シルト	埋土下部に黄褐色土2%散在	
PP024	B調査区	34×30	23	10YR2/3	黒褐色	シルト	黄褐色土2%斑状に含む	
PP025	B調査区	36×34	47	10YR2/3	黒褐色	シルト	かたい、埋上下部に黄褐色土2%散在	
PP027	B調査区	36×28	34	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりなし、黄褐色土2%含む	
PP028	B調査区	32×30	26	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりなし、埋土下部に黄褐色土10%斑状含む	
PP029	B調査区	32×30	34	10YR2/3	黒褐色	シルト	黒褐色土主体に黄褐色土を斑状に含む	
PP030	B調査区	34×30	33	10YR2/3	黒褐色	シルト	全体に黄褐色土を2%含む	
PP031	B調査区	40×40	25	10YR2/3	黒褐色	シルト	かたい、隙隙を中心に黄褐色土2%含む	
PP032	B調査区	46×34	25	10YR2/3	黒褐色	シルト	黄褐色土10%散在	
PP033	B調査区	32×28	33	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりなし、黄褐色土10%全体に散在	
PP034	B調査区	26×26	33	10YR2/3	黒褐色	シルト	柱穴と思われる	
PP035	B調査区	40×28	23	10YR2/2	黒褐色	シルト	かたい、耕伴土、酸化鉄散在	
PP036	B調査区	44×26	20	10YR2/2	黒褐色	シルト	かたい、耕伴土、酸化鉄散在	
PP042	B調査区	32×28	24	10YR2/3	黒褐色	シルト	黄褐色土を2%斑状に含む、柱痕跡あり柱跡?	
PP046	B調査区	50×46	18	10YR2/2	黒褐色	シルト	しまりなし、黄褐色土2%含む	

10. その他

RZ01

遺構(第40回、写真図版64)

〈検出状況・重複関係〉B調査区の最西端に位置している。II層の遺構検出の段階で暗褐色の広がりが見られたため精査をおこなった。

〈形状・規模〉調査の制約上水田の畦畔に沿った調査しかできず遺構の平面形については不明であるが、東側に南北に直線的な壁が確認され、何らかの遺構の壁の一部と推定される。南北方向8.1m・東西方向5.0mである。

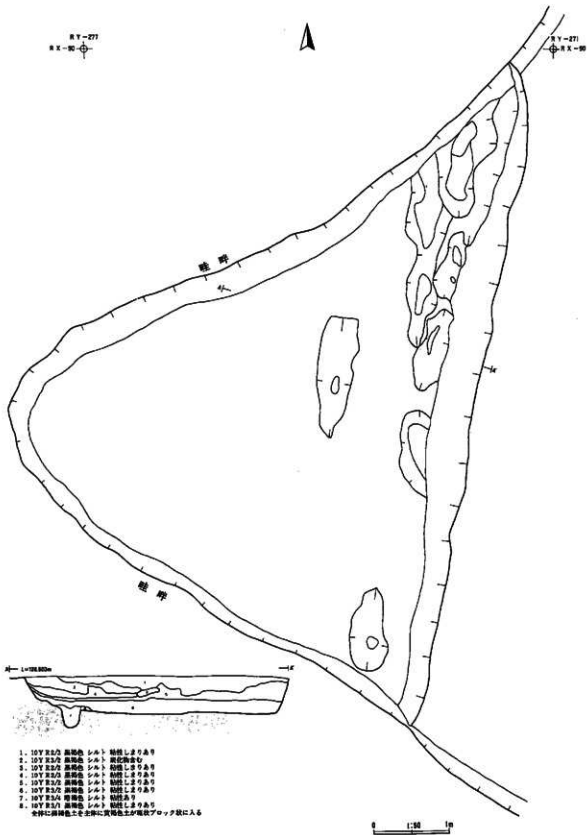
〈埋土〉基本的には4層に分層される。最上部にはII層起源の土を主体にしてIV層地山起源の褐色の砂質土がブロック状に多く入り込んでいる。その下部には上部の層に類似した土が形成されているがブロックの入りかたは少なくなっている。その下部には薄く黄褐色のシルト質土が入る。最下層には暗褐色のシルト質土を主体とし炭化物・褐灰色の粘土質シルトが混入している。全体に人為的に形成された層と考えられ、東方向からの土の流入の様子が認められる。

〈壁・底面〉壁高45cm土で直線的に外傾気味に立ち上がっている。また、東側の壁際に深さ10cmほどの無数の落ち込みが見られる。床面は整えられたように一様に水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉性格については判断しかねるが、埋土の状況や重複関係から平安時代と思われる。



第40図 R Z01

11. 出土遺物

ここでは遺構外から出土した遺物について地区ごと、遺物の種別ごとにその概要について記載する。

A調査区 (第64・67・68 図、写真図版74)

271は酸化炎焼成で内面にヘラミガキ・黒色処理の施された鉢である。底部は砂底である。272は酸化炎焼成非内黒の脚の短い高台付坏である。273は底部の非常に厚い酸化炎焼成非内黒のべた高台の坏である。底部は回転糸切り無調整である。310は丸瓦で外面にはヘラミガキ状の調整痕、内面は布目の痕が見られる。343～363は陶磁器類で、主にA調査区の北東地域から出土している。

B調査区 (第68・71図、写真図版75)

364～404は陶磁器類で半数以上は肥前産とされるものであり、RG02溝の南西コーナーより新しい攪乱部から比較的多く出土している。銭貨では寛永通宝1点(551)と判読不能のもの1点(552)が出土している。

C調査区 (第64・68・71図、写真図版74・75)

274はDⅡ類の酸化炎焼成非内黒の高台付坏である。図化はしていないが他に酸化炎焼成非内黒の坏B類が出土している。405～502は陶磁器類で産地が特定できたもの多くは肥前産とその他に相馬産と思われる陶器類が数点出土している。陶磁器類はこの調査区で最も多く出土しており、これらのものはRB03掘立柱建物跡やその周辺の土坑・堅穴状遺構に関連すると思われる。銭貨では寛永通宝が1点出土している(553)。

E調査区 (写真図版83)

503～518は磁器で肥前産とされるものが主体で、他に瀬戸・美濃系の磁器が出土している。

F調査区 (第64・65・66 図、写真図版74)

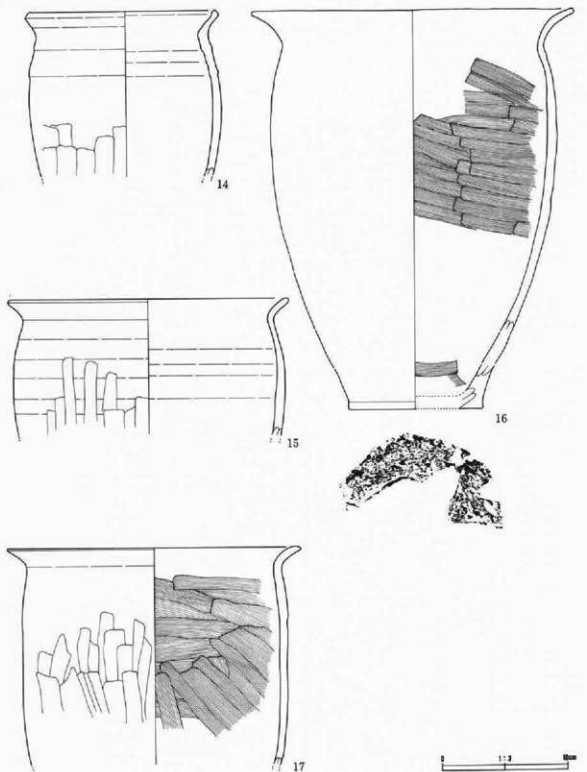
275は静止糸切り無調整、酸化炎焼成内黒の坏A類である。体部下端にヘラケズリの再調整が加えられている。276～292は酸化炎焼成非内黒の坏B類である。底部は回転糸切り無調整である。293は酸化炎焼成でロクロ成形の小形の甕である。294は還元炎焼成の甕、295は長頸壺と思われる。519～523は陶磁器類である。

G調査区 (第66・70図、写真図版74)

296は脚の短い酸化炎焼成内黒の高台付坏である。図化できなかったが酸化炎焼成非内黒の坏B類が多く出土している。524は肥前産の染付磁器、525は東北産(白岩系)の陶器甕である。

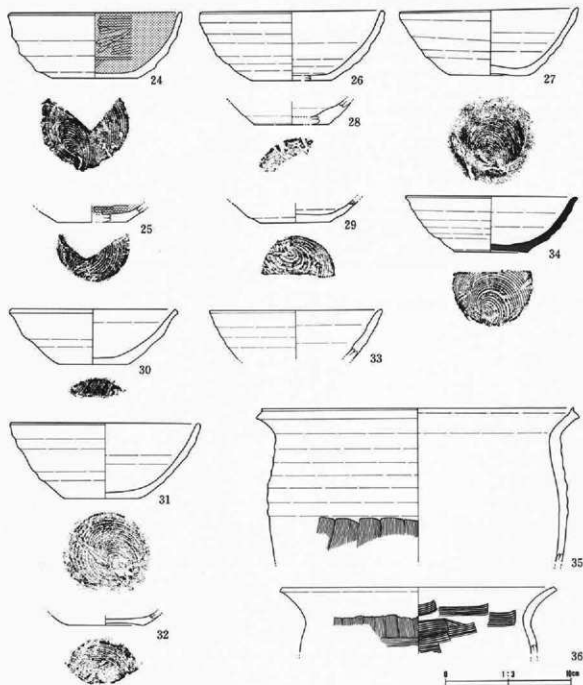
H調査区 (第66・70図、写真図版74)

297～299は酸化炎焼成内黒の坏A類である。297・299の底部は回転糸切り無調整、298は静止糸切り無調整で体部下端には再調整が見られる。300～305は酸化炎焼成非内黒の坏B類で底部は回転糸切り無調整である。306は還元炎焼成の坏C類で底部は回転糸切り無調整である。307・308は「ハ」字状の高台がついた酸化炎焼成非内黒の高台付坏である。308は非ロクロ成形の酸化炎焼成の甕である。526～538陶磁器類である。半数以上は肥前産の533は紅血である。



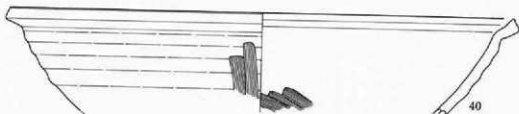
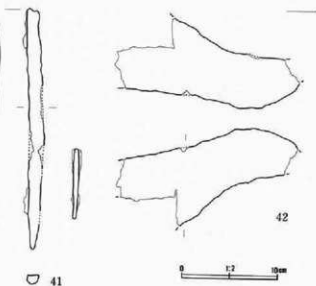
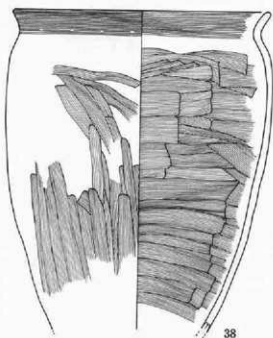
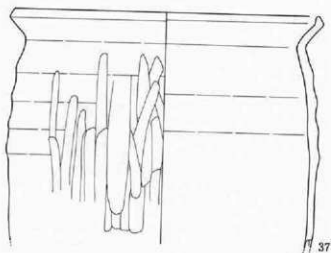
No	出土場所・層位	形状	器種	外周 形状	内周 形状	口部形状 内周形状	底 形状	中継	口径 (mm)		口高 (mm)	体高 (mm)	体径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	土質	色調 (断面)	写真 番号
									口径	口径								
14	流石山・層位I	輪花土器成	壺・コップ	楕円			底なし		口径	口径						A	SP700/流石山層位	65
15	流石山・層位I	輪花土器成	壺・コップ	楕円					口径	口径						A	SP700/流石山層位	65
16	流石山・層位I	輪花土器成	壺・コップ	楕円			底なし		口径	口径						C	SP700/流石山層位	65
17	流石山・層位I	輪花土器成	壺・コップ	楕円			底なし		口径	口径						C	SP700/流石山層位	65

第42図 RA01出土遺物(2)



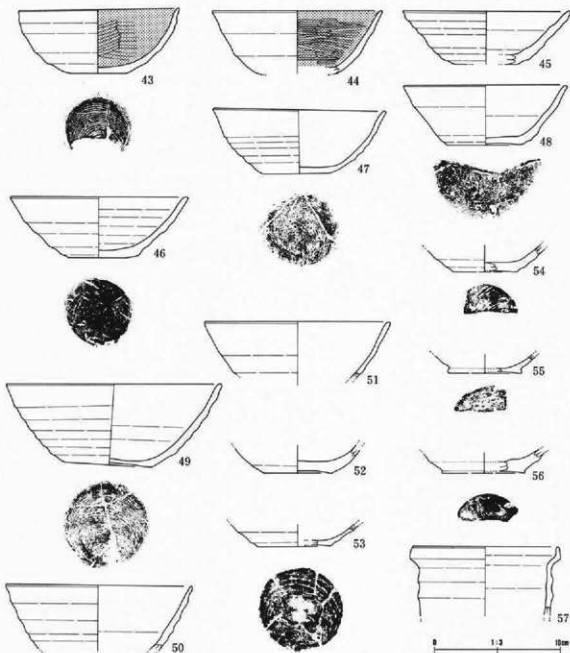
No.	出土場所・層位	形状	素材	外装 装飾	内装 装飾	彩色 処理	底面 装飾	底面 形状	底面 文様	底面 寸法	口径	高さ	厚さ	重量	出土 状況	出土 層位	包埋 状況	写真 掲載	
																			形状
24	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT		BN	○	斜糸-無	弓矢文、次加飾	A18	3.3	14.9	6.7	2	1	26	A	A	IT原ノ上層ノ黄色	46
25	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT		BN	○	斜糸-無		A19	4.3	14.9	5.6				A	A	IT原ノ上層ノ黄色	46
26	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT				斜糸-無		B18a	5.6	14.9	6.2	2	3	24	A	C	上層ノ黄色	46
27	東照寺ツツ原ノ内	輪花文陶片	IT				斜糸-無		B18b	5.5	14.9	6.2	2	3	24	C	C	IT原ノ上層ノ黄色	46
28	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT	葉ノツボ			斜糸-無	弓矢文	B	4.2	14.9					C	B	IT原ノ上層ノ黄色	46
29	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT				斜糸-無	弓矢文	B17a	4.2	14.9					A	A	IT原ノ上層ノ黄色	46
30	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT				斜糸-無	弓矢文	B18d	4.4	13.8	3.4	2	3	20	A	A	IT原ノ上層ノ黄色	46
31	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT				斜糸-無	弓矢文	B18c	4.3	13.4	4.4	3	3	22	A	C	IT原ノ上層ノ黄色	46
32	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT				斜糸-無	弓矢文	B18	4.4	14.9					A	C	IT原ノ上層ノ黄色	46
33	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT				斜糸-無	弓矢文	BN	4.3	14.9					B	B	上層ノ黄色	46
34	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT				斜糸-無	弓矢文、斜糸文	C14	4.4	13.9	6.4	2	3	21	A	C	IT原ノ上層ノ黄色	46
35	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT	葉ノツボ	BN			弓矢文	BN2	4.2	23.4					C	B	IT原ノ上層ノ黄色	46
36	東照寺ツツ原ノ上層	輪花文陶片	IT	葉ノツボ	BN	日		弓矢文	BN2a	4.4	22.4					A	A	上層ノ黄色	46

第44図 RA03出土遺物(1)



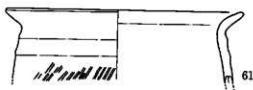
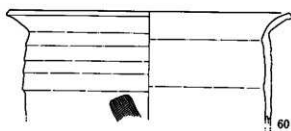
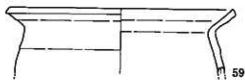
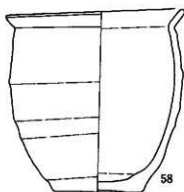
No	品名・部位	種類	器種	外周形状	内周形状	断面形状	表面形状	裏面形状	厚	寸法	口径 (cm)		高さ (cm)	体積 (cm³)	土質	色澤	色澤 (断面)	出所
											口径	口径						
37	灰土器片・頸部	輪化木焼成	壺・アソコ	凹	凹					口径	*18.6	19.4			C	A	IV374C2・24・褐色	46
38	灰土器片・頸部	輪化木焼成	壺・アソコ	凹	凹					口径	*25.7	27.2			C	A	IV384B褐色	46
39	灰土器片・頸部	輪化木焼成	壺・アソコ	凹	凹					口径	*21.1	21.2			A	A	IV39a5褐色	46
40	灰土器片・頸部	輪化木焼成	壺・アソコ	凹	凹					口径	*18.2	18.2			A	A	IV39a5褐色	46
41	灰土器片・中腹下部	輪化木焼成	壺・アソコ							口径								47
42	灰土器片	輪化木焼成	壺・アソコ							口径								47

第45図 RA03出土遺物(2)



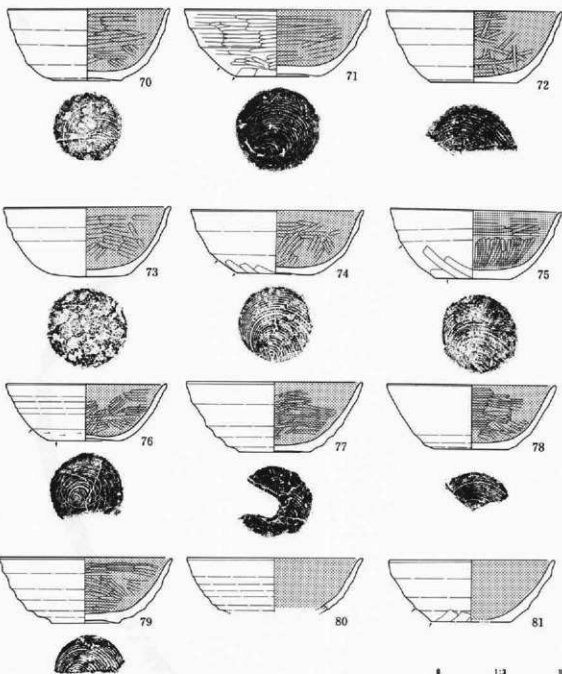
No	片名・場所・層位	群別	形状	片長	片幅	片厚	断面形状	断面図	断面説明	器名	片厚	断面寸法 (mm)			断面位置	断面形状	断面説明	断面位置	断面形状	断面説明
												高さ	幅	厚						
43	RA05B/F2	群化灰陶器	片				HM	□	片断	片断	5.14	5.3	12.9	4.5	1	2	2	A	A	片断(内面)
44	RA05B/F1	群化灰陶器	片				HM	□	片断	片断	5.06	5.2	13.0	4.5	1	2	2	B	A	片断(内面)
45	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.16	4.2	12.4	4.6	1	2	2	A	A	片断(内面)
46	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.16	4.8	13.2	5.0	1	2	2	A	A	片断(内面)
47	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.16	5.3	13.9	5.0	1	2	2	C	C	片断(内面)
48	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.16	4.8	13.2	4.8	1	2	2	C	C	片断(内面)
49	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.16	5.8	12.4	4.9	1	2	2	B	B	片断(内面)
50	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.00	46.2	39.4					B	B	片断(内面)
51	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.00	41.2	38.9					B	C	片断(内面)
52	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.14	42.2		5.2				A	B	片断(内面)
53	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.14	41.2		4.6				B	B	片断(内面)
54	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.14	41.8		5.0				A	B	片断(内面)
55	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.14	41.2		4.6				C	C	片断(内面)
56	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.14	41.4		4.6				A	A	片断(内面)
57	RA05B/F1	群化灰陶器	片						片断	片断	5.14	41.2		4.6				C	B	片断(内面)

第46図 RA 05出土遺物(1)



No.	出土地点・層位	器種	器名	外径 最大	口径 最大	高さ 最大	特色 説明	備 考	分類	数量	測定 (cm)		寸法 単位	外周 内径	出土 状況	発掘 時期	年代 (H2)	写真 掲載		
											口径	高さ								
58	RA05B層位	陶器	壺				白土-粉			1	21.6	16.8	14.2	7.0	1		A	SYRHCJA-褐色	57	
59	RA05C層位	陶器	壺					黒輪文		1	22.0	15.2	18.0				C	B	SYRHCJA-褐色	57
60	RA05C層位	陶器	壺					黒輪文		1	22.0	15.2	18.0				C	A	SYRHCJA-褐色	57
61	RA05C層位	陶器	壺					黒輪文		1	22.0	15.2	18.0				D	B	SYRHCJA-褐色	57
62	RA05C層位	陶器	壺					黒輪文		1	22.0	15.2	18.0				A	A	SYRHCJA-褐色	57
63	RA05C層位	陶器	壺					黒輪文		1	22.0	15.2	18.0				A	A	SYRHCJA-褐色	57
64	RA05C層位	陶器	壺					黒輪文		1	22.0	15.2	18.0				B	A	SYRHCJA-褐色	57

第47図 RA 05出土遺物(2)



No	出土層A-層IV	器名	器種	外口 直徑	內口 直徑	特色 裝飾	底足 結構	備 考	直徑 (cm)			耳 高	耳 寬	耳 厚	色澤 (內面)	片 長		
									最高	口徑	口徑							
70	瓦A07破片	釉瓦片破片	55	5EM	5EM	○ 斜線-物				A12	5.8	12.1	3.2	2	34	A	7.1370756.25-褐色	58
71	瓦A07-10上層土	釉瓦片破片	55	11M-5EM	5EM	○ 斜線-物				A11	5.4	15.0	4.2	2	34	A	7.1370699褐色	58
72	瓦A07破片內	釉瓦片破片	55	5EM	5EM	○ 斜線-物				A10	5.8	14.2	3.8	2	38	A	7.1370676.25-褐色	58
73	瓦A07破片內	釉瓦片破片	55	5EM	5EM	○ 斜線-物				A09	5.7	13.5	3.8	2	38	A	13.13707.25-褐色	58
74	瓦A07破片內	釉瓦片破片	55	5EM	5EM	○ 斜線-物				A11	5.3	13.9	4.0	2	35	A	13.137067褐色	58
75	瓦A07碎片上	釉瓦片破片	55	5EM	5EM	○ 斜線-物				A11	5.4	13.9	4.0	2	35	A	7.1370676.25-褐色	58
76	瓦A07碎片內	釉瓦片破片	55	10M-5EM	5EM	○ 斜線-物		瓦板瓦筒		A11	4.3	12.8	3.4	2	34	A	7.1370699褐色	58
77	瓦A07碎片上	釉瓦片破片	55	5EM	5EM	○ 斜線-物		瓦板瓦筒 管口?		A10	5.4	14.1	3.2	3	34	A	7.1370676.25-褐色	58
78	瓦A07碎片上	釉瓦片破片	55	5EM	5EM	○ 斜線-物		瓦板瓦筒		A10	5.1	13.4	4.0	2	35	A	7.1370756.25-褐色	58
79	瓦A07碎片內	釉瓦片破片	55	5EM	5EM	○ 斜線-物		瓦板瓦筒		A10	5.2	14.0	3.4	2	32	A	7.1370756.25-褐色	58
80	瓦A07碎片上-3層土-瓦板瓦筒口	釉瓦片破片	55	5EM	5EM	○ 斜線-物		瓦板瓦筒		A09	4.1	11.2				A	13.13707褐色	58
81	瓦A07碎片上	釉瓦片破片	55	5EM	10M-5EM	○ 斜線-物				A01	3.2	12.4	4.4	2	38	A	10.13705.56.25-褐色	58

第49圖 RA 06出土遺物(1)

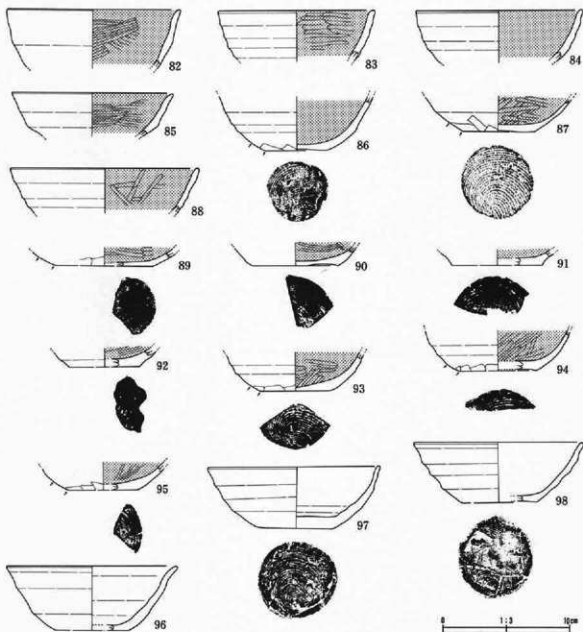
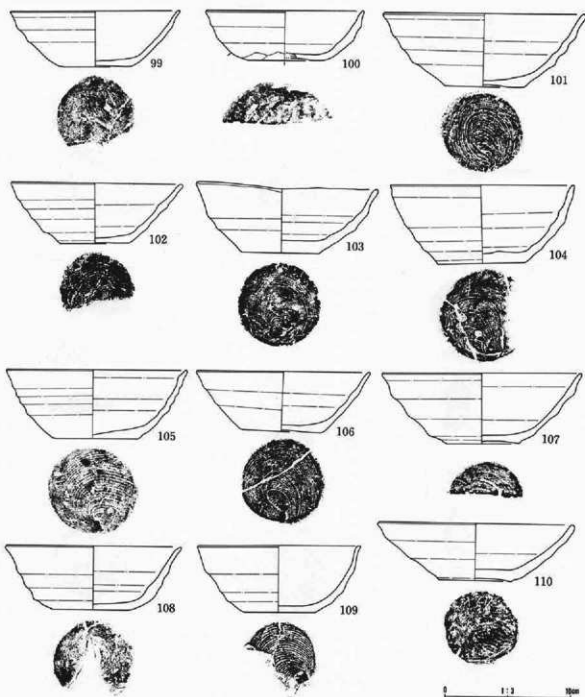


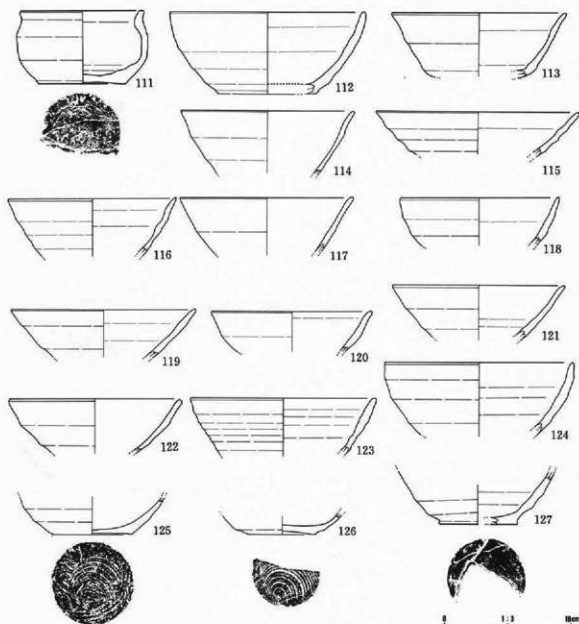
図	出土状況・部位	種別	特徴	片厚 測定値	片径 測定値	断面 形状	表面 装飾	底 形状	考	少量	直径 (cm) 断面 口径 底径	口径 (cm)	片厚 (cm)	片径 (cm)	出土 層位	色澤 (断面)	写真 記録
82	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	300	○	平形	瓦葺屋根			A10	4.8	11.6			A	2.5706(4)褐色	82
83	瓦葺屋根内	強化土焼成	片	320	○	平形	瓦葺屋根			A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	83
84	瓦葺キヤフ屋根縁部	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	84
85	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A11	4.4	5.0			A	2.5707(4)褐色	85
86	瓦葺屋根縁部	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	86
87	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A11	4.4	5.0			A	2.5707(4)褐色	87
88	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	88
89	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	89
90	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	90
91	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	91
92	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A11	4.4	5.0			A	2.5707(4)褐色	92
93	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	93
94	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A11	4.4	5.0			A	2.5707(4)褐色	94
95	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	95
96	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	96
97	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	97
98	瓦葺屋根上	強化土焼成	片	320	○	瓦葺屋根				A10	4.1	11.4			A	2.5706(4)褐色	98

第50図 RA 06出土遺物(2)



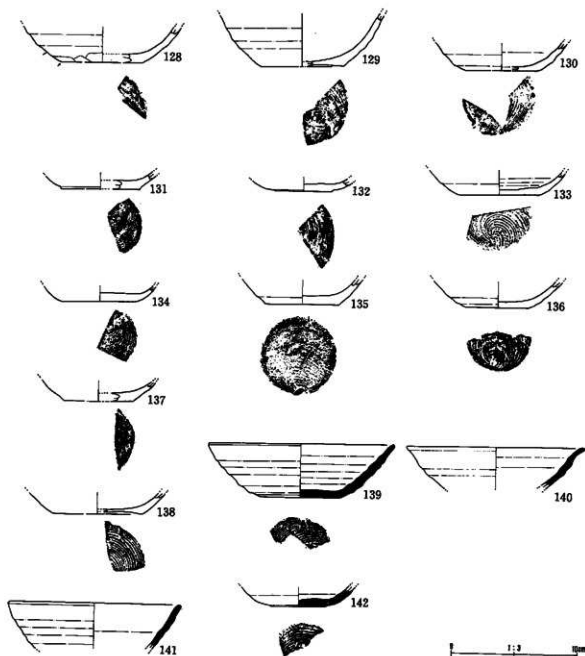
No	出土場所・層位	種類	器種	外径 測定	内径 測定	底径 測定	底厚 測定	底面 形状	底面 状態	底面 色澤	底面 紋様	底面 備考	寸法 (mm)				内径 測定	底径 測定	底厚 測定	底面 形状	底面 状態	底面 色澤	底面 紋様	底面 備考		
													高さ	口径	底径	底厚										
99	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹A-形					底径	4.5	13.7	5.0	2	3	56	底					7.5YR7/4C, 20+褐色	凹
100	瓦山段南段	横紋土器底	鉢		凹			凹A-形	横紋底				底径	4.0	12.8	4.0	2	3	52	凹A	底				7.5YR7/4C, 20+褐色	凹
101	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹A-形					底径	4.8	13.8	4.3	3	32	C	C					7.5YR7/4C, 20+褐色	凹
102	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹B-形					底径	3.8	12.8	3.3	1	49	A	底					5YR5/4C, 20+褐色	凹
103	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹B-形					底径	3.7	12.6	3.3	1	56	A						5YR5/4C, 20+褐色	凹
104	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹B-形					底径	4.3	14.8	3.3	2	58	A	C					5YR5/4C, 20+褐色	凹
105	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹B-形					底径	3.6	12.8	3.3	1	49	A	底					5YR5/4C, 20+褐色	凹
106	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹B-形					底径	3.7	12.6	3.3	1	56	A						5YR5/4C, 20+褐色	凹
107	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹B-形					底径	4.3	14.8	3.3	2	58	A	C					5YR5/4C, 20+褐色	凹
108	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹B-形					底径	3.6	12.8	3.3	1	49	A	底					5YR5/4C, 20+褐色	凹
109	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹B-形					底径	3.7	12.6	3.3	1	56	A						5YR5/4C, 20+褐色	凹
110	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹A-形	内凹心形				底径	5.3	13.1	5.7	2	40	A	A					5YR2/4C, 20+褐色	凹
111	瓦山段南段	横紋土器底	鉢					凹A-形					底径	4.8	13.8	4.0	3	44	B						7.5YR7/4C, 20+褐色	凹

第51图 RA 06出土遺物(3)



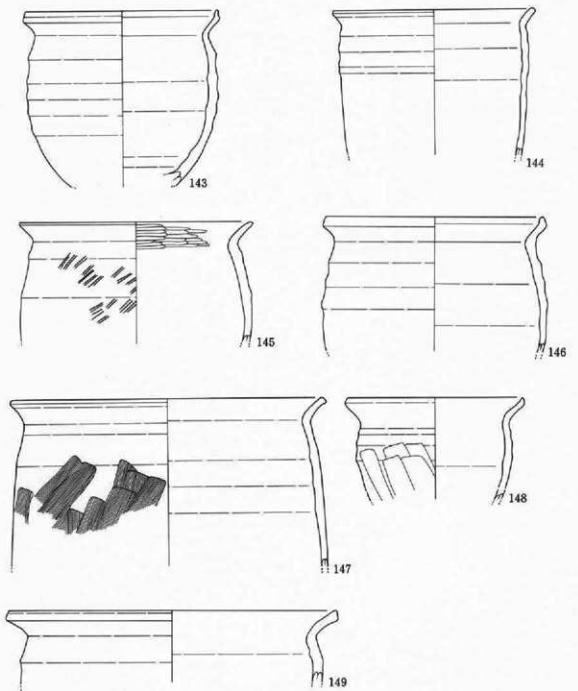
No.	出土地点・層位	器種	形状	外径 径	内径 径	高さ 径	底径 径	底面形状	器 名	考 索	寸法 (cm)			内径 径	底径 径	底面 形状	色 澤	色澤 (断面)	注 記		
											口径	高さ	底径								
111	RAMQ出土部	彩色土陶器	片						器底-無		0.166	5.5	10.0	7.0	1	2	紅	B	C	3YR6/3褐色	40
112	RAMR出土部	彩色土陶器	片						器底-無	有縦溝	0.142	6.4	10.0	8.0	2	0	0	B	C	3YR6/3褐色	40
113	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*6.4	10.0				0	C	C	3YR6/3褐色	40
114	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*5.2	10.0					C	C	3YR6/3褐色	40
115	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*3.0	10.4					A	C	3YR6/3褐色	40
116	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*4.6	11.6					C	C	3YR6/3褐色	40
117	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*5.4	10.0					C	C	7.5YR6/3-4褐色	40
119	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*3.4	12.0					赤紅	B	7.5YR6/3褐色	40
120	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*5.0	10.0					C	C	3YR6/3褐色	40
121	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝, 有縦溝痕		0.00	*4.2	10.0					C	C	7.5YR6/3褐色	40
122	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*4.2	10.0					C	C	3YR6/3褐色	40
123	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*4.2	10.0					C	C	7.5YR6/3-4褐色	40
125	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*5.4	10.0					C	C	7.5YR6/3-4褐色	40
126	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*3.4	12.0					赤紅	B	7.5YR6/3褐色	40
127	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*5.0	10.0					C	C	3YR6/3褐色	40
128	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*4.2	10.0					C	C	7.5YR6/3褐色	40
129	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*4.6	10.0					A	A	3YR6/3褐色	40
130	RAMR出土部	彩色土陶器	片						有縦溝		0.00	*5.0	10.0					A	B	3YR6/3褐色	40
131	RAMR出土部	彩色土陶器	片						器底-無		0.10	*3.0	6.0					B	A	7.5YR6/3褐色	40
132	RAMR出土部	彩色土陶器	片						器底-無		0.10	*1.5	3.0					A	B	7.5YR6/3-4褐色	40
133	RAMR出土部	彩色土陶器	片						器底-有溝		0.10	*4.2	6.0					赤紅	A	7.5YR6/3-4褐色	40

第52図 RA06出土遺物(4)



No.	出土地点・層位	器種	形状	外底 特徴	内底 特徴	口縁 特徴	胴部 特徴	底 特徴	数量	径長 (cm)			口縁 形状	片数	器名 (参考)	出 所	
										口径	高さ	底径					
128	RAMB上	弥生式土器	杯	底ノ下	底	口	底	底	A11	42.8	4.4		A	A	T.YVIV/弥生式	出	
129	RAMB上(弥生C++)	弥生式土器	杯	底ノ下	底	口	底	底	E	41.2	4.8		C	C	T.YVIV/弥生式	出	
130	RAMB上内	弥生式土器	杯						A19	42.2	5.6		A	A	T.YVIV/弥生式	出	
131	RAMB上	弥生式土器	杯						300	41.4	6.4		C	C	T.YVIV/弥生式	出	
132	RAMB上(++)	弥生式土器	杯						B10	41.2	7.6		A	A	T.YVIV/弥生式	出	
133	RAMB上(弥生C+)内	弥生式土器	杯						C18	42.8	7.6		A	B	T.YVIV/弥生式	出	
134	RAMB上内	弥生式土器	杯						B16	41.2	6.4		C	B	T.YVIV/弥生式	出	
135	RAMB上内	弥生式土器	杯						B18	42.0	6.0		A	B	T.YVIV/弥生式	出	
136	RAMB上内	弥生式土器	杯						B14	42.2	5.6		C	C	T.YVIV/弥生式	出	
137	RAMB上	弥生式土器	杯						300	41.8	5.6		C	C	T.YVIV/弥生式	出	
138	RAMB上	弥生式土器	杯						E	41.2	7.6		C	C	T.YVIV/弥生式	出	
139	RAMB上(弥生C++)	弥生式土器	杯						C10	42	10.0	6.2	3	A	A	T.YVIV/弥生式	出
140	RAMB上(下)	弥生式土器	杯						C08	42.4	10.4			A	A	T.YVIV/弥生式	出
141	RAMB上内	弥生式土器	杯						C09	42.4	10.4			A	A	T.YVIV/弥生式	出
142	RAMB上	弥生式土器	杯						C10	41.6	4.4		A	A	T.YVIV/弥生式	出	

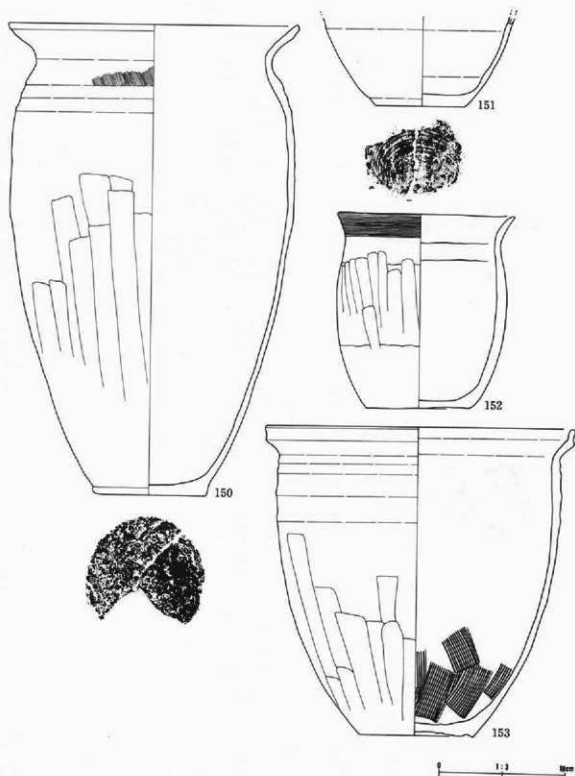
第53図 R A 06出土遺物(5)



0 1.3 10cm

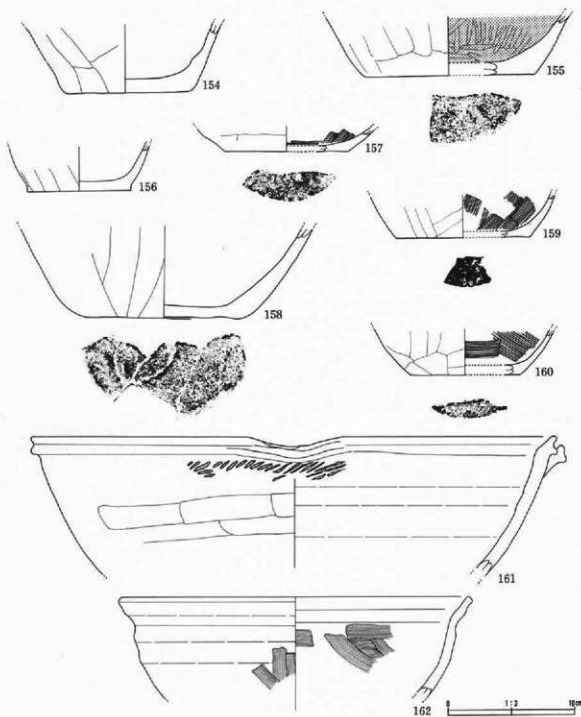
No	出土場所・層位	器種	器形	片名	内径	高さ	底径	底形状	備	寸法	重量 (g)		片厚	片数	片の	状態	色調 (内面)	土質
											器底	口縁						
143	RAMR	輪化土陶器	壺(コップ)						片名不明	14.1	11.4	8.3	1	1	A	B	7.5YR6/1(黄褐色)	25
144	RAMEL	輪化土陶器	壺(コップ)					口縁-片		*11.9	16.2				C	C	7.5YR7/1(黄褐色)	25
145	RAMEL中層	輪化土陶器	壺(コップ)	TT	154					12.6	*9.9	12.6			小破片	A	7.5YR6/1(黄褐色)	25
146	RAMEL中層C-1層C	輪化土陶器	壺(コップ)						片名不明	12.6	12.4				B	B	7.5YR6/1(黄褐色)	25
147	RAMEL	輪化土陶器	壺(コップ)	125					片名不明	*13.5	21.1				C	A	5YR6/1(黄褐色)	25
148	RAMEL中層C(1層C)	輪化土陶器	壺(コップ)	126					片名不明	11.1	*9.8	16.4			C	A	5YR6/1(黄褐色)	25
149	RAMEL中層C(1層C)	輪化土陶器	壺(コップ)						片名不明	11.1	*5.4	26.4			B	B	5YR6/1(黄褐色)	25

第54図 RA06出土遺物(6)



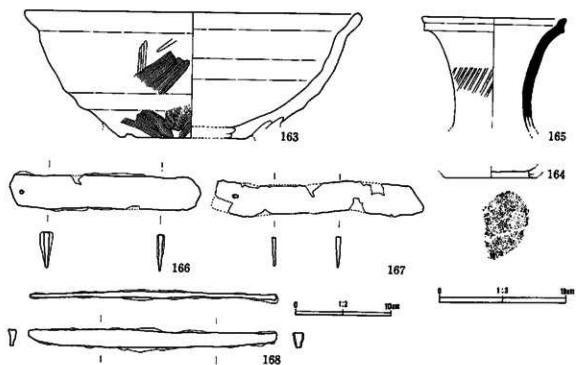
No.	出土地点・層位	種目	器種	材質 調査	形状 特徴	底径 高さ	底径×高さ 内径×高	重量	容積	寸法 (cm)		内径	高さ	出土 状況	備考	写真 掲載		
										口径	底径							
149	RA60007/遺物部	標化赤地蔵	壺・ツボ		口縁部					口径	底径	11.0	3.1	C	B 7.1X10.0(口)・壺	20		
150	RA60008/土器	標化赤地蔵	壺・ツボ							口径	底径	7.1	3.1	C	B 7.1X10.0(口)・壺	20		
151	RA60009/遺物部	標化赤地蔵	壺・ツボ		口縁部					口径	底径	15.7	16.2	A, D	1	C	B 15.7X16.2(口)・壺	20
152	RA60010/遺物部	標化赤地蔵	壺・ツボ		口縁部					口径	底径	16.8	16.7	B, D	1	B	B 16.8X16.7(口)・壺	20

第55図 RA 06出土遺物(7)



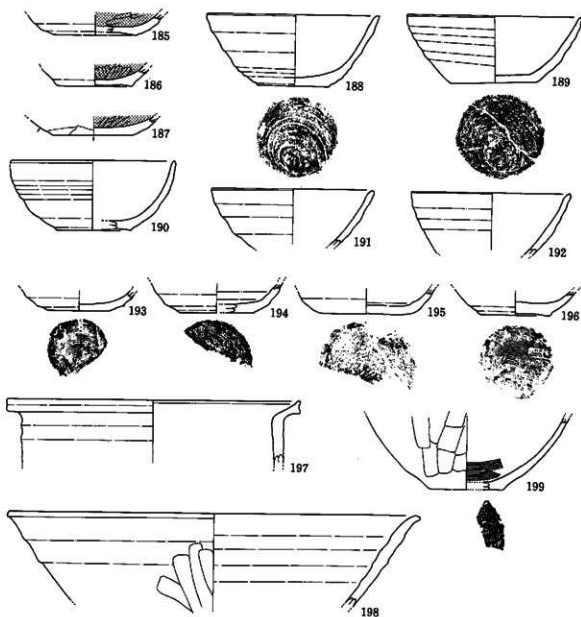
No	出土場所・層位	器種	器名	材質	内径	外径	高さ	口径	底径	底形状	備	寸法	重量 (g)			発見	出土	色調 (断面)	写真
													器高	口径	底径				
154	EAMホップ右縁(フ)	強化土焼成	器	IK	120							EF	*1.5	5.6		C	B	1.5YR5/6褐色	28
155	EAMホップ内	強化土焼成	器	IK	120	○	40			40	二次加工	EF	*4.8	13.8		A	B	7.5YR5/6赤褐色	28
156	EAM縁部底	強化土焼成	器・ボコフ	IK								F	*2.4	8.1		C	B	1.5YR5/6褐色	28
157	EAMホップ右縁(フ)	強化土焼成	器	IK	目					40		EF	*2.8	28.1		C	C	7.5YR5/6赤褐色	28
158	EAMホップ口縁(フ)	強化土焼成	器	IK	120	○	40			40	二次加工	EF	*7.4	22.1		A	A	7.5YR5/6褐色	28
159	EAM縁上蓋	強化土焼成	器	IK	目					40		EF	*1.4	16.9		B	C	1.5YR5/6褐色	28
160	EAM縁上蓋	強化土焼成	器	IK	目					40		EF	*1.7	8.9		C	B	7.5YR5/6褐色	28
161	EAM縁上蓋(断面)縁(フ)破	強化土焼成	器	7.5	120	120				120	胴底と縁台、反動部	6.1a	*12.1	62.1		C	C	5YR5/6-2.5褐色	28
162	EAM縁部(フ)	強化土焼成	輪・ソコフ	IK	120							6.1a	*4.2	28.0		C	A	5YR5/6-2.5褐色	21

第56図 R A 06出土遺物(8)



No.	出土状況・部位	種別	材質	外径 長さ	内径 長さ	底径 長さ	底厚 高さ	底厚 内径	重	中層	底径 (mm)			口徑 (mm)	内径 (mm)	出土 層位	土質	色澤 (内装)	写真 番号
											底径	口徑	底径						
163	土層中より7層C・D	磨光土器片	焼土・砂	100-105					約100g	SP?	0.14	10.1	37.2	9.6	3		C・B	SP?白/褐色色	71
164	土層中より7層C	磨光土器片	焼土							SP	48.8	7.4	7.4			C・C	SP?白/褐色色	71	
165	土層中から出土	磨光土器片	焼土・砂	77						SP	48.8	11.0				A・A	SP?白/褐色色	71	
166	土層中から出土	磨光土	刀下						0.7g										71
167	土層中から	磨光土	刀下						5.2g										71
168	土層中からL	磨光土	砂?						14.8g										71

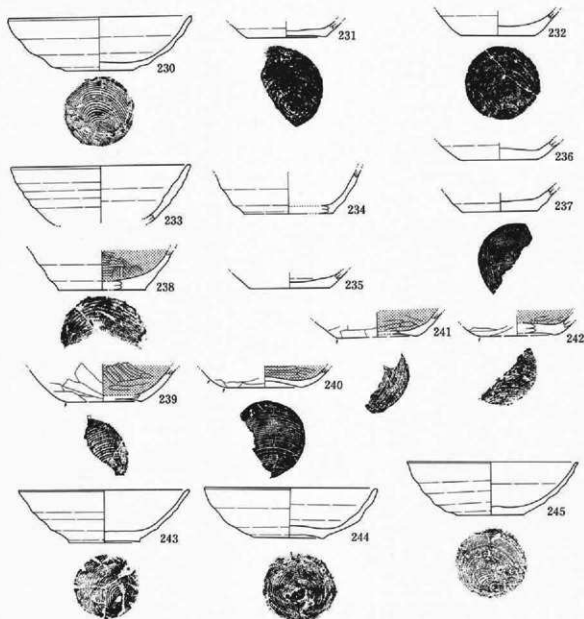
第57図 RA06出土遺物(9)



1 : 2 30cm

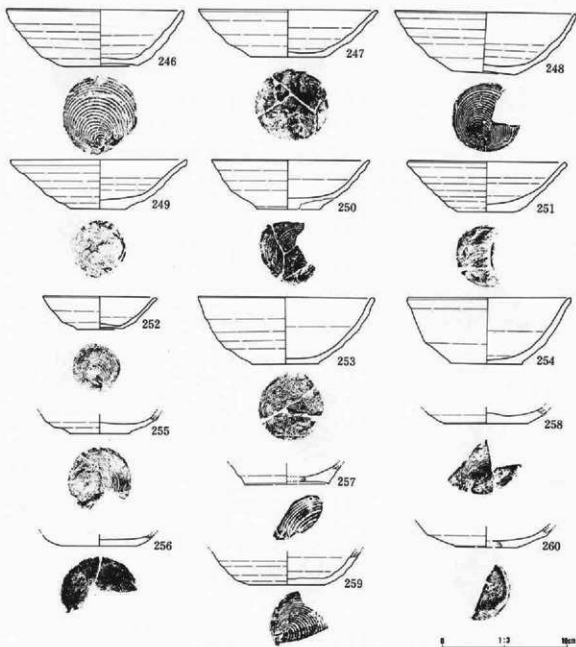
No.	出土場所・層位	器名	器種	外装 図色	内装 図色	胎色 図色	装飾 図形	備 考	寸法	口径 (mm)		口径 内径	胎土 図色	色澤 (PH)	写真 番号
										口径	口径				
185	宮田原土	強化赤褐色	片	黒	黒	○	二波筋		A19	φ1.8	6.0	A	A	197214(2.2A)-黄褐色	71
186	宮田原土	強化赤褐色	片	黒	黒	○	筋条-有		A19	φ1.8	6.0	A	A	1.57214(2.2A)-黄褐色	71
187	宮田原土	強化赤褐色	片	黒?黄	黒	○	筋条-有		A21	φ1.9	6.0	A	A	1.57214(2.2A)-黄褐色	71
188	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		B10a	φ1.7	12.0	B	B	1.57214(2.2A)-黄褐色	71
189	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		B10b	φ1.6	11.1	B	B	1.57214(2.2A)-黄褐色	71
190	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		A19	φ1.8	6.0	A	A	1.57214(2.2A)-黄褐色	71
191	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		B20	φ1.4	12.0	B	A	197214(2.2A)-黄褐色	71
192	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		AG9	φ1.0	12.0	C	C	1.57214(2.2A)-黄褐色	71
193	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		B10	φ1.6	4.8	B	B	1.57214(2.2A)-黄褐色	71
194	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		B10	φ1.3	4.8	C	B	197214(2.2A)-黄褐色	71
195	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		B10	φ1.1	7.5	B	B	197214(2.2A)-黄褐色	71
196	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		B10	φ1.2	3.6	A	A	197214(2.2A)-黄褐色	71
197	宮田原土	強化赤褐色	片				筋条-有		B20	φ1.2	12.0	B	A	197214(2.2A)-黄褐色	71
198	宮田原土	強化赤褐色	片	黒			筋条-有	筋条-有	G15	φ7.4	12.0	C	B	1.57214(2.2A)-黄褐色	71
199	宮田原土	強化赤褐色	片	黒	ハクノ		筋条-有	筋条-有	E2	φ5.9	6.0	C	B	197214(2.2A)-黄褐色	71

第59図 RE 出土遺物



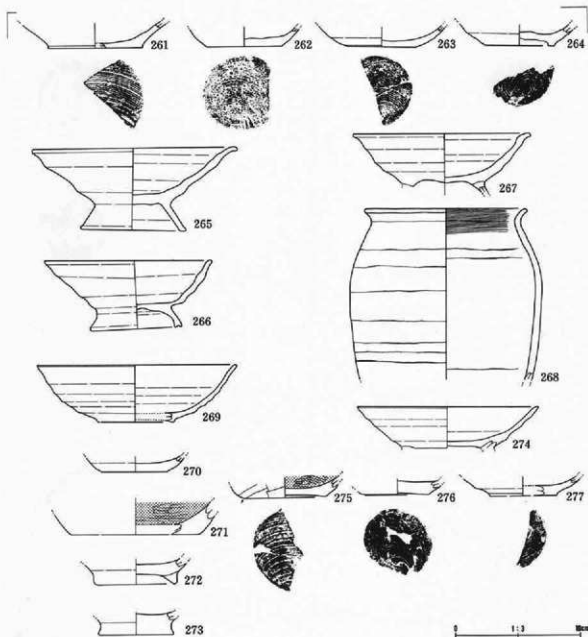
No.	出土位置・部位	器種	器種	外壁 形状	内面 形状	彩色 形状	底面 形状	備	考	寸法	直径 (cm)			口径 内径	口径 外径	内径 内径	底径 内径	底径 外径	重量 (g)	土質 色別	胎色	施釉 内面	出土 時期
											最大	口径	底径										
230	RG1000彩色水缸上段上面	轆轤水筒	卍				段6-柄			B146	4.3	14.8	5.6	3	3	43	A	A	7.5YR6/1C2-Ja-褐色		75		
231	RG1000彩色水缸下段	轆轤水筒	卍				段6-柄			B15	4.2	14.2	6.4				A	C	5YR6/1褐色		75		
232	RG1000彩色水缸上段	轆轤水筒	卍				段6-柄	瓦敷瓦面		B10	42.0	6.0					C	C	5YR6/1褐色		75		
233	RG1000彩色水缸上段上面	轆轤水筒	卍				段6-柄			B09	44.6	16.6				57	A	A	7.5YR6/1褐色		75		
234	RG1000彩色水缸下段	轆轤水筒	卍				段6-柄			B15	43.4	7.2					A	C	5YR6/1褐色		75		
235	RG1000彩色水缸上段	轆轤水筒	卍				段6-柄			B15	41.4	6.6					A	B	7.5YR6/1褐色		75		
236	段1口縁上	轆轤水筒	卍				段6-柄			B10	41.5	6.6					A	A	7.5YR6/1褐色		75		
237	段1口縁上	轆轤水筒	卍				段6-柄			B15	42.5	6.6					A	A	7.5YR6/1C2-Ja-褐色		75		
238	RG1000彩色水缸断面	轆轤水筒	卍	段6	段4	○	段6-柄	瓦敷瓦面		A01	42.2	6.6					A	A	7.5YR6/1C2-Ja-褐色		74		
239	段1口縁上	轆轤水筒	卍	段6	段4	○	段6-柄			A01	42.6	6.6					A	A	5YR6/1褐色		74		
240	RG1000彩色水缸上段	轆轤水筒	卍	段6	段4	○	段6-柄			A01	43.0	6.6					A	A	5YR6/1C2-Ja-褐色		74		
241	RG1000彩色水缸上段	轆轤水筒	卍	段6	段4	○	段6-柄			A01	43.5	6.6					A	A	5YR6/1褐色		74		
242	RG1000彩色水缸上段	轆轤水筒	卍	段6	段4	○	段6-柄	瓦敷瓦面		B146	4.3	14.8	5.7	2	3	41	A	B	5YR6/1褐色		74		
243	RG1000土下段	轆轤水筒	卍				段6-柄			B146	4.1	13.9	5.6	2	3	40	A	B	5YR6/1C2-Ja-褐色		74		
244	RG1000土下段	轆轤水筒	卍				段6-柄			B146	4.6	13.7	5.7	3	3	41	A	B	5YR6/1褐色		74		

第62図 RG出土遺物



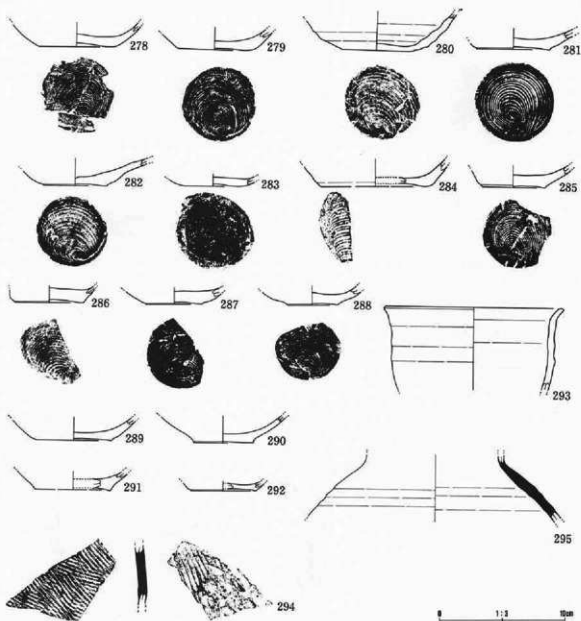
No.	出土層位・部位	種類	器種	片厚 測定	片長 測定	片長 測定	断面形状 説明	備 考	数量	径長 (cm)		片厚 測定	内径 測定	外径 測定	片厚 測定	片長 測定	片長 測定	片厚 測定	片長 測定	片厚 測定	片長 測定
										径長	径長										
246	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	4.8	19.8	5.0	2	2	51	A	A	2.5YR5/7褐色	75	
247	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	3.8	19.4	5.0	2	2	45	A	B	1YR5/6褐色	75	
248	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	5.1	19.6	5.0	2	2	49	A	B	1YR5/6褐色	75	
249	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	4.1	18.2	4.4	2	2	41	A	B	2.5YR5/7褐色	75	
250	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1	図1-1	3	3.10	4.8	19.8	5.0	2	2	48	A	B	2.5YR5/7褐色	75	
251	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	4.1	18.2	4.4	2	2	47	A	B	1YR5/6褐色	75	
252	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	2.7	1.2	3.3	2	2	49	A/B	B	2.5YR5/7褐色	75	
253	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	5.5	18.2	5.4	2	2	51	A/B	C	2.5YR5/7褐色	75	
254	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1	遺小片	3	3.10	5.4	18.2	5.4	2	2	50	A	B	2.5YR5/7褐色	75	
255	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1	図1-1	3	3.10	*1.4						A	A	2.5YR5/7褐色	75	
256	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1	図1-1	3	3.10	*0.9						A	B	2.5YR5/7褐色	75	
257	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	*1.7						A	A	2.5YR5/7褐色	75	
258	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	*1.3						A/B	B	1YR5/6褐色	75	
259	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	*1.7						A	C	1YR5/6褐色	75	
260	BG27R白色A面L	酸化赤褐色	片				図1-1		3	3.10	*1.7						B	C	1YR5/6褐色	75	

第63図 RG出土遺物



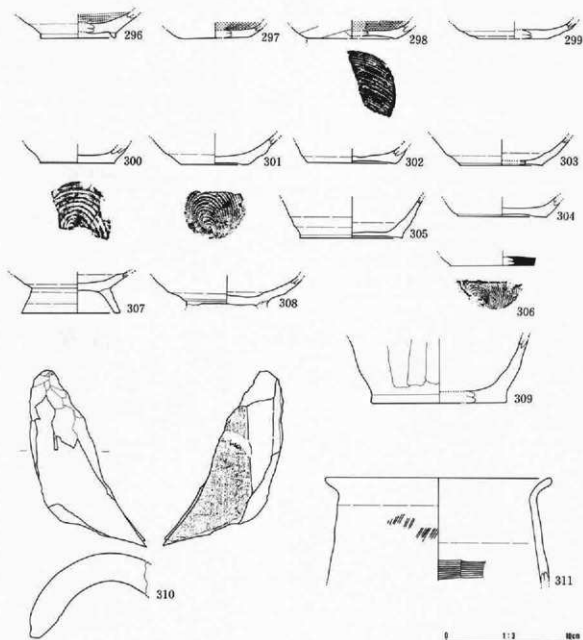
No.	出土場所・層位	形状	素材	片厚 測定	断面 形状	胎色 釉色	装飾 特徴	備 考	中期	直径 (cm)		口径 径 (cm)	片厚 測定	片長 測定	出土 層位	出土 状況	色澤 (外面)	注記
										口部	底部							
261	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	42.1	7.4				A 上	1.5YR7/1.0-2.0-褐色	73	
262	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	51.0	11.4	4.0			B 中 C	1.5YR6/1.0-褐色	73	
263	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	51.0	11.4	5.0			B 中 C	1.5YR6/1.0-褐色	73	
264	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土	短縮頸		前期	51.0	11.2	5.0			A 中	1.5YR7/1.0-褐色	73	
265	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	49.8	16.4	4.7	3	2	破	A 中	1.5YR7/1.0-褐色	74
266	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	49.8	15.8	13.5	2	2	破	A 中	1.5YR7/1.0-褐色	74
267	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	49.8	14.9	14.2			破	A 中	1.5YR6/1.0-褐色	74
268	龍口河内赤木山出土	大甕	灰			赤土			前期	71.6	13.7	13.2			B 中	1.5YR6/1.0-褐色	74	
269	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	51.0	11.1	5.0			A 上	1.5YR6/1.0-褐色	74	
270	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	51.0	11.1	5.0			B 中	1.5YR6/1.0-褐色	74	
271	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	51.0	11.1	5.0			B 中	1.5YR6/1.0-褐色	74	
272	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	51.0	11.1	5.0			B 中	1.5YR6/1.0-褐色	74	
273	龍口河内赤木山出土	碗状土器	灰			赤土			前期	51.0	11.1	5.0			B 中	1.5YR6/1.0-褐色	74	

第64図 RG・遺構外出土遺物



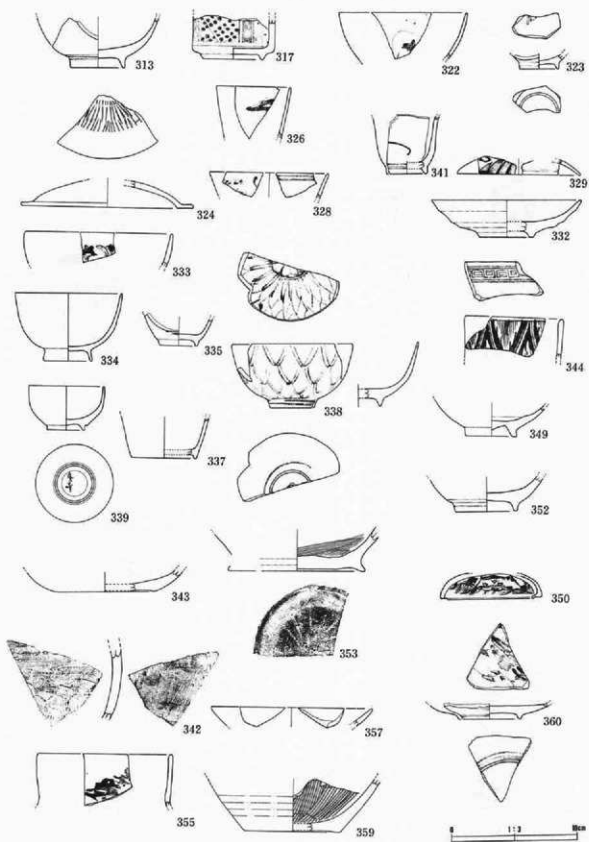
No	出土地点・層位	種類	原産地	片数 数量	内径 径	外径 径	高部 内径	高部 外径	重	寸法	寸法 (cm)			内径 径	外径 径	高部 径	色澤	色澤 (断面)	写真 回数
											幅	口径	高さ						
278	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	42.2	6.6					伊赤 A	7.55000褐色	24
279	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.7	6.6					伊赤 A	7.55000褐色	24
280	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊	瓦割片		D10	42.7	5.7					A A	5.50000褐色	24
281	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	42.7	6.6					A A	7.55000褐色	24
282	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	42.7	5.7					伊赤 A	5.50000褐色	24
283	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	42.2	5.6					A A	5.50000褐色	24
284	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	42.2	5.6					A A	5.50000褐色	24
285	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					A A	7.55000褐色	24
286	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					A A	7.55000褐色	24
287	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					A A	7.55000褐色	24
288	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					A A	7.55000褐色	24
289	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					伊赤 A	5.50000褐色	24
290	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					伊赤 A	7.55000褐色	24
291	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					伊赤 A	5.50000褐色	24
292	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					伊赤 A	7.55000褐色	24
293	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					伊赤 A	5.50000褐色	24
294	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					伊赤 A	7.55000褐色	24
295	平塚区江古田層	酸化赤褐色	伊				伊赤-伊			D10	41.3	5.6					伊赤 A	5.50000褐色	24

第65図 遺構外出土遺物

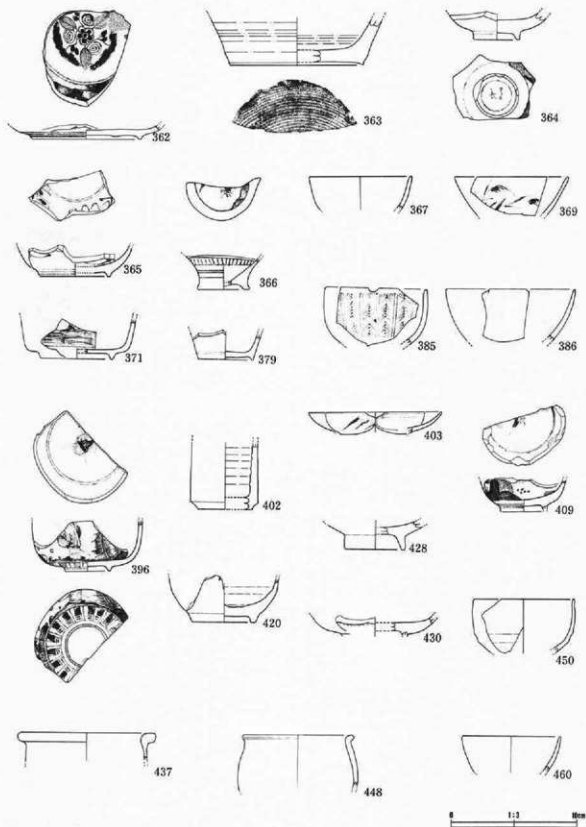


No.	器名・部位	種類	器種	片割 調査	片割 調査	片割 調査	片割 調査	器種	器種	寸法	寸法 (mm)		口径	口高	体高	口径	体高	口径	体高	口径	体高	口径	体高
											口径	体高											
296	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.2				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
297	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.2				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
298	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	7.2				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
299	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	5.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
300	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
301	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	5.4				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
302	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	7.2				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
303	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
304	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	5.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
305	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
306	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
307	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
308	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
309	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
310	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			
311	土師器小鉢	土師器	高台付物	黒	○	黒	○	土師器	高台付物	A10	φ12	6.6				A	A	7.1x10.1x12.1	褐色	76			

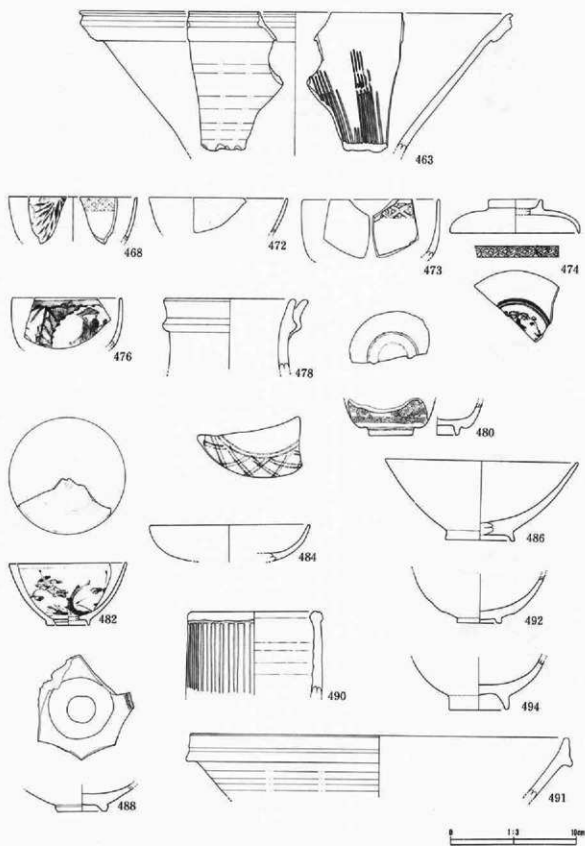
第66図 遺構外出土遺物



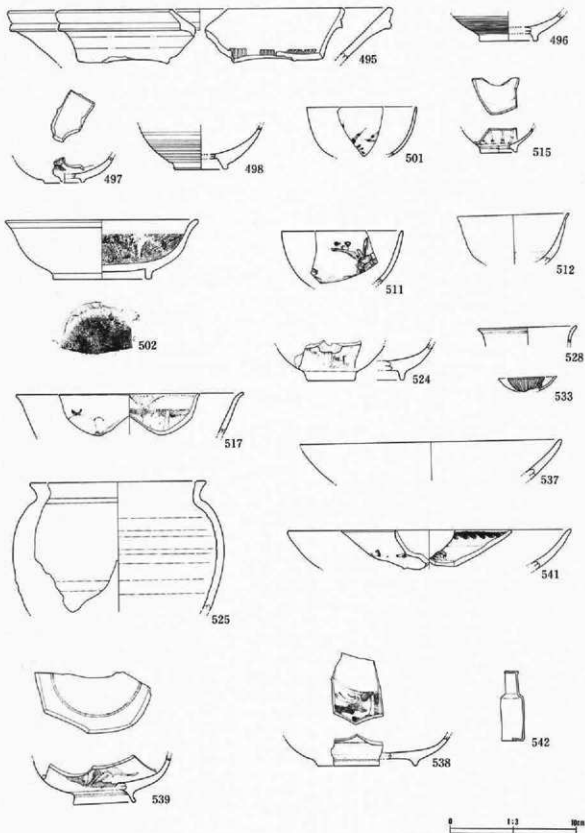
第67图 陶磁器類(1)



第68图 陶磁器類(2)



第69図 陶磁器類(3)



第70圖 陶磁器類(4)

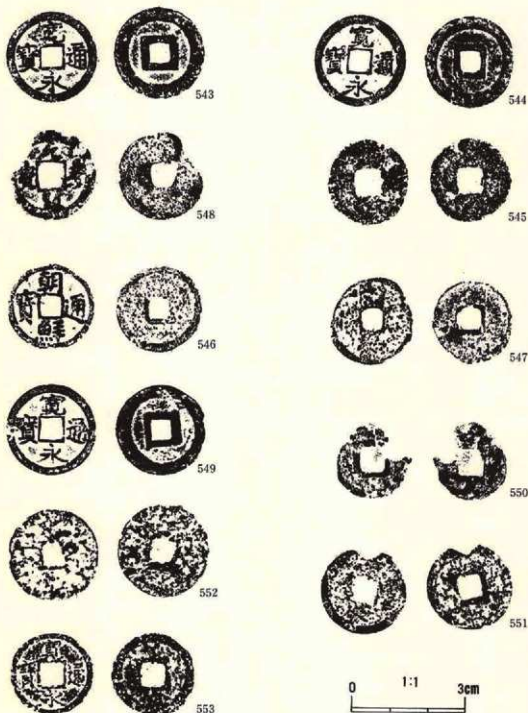
No	出土地点・層位	種 器 種	外面	内面	備考	法量 (cm)		写真 実測	調査年度	
						器高	口径			
312	BA06掘出し最上部	陶器 甕						83	-	
313	BA06掘出し最上部	陶器 象付・甕	透明釉、高台内一直線	透明釉、見込み色の目輪	肥前産、18世紀前半～1780年代	4.0	4.4	75	67	
314	RD05掘出し	陶器 握り鉢		御目	胎土灰色、東北産			83	-	
315	RD09掘出し	陶器						83	-	
316	RD06掘出し	陶器 象付・甕			肥前県02東北、1820～1860年代			80	-	
317	RD103黒褐色	磁器 象付・甕口	畳付け露筋		肥前産、1780～1810年代	4.2	4.8	75	67	
318	RD05掘出し下部	磁器			近世以降			80	-	
319	RD05掘出し下部	陶器 甕	鉄輪、埴輪	鉄輪	胎土灰色			80	-	
320	RD05掘出し下部	陶器 皿		肥前産、18世紀代				80	-	
321	RD05掘出し下部	陶器 握り鉢	鉄輪		近世以降			80	-	
322	RD05掘出し下部	磁器 象付・小杯	山水文		肥前産、18世紀前半～1780年代	4.8	10.4	75	67	
323	RD05掘出し下部	磁器 象付・小杯			肥前産、1770～1810年代	4.2	3.2	75	67	
324	RD05掘出し下部	陶器 甕	かきめ	透明釉	胎土淡黄色	4.1	13.8	75	67	
325	RD05掘出し上部	陶器						80	-	
326	RD05掘出し上部	陶器 象付・甕口			肥前産、18世紀中葉～末葉	4.2	6.0	75	67	
327	RD05掘出し上部	陶器 握り鉢	埴輪	埴輪	近世以降			80	-	
328	RD05掘出し上部	磁器 象付・甕			瀬戸・美濃系、1820～幕末	4.0	8.6	75	67	
329	RD05掘出し上部	磁器 象付・蓋物			肥前産、1780～1840年代、広東産	4.2	10.0	75	67	
330	RD05掘出し	磁器 筒子			近世以降			80	-	
331	RD09掘出し	陶器 甕	透明釉	透明釉	近世以降			80	-	
332	RD09掘出し	磁器 白磁・皿	透明釉、高台内無輪	透明釉、蛇の目売け	張佐見系、18世紀代	3.0	12.1	4.4	75	67
333	RD09掘出し	磁器 象付・甕			肥前産、18世紀前半～1780年代	4.7	12.0	75	67	
334	RD09掘出し	磁器 白磁・甕			肥前産、18世紀代	5.5	8.7	4.0	75	67
335	RD09掘出し	磁器 象付・小杯	蛇の目輪		肥前産、18世紀前半～1780年代	4.1	3.0	75	-	
336	RD09掘出し	陶器	透明釉	透明釉	近世以降			80	-	
337	RD09掘出し	磁器 白磁OR象付			肥前産、18世紀代	4.3	5.2	75	-	
338	RD09掘出し	磁器 象付・甕	二重罎目文	見込み雪花文	肥前産、18世紀前半～1780年代	5.2	9.8	3.6	75	67
339	RD09掘出し	磁器 蓋	杯状輪、高台内無輪	鉄輪	胎土白、大瀬相馬	3.5	6.3	3.1	75	67
341	RG10掘出し	磁器 象付・小杯	透明釉	透明釉	肥前産、18世紀前半～1780年代	4.6	3.2	75	67	
342	RG28掘出し	陶器 蓋・ロクロ	皿	日	拓繪図処理			76	67	
343	A調査区243G1層	磁器 皿	上半露筋、露筋および下半		胎土灰色	4.2	8.0	75	67	
344	A調査区243G1層	磁器 象付・大入			肥前産、19世紀初葉～幕末	4.1	8.0	75	67	
345	A調査区243G1層	陶器			近世以降			80	-	
346	A調査区243G1層	磁器			近世以降			80	-	
347	A調査区243G1層	陶器 甕			肥前産、18世紀後半～19世紀初葉			80	-	
348	A調査区243G1層	陶器			近世以降			80	-	
349	A調査区243G1層	陶器 甕	鉄輪	鉄輪	胎土灰白色、畳付け露筋	4.6	4.1	75	67	
350	A調査区243G1層	磁器 象付・蓋	草花文		肥前産、18世紀前半～幕末	4.2	8.2	75	67	
351	A調査区243G1層	磁器 象付・甕口			肥前産、18世紀中葉～末葉			80	-	
352	A調査区243G1層	磁器 象付・甕	透明釉、露筋	透明釉	肥前産、17世紀後半～18世紀前半	4.6	5.0	75	67	
353	RD02掘出し	陶器 甕	埴輪	ハケメ		4.4	11.0	76	67	
354	A調査区243G1層	陶器						80	-	
355	A調査区243G1層	陶器 陶器			肥前系、18世紀代	4.6	11.0	75	67	
356	A調査区243G1層	陶器 握り鉢	鉄輪	鉄輪、御目	近世以降			80	-	
357	A調査区243G1層	磁器 留形・有輪			張佐見系、18世紀代	4.5	13.1	76	67	
358	A調査区243G1層	磁器 象付・甕			肥前産、18世紀～1780年代			80	-	

No	出土地点・層位	種 器 種	外面	内面	備考	質量 (cm)		写真・図版	
						器高	口径	図版	図版
359	A調査区Ⅱ区Ⅰ	陶器 甕		脚目	粘土黄褐色、黒粘赤切り無調整	41.3	7.8	76	67
360	A調査区Ⅱ区Ⅰ	磁器 象付・皿		黒線、見込み風景文	肥前産、18世紀前半—1780年代	41.1	5.0	76	67
361	A調査区Ⅱ区Ⅰ	陶器 碗			粗馬			80	-
362	A調査区Ⅱ区Ⅰ	磁器 象付・皿		蛇の目大雲高台	肥前産、1780—19世紀前半	41.0	8.8	76	68
363	A調査区Ⅱ区Ⅰ	陶器 甕	鉄軸	雲輪、黒粘赤切り無調整	粘土黒褐色	43.8	10.8	76	68
364	B調査区ⅠⅠ区Ⅰ	磁器 象付・碗	高台縁、大明年製の厚し		肥前産、18世紀前半—1780年代	42.1	2.8	76	68
365	B調査区ⅠⅠ区Ⅰ	磁器 象付・皿		黒線、文様	肥前産、18世紀前半—1780年代	42.5	5.6	76	68
366	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ下層	磁器 象付・鉢			肥前産、1820—1860年代	42.5	4.2	76	68
367	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ上層	磁器 象付・碗			肥前産、18世紀	42.7	8.4	76	68
368	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 帯り鉢	鉄軸	鉄軸、脚目	粘土灰褐色			80	-
369	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・碗	草花文		肥前産、1770—1810年代	43.1	9.2	76	68
370	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 甕			近代以降			80	-
371	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・蓋物			肥前産、17世紀末葉—18世紀初葉	43.3	5.9	76	68
372	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 甕	鉄軸	鉄軸	19世紀以降			81	-
373	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 甕			近代以降			81	-
374	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 甕						81	-
375	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・碗			肥前産、18世紀前半—1780年代			81	-
376	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 碗			近代以降			81	-
377	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 碗			粗馬			81	-
378	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 碗	鉄軸	鉄軸	粘土灰色			81	-
379	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・楕口			肥前産、18世紀前半—1780年代	42.2	4.4	76	68
380	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 碗			粗馬			81	-
381	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 陶胎象付	唐草文様		肥前産、18世紀前半			81	-
382	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 甕			19世紀以降			81	-
383	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 碗			粗馬			81	-
384	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 甕						81	-
385	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・碗	矢羽文		肥前産、1770—1810年代	44.5	8.2	76	68
386	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・碗			肥前産、18世紀前半—1780年代	44.2	10.4	76	68
387	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 碗			粗馬			81	67
388	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 甕			粗馬			81	-
389	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・碗			肥前産、18世紀前半—1780年代			81	-
390	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 火入れ			肥前産、16世紀—幕末			81	-
391	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・碗			肥前産、18世紀後半—19世紀初葉			81	-
392	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 碗			肥前系、18世紀中葉—19世紀初葉			81	-
393	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・楕口			肥前系、18世紀後半—19世紀初葉			81	-
394	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・碗			肥前産、18世紀後半			81	-
395	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 碗			東北産、19世紀以降			81	-
396	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・碗	高台縁燕	二重雲線、見込A見文	粘土灰色、肥前産、18世紀後半—1810年代	44.0	3.7	77	68
397	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 甕						81	-
398	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 甕						81	-
399	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 甕						81	-
400	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・碗			肥前系、1820—1860年代			81	-
401	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 甕						81	-
402	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	陶器 火入れ陶器	灰輪	灰輪	粘土黄褐色、黒粘赤切り、粘土黄褐色	5.4	6.4	77	68
403	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 象付・蓋物			肥前産、1780—1840年代、広車型	41.8	10.8	76	-
404	B調査区ⅡⅡ区Ⅰ	磁器 碗			近代以降			81	-

No	出土地点、层位	器 器 名	外面	内面	编号	量量(cm)		写真	实测
						器高	口径		
405	C 調査区19G I 層	磁器 碗付、小杯			肥前産、1780-1780年代			81	-
406	C 調査区19G I 層	陶器			近代以降			81	-
407	C 調査区19G I 層	磁器 陶胎染付		内面無釉	肥前産、18世紀前半			81	-
408	C 調査区19G I 層	陶器 陶胎染付、土皿			近代以降			81	-
409	C 調査区19G I 層	磁器 碗付、碗		見込A文様	瀬戸・美濃系、1820-幕末	42.6	3.8	76	68
410	C 調査区19G I 層	陶器 碗			相馬、19世紀代			81	-
411	C 調査区19G I 層	磁器			近代以降			81	-
412	C 調査区19G I 層	陶器 碗			相馬			81	-
413	C 調査区19G I 層	陶器 碗	透明釉	透明釉	相馬			81	-
414	C 調査区19G I 層	陶器			京焼系属、肥前、18世紀代			81	-
415	C 調査区19G I 層	陶器 釜			近代以降			81	-
416	C 調査区19G I 層	陶器 碗			東北産、19世紀以降			81	-
417	C 調査区19G I 層	陶器 鉢			近代以降			82	-
418	C 調査区19G I 層	磁器 水漬?			近代以降			82	-
419	C 調査区19G I 層	陶器 陶器、大皿			唐津産、17世紀後半-18世紀中葉			82	-
420	C 調査区19G I 層	磁器 染付、瓶		無釉	胎土白、肥前産、18世紀代	43.7	5.0	77	68
421	C 調査区19G I 層	陶器 釜		灰釉	胎土黄褐色			82	-
422	C 調査区19G I 層	陶器 釜	鉄釉	鉄釉	近代以降			82	-
423	C 調査区19G I 層	磁器 栴蓆			近代以降			82	-
424	C 調査区19G I 層	陶器			近代以降			82	-
425	C 調査区19G I 層	磁器 缸皿			肥前産			82	-
426	C 調査区19G I 層	磁器 皿			近代以降			82	-
427	C 調査区19G I 層	磁器 皿			近代以降			82	-
428	C 調査区19G I 層	磁器 碗	透明釉	透明釉	胎土淡黄色、大塚相馬	42.0	4.8	76	68
429	C 調査区19G I 層	磁器 碗			近代以降			82	-
430	C 調査区19G I 層	磁器				41.2		77	68
431	C 調査区19G I 層	磁器 磁器、皿			肥前産、19世紀初葉-幕末			82	-
432	C 調査区19G I 層	磁器 皿?			近代以降	2.0	13.6	6.5	82
433	C 調査区19G I 層	磁器 碗付、皿			肥前産、18世紀前半-1780年代			82	-
434	C 調査区19G I 層	磁器 磁器、碗			肥前産、19世紀初葉-1860年代			82	-
435	C 調査区19G I 層	磁器 碗			近代以降			82	-
436	C 調査区19G I 層	磁器 皿			近代以降			82	-
437	C 調査区19G I 層	磁器 釜	鉄釉	鉄釉	胎土黒褐色、東北産(白替系)	42.2	11.2	77	68
438	C 調査区19G I 層	磁器 皿			近代以降			82	-
439	C 調査区19G I 層	陶器	内面無釉					82	-
440	C 調査区19G I 層	陶器 土皿			相馬19世紀以降			82	-
441	C 調査区19G I 層	陶器 行平	鉄釉	鉄釉	近代以降			82	-
442	C 調査区19G I 層	不明						82	-
443	C 調査区19G I 層	陶器 釜			東北産、19世紀以降			82	-
444	C 調査区19G I 層	磁器 碗			近代以降			82	-
445	C 調査区19G I 層	磁器 碗付			肥前産、18世紀後半			82	-
446	C 調査区19G I 層	陶器 碗	透明釉	透明釉	京焼系属陶器、肥前、18世紀以降			82	-
447	C 調査区19G I 層	磁器 碗			肥前系属東北、1820-1860年代、広東製			82	-
448	C 調査区19G I 層	磁器 釜	透明釉	透明釉	胎土黄褐色	44.2	9.0	77	68
449	C 調査区19G I 層	磁器 碗付、碗			肥前産、18世紀前半-1780年代			82	-
450	C 調査区19G I 層	陶器 碗	鉄釉	灰釉	胎土灰白、大塚相馬	44.3	8.2	77	68

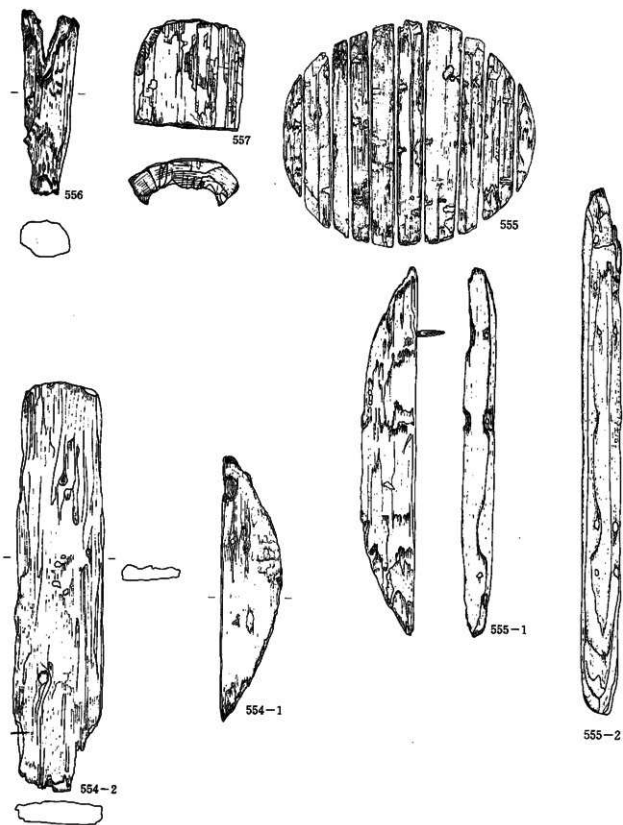
No	出土地点・層位	種 器 種	外面	内面	備考	法量 (cm)		写真 実測
						器高	口径/底径	
451	C調査区1W I層	磁器 納子			近代以降			82 -
452	C調査区1W I層	磁器 皿			近代以降			82 -
453	C調査区1W I層	陶器			近代以降			82 -
454	C調査区1W I層	磁器			関西系(東)東北、1830年代-1860年代			82 -
455	C調査区1W I層	磁器 碗			近畿系(東)東北、1820-1860年代、広東系			82 -
456	C調査区1W I層	磁器 水盥			肥前産、白磁?、器形不明、18世紀-享和			82 -
457	C調査区1W I層	磁器 染付			肥前産、18世紀-19世紀初期			82 -
458	C調査区1W I層	陶器 碗	透明釉	透明釉	近代以降			82 -
459	C調査区1W I層	磁器 皿			近代以降			82 -
460	C調査区1W I層	磁器 染付・碗			肥前産、18世紀代	42.9	8.0	77 68
461	C調査区1W I層	磁器 染付			肥前産、18世紀代、漆器系			82 -
462	C調査区1W I層	磁器 磁器・碗			肥前産、18世紀代			82 -
463	C調査区1W I層	陶器 すり鉢	鉄輪	脚目	胎土黄褐色	41.2	34.8	77 69
464	C調査区1W I層	陶器			近代以降			82 -
465	C調査区1W I層	陶器 すり鉢	鉄輪	脚目	胎土黄褐色、東北産、近代以降			82 -
466	C調査区1W攪乱	陶器 碗		楕円				82 -
467	C調査区1W攪乱	磁器 染付・碗口			肥前産、18世紀前半-1780年代			82 -
468	C調査区1W攪乱	磁器 磁器・碗			肥前産、1780-1810年代	43.9	10.4	77 69
469	C調査区2W I層	陶器 器	鉄輪、陶輪	鉄輪、陶輪	東北産、19世紀以降			83 -
470	C調査区2W I層	陶器			瀬戸・美濃系			83 -
471	C調査区2W I層	磁器 染付・碗			肥前産、18世紀代			83 -
472	C調査区2W I層	磁器 染付・碗			肥前産、18世紀前半-1780年代	42.8	11.2	77 69
473	C調査区2W I層	磁器 染付・碗	埋藏物	四方博文	肥前産、18世紀後半	44.7	11.2	77 69
474	C調査区2W I層	磁器 染付・碗	埋藏物	見込み松竹梅	肥前産、19世紀後半	2.7	10.6	77 69
475	C調査区2W I層	磁器 碗			近代以降			83 -
476	C調査区2W I層	磁器 碗・碗	竹履り文様		肥前産、1780-1810年代	44.1	8.8	77 69
477	C調査区2W I層	陶器						83 -
478	C調査区2W I層	陶器 片口鉢	鉄輪	鉄輪	胎土黄褐色	45.5	17.7	77 69
479	C調査区2W I層	陶器 白磁?			肥前産、18世紀後半-19世紀初期			83 -
480	C調査区2W I層	磁器			近代	42.8	3.4	77 69
481	C調査区2W I層	磁器 染付・皿			肥前産、18世紀前半-1780年代			83 -
482	C調査区2W I層	磁器 染付・碗	四方文	埋藏	肥前産、1770-1810年代	5.0	9.5	3.5 78 69
483	C調査区2W I層	陶器						83 -
484	C調査区2W I層	磁器 染付・皿	見込みの目物売げ		肥前産、18世紀中葉-18世紀末葉	42.9	12.8	78 69
485	C調査区2W I層	陶器 すり鉢	陶輪	脚目	近代以降			83 -
486	C調査区2W I層	磁器 白磁・碗			肥前系、18世紀代	6.5	16.6	5.6 78 69
487	C調査区2W I層	磁器 白磁?			肥前産、18世紀代			83 -
488	C調査区2W I層	磁器 染付・皿	透明釉、高台内敷輪	透明釉、見込みの目物売げ	放任見果、18世紀代	41.9	4.0	78 69
489	C調査区2W I層	磁器 碗			近代以降			83 -
490	C調査区2W I層	陶器 大丸口鉢	口縁部鉄輪、透明釉	鉄輪	胎土黄褐色、近代、口唇部鉄輪の割落	46.8	18.3	78 69
491	C調査区2W I層	陶器 すり鉢	鉄輪	鉄輪	胎土黄褐色、東北産	45.0	30.5	78 69
492	C調査区2W I層	陶器 碗	灰輪	灰輪	胎土灰白、外面高台内敷輪、大瀬組馬	44.0	3.6	78 69
493	C調査区2W I層	陶器 碗			相馬、18世紀-19世紀代			83 -
494	C調査区2W I層	陶器 碗	透明釉	透明釉	胎土黄褐色、大瀬組馬	44.0	4.8	78 69
495	C調査区2W I層	陶器 すり鉢	鉄輪	鉄輪	胎土黄褐色、東北産	44.9	31.0	78 70
496	C調査区2W I層	陶器 碗	鉄輪、かきめ	灰輪	胎土灰色、大瀬組馬	42.1	4.6	78 70

No	出土地点・层位	器 器 種	外面	内面	備考	法量 (cm)		写真 実測 四角 因取
						器高	口径	
487	C調査区28G I層	磁器 灰付・黄			肥前産、18世紀後半～19世紀初頭	42.0	3.2	79 70
488	C調査区28G I層	陶器 黄	端輪、かきめ		胎土灰白、大堀相馬	49.55	4.2	78 70
489	C調査区28G I層	磁器 灰付・黄			肥前産、18世紀前半～1780年代			83 -
501	C調査区28G I層	磁器 灰付・黄	草花文		肥前産、18世紀前半～1780年代	44.0	5.8	78 70
502	C調査区28G I層	陶器 滑り鉢	鉄輪	鉄輪	胎土黄褐色、高台内割印	44.8	15.6	8.0 79 70
503	C調査区28G I層	磁器 灰付			瀬戸・美濃系、1820～幕末			83 -
504	E調査区38G I層	磁器			近代以降			83 -
505	E調査区38G I層	磁器 灰付			瀬戸・美濃系、1820～幕末			83 -
506	E調査区38G I層	磁器 灰付			瀬戸・美濃系、1820～幕末			83 -
507	E調査区38G I層	磁器 磁器・皿			瀬戸・美濃系、1820～幕末			83 -
508	E調査区38G I層	磁器 磁器・皿			肥前産、19世紀初頭～幕末			83 -
509	E調査区38G I層	磁器 黄			肥前系(東北産)、1820～1840年代			83 -
510	E調査区38G I層	磁器 灰付・黄			近代以降			83 -
511	E調査区38G I層	磁器 灰付・黄	梅樹文		肥前産、18世紀前半～18世紀中葉	44.2	9.8	78 70
512	E調査区38G I層	陶器 黄	灰輪	横位白線		43.9	9.0	78 70
513	E調査区38G I層	陶器						83 -
514	E調査区38G I層	磁器 灰付・黄物	口唇部輪壳??		肥前産、18世紀代			83 -
518	E調査区38G I層	磁器			肥前産、1770～1810年代	41.9	3.0	78 70
516	E調査区38G I層	磁器 磁器・皿			瀬戸・美濃系、1820～幕末			83 -
517	E調査区38G I層	磁器 灰付・赤	文様	西方文字	肥前産、18世紀後半	43.3	18.4	79 70
518	E調査区38G I層	磁器 皿			肥前産、18世紀代			83 -
519	E調査区38G I層	磁器 灰付・皿			肥前産、18世紀以降			83 -
520	F調査区11G II層	磁器 皿			近代以降			83 -
521	F調査区11G II層	陶器 磁器・火入れ			肥前産、19世紀初頭～幕末			83 -
522	F調査区11G II層	陶器			東北産、19世紀以降			83 -
523	F調査区11G II層	磁器 黄磁			19世紀以降			83 -
524	F調査区11G II層	磁器 灰付・黄	草花文		胎土白色、肥前産、18世紀～1780年代	42.8	3.8	79 70
525	G調査区11G I層	陶器 黄	鉄輪、楊輪	楊輪	胎土黒褐色、東北産(白岩系)	43.5	14.2	79 70
526	H調査区27G I層	陶器 皿			瀬戸・美濃系、18世紀代			83 -
527	H調査区27G I層	磁器 灰付・黄			肥前産、18世紀～1780年代			83 -
528	H調査区28G I層	磁器 灰付・紫I			肥前産、18世紀～1780年代	41.4	8.0	79 70
529	H調査区28G I層	磁器 灰付・黄			肥前産、18世紀～1780年代			83 -
530	H調査区28G I層	青磁 皿			肥前産			83 -
531	H調査区28G I層	磁器			近代以降			83 -
532	H調査区28G I層	陶器 黄			肥前産、17世紀後半～18世紀前半			83 -
833	H調査区28G I層	磁器 白磁・紅藍			肥前産、18世紀代	41.2	4.8	79 -
534	H調査区28G I層	磁器 灰付						83 -
535	H調査区28G I層	陶器	端輪	端輪	近代以降			83 -
536	H調査区28G I層	陶器			近代以降			83 -
537	H調査区27G I層	磁器 白磁(黄)灰付	透明釉	透明釉	肥前産、17世紀後半～18世紀前半	43.2	21.2	79 70
538	H調査区27G I層	磁器 灰付・黄	黒線	黒線、見込み有り不明	肥前産、18世紀前半～18世紀中葉	42.4	8.0	79 70
539	不明	磁器 灰付・黄	文様	黒線、見込み有り不明	肥前産、18世紀後半	43.7	5.0	79 70
540	不明	磁器 黄	鉄輪、灰輪	灰輪	胎土黒褐色			83 -
541	不明	磁器 灰付・皿			肥前産、18世紀前半～1780年代	43.2	23.0	79 70
542	不明	#92 白磁版				5.7	1.1	1.8 79 70

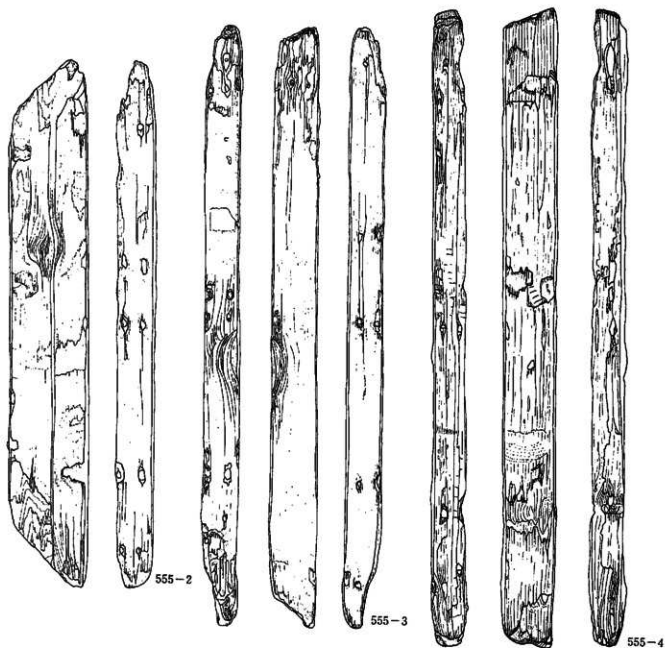


No.	出土地点・層位	種類	名称	時代	制作年	直径 (mm)	重量 (g)	幣	考	写真掲載
543	京都府上	銭貨	寛永通寶	江戸	1610	2.4	2.99	古裏水銭		25
544	京都府上	銭貨	寛永通寶	江戸	1610	2.4	2.95	古裏水銭		25
545	京都府上	銭貨	不詳			2.2	1.30			25
546	京都府上	銭貨	朝野通寶	李氏朝鮮	1453	2.3	3.47	李氏朝鮮		25
547	京都府上	銭貨	永樂通寶	明	1408	3.1	2.36			25
548	京都府上	銭貨	元豊通寶	北宋		2.3	1.91			25
549	京都府上	銭貨	寛永通寶	江戸	1610	2.4	2.36	古裏水銭		25
550	京都府上	銭貨	不詳			2.0	0.47			25
551	京都府上	銭貨	寛永通寶	江戸		2.3	2.07			25
552	京都府上	銭貨	不詳			2.4	1.41			25
553	京都府上	銭貨	寛永通寶	江戸	1610	2.2	1.32	新裏水銭		25

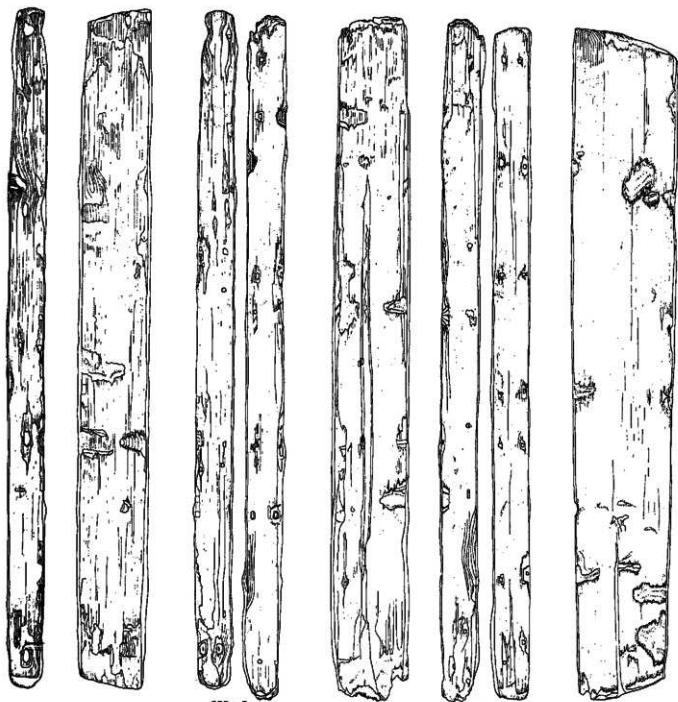
第71図 銭貨



第72図 木製品(1)



第72図 木製品(2)

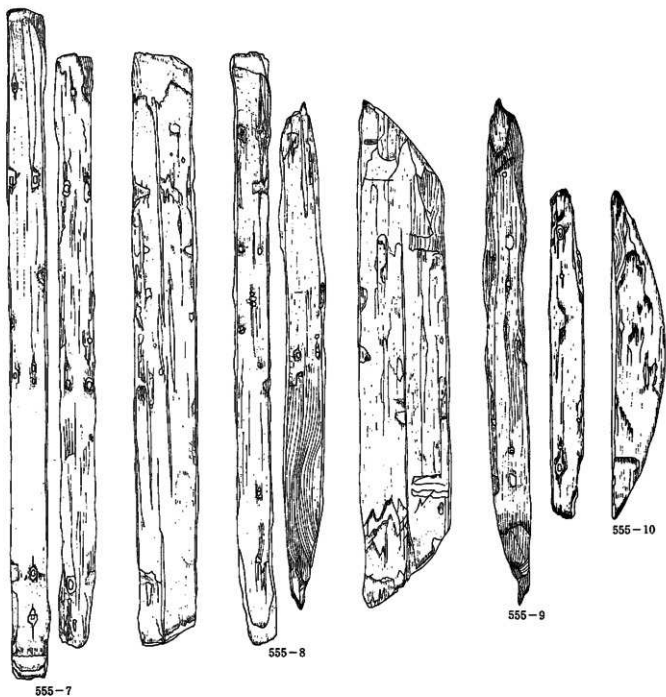


555-5

555-6



第73図 木製品(1)



第73図 木製品(2)

V. まとめ

1. 遺物について

(1) 平安時代の土器について

今回の調査で本遺跡から出土した土器は、甕形土器の一部を除き成形にロクロを使用した土器群が主体である。器種では坏・高台坏坏・壺・罎(鉢)・壺などが出土している。土器の分類にあたっては従来の土師器・須恵器の枠を取り除き、製品として最終的な結果が酸化炎焼成か還元炎焼成のいずれを意図して製作したか、成形の際にロクロを使用したか否かを主眼として行った。特に量的に多く出土している坏形土器のなかに「須恵系土器」・「土師質土器」・「赤焼き土器」・「あかやき土器」などといわれるものが多く見られる。これらのなかには前述の土器の概念規定から逸脱する土器も認められることから、分類にあたってはこの点にあまり拘泥しなかった。還元炎焼成の土器としたものはほぼ従来の須恵器の概念で理解されるものであり、それ以外のものについては酸化炎焼成の土器として把握した。坏類については全体の形状が明かなものを対象にして行ったが、他の器種については全体の形状が明かなものが少なく、部分の形状などから類推を行ったものもある。

土器の分類

1. 坏形土器

焼成技法と土器内面へのヘラミガキ・黒色処理の有無により、以下の3類に分類した。さらに分類の下位項目として、ロクロ回転台から器物を取り去る際の底部切り離し技法、外面の調整方法により細分した。特に、B類については体部の形状も加味した。これら複数の分類項目を組み合わせて記号で表現した。

〈焼成状態〉

A類…ロクロにより成形され、内面ヘラミガキ調整と黒色処理が施された酸化炎焼成の坏。

B類…ロクロにより成形された内面に黒色処理が施されない酸化炎焼成の坏。

C類…ロクロにより成形された還元炎焼成の坏。

〈底部切り離し技法〉

O…摩滅、欠損のため不明。

I…回転糸切り、再調整無し。

II…回転糸切り、再調整有り。

III…静止糸切り、再調整無し。

Iの回転糸切り無調整の技法はA・B・C類の各類に認められ、特にC類については絶てこの方法によるものである。IIについては少数例であるがA・B類に認められるが、よりA類に多く見られる技法である。IIIについては少数例であるがすべてA類に認められる技法である。

〈外面の調整方法〉

0…ロクロナデの痕跡のみで、なんの調整もみられないもの。

1…ヘラケズリ調整。多くは底部下端への手持ちヘラケズリ調整で、1点のみ回転ヘラケズリ調整の認められるものがある。

2…ヘラミガキ調整が施されるもの。

3…ヘラミガキ調整後に黒色処理が施されるもの。

体部下半から底部外端にかけてヘラケズリ調整されるものはB類に比較してA類に多く認められ、このような手法は酸化炎焼成内黒坏に係わる要素と考えられる。

〈体側部の状況〉

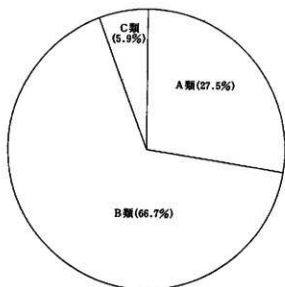
- a…体側部が直線的に立ち上がるもの。
- b…体側部下半に膨らみをもち口縁部が内湾するもの。
- c…体側部下半に膨らみをもち口縁部に向かい緩やかに立ち上がるもの。坏A類に形状・法量的に近い。
- d…底部から体側部→口縁部に向かい直線的に外傾しているもの。一般に外傾角度小さく、器高の低い体部の開きの大きいもの該当する。
- e…d類に近いが、d類に比較して器高が高く外傾角度が大きいもの。
- a・b・d・eの要素は主に坏B類にみられ、特にd・eについてはB類に限定して見られるようである。
- cの要素はおもに坏A類に一般的でありA類とCの要素を持つ坏B類は類似している。

・今回の調査で出土した坏形土器で図化できたものは222点、内訳はA類の酸化炎焼成内黒坏61点(27.5%)、B類の酸化炎焼成非内黒坏148点(66.7%)、C類の還元炎焼成坏13点(5.9%)で約7割がB類土器で占められておりこの構成比率はA類：B類：C類＝4：10：1という値を示している。この構成比率は破片資料を含めた操作でもほぼ近似した値を示している。

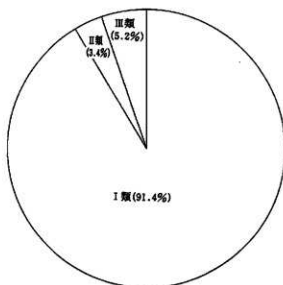
・成形には全てロクロが使用されており、非ロクロ成形のものは1点も含まれていない。

・底部の切り離し技法は回転糸切り技法と静止糸切り技法が認められ、回転ヘラ切り技法のものは1点も認められなかった。回転糸切り技法の一部に再調整をおこなったものが認められる。底部の切り離し方法の観察可能なものはA類44個体、B類123個体、C類7個体でその内訳はグラフに示した通りである。回転糸切り無調整のものが全体の9割以上をしめている。特に坏B類のほぼ97%がこの技法に依っており、回転糸切りで再調整の施されないことは坏B類を特徴づける主要素と考えられる。回転糸切りで再調整の見られるものは坏A類に認められることが多く、体部下端へのヘラケズリによる再調整と合わせ、より坏A類と関連する要素である。底部切り離しⅢ類とした静止糸切り無調整のものは坏A・B類に認められた。このような方法は他の遺跡でも類例が少なく、本遺跡でも出土範囲に地域的な片寄りが見られる。

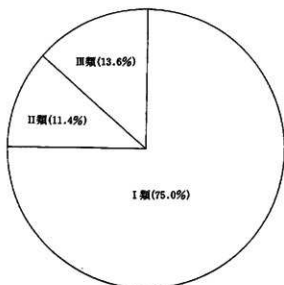
・法量で器高が高く身の深い外傾角度のきつい碗形のタイプは坏A類を特徴づけており、このような碗形のタイプは坏B類では口径14.5cmを越える大形のタイプに多い。1点であるがB類のなかに口径10cm以下の小皿に分類可能なものが出土している。この種の土器は坏B類のなかでも、口径が14.5cm以下・器高が5.5cm以下で外傾角度が小さく口縁部の大きく開く小振り系統のB10d・e類や以下に述べる酸化炎焼成無調整の「ハ」の字高台坏とともに出土している。坏B類タイプは大形タイプと中・小形タイプでは胎土・焼成・色調に違いが認められる。大形タイプは色調が赤褐色～橙色で胎土に砂を多く含み、焼成も不良で器壁薄く非常に脆弱な土器が多い、これに対し中・小形のタイプはくすんだにぶい橙色系統の色調で胎土に金雲母を含むことが多く、きめのこまかい精選された土が使用されており、焼成も良好なものが多く見受けられる。坏B類の遺構ごと・調査区ごとの出土状況には傾向性が指摘できそうである。大振りや胎土・焼成のよくないグループは今回の調査区の北東側のA調査区の各遺構から、小振りや焼成・胎土の良好なグループは調査区南西側のH・F調査区やRG10・RG27などの溝から出土している。



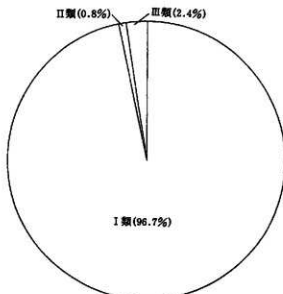
環型別組成



環型底部切り離し構成



環A類底部切り離し構成



環B類底部切り離し構成

2. 高台付坏形土器

D類…ロクロ成形で酸化炎焼成の高台付坏である。量的には非常に少なく、高台の種類と内面調整により細分した。内面に黒色処理が施されたものをD I類、施されないものをD II類とした。本遺跡では今回の調査で、脚の短い三角高台(a)、「ハ」の字高台(b)、脚の短い高台(c)、べた高台(d)が認められた。これらを組み合わせて分類をおこなった。

D I a…脚の短い三角高台が付き内面黒色処理が施されたロクロ成形で酸化炎焼成の高台付坏である。
(296)

D II b…「ハ」の字状の高台が付きロクロ成形で酸化炎焼成の高台付坏である。坏部の形状により部部が

大きく開くものDⅡb1(266・267)と直線的に外傾するものDⅡb2(169・581)が見られる。

坏部は高台部のほぼ2倍前後である。

DⅡc…脚の短い三角高台が付いたロクロ成形で酸化炎焼成非内黒の高台付坏である。(272)

DⅡd…充実した短い柱状の高台がついたロクロ成形の酸化炎焼成の高台付坏である。(273)

・高台付坏は量的に非常に少なく、器種組成の面からも主要な構成要素とはなっていない。ただし、酸化炎焼成非内黒無調整の「ハ」の字高台の付くDⅡb類はRG27溝から数点出土しており坏B類の小振り胎土・焼成良好なグループとともに出土している。

3. 甕形土器

E類…成形にロクロを使用した酸化炎焼成の甕である。口径15.0cm±、器高15.0cm±で大小に区分される。

小形の変類をEⅠ類、中・大形の変類をEⅡ類とする。さらにこれらは口縁部の形状により次のように細分した。

EⅠa…頸部に括れを持ち、短めに口縁部が外反するロクロ成形の小形甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。58・293

EⅠb…頸部に括れを持ち「く」の状に開く短めの口縁部で、口唇部が上方に突き出されているロクロ成形の小形甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみがみられる。

14・57・226・143・148

EⅡa1…頸部に括れを持ち、短めに口縁部が外反するロクロ成形の中・大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。口唇部が丸みをもつ例が多い。

65・44・311・62・145・61

EⅡa2…頸部に括れを持ち、長めの口縁部が外傾するロクロ成形の中・大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。150・36

EⅡb1…頸部に括れを持ち、「く」の状に開く短めの口縁部で口唇部が上方に突き出されているロクロ成形の中・大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。

37・146・13・177・63・153

EⅡb2…頸部に括れを持ち、「く」の状に開く短めの口縁部で口唇部が上方に突き出されることが少ないロクロ成形の中・大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。口唇部は還元炎焼成の甕や壺に類似し凹状・平坦となっている。

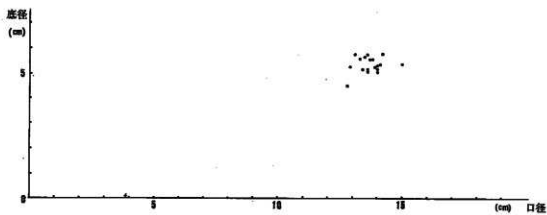
60・147・149・59・221・35

EⅠa類とした変類は一般に口唇部が丸みをもっており、これに対しEⅠb類の小形甕の口唇部は上方に引き出される形状を示すものが多い。

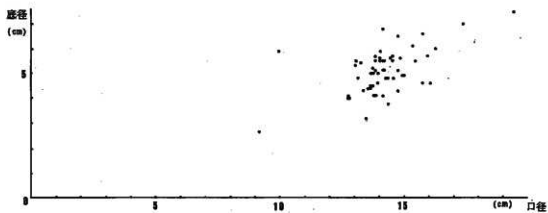
F類…成形にロクロを使用しない酸化炎焼成の甕である。口径15.0cm±、器高15.0cm±で大小に区分される。

小形の変類をFⅠ類、中・大形の変類をFⅡ類とする。さらにこれらは口縁部の形状により次のように細分した。

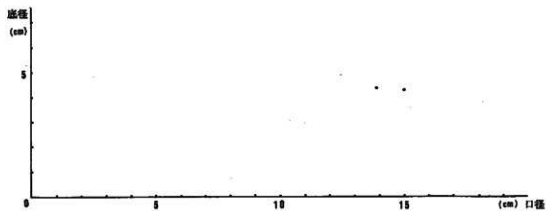
FⅠa…頸部に括れを持ち、長めの口縁部が緩やかに外反する非ロクロ成形小形甕である。外面の括れに対応する内面の稜は連続的で不明瞭である。152



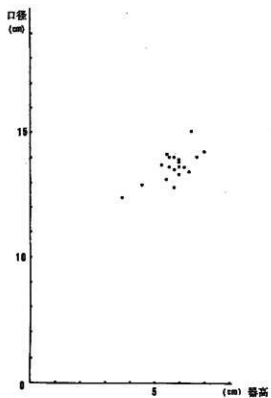
环 A 类 底径/口径分布



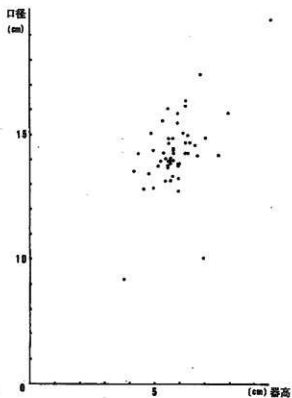
环 B 类 底径/口径分布



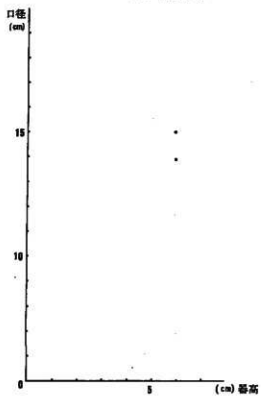
环 C 类 底径/口径分布



环A类 口径/器高分布



环B类 口径/器高分布



环C类 口径/器高分布

F I b…頸部に括れを持ち、短めに口縁部が外反する非ロクロ成形小形の甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。268

F II a…頸部に括れを持ち、長めの口縁部が強く外反する非ロクロ成形の大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。16

F II b…頸部に括れを持ち、短めの口縁部が強く外反する大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。17・18・38

内外面はヘラナデ・ヘラケズリ調整される場合が多く特に大形の甕に顕著である。

・酸化炎焼成の甕類にはロクロ成形（E類）・非ロクロ成形（F類）の二者が認められロクロ成形のものがやや多く存在する。

・相対的に甕類の絶対量は少ない。

・甕E類・F類とも小形、中・大形という器形分化が認められる。

・非ロクロ成形の甕F類は胎土に小礫を多量に含み、雑であるが焼成は比較的良好で硬質なものが多い。

・器形の大小、ロクロ成形・非ロクロ成形の如何を問わず甕類の多くは頸部に括れを持ち、「く」の字状に外反するものである。

・非ロクロ成形の甕F類は口縁部の長短にやや差異が見られるが全てこのタイプで占められており、口唇部も丸みを持つタイプである。これに対し甕E類では口縁部が「く」の字状のもの他に口縁部を「く」の字状に屈曲させさらに口唇部を上方に引き出すタイプが見られる。

・調整技法では甕E I類としたロクロ成形の小形甕にはロクロ成形後調整が加えられることは少なく、調整が見られる場合は幅の広い工具によるナデ様のヘラケズリ調整が見られる。

・甕E II a1類としたロクロ成形で口縁部が屈曲するタイプは口縁部の形状が非ロクロ成形の甕F類に類似しており外面調整でこの類にかぎりタタキが体部上半に残る例が多い。E II a2類は「く」の字状の口縁部で口縁部が上方に引き出されるものであるが体部上半への調整は全くないものとヘラケズリ・ヘラナデ調整がほとんどされるものが見られる。

・非ロクロ成形の中・大形甕F II類は内外面にヘラナデ調整が施される場合が多い。

・底部に砂の付着した砂底土器が見られる。

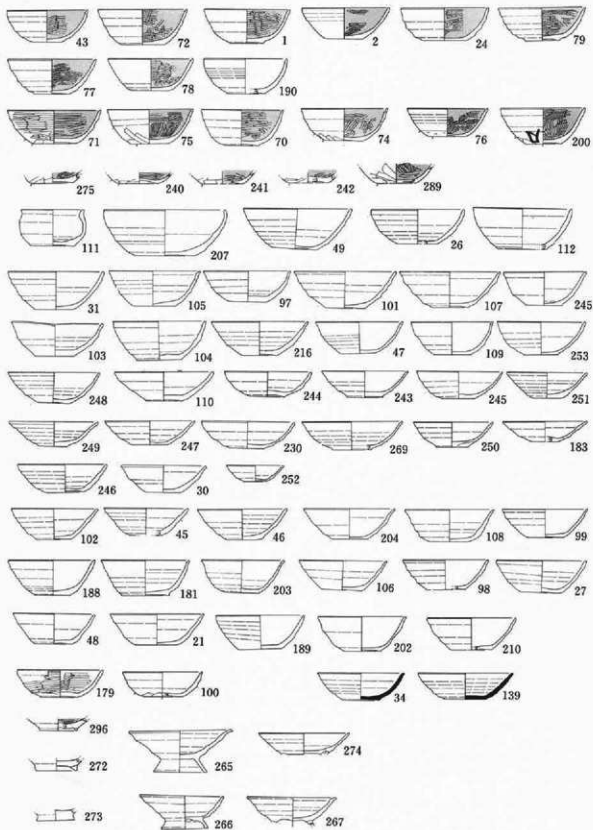
・還元炎焼成の大甕類は非常に少ない。容器としての機能を失い多くはカマドのそ袖の芯材として使用されている。

4. 鉢・壺形土器

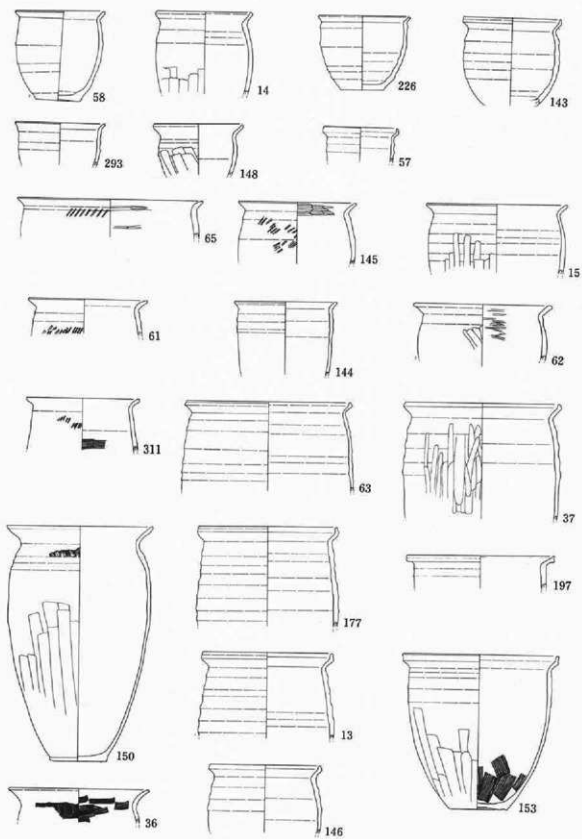
G類…壺としているが鉢あるいは壺に分類される可能性もある。ロクロ成形で酸化炎焼成である。5点とも図上復元のため計測値にはやや信頼性を欠くが口径30.0cm±のものと同口径40.0cm±に二分される。口径30cm±をG I類、口径40cm±をG II類とした。これらはさらに口縁部の形状により以下のように細分した。

G I a…口径30cm±で口縁部下に括れを持ち短い口縁部が外傾する一群。内面には括れに対応する稜が明瞭に認められる。163・162

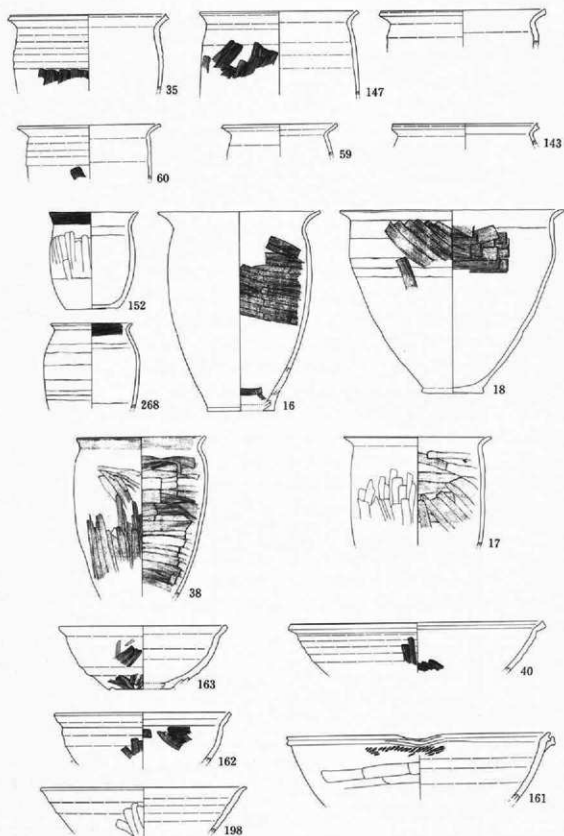
G I b…口径30cm±で口縁部下には括れが形成されず口縁部はそのまま直線的に外傾する一群。内面には稜は形成されていない。198



第74圖 土器分類圖(1)



第75图 土器分類图(2)



第76图 土器分類图(3)

GⅡa…口径40cm±で口縁部下に括れを持ち短い口縁部が外傾する一群。内面には括れに対応する稜が形成されている。40・161

- ・埴G類は厚手で胎土に小礫を多量に含み、雑であるが焼成は比較的良好である。
- ・すべてロクロ成形である。
- ・大きくは2種類の器形分化が見られる。
- ・調整技法としては内面ヘラナデ、外面ヘラナデ・ヘラケズリ調整が施される。一部にタタキの残る例も見られる。

各遺構における土器群の構成

ここでは比較的多数個体を出土している遺構についてその構成等について触れる。

〈RA01 竪穴住居跡〉

坏類ではA・B・Cの各類が出土している。坏C類の還元炎焼成の坏については混入の可能性も考えられる。A類の坏では底部は回転糸切り無調整のものであり、B類よりも個体数では卓越している。三者の構成比率はA類58%・B類25%・C類17%である。壺類ではロクロ成形の小形壺、中・大形壺、非ロクロ使用の大形壺で構成されている。ロクロ成形の壺では外面体部の上半から下半にかけてヘラケズリ調整が見られる。これに対し非ロクロ成形の壺は内外面にナデ調整を施す場合が多く、口縁部は強く屈曲し口唇部は丸みをもっている。このような構成に回転糸切り無調整でロクロ成形の小形の壺が加わる。

〈RA03 竪穴住居跡〉

坏類ではA類2個体(18.2%)、B類8個体(72.7%)、C類1個体(9.1%)で構成されている。底部の観察では全て回転糸切り無調整である。B類の坏では口径が15cm±比較的大振りのものが見られる。壺ではヘラナデ調整のある中・大形のロクロ成形、非ロクロ成形のものが見られ両者とも小形のものが欠落している。これに還元炎焼成の長頸壺を模したと思われる外面ヘラミガキ・黒色処理の壺、ロクロ成形の大形の壺が加わって構成されている。

〈RA05 竪穴住居跡〉

坏類ではA類2個体(14.3%)、B類12個体(85.7%)、C類0個体(0%)で構成されている。底部の観察では全て回転糸切り無調整である。壺類では酸化炎焼成でロクロ成形の小形壺、ロクロ成形の中・大形壺で主に構成されており、非ロクロ成形のものは少ない。外面調整では口縁部下にロクロ整形以前の叩き目が認められる例がある。これに還元炎焼成の壺と大壺、酸化炎焼成内黒の鉢が加味される。還元炎焼成の大壺については生活時の器としての機能を失いカマドの構築材等に使用されていたものである。また、砂の付着した砂底土器の壺の底部が出土している。

〈RA06 竪穴住居跡〉

流れ込みの個体も含むが坏類ではA類26個体(35.6%)、B類43個体(58.9%)、C類4個体(5.5%)で構成されている。また、カマド右袖脇の貯蔵穴内での構成はA類8個体(33.3%)、B類16個体(66.7%)、C類0個体(0%)であり、流れ込みと思われるC類を除いた場合のA(37.7%)・B(62.3%)類の構成比率は非常に近似した値を示している。底部では回転糸切り無調整がほとんどであるが少数再調整が認められるものも存在する。また、体部下半から底部外端にかけてヘラケズリ調整をするものがA類に比較的多く認められる。壺類ではロクロ成形の小形壺、ロクロ成形の中・大形壺、非ロクロ成形の小形壺、内面ヘラミガキ黒色処理の鉢、ロクロ成形の小形・大形の壺、還元炎焼成の長頸壺で構成されている。壺類では底部

までの状況を知り得る資料が少なく全体の形状については不明な点が多い、しかし壺の体部下半の破片観察では外面に幅の広い工具により粗いヘラナデあるいはヘラケズリ調整されるものが多いようである。本遺構からは砂の付着の見られる砂底土器が大形の壺・鉢に認められた。

〈RB03掘立柱建物跡〉

全体を知り得るものはなかったが回転糸切り無調整、酸化炎焼成非内黒の坏B類が主体的に出土している。口縁部・底部破片との総計ではA類1個体(1.9%)、B類51個体(98.1%)と圧倒的にB類が占めており全て底部は回転糸切り無調整のものである。ここで見られる坏B類は底部下端に特徴があり、下端が緩やかに内側に入り込むものが多く見られる。

〈RE02竪穴状遺構〉

坏類ではA類3個体(25.0%)、B類9個体(75.0%)、C類0個体(0%)である。底部に再調整の見られるのはA類のみである。また、B類では比較的口径の大きいものが出土している。壺ではロクロ成形の中一大型の壺、ロクロ成形の壺が加味される。底部に砂の付着の見られる砂底土器も出土している。

〈RE03竪穴状遺構〉

坏類ではA類2個体(22.2%)、B類7個体(77.7%)、C類0個体(0%)である。底部に再調整の見られるのはA類に1点見られる。B類は総て回転糸切り無調整である。B類は大振りのもが多く内湾するタイプも存在する。これらに還元炎焼成の小形の壺がかわる。

〈RE06竪穴状遺構〉

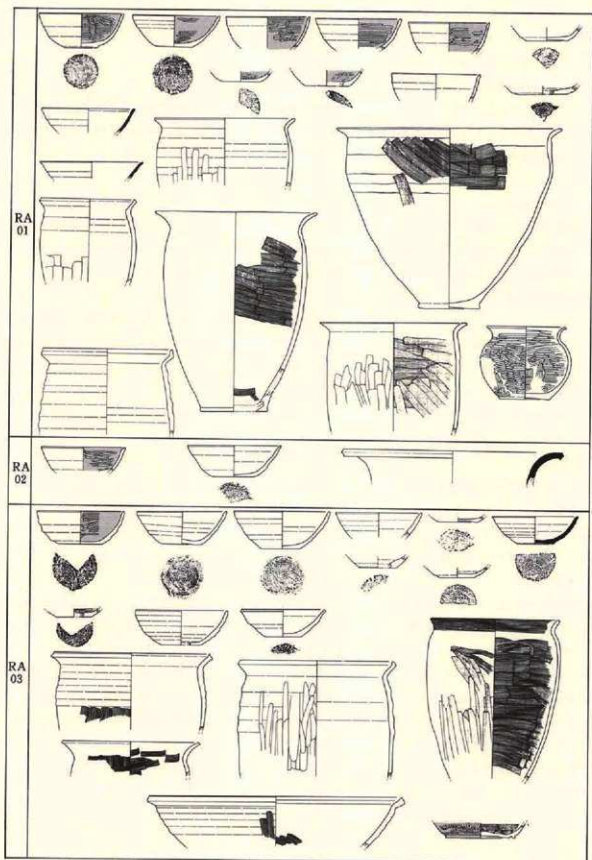
坏類ではA類5個体(83.3%)、B類1個体(16.7%)、C類0個体(0%)である。底部に再調整の見られるのはA類に1点存在する。

〈RG10溝跡〉

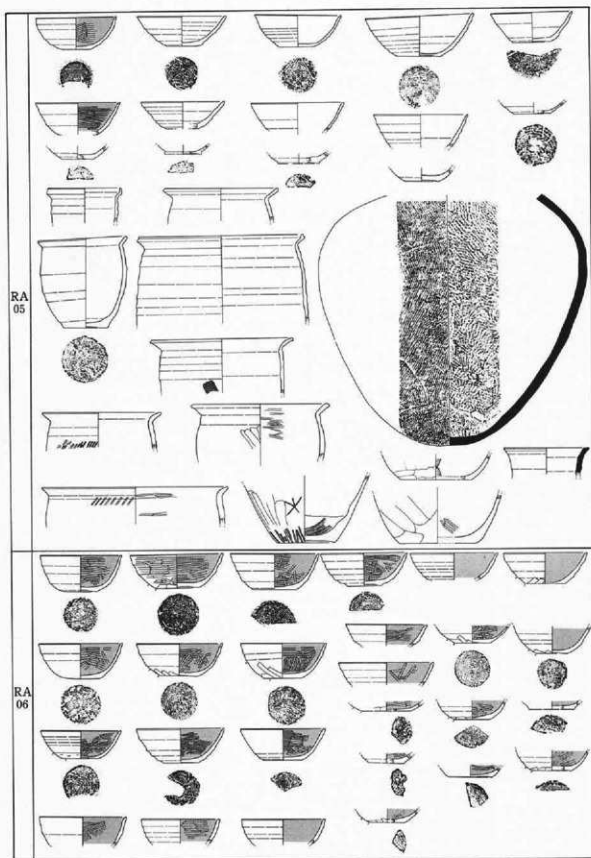
埋土中に灰白色火山灰が認められる溝である。土器は火山灰の上部より出土している。図化できたものは坏B類の6点である。これに破片を加えるとA類6個体(17.1%)、B類29個体(82.9%)という構成である。坏A・B類とも底部は総て回転糸切り無調整である。坏B類にはRG27溝出土の小振り焼成・胎土良好の酸化炎焼成非内黒のものが含まれる。

〈RG27溝跡〉

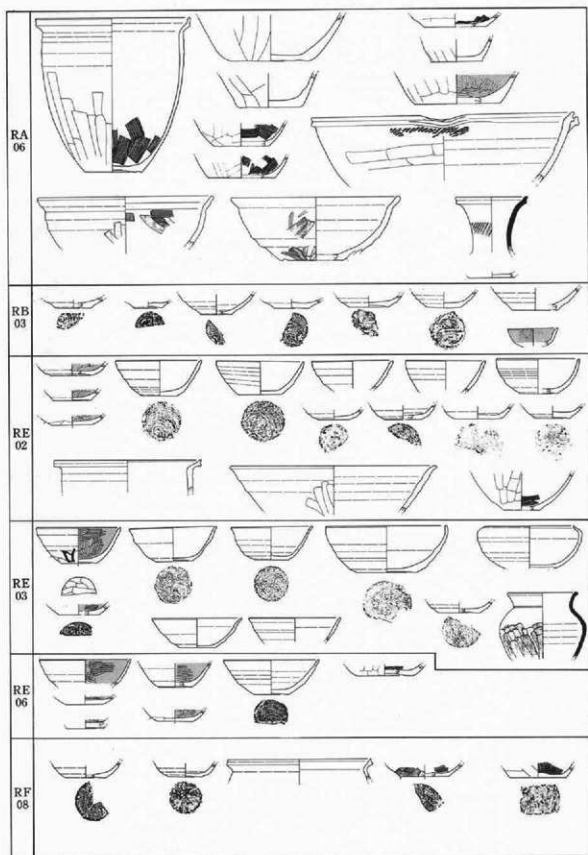
埋土中に灰白色火山灰が認められる溝である。土器は火山灰上部より主に出土している。これらについては流れ込みも考えられるが土器相互に比較的類似性が認められ、一括廃棄ないしは近い時間軸のなかに共存した可能性の高い土器群である。図化したものでは坏A類4個体(15.4%)、B類22個体(84.6%)これに破片資料を加えたものではA類43個体(21.5%)、B類157個体(78.5%)という構成である。A類で底部が観察できたものの多くは回転糸切り無調整であるが、他には見られない5個体の静止糸切り無調整のものを含んでいる。B類も多くは回転糸切り無調整であるが261のように静止糸切り無調整のものが1点存在する。これらに酸化炎焼成非内黒のハの字高台の坏が伴うものと思われる。図化した壺は非ロクロ成形のもの1点であるがこれは破片資料でも壺の破片はそれほど多くはなく、壺類が少ないこと自体がこの遺構ひいてはこの時期の特徴の一つとも考えられる。B類は焼成方法、薄い器壁、金雲母の含有、良質の胎土、少量(低い器高)、ロクロの凹凸が明瞭である共通性が見られる。



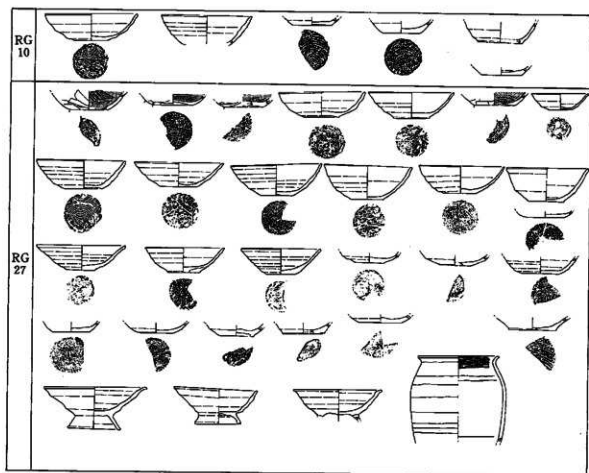
第77図 遺構別土器集成図(1)



第78図 遺構別土器集成図(2)



第80圖 遺構別土器集成圖(4)



第81圖 遺構別土器集成圖(5)

表 遺構部の土器構成

	坏A類			坏B類			坏C類			高台付坏D類				壺E類		壺F類		壺EF類砂流	壺G類
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	a	b	c	d	I	II	I	II		
RA01	○			○										○	○		○		
RA03	○			○				○							○		○		○
RA05	○			○										○	○			○	○
RA06	○	○		○	○			○						○	○	○	○	○	○
RB03				○															
RE02	○	○		○														○	○
RE03	○	○		○															
RE06	○	○																	○
RE08				○															○
RG03																			
RG10				○															
RG27			○				○	○				○					○		
RG28			○																

遺跡内における土器群の構成

今回の調査で上記のような土器群の構成がみられた。これらの土器群の年代観を明らかにしていくには絶対年代に迫る共伴遺物が必要であるが、本遺跡ではそのような遺物はなく、先学の研究成果や周辺地域での調査結果を参考にしておよその実年代に触れてみたい。

第Ⅰ期 RA01・03・04・05竪穴住居跡、RE02・03・06竪穴状遺構出土遺物

・坏類では主体をなすものは酸化炎焼成非内黒坏で、ついで再調整の見られる坏を含む酸化炎焼成内黒が少量加わり、還元炎焼成坏C類が僅少であるが認められる。底部の多くは回転糸切り無調整であるが坏A類に再調整が見られる。三者の構成比率や大振り坏B類の存在などから八木氏が示したⅢa期（八木：1989）、Ⅲ期（八木：1992）にはほぼ相当し、10世紀前半の年代観が妥当され、酸化炎焼成非内黒が急増し還元炎焼成坏類が激減する時期とされている。

・絶対量は少ないが壺類でもやはり還元炎焼成のものはほとんど含まれず、酸化炎焼成のものが主体である。口縁部の形状や小形壺にロクロ成形のものが多いこと、ヘラナデ・ヘラケズリが主要な調整技法であること、タキ調整が一部に残存することなどの特徴が10世紀前半段階とされていること、「く」の字状口縁部や口唇部を上方にひきだす壺類は9世紀後半から10世紀前半に認められること等々などから壺類については9世紀後半から10世紀前半代のなかに収まると考えられる。

・第Ⅰ期としたもは現段階では9世紀後半から10世紀前半代より9世紀後半代～10世紀初頭におさまるものと思われる。

第Ⅱ期 RB03掘立柱建物跡、RG10・RG27清跡出土遺物

・坏類では酸化炎焼成非内黒、底部回転糸切り無調整のものが主体でこれに少量の酸化炎焼成内黒のものが加わる。坏B類の酸化炎焼成非内黒の坏は第Ⅰ期に含まれる同種のものに比べ胎土・色調・焼成・法量で相異が見られ小型化の傾向が顕著される。現に小形のⅢに分類可能な土器も出土しており器形分化・法量変化の分岐点の時期と考えられる。八木氏の編年では10世紀中～後半段階のされているⅢc・Ⅲd期（八木：1989）、Ⅰ期（八木：1992）の土器群に類似した構成・特徴を示している。

・「ハ」の字高台の酸化炎焼成非内黒の高台付坏が伴う。やはりこの種の高台付坏Ⅲd期に認められること。
 ・壺類が極端にすくないこと、これは10世紀中葉～後半段階とされている。
 ・全体を知り得るものはなかったが、酸化炎焼成内黒の坏A類の共伴がすくないこと、坏A類のなかに底部

が静止糸切りのものが複数例認められる。静止糸切りは類例そのものが少なく淨法寺町飛鳥台地Ⅰ遺跡で複数例出土しており10世紀前半代とされている。特にこの報告書では系譜について大きな問題が残るとしている。

・RG27溝跡ではこれらの平安時代の土器が埋土中に見られる灰白色火山灰とそれほどのレベル差をもたない上位から出土しており、この火山灰が10世紀前半代の十和田a火山灰であるならば、ほぼこの時期周辺と想定される。

・上記の事実から第Ⅱ期とした一群は10世紀前半代から半ばの時期を想定しておきたい。

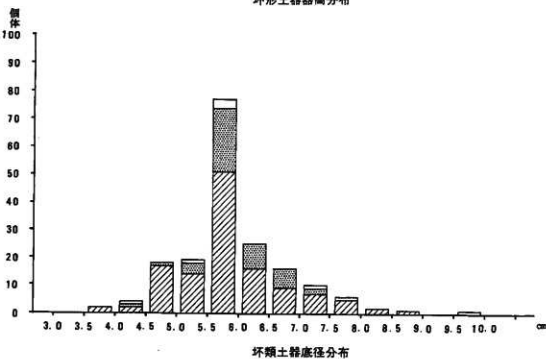
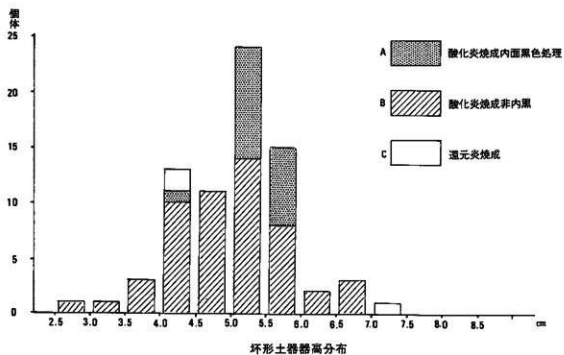
坏類計測表（全体）

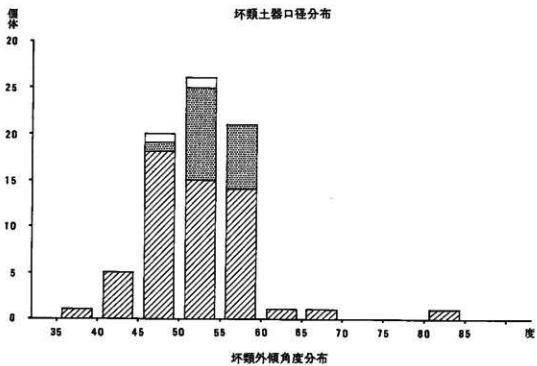
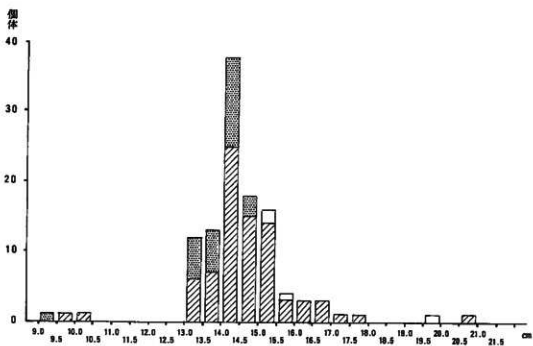
	器高				口径			底径				口径/底径			口径/器高			外傾 角度						
	全体	A類	B類	C類	全体	A類	B類	C類	全体	A類	B類	C類	全体	A類	B類	C類	全体	A類	B類	C類				
対象個体	115	18	54	2	113	31	74	8	182	48	127	7	73	18	53	2	74	18	54	2	76	18	56	2
最小値(cm)	2.7	4.5	2.7	4.3	9.2	12.6	9.2	13.0	3.8	4.5	3.8	4.4	1.4	2.0	1.4	2.3	1.7	2.3	1.7	3.2	36.0	46.0	36.0	45.5
平均	5.1	5.4	5.1	4.4	14.1	13.7	14.3	14.6	6.0	6.1	6.0	6.2	2.4	2.3	2.4	3.3	2.8	2.6	2.9	3.3	52.8	54.0	52.3	48.3
最大値(cm)	7.5	5.8	7.5	4.4	20.4	15.2	20.3	16.6	9.8	8.0	9.8	8.0	3.2	2.9	3.2	3.5	4.2	2.8	4.2	3.5	82.0	59.0	82.0	51.0

坏類計測表（遺物別）

	器高				口径			底径				口径/底径			口径/器高					
	RA03	RA05	RA06	RE03	RA03	RA05	RA06	RE03	RA03	RA05	RA06	RE03	RA03	RA05	RA06	RE03	RA03	RA05	RA06	RE03
対象個体	4	5	17	5	16	7	28	6	19	10	26	5	16	5	17	4	16	5	17	5
最小値(cm)	4.4	4.3	4.0	4.8	9.2	13.2	10.0	13.1	3.8	4.8	4.6	5.5	2.3	2.2	1.4	2.0	2.5	2.5	1.7	2.1
平均	5.4	5.4	5.3	6.0	13.2	14.5	14.1	15.1	6.4	5.7	6.2	6.6	3.2	2.6	2.3	2.4	3.7	2.8	2.7	2.5
最大値(cm)	6.1	7.0	6.6	7.5	14.8	17.4	20.3	19.5	21.0	6.9	8.0	9.8	12.0	2.9	2.9	2.6	12.0	3.1	3.4	3.0

	器高			口径			底径			口径/底径			口径/器高		
	RG10	RG27	CA59	RG10	RG27	CA59	RG10	RG27	CA59	RG10	RG27	CA59	RG10	RG27	CA59
対象個体	1	12	9	2	12	11	5	21	9	1	12	9	1	12	9
最小値(cm)	4.3	2.7	2.9	14.6	9.2	12.0	5.6	3.8	4.4	2.6	2.3	2.4	3.4	2.5	3.3
平均	4.3	4.4	3.5	14.7	13.5	13.1	6.2	5.6	4.8	2.6	2.6	2.7	3.4	3.1	3.7
最大値(cm)	4.3	5.5	4.4	14.8	14.8	16.0	7.2	7.6	5.4	2.6	3.2	3.0	3.4	3.8	4.1





(2)砂底土器について

土器の外底部に何らかの事情により砂が付着した所謂砂底の土器が本遺跡でも出土している。この種の遺物については櫻田氏（櫻田：1993）の詳細な論考があり、岩手県内の出土例についても詳細に調べられている。本県ではおもに東北部地域を中心にその出土例が確認されており、県央・県南地域では少ないとされていた。その後の資料の増加では本遺跡をはじめ、滝沢村仏沢遺跡・盛岡市志波城跡・北上周辺の遺跡などで知られているようである（西野：1992, PP28）。櫻田によれば本県における砂底土器は奈良時代を初現として平安時代末期（11世紀中頃）まで、非ロクロ・ロクロ成形を問わず認められるという。

本遺跡ではこの種の土器について全体を知り得る資料はなかったが、RA05住居跡から1点・RA06住居跡から7点・RE02堅穴状遺構から1点・RE06堅穴状遺構から1点・RF08焼土遺構から1点が出土している。付着している器種は埴・鉢・甕に限定されており坏形土器への付着は全く認められない。埴についてはロクロ成形のものであり、鉢・甕類についてはロクロ成形・非成形については判断できなかったが、これらの土器類の体部下半には多くは幅の広い工具によるヘラケズリ調整が施されたものである。砂の付着も櫻田の研究では各種のパターンが知られているが、本遺跡の資料はすべて底部外端部であり詳細については不明であるが、本遺跡の土器を見る限り砂は胎土に沈着しており、粘土がまだ軟らかい段階に付着したことは推察される。次に年代観であるがこの種の遺物を出土している遺構の土器群はほぼ9世紀後半段階のなかにおさまると考えられるものであり、本遺跡出土の砂底土器もほぼこの年代観で把握しておきたい。

(3)陶磁器類

調査区全域にわたって粗掘り段階で比較的多数の陶磁器類が出土している。特にB・C調査区からの出土が顕著である。C調査区では近世民家と思われる掘立柱建物跡が検出されており、この遺構に伴うものと思われる。主に18世紀～幕末を中心とした肥前産陶磁器類および大塚相馬産、秋田県白岩産系と推定される陶器類が出土している。肥前産陶磁器類では染付・陶胎染付・白磁などの磁器碗類を中心に皿・瓶・缸・紅皿・猪口・水滴などの器種が出土しており特異な器種構成を示している状況ではない。

2. 遺構と遺跡について

〈平安時代の堅穴住居跡について〉

今回の調査では4棟の平安時代の住居跡が確認された。段丘縁の調査であったため集落の主体部からは若干離れた場所と考えられる。今後の調査により特にA調査区の南東側には相当数の住居跡の存在が予想される。これらRA01・03・05・06堅穴住居跡の4棟はカマドの位置・煙道・袖の構築方法などに共通性が見られるとともに、遺物の面からもかなり類似した様相を示している。特にRA05・06堅穴住居跡は遺構の埋土、出入口口の施設、カマド右袖脇への貯蔵穴の設置およびその構築方法、相互の遺物の接合関係など細部にわたって共通性がみられほぼ同時存在と考えられる。過去の調査事例や盛岡市周辺の土器編年を精力的に行っている八木氏などの研究成果から、これらの遺構はほぼ9世紀後半から10世紀初頭の時期と想定されるようである。小幡遺跡は猪去館遺跡や林崎遺跡などと期的には近い時期に営まれた集落である。

〈近世民家について〉

全容は明らかにできなかったがC調査区から近世と思われる掘立柱建物跡が検出されている。この民家跡にとまなう施設として周辺に隣接している屋外便所と考えられるRD098・099土坑、また性格は明らかにできなかったがRE11・12堅穴状遺構なども付随する施設と考えられる。期的には周辺から出土している陶

磁器類などから18世紀後半から19世紀代の年代が想定される。

引用・参考文献

- 岩手県教育委員会 1979 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-I-1』
岩手県教育委員会 1979 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-II-1』
岩手県教育委員会 1979 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書-III-1』
岩手県教育委員会 1980 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-III-1』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981 『稲村・中田・古座敷遺跡発掘調査報告書』
岩手県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-IV-1』 『志波城跡』
岩手県埋蔵文化財センター 1982 『志波城跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994 『白木野 I・II 遺跡発掘調査報告書』
小笠原好淳 1976 「東北地方における平安時代の土器についての二・三の問題」 『東北考古学の諸問題』 東北考古学会
加藤道男 1992 「宮城県における土師器研究の現状」 『考古学論叢』 東北考古学会
桑原道郎 1976 「須志土器について」 『東北考古学の諸問題』 東北考古学会
桑原道郎・岡田茂弘 1974 「多賀城周辺における古代坏形土器の変遷」 研究紀要Ⅰ 多賀城跡調査研究所
小井川和夫 1984 「いわゆる赤焼土器について」 研究紀要10号 東北歴史資料館
板田 隆 1993 「『砂底』土器考」 『考古学』 久保賢三先生追悼論文集
白鳥真一 1980 「多賀城跡出土土器の変遷」 研究紀要Ⅱ 多賀城跡調査研究所
高橋与右エ門 1994 「掘立柱建物跡からみた南証「曲が家」出現期の一試験」 紀要ⅩⅡ 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
都南村教育委員会 1970 『百目木遺跡』
羽柴直人 1994 「東北地方北部における近世陶磁器の様相」 紀要ⅩⅣ 岩手県埋蔵文化財センター
本堂寿一 1980 「榎本寺伝燈主坊跡緊急発掘調査報告」 研究報告第3号 北上市立博物館
村田晃一 1995 「宮城県における10世紀前後の土器」 福島考古第36号 福島考古学会
盛岡市教育委員会 1981 『志波城跡 I-1 太田方八丁遺跡範囲確認調査報告書』
盛岡市教育委員会 1989 『上平遺跡群 猪去遺跡 - 昭和63年度発掘調査概報-』
盛岡市教育委員会 1992 『館・松ノ木遺跡-古代の遺構編-』
八木光則 1992 「古代新波郡と爾麗体の土器様相」 第18回古代城権官衙遺跡検討会
八木光則 1993 「陸奥中部における古代末期の土器群」 歴史時代土器研究第8号 歴史時代土器研究同人会
矢巾町教育委員会 1992 『白沢遺跡』 矢巾町文化財報告書第13集

盛岡市小幡遺跡出土材の樹種同定

高橋 利彦(木工会「ゆい」)

1. 試料

試料は1点で、近世の民家の便所の桶の底板と考えられているものである。

2.

剃刀の刃を用いて試料の木口・柾目・板目の3面の徒手切片を作製、ガム・クロラル (Gum Chloral) で封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。同時に顕微鏡写真図版(図版.1)も作製した。なお作製したプレパラートは木工会「ゆい」に保管されている。

3. 結果

試料はスギに同定された。試料の主な解剖学的特徴や現生種の一般的性質は次のようなものである。

・スギ (*Cryptomeria japonica*) スギ科

早材部から晩材部への移行はやや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は清らか、分野壁孔はスギ型 (Taxodioid) で2~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

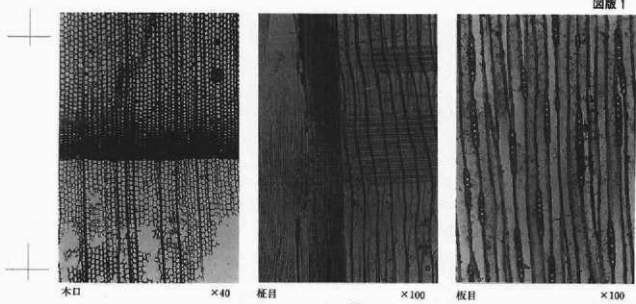
スギは本州・四国・九州に自生する常緑高木で、また各地で植栽・植林される。国内では現在ヒノキに次ぐ植林面積をもち、長寿の木としても知られる。材は軽軟で割裂性は大きく、加工は容易、保存性は中程度である。建築・土木・樺類・舟材など各種の用途がある。

4. 考察

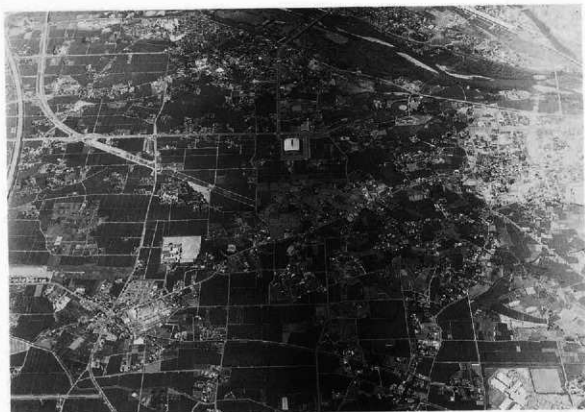
出土桶の用材の検討例はそれほど多くはないが、スギやヒノキ(属)を中心とした針葉樹が主で(伊東ほか 1987、伊東 1990)、これは現在のスギ・ヒノキ・サワラといった用材とも共通している。ところで出土桶の場合には器種は推定できてもその用途(使用目的・使用場所)までは推定が難しい例がほとんどと思われるが、今回の試料はその用途まで推定できたまれな例といえよう。近年まで行われていた下肥の貯蔵・運搬にはスギ製の桶や担桶(たご)の存在が不可欠ともいえ、このことが農業生産や居住地(区)の衛生にはたした役割はきわめて大きかったとされるが(遠山 1976)、試料もスギであった。

引用文献

- 伊東 隆夫・山口 和穂・林 昭三・布谷 知夫・島地 謙 1987 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途、「木材研究・資料」、第23号、42-210。
伊東 隆夫 1990 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途 II、「木材研究・資料」、第26号、91-189。
遠山 富太郎 1976 「杉のきた道 日本人の暮らしを支えて」、中公新書、215pp。



写 真 图 版



空中写真（南より）



空中写真（北より）

図版1 遺跡遠景



図版 2 空中写真（鉛直方向）



G調査区北壁基本土層

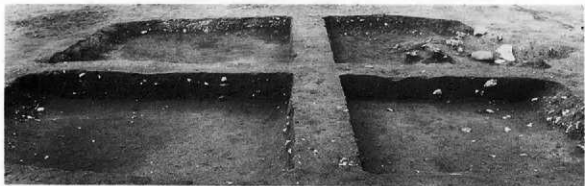


作業風景 (RG27)

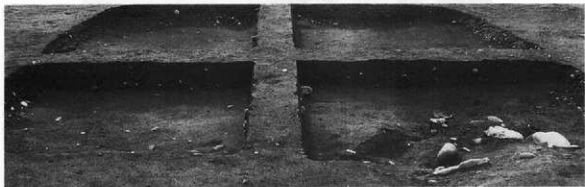
図版 3 G調査区北壁基本土層・作業風景



RA01 平面

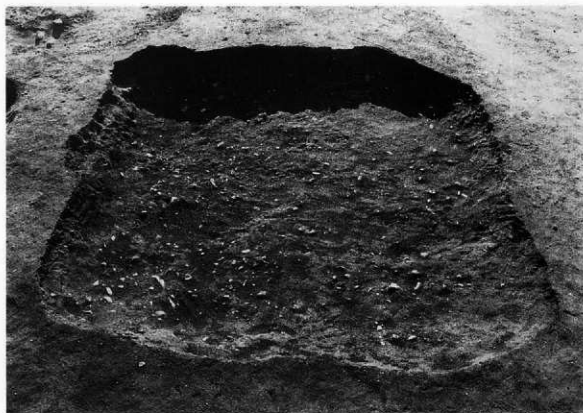


RA01 埋土断面



RA01 埋土断面

图版 4 RA01



RA02 平面



RA02 埋土断面

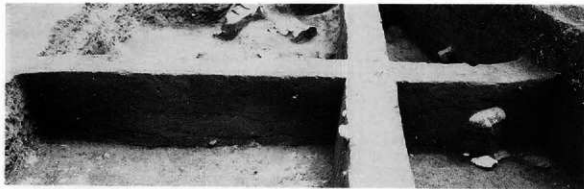


RA02 埋土断面

图版 5 RA02



RA03 平面



RA03 埋土断面



RA03 埋土断面

図版 6 RA03(1)



RA03 埋土断面



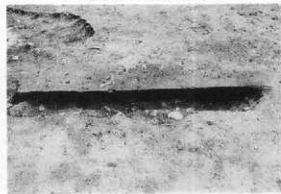
RA03 カマド燃焼部



RA03 カマド袖たわり



RA03 鉄製品出土状況



RA04 カマド断面

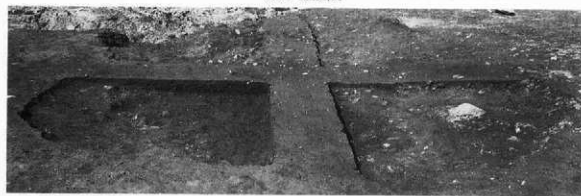
図版7 RA03(2)・RA04(1)



RA04 平面



RA04 埋土断面

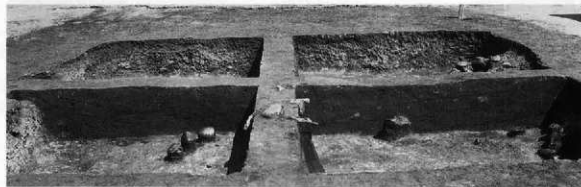


RA04 埋土断面

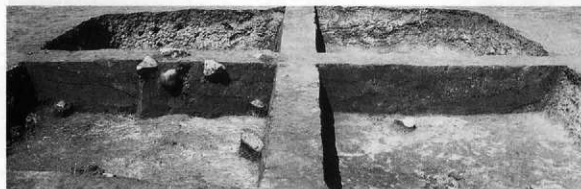
图版 8 RA04(2)



RA05 平面 (西→)



RA05 風土断面



RA05 埋土断面 (東→)

図版 9 RA05(1)



カマド右袖脇ピット



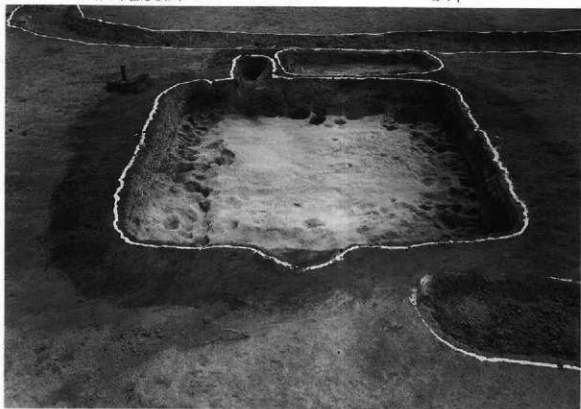
カマド掛け口・支脚



カマド袖たちわり



カマド



掘り方

図版10 RA05(2)



RA06 平面 (西→)



RA06 埋土断面



RA06 埋土断面

図版11 RA06(1)



RA06 カマド右袖脇貯蔵穴断面



RA06 カマド右袖脇貯蔵穴



RA06 カマド燃焼部横断面

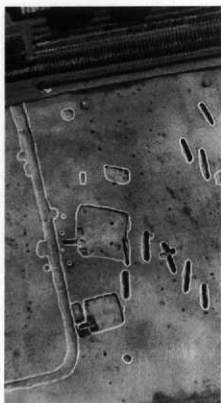


RA06 煙道縦断面



RA06 掘り方

図版12 RA06(2)



RB01

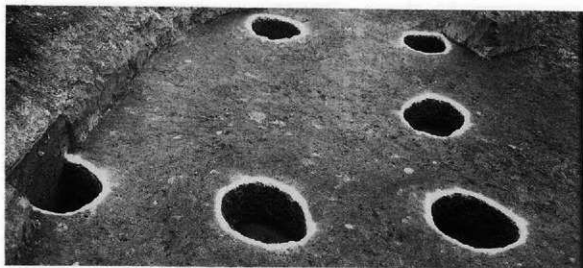


RB02 調査区架張後



RB02 調査区拡張前

図版13 RB01・RB02



RB03



P1



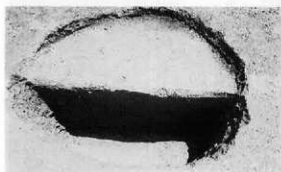
P2



P3



P4



P5



P6

图版14 RB03



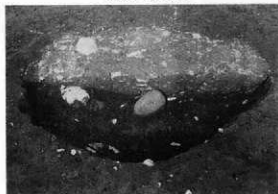
RD001 埋土断面



RD004 埋土断面



RD002 平面



RD002 埋土断面



RD003 平面



RD003 埋土断面



RD005 平面



RD005 埋土断面

图版15 RD(1) 001~005



RD006 平面



RD006 埋土断面



RD007 平面



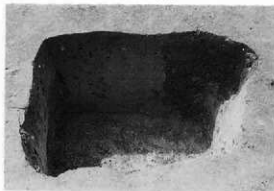
RD007 埋土断面



RD008 平面



RD008 埋土断面

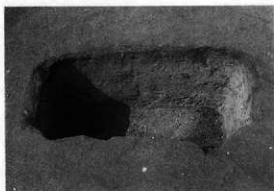


RD009 平面



RD009 埋土断面

图版16 RD(2) 006~009



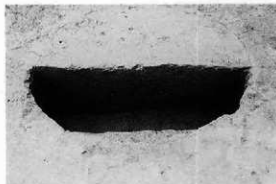
RD012 平面



RD010 埋土断面



RD014 平面



RD014 埋土断面



RD015 平面



RD015 埋土断面



RD013 平面

图版17 RD(3) 010~015



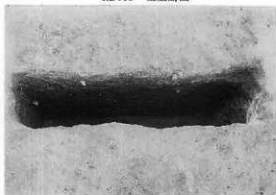
RD016 平面



RD016 埋土断面



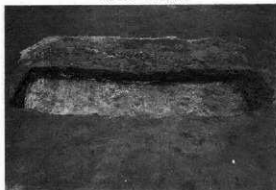
RD017 平面



RD017 埋土断面



RD019 平面



RD019 埋土断面



RD020 平面

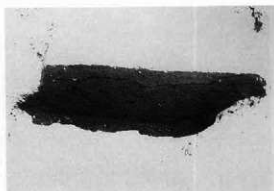


RD020 埋土断面

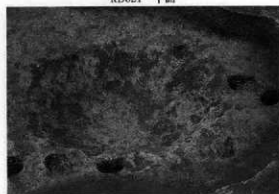
图版18 RD(4) 016~020



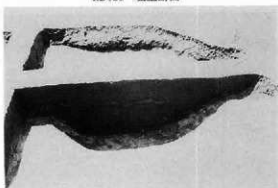
RD021 平面



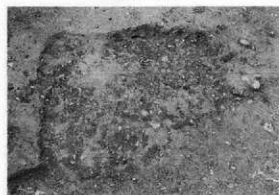
RD021 埋土断面



RD022 平面



RD022 埋土断面



RD023 平面



RD023 埋土断面



RD024 平面



RD024 埋土断面

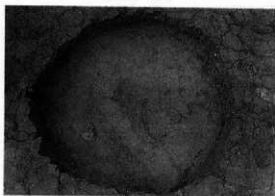
图版19 RD(5) 021~024



RD025 平面



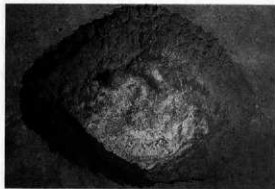
RD025 埋土断面



RD026 平面



RD026 埋土断面



RD027 平面



RD027 埋土断面



RD028 平面

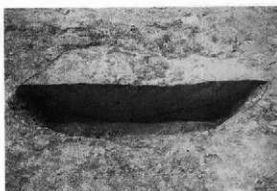


RD028 埋土断面

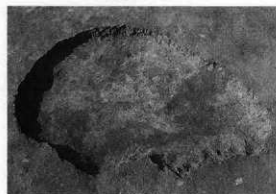
图版20 RD(6) 025~028



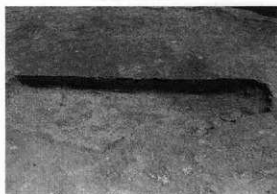
RD029 平面



RD029 埋土断面



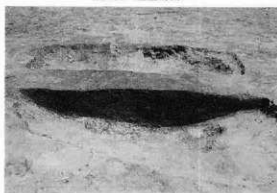
RD030 平面



RD030 埋土断面



RD031 平面



RD031 埋土断面



RD032 平面



RD032 埋土断面

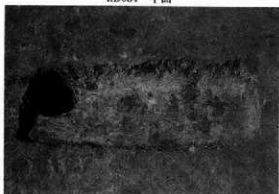
图版21 RD(7) 029~032



RD034 平面



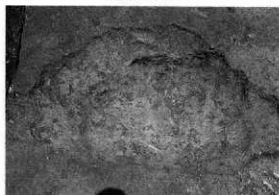
RD034 掘土断面



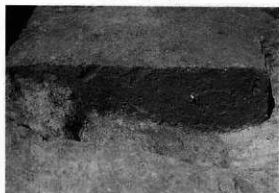
RD035 平面



RD035 掘土断面



RD036 平面



RD036 掘土断面



RD037 平面

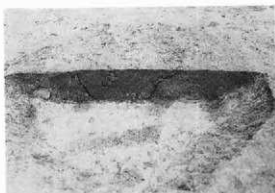


RD037 掘土断面

图版22 RD(8) 034~037



RD038 平面



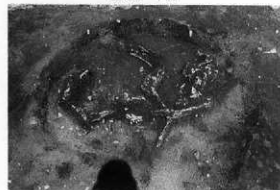
RD038 埋土断面



RD039 平面



RD039 埋土断面



RD018 平面



RD040 埋土断面



RD041 平面

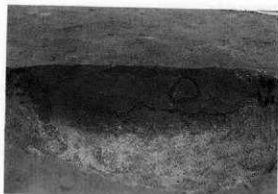


RD041 埋土断面

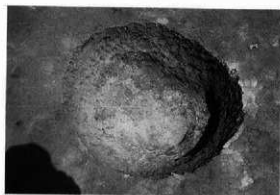
图版23 RD(9) 018-038~041



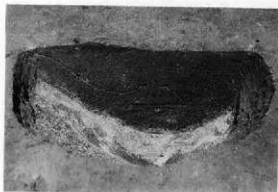
RD043 平面



RD043 埋土断面



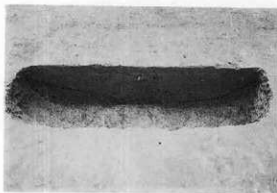
RD044 平面



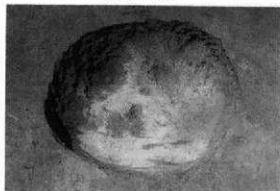
RD044 埋土断面



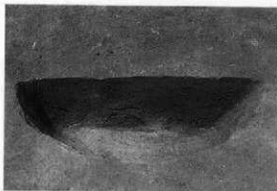
RD045 平面



RD045 埋土断面



RD046 平面



RD046 埋土断面

图版24 RD(10) 043~046



RD047 平面



RD047 埋土断面



RD048 平面



RD048 埋土断面



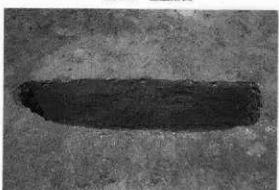
RD049 平面



RD049 埋土断面



RD050 平面

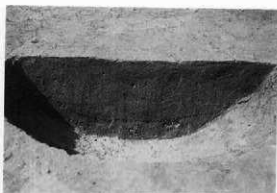


RD050 埋土断面

図版25 RD(11) 047~050



RD051 平面



RD051 埋土断面



RD052 平面



RD052 埋土断面



RD053 平面



RD053 埋土断面



RD054 平面



RD054 埋土断面

图版26 RD(12) 042·051~054



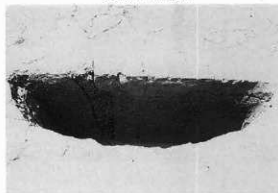
RD055 平面



RD055 埋土断面



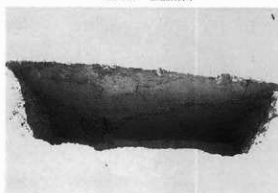
RD056 平面



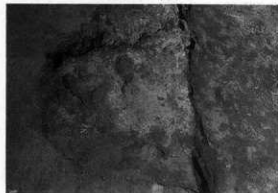
RD056 埋土断面



RD057 平面



RD057 埋土断面



RD067 平面



RD067 埋土断面

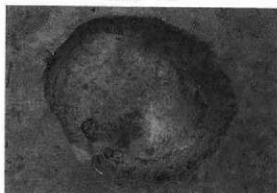
図版27 RD(13) 055~057・067



RD068 平面



RD068 埋土断面



RD069 平面



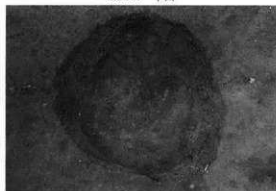
RD069 埋土断面



RD070 平面



RD070 埋土断面

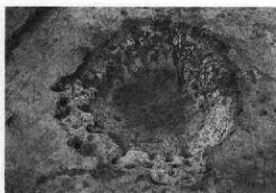


RD071 平面



RD071 埋土断面

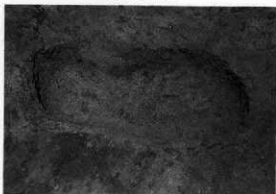
圖版28 RD(14) 068~071



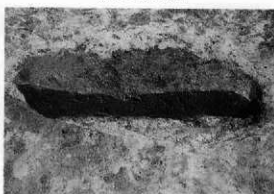
RD072 平面



RD072 埋土断面



RD076 平面



RD076 埋土断面



RD077 平面



RD077 埋土断面



RD079 平面



RD079 埋土断面

图版29 RD(15) 072·076·077·079



RD080 平面



RD080 埋土断面



RD081 平面



RD081 埋土断面



RD083 平面



RD083 埋土断面



RD084 平面

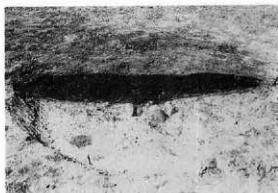


RD084 埋土断面

图版30 RD(16) 080~084



RD086 平面



RD086 埋土断面



RD087 平面



RD087 埋土断面



RD088 平面



RD088 埋土断面



RD089 平面

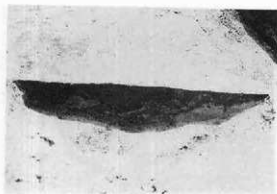


RD089 埋土断面

图版31 RD(17) 086~089



RD090 平面



RD090 埋土断面



RD091 平面



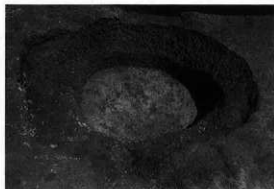
RD091 埋土断面



RD092 平面



RD092 埋土断面



RD093 平面



RD093 埋土断面

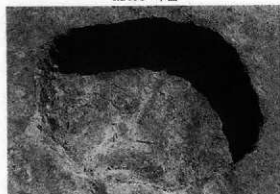
图版32 RD(18) 090~093



RD094 平面



RD094 埋土断面



RD095 平面



RD095 埋土断面



RD082 埋土断面



RD096 平面



RD098 埋土断面



RD098 桶底板

图版33 RD(19) 082·094~096·098



RD099 埋土断面



RD099 桶底板



RD098 完堀



RD099 完堀



RD098

RD099

图版34 RD (20) 098·099



RD100 平面



RD100 埋土断面



RD101 埋土断面



RD103 埋土断面



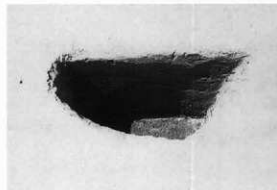
RD104 平面



RD105 埋土断面

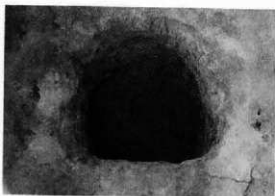


RD107 平面



RD107 埋土断面

图版35 RD(21) 100·101·103~105·107



RD109 平面



RD109 埋土断面



RD110 平面



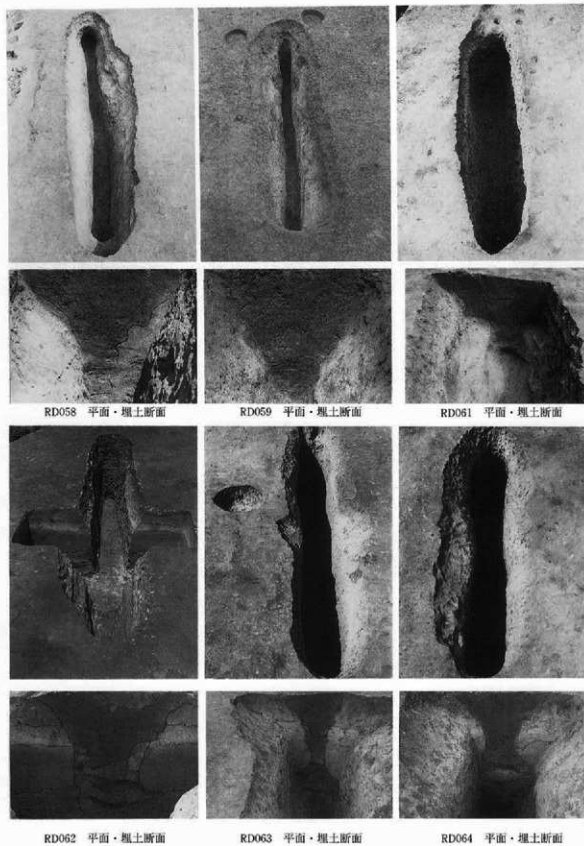
RD110 埋土断面



RD108 埋土断面



RD060 埋土断面



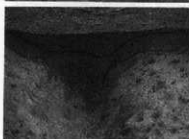
図版37 RD(23) 058-059-061~064



RD065 平面・埋土断面

RD066 平面・埋土断面

RD073 平面・埋土断面



RD074 平面・埋土断面

RD075 平面・埋土断面



图版38 RD(24) 065・066・073~075



RE01 平面・埋土断面



RE02 埋土断面

RE02 平面



RE02 埋土断面



RE04 埋土断面

RE04 平面



RE04 埋土断面

图版39 RE01-02-04



RE03 平面



RE03 土坑内遺物出土状況



RE03 埋土断面



RE12 平面

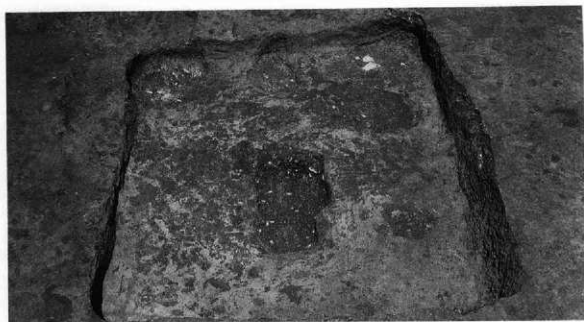


RE12 埋土断面



RE12 埋土断面

図版40 RE03・12



RE05 平面・埋土断面

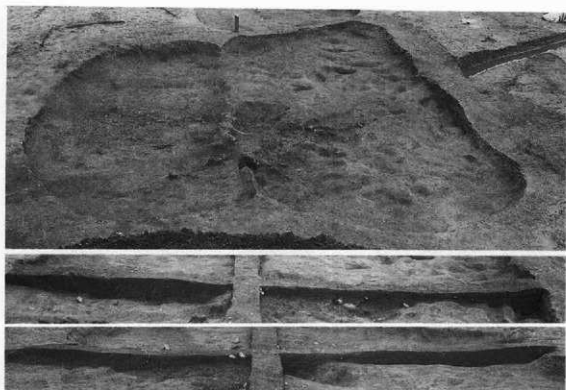


RE06 平面・埋土断面



RE07 平面・埋土断面

图版41 RE05~07

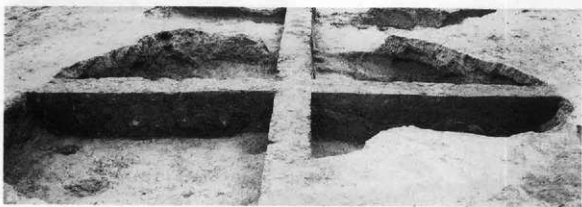


RE09,10 平面・埋土断面



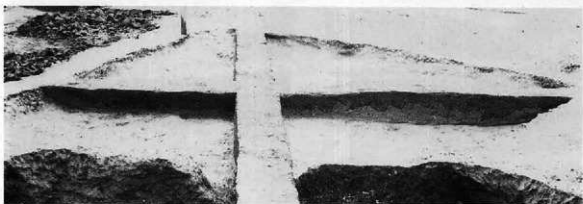
RE11 平面・埋土断面

図版42 RE09~11



RE08 平面・埋土断面

图版43 RE08



RE13 平面・埋土断面

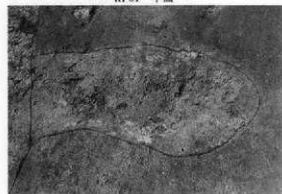
図版44 RE13



RF01 平面



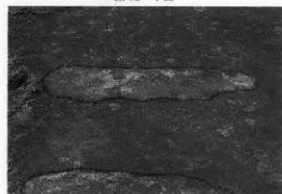
RF01 埋土断面



RF02 平面



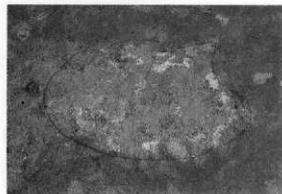
RF02 埋土断面



RF03 平面



RF03 埋土断面



RF04 平面



RF04 埋土断面

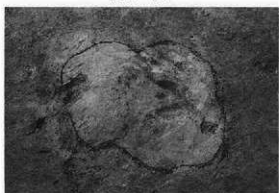
图版45 RF(1) 01~04



RF05 平面



RF05 埋土断面



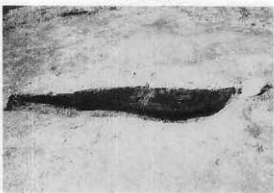
RF06 平面



RF06 埋土断面



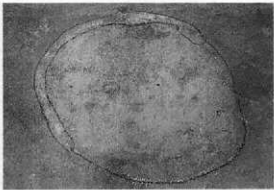
RF07 平面



RF07 埋土断面



RF07 平面



RF08 平面

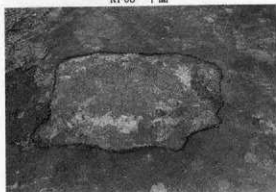
図版46 RF(2) 05~08



RF08 平面



RF08 埋土断面



RF09 平面



RF09 埋土断面



RF10 埋土断面



RH01 平面

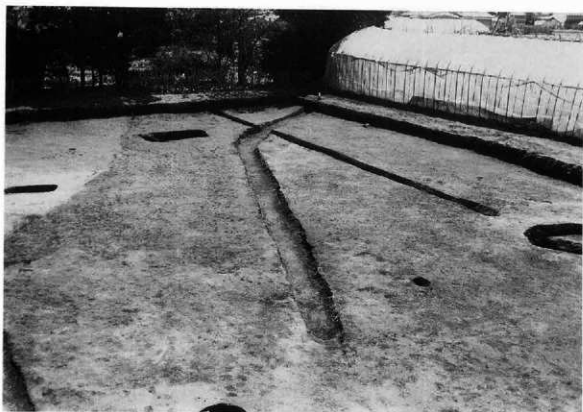


RI01 平面



RH01 埋土断面

図版47 RF(3) 08~10・RH01・RI01



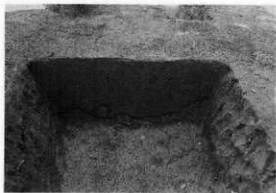
RG01 平面 (北西→)



RG01 埋土断面A



RG01 埋土断面B



RG01 埋土断面C



RG01 埋土断面D

図版48 RG01



RG02 北辺 (西→)



RG02 西辺 (南→)

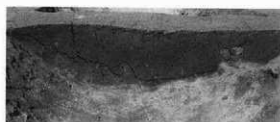


RG02 西辺 (北→)

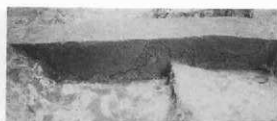


RG02 南西隅 (南→)

図版49 RG02(1)



ベルトA



ベルトH



ベルトB



ベルトI



ベルトC



ベルトJ



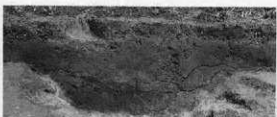
ベルトE



ベルトK



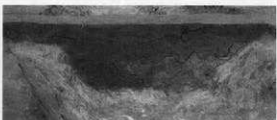
ベルトF



ベルトL



ベルトG



ベルトM

図版50 RG02(2)



RG03 平面 (西→)



RG04 平面 (北西→)



RG03 埋土断面F



RG03 埋土断面G



RG03 埋土断面H



RG04 埋土断面I



RG04 埋土断面J

图版51 RG03-04



RG06 平面 (南西→)



RG06 埋土断面A



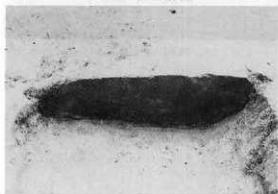
RG06 埋土断面B



RG06 埋土断面D



RG06 埋土断面C



RG06 埋土断面E

图版52 RG06



RG07 平面 (東→)



RG07 埋土断面K



RG07 埋土断面L



RG07 埋土断面M



RG08 平面 (東→)



RG08 埋土断面N

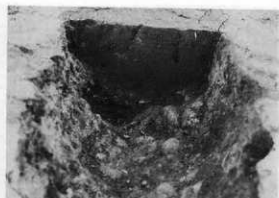


RG08 埋土断面O

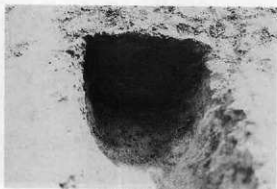
图版53 RG07·08



RG09 平面 (北東→)



RG09 埋土断面K



RG09 埋土断面L



RG09 埋土断面N



RG09 埋土断面M



RG11 埋土断面J

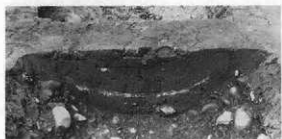
图版54 RG09·11



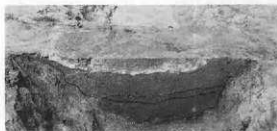
RG10 北東端 (北東→)



RG10 南端 (北→)



RG10 埋土断面A



RG10 埋土断面B



RG10 埋土断面C



RG10 埋土断面D

図版55 RG10(1)



RG10 埋土断面E



RG10 埋土断面F



RG10 埋土断面G



RG10 埋土断面H



RG10 埋土断面I



RG10 埋土断面J

图版56 RG10(2)



RG12 平面(南→)



RG12 埋土断面I



RG12 埋土断面H



RG12 埋土断面G



RG13 平面(東→)



RG12 埋土断面L

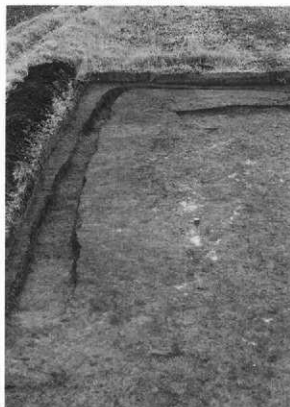
図版57 RG12・13



RG14 平面(南西→)



RG14 埋土断面F



RG15 平面(東→)



RG15 埋土断面A

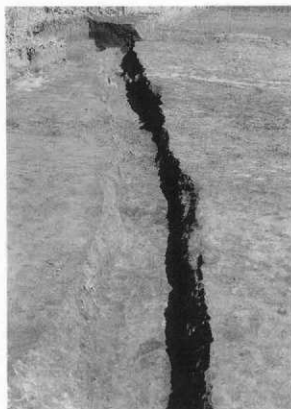


RG15 埋土断面B

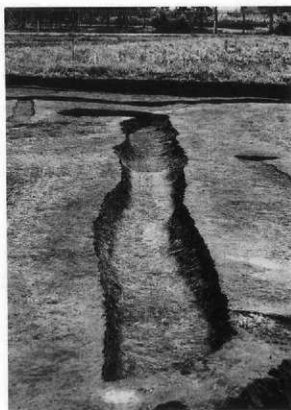


RG15 埋土断面C

图版58 RG14·15



RG16,17 平面 (南→)



RG18 平面 (東→)



RG17 埋土断面D



RG18 埋土断面A



RG19 埋土断面A

図版59 RG16~19



RG20 平面



RG20 埋土断面B



RG22 平面



RG22 埋土断面E

图版60 RG20~22



RG23 平面



RG23 埋土断面G



RG23 埋土断面F



RG24 平面



RG24 埋土断面H

图版61 RG23·24



RG25 平面



RG25 埋土断面 I



RG28 平面



RG28 埋土断面 F

图版62 RG25·28



RG27 平面(東→)



RG27 埋土断面C



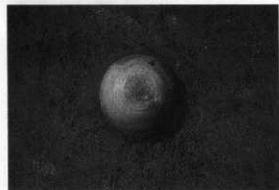
RG27 埋土断面D



RG27 遺物出土状況



RG27 遺物出土状況



RG27 遺物出土状況

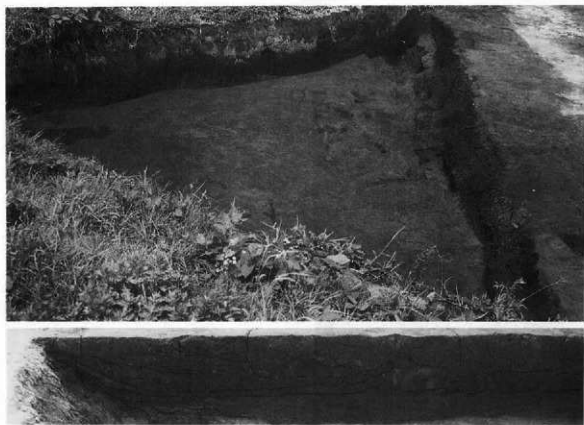
図版63 RG27



RG29 平面 (東→)



RG29 埋土断面丁

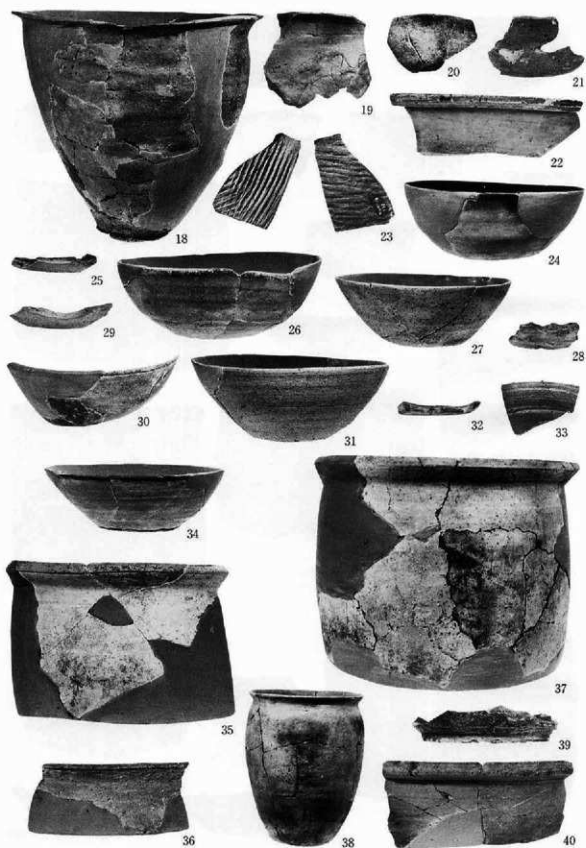


RZ01 平面・埋土断面

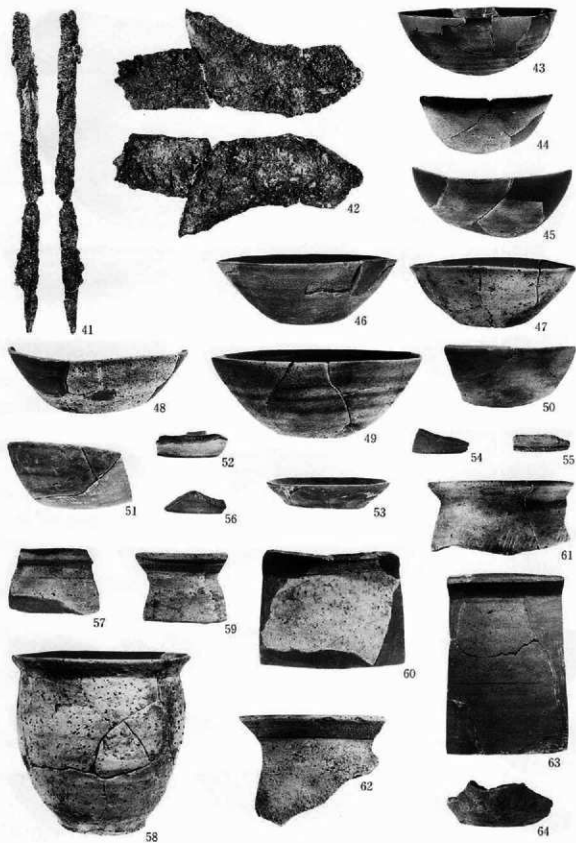
図版64 RG29・RZ01



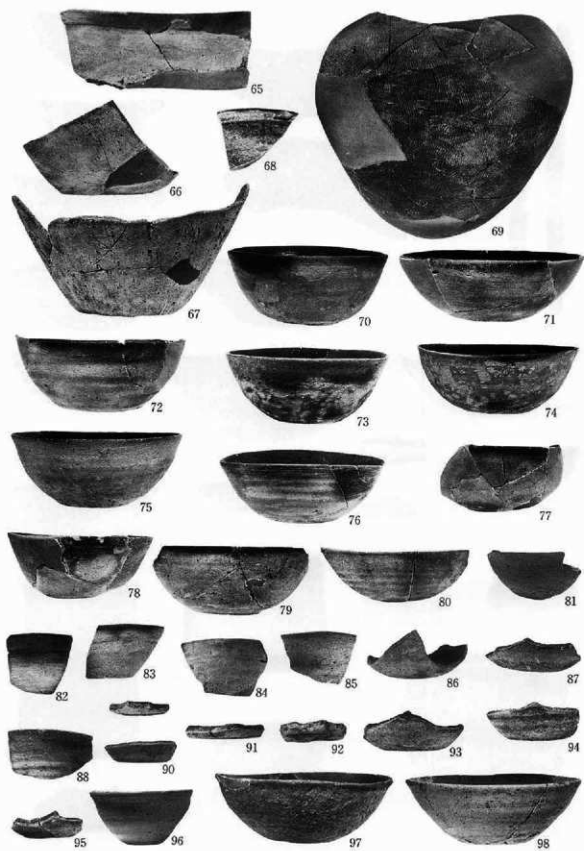
図版65 遺構内出土土器(1)



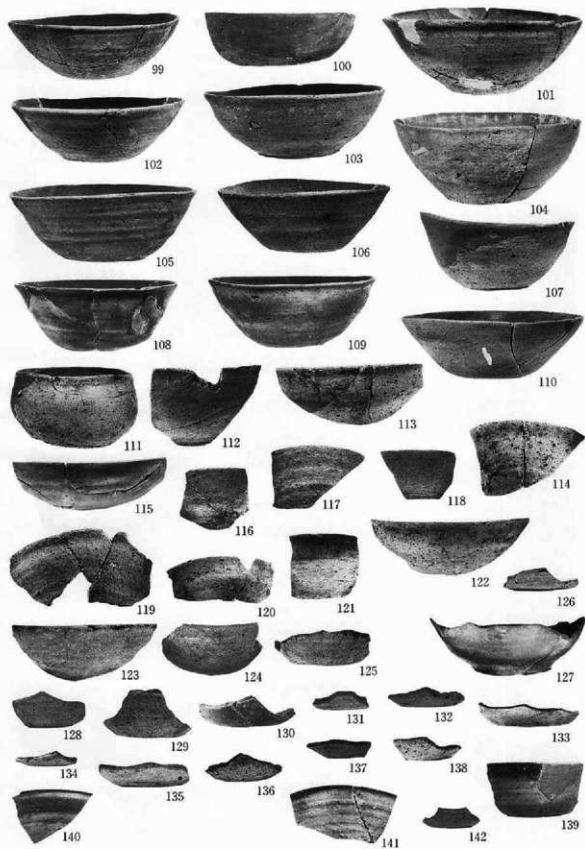
図版66 遺構内出土土器(2)



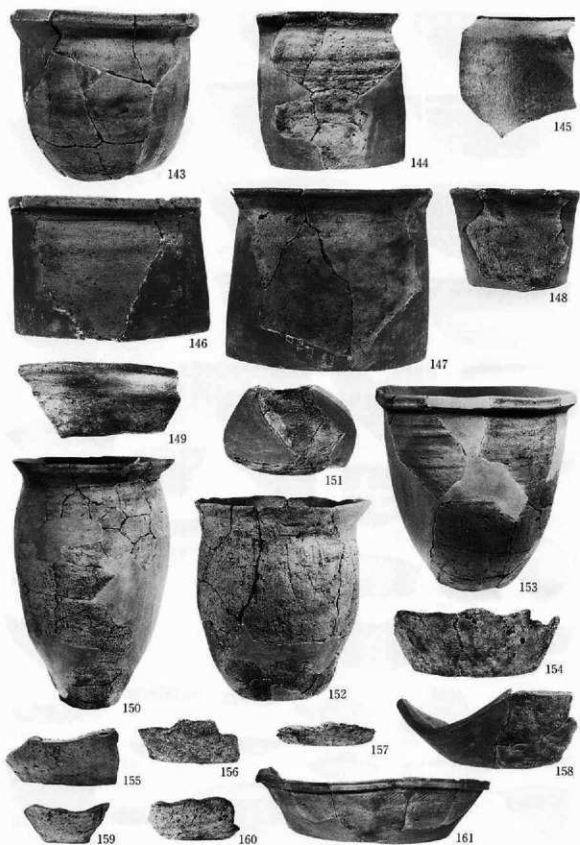
図版67 遺構内出土土器(3)



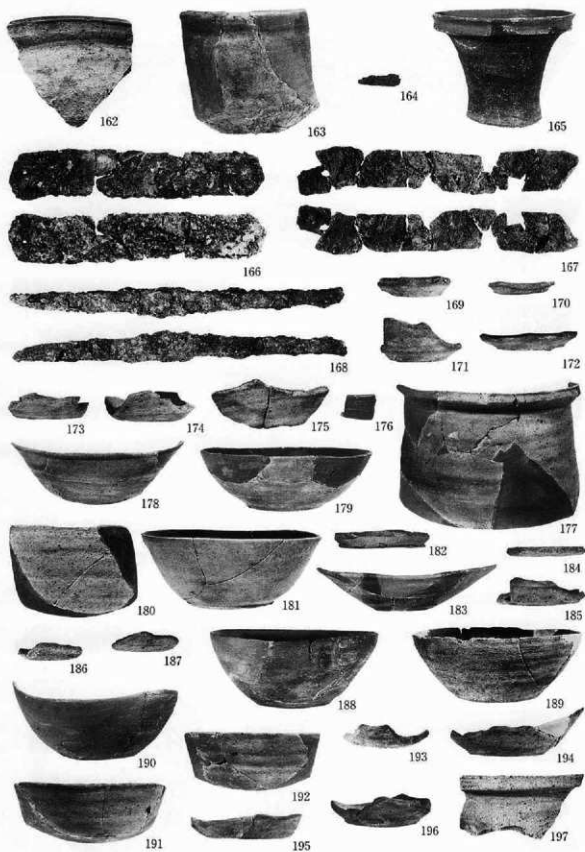
図版68 遺構内出土土器(4)



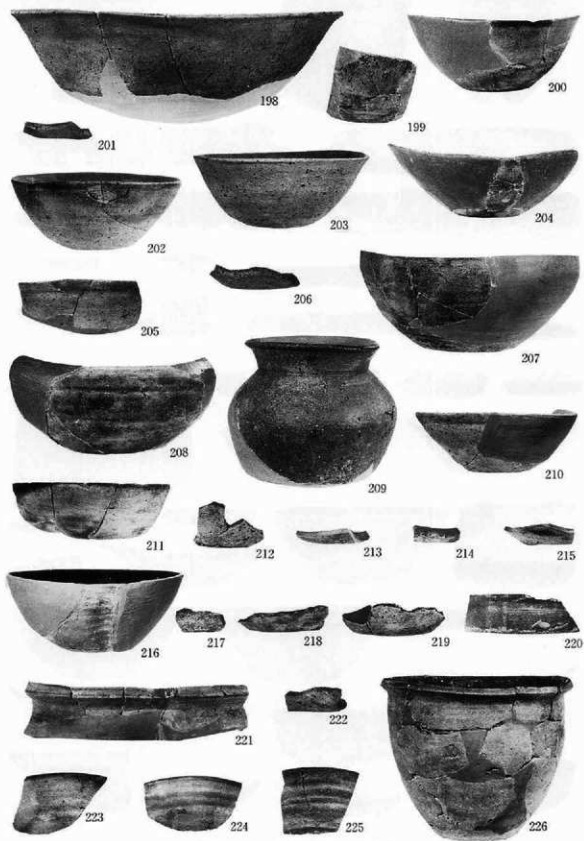
図版69 遺構内出土土器(5)



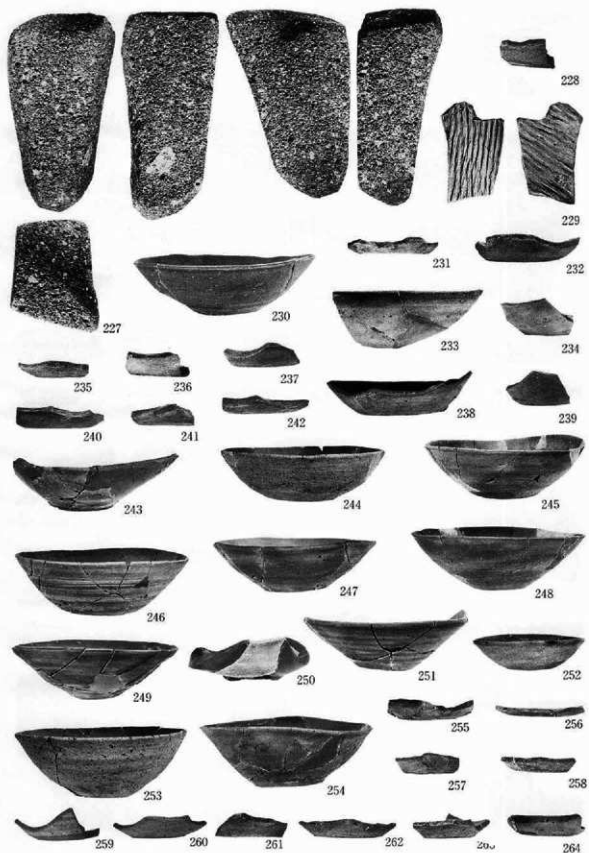
図版70 遺構内出土土器(6)



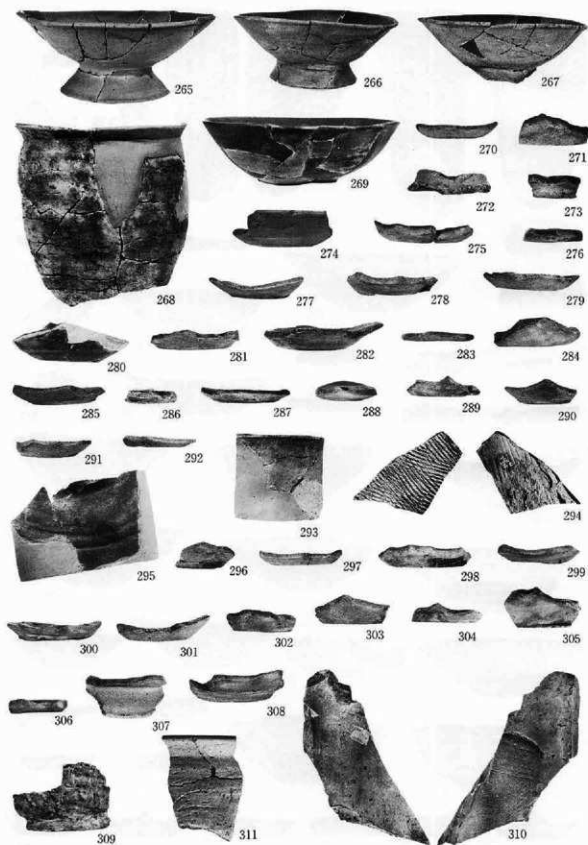
図版71 遺構内出土土器(7)



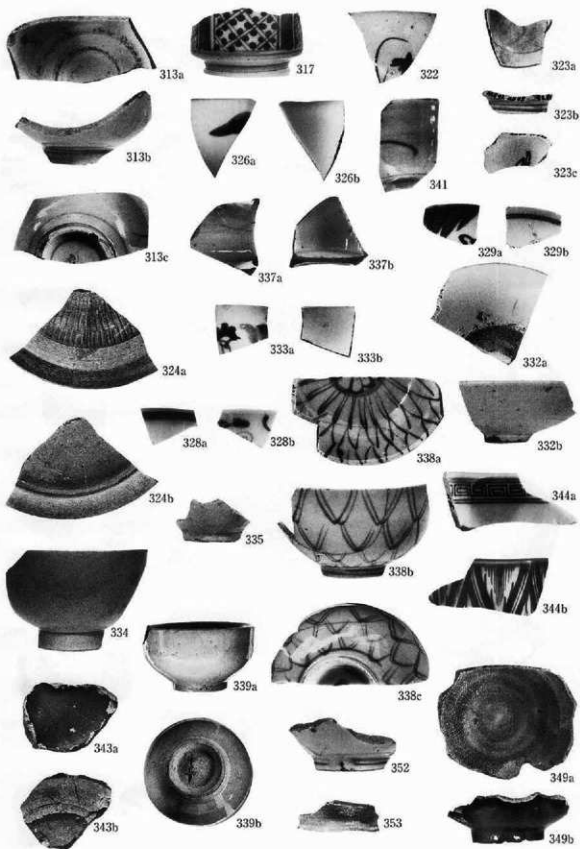
図版72 遺構内出土土器(8)



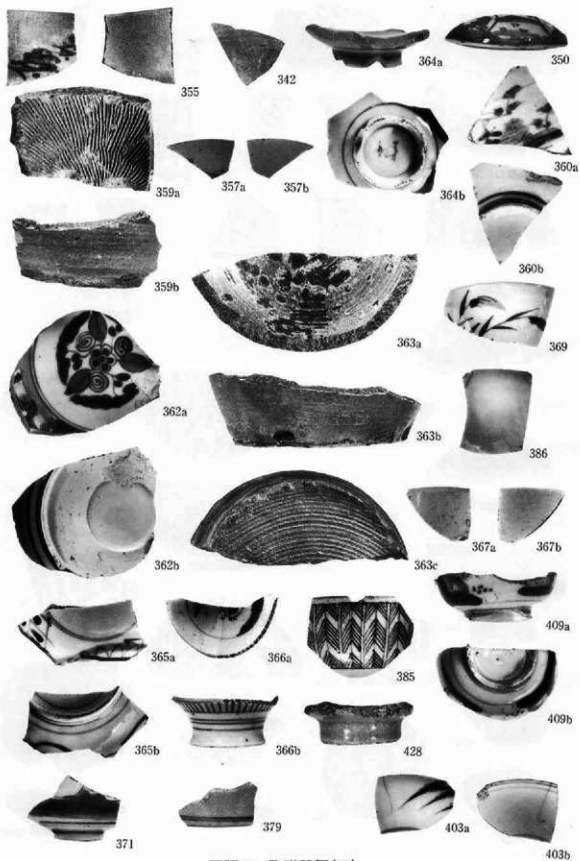
図版73 遺構内出土土器(9)



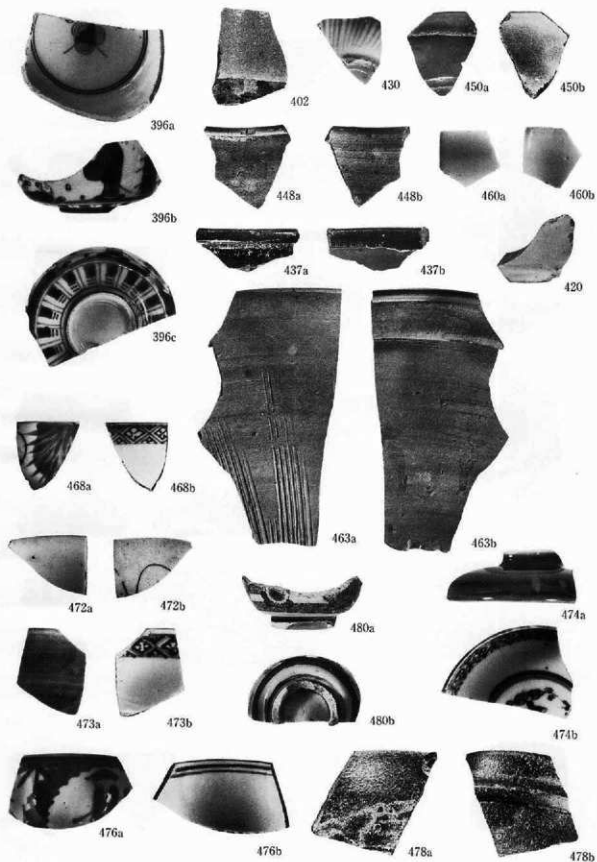
図版74 遺構内出土土器(10)・遺構外出土土器



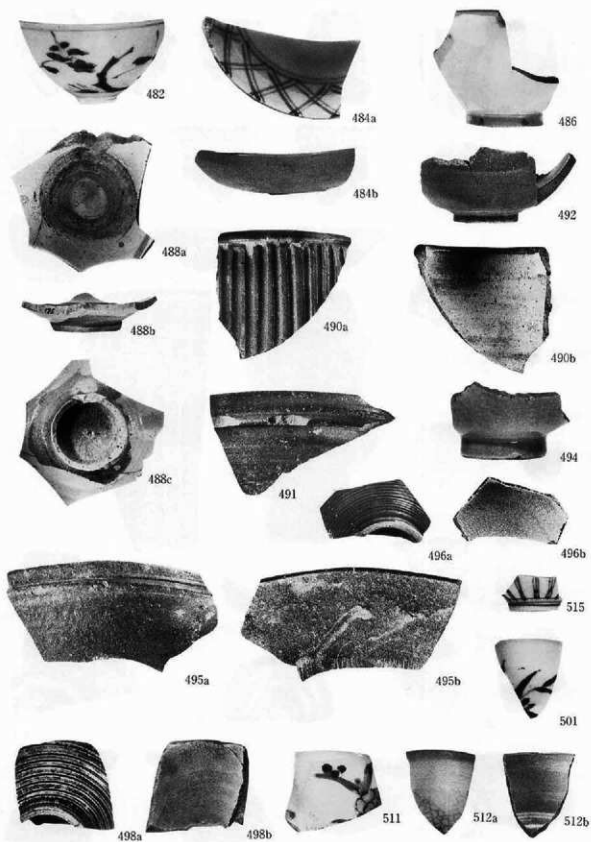
图版75 陶磁器類(1)



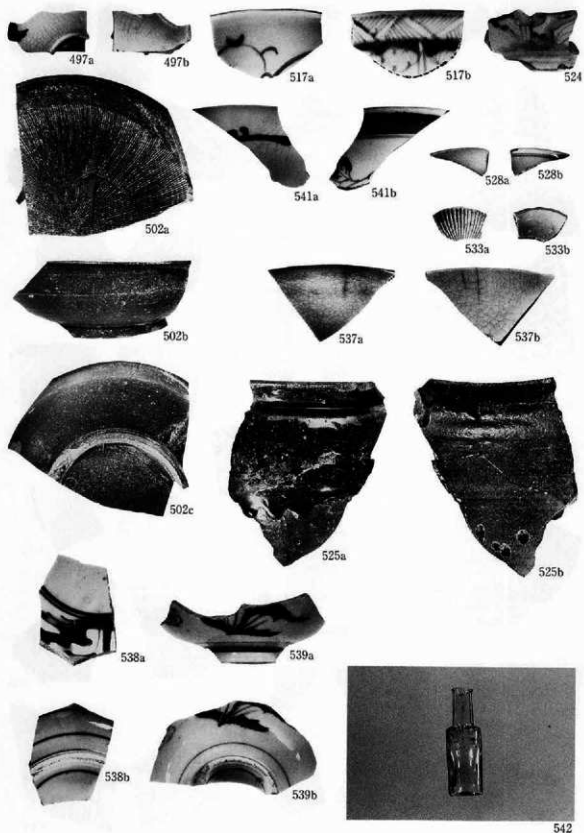
图版76 陶磁器類(2)



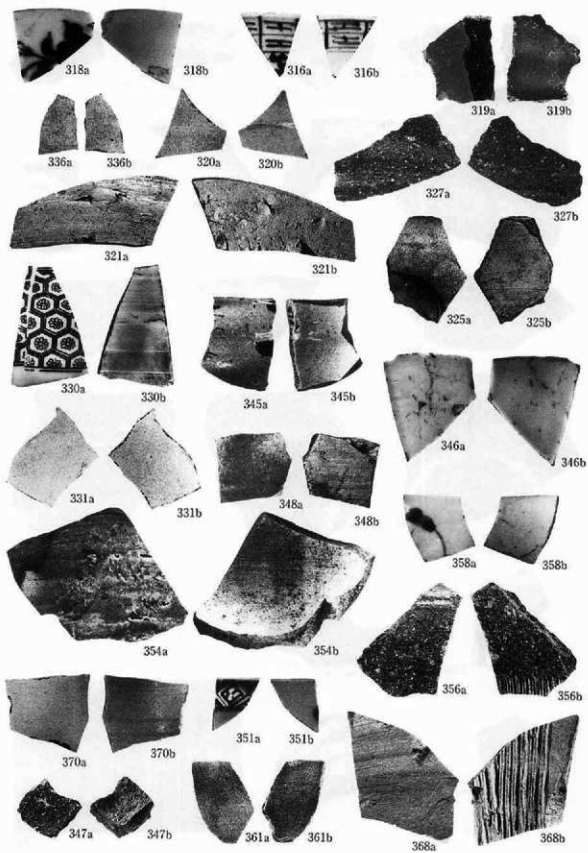
图版77 陶磁器類(3)



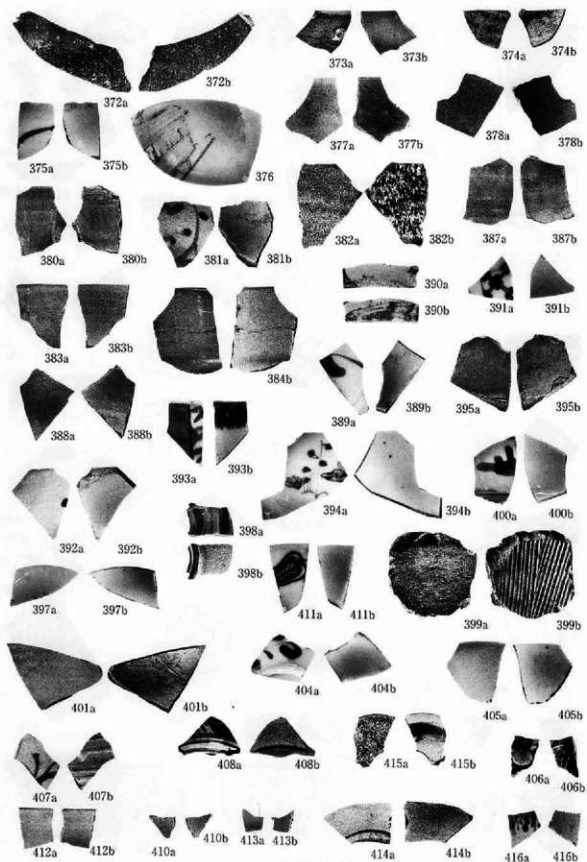
图版78 陶磁器類(4)



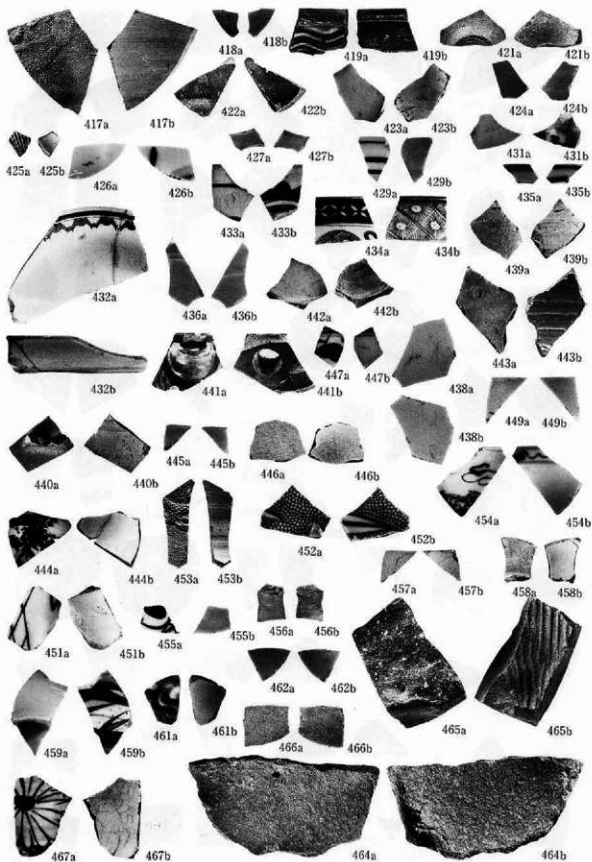
图版79 陶磁器類(5)



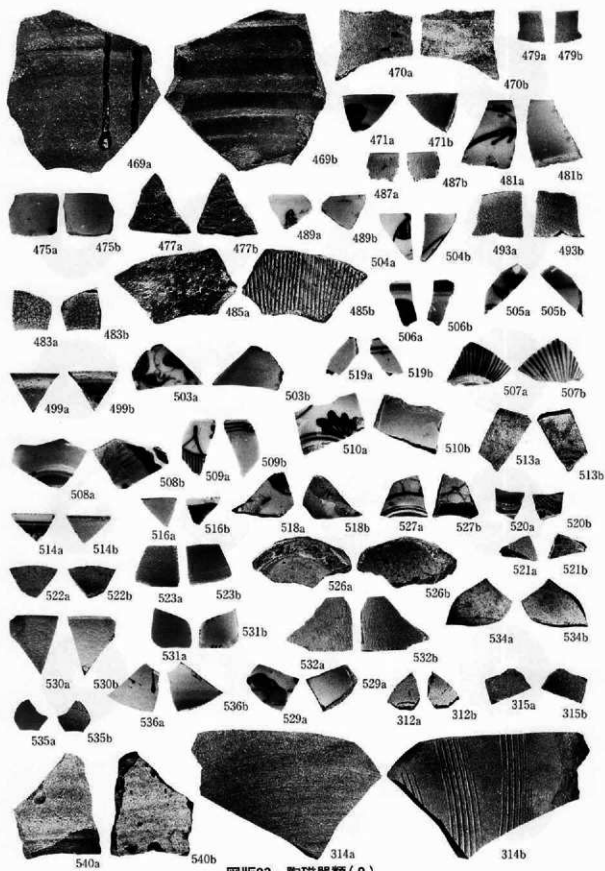
図版80 陶磁器類(6)



图版81 陶磁器類(7)



图版82 陶磁器類(8)



图版83 陶磁器類(9)



543



544



548



545



546



547



549



550



552



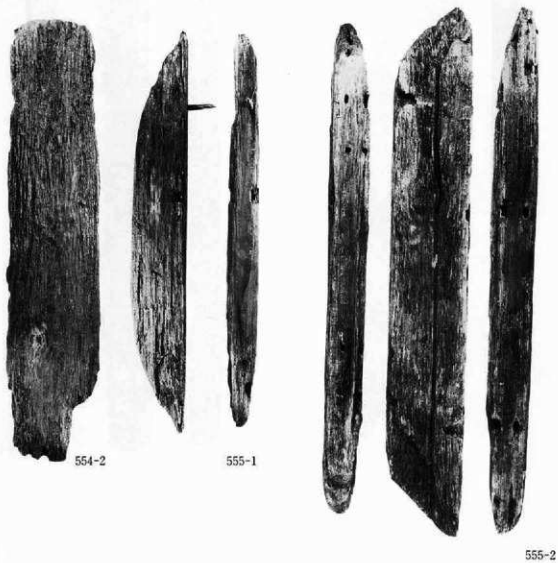
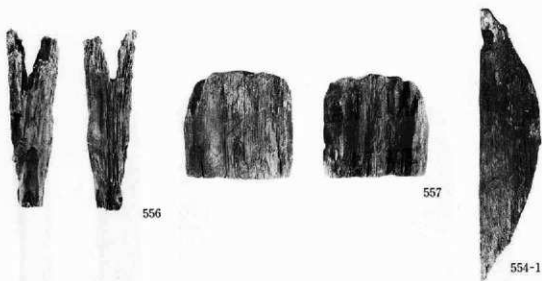
551



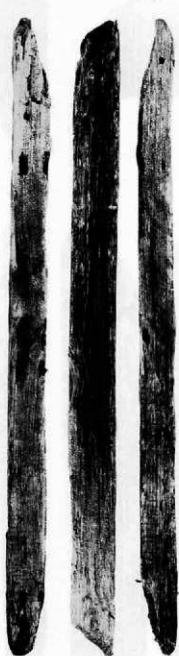
553



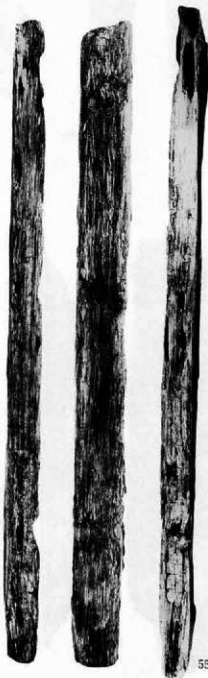
圖版84 錢貨



図版85 木製(1)

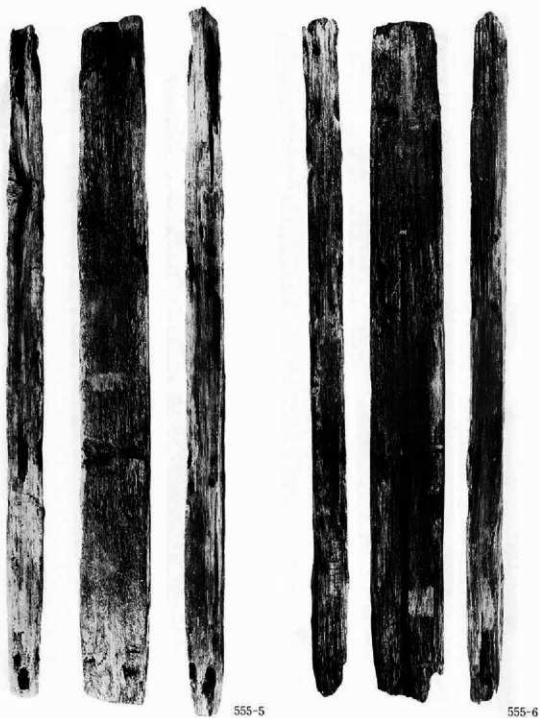


555-3



555-4

图版86 木製品(2)



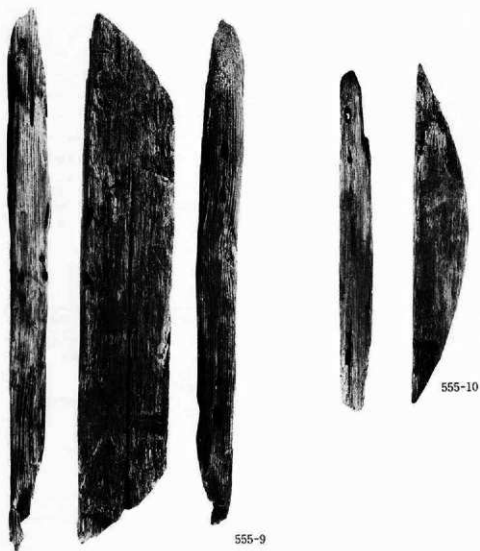
図版87 木製品(3)



555-7

555-8

図版88 木製品(4)



图版89 木製品(5)

報告書抄録

ふりがな	こほいせきだいにじはつかつちようきほうこくしょ							
書名	小幡遺跡第2次発掘調査報告書							
副書名	盛岡南新都市開発整備事業							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第244集							
編者名	齊藤邦雄							
編集機関	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020 盛岡市下飯岡11-185 TEL0196-38-9001							
発行年月日	西暦 1996 年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° °	° °			
小幡遺跡	岩手県盛岡市 本宮字小幡 9-1 号	03201	LE16-2009	39度 40分 38秒	141度 7分 10秒	19940418~ 19940810	13548㎡	盛岡開発に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
小幡遺跡 第2次調査	集落跡	平安時代	住居跡 5 溝跡 3 すみがま? 3 獨立柱建物跡 1 土坑		土師器(ロクロ成形) 須恵器很少 鉄製器(刀子・手鎌) 銭貨(寛永通寶、朝鮮 通寶、永樂通寶) 陶磁器(肥前焼・相馬 焼)		10世紀前後の志波城周辺 の一般集落 砂土器 静止未切りの土師器坏	
		近世	民家跡 1 溝跡 土坑 便所跡					
		不明	溝、土坑、壑穴状遺構					

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長 山 影 源 吉
副 所 長 千 業 政 男

〔管理課〕

管 理 課 長 澤 山 寛
主 事 千 葉 勝 彦
〃 久保田 幸 恵

文 化 財
門 調 査 員

阿 部 勝 則
星 雅 之

〔調査課〕

調 査 課 長 鈴 木 恵 治
課 長 補 佐 三 浦 謙 一
〃 高橋 與右衛門
主 任 文 化 財 員 工 藤 利 幸
〃 中 川 重 紀
〃 佐々木 清 文
〃 高 橋 義 介
〃 酒 井 宗 孝
文 化 財 員 專 門 調 査 員 菊 池 人 見
〃 吉 田 充
〃 鎌 田 勉
〃 小山内 透
〃 高 橋 佐 知 子
〃 松 本 建 速 子
〃 宮 本 節 昭 彦
〃 金 子 昭 彦
〃 木 戸 口 俊 子

〃

羽 柴 勝 人
高 木 直 晃

〃

杉 沢 昭 太 郎

〃

伊 藤 拓 史

〃

村 上 篤 二 郎

〃

大 道 篤 美

〃

溜 村 直 美

〃

中 村 直 美

〃

中 村 直 美

〃

稲 垣 雅 宏

〃

高 橋 英 樹

〃

元 吉 弘 明

〃

佐々木 裕 司

〃

千 葉 貴 子

〃

沼 田 和 宏

〃

大 場 慎 也

〃

吉 田 理

〃

〔資料課〕

資 料 課 長 菊 池 強 一
主 任 文 化 財 員 專 門 調 査 員 中 村 英 俊

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第244集

小幅遺跡第2次発掘調査報告書

—盛岡南新都市開発整備事業—

平成8年3月25日 印刷

平成8年3月29日 発行

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (0196) 38-9001

印刷 株式会社 吉田印刷

〒020 盛岡市名須川町23-27

電話 (0196) 25-2323